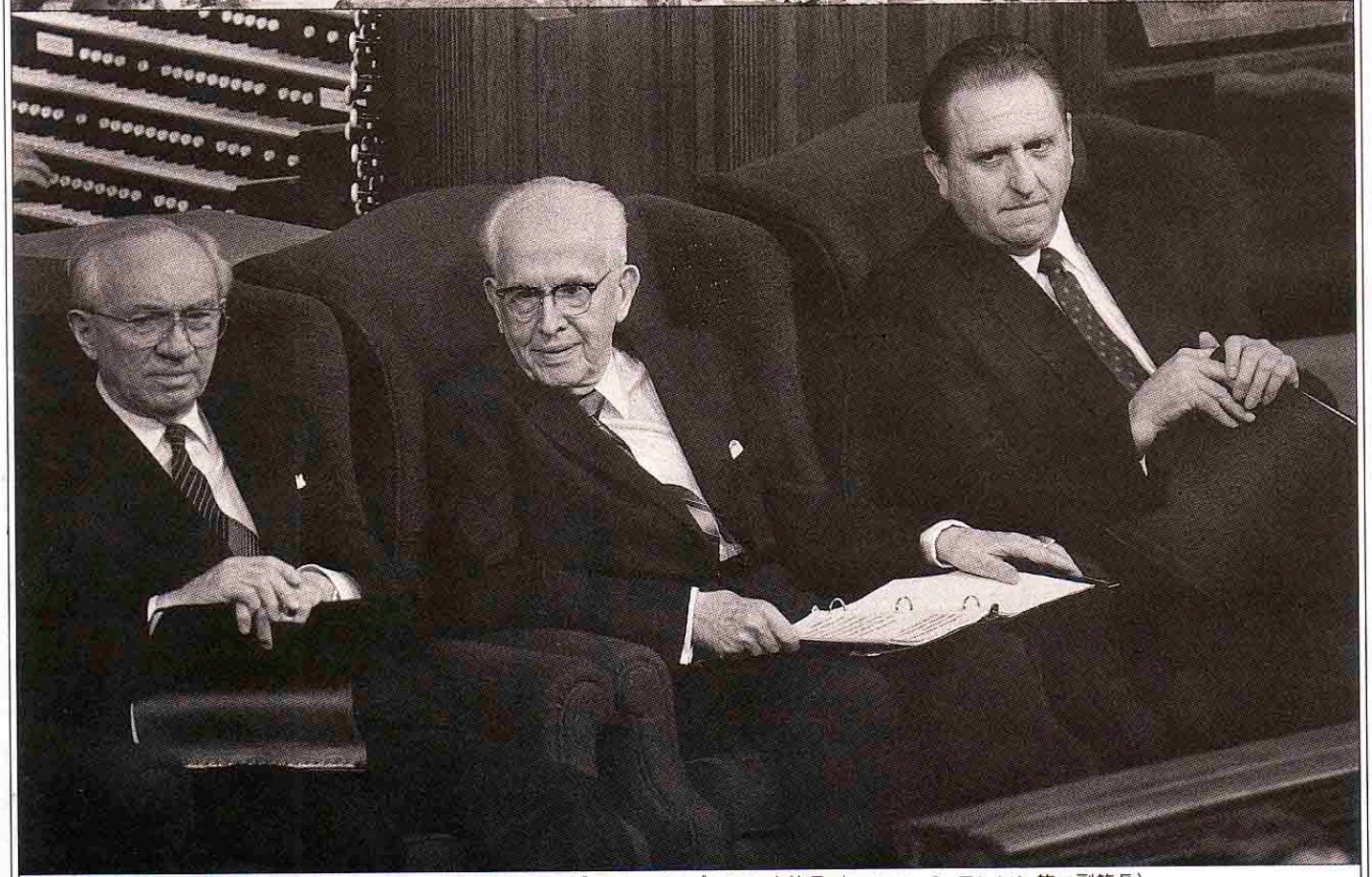
聖徒の道 (1987年7月20日発行)（毎月1回20日発行）第33巻第7号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

末日聖徒イエス・キリスト教会

聖徒の道

1987
7

第157回年次総大会報告



●大管長会(左からゴードン・B・ヒンクレー第一副管長,エズラ・タフト・ベンソン大管長,トーマス・S・モンソン第二副管長)

末日聖徒イエス・キリスト教会 第157回年次総大会報告

1987年4月4，5の両日，ユタ州ソルトレークシティー，テンプルスクウェアのタバナクルにおいて開かれた年次総大会の説教とその模様

「家族そろってニーファイ第三書を読んでその神聖な内容について語り合い，自分たちのためと見立てて，どのようにその教えを生活の中に生かすかを決めるならば，どれほどすばらしい祝福が得られるでしょうか。」4月の総大会における土曜日午前の部会で，エズラ・タフト・ベンソン大管長はこのように語った。

大管長はさらに，「ニーファイ第三書は私たちが繰り返し読むべき書です」と話した。

この主題を再び取りあげて，ベンソン大管長は日曜日の最後の説教の中で末日の聖典の大切さを強調し，次のように語った。「モルモン経は人々をキリストのみもとへ導き，教義と聖約は神の王国，すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会，『全地の面に於ける唯一の真にして命あ〔る〕教会』に人々を導きます。」

また，末日の聖典を読んで，その真理を生活の中に生かすというこの霊感あふれる勧告に加え，ベンソン大管長は神権者にホームティーチングに関するチャレンジを与えている。「兄弟の皆さん，ホームティーチングはありきたりのプログラムではありません。聖徒たちを見守り，教会の使命を達成するための神権による手段なのです。ホームティーチングは単なる割り当てではなく，聖なる召しなのです。

ホームティーチングを軽く考えてはなりません。ホームティーチングの召しは主イエス・キリストがみずから親しく皆さんを召されたかのように受け入れる必要があります。……ホームティーチャーほど偉大な教会の召しはほかにありません。」

2日間にわたる総大会をベンソン大管長が管理し，ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長とトーマス・S・モンソン第二副管長が各部会の司会を担当した。マリオン・G・ロムニー十二使徒定員会会長と七十人第一定員会名誉会員のジョン・H・バンデンバーグ長老が病気で欠席した以外，教会幹部は全員出席した。

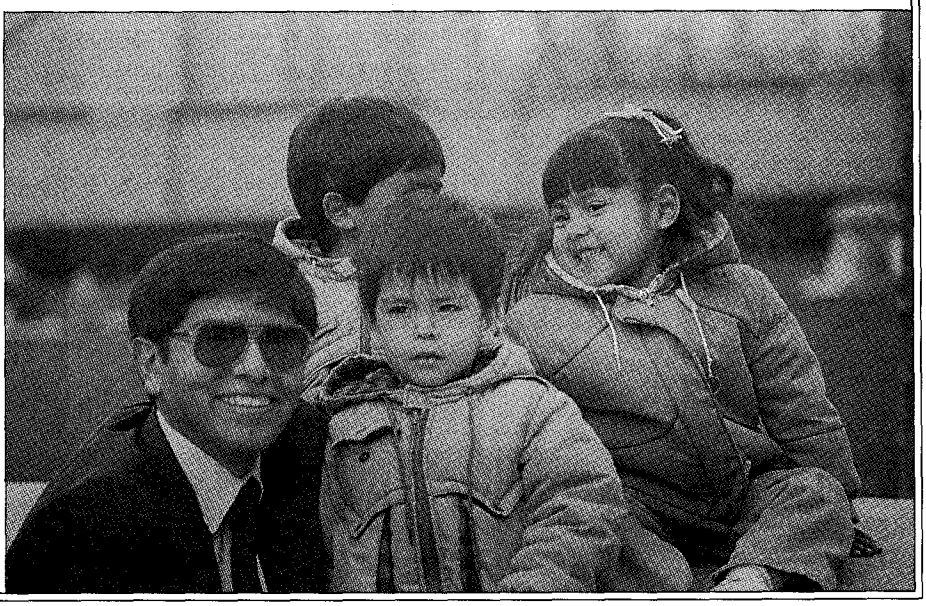
今大会の管理上のおもな決定には，8人の新しい七十人第一定員会会員の支持があげられる。任期は5年であることがモンソン副管長から発表されている。また，若い女性中央会長会に新しい副会長が召された。

支持を受けたのは，ジョージ・R・ヒルIII長老，ジョン・R・ラサター長老。両者ともユタ州出身である。さらに，ダグラス・J・マーティン長老，ニュージーランド出身。アレクサンダー・B・モリソン長老，カナダ出身。L・アルディン・ポーター長老，アイダホ州出身。ユタ州出身のグレン・L・ラッド長老，ダグラス・H・スミス長老，リン・A・ソレンセン長老である。この決定により現在七十人第一定員会で働く会員の数は62人になった。

アーデス・G・カップ会長の副会長として若い女性中央会長会に召されたのは，第一副会長のジェイン・B・マラン姉妹（マラン姉妹はこれまで第二副会長の任にあった）と，新たに召された第二副会長のイレイン・L・ジャック姉妹である。モーリーン・J・ターリー姉妹は伝道部長に召されたご主人と共に働くために，解任された。

大会の模様は衛星中継を通じ，合衆国とカナダの全土におよぶ教会の集会所にテレビ放映された。そのほかの地域に住むほとんど全世界の会員には，大会のビデオテープが送られる予定である。

なお，4月3日の日中には地区代表セミナーが開かれ，夕方には指導者会が開かれた。



聖徒の道
1987年7月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した，末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。本書は以下の言語で出版されています。月刊――イタリア語，英語，オランダ語，サモア語，スウェーデン語，スペイン語，中国語，韓国語，デンマーク語，ドイツ語，トンガ語，日本語，フィンランド語，フランス語，ポルトガル語，ノルウェー語。隔月刊――インドネシア語，タイ語，タヒチ語。季刊――アイスランド語。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン，ゴードン・B・ヒンクレー，トーマス・S・モンソン
十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー，ハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリン
顧問：ヒュー・W・ピノック，ジョン・H・グローバーグ，ジェームズ・M・パラモア，デレク・A・カスバート
編集長：ヒュー・W・ピノック
教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン
編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：デビッド・ミッチェル
編集主幹補佐：ジャン・U・ピンボロー
子供の頁編集：ダイアン・ブリンクマン
レイアウト／デザイン：N・ケイ・スティーブンソン，シャリ・クック
制作：レジナルド・J・クリステンセン
マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

聖徒の道　1987年7月号第31巻第7号
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106東京都港区南麻布5-10-30
電話　03-440-2351
印刷所　株式会社　精興社
定　価　年間予約／海外予約2,200円（送料共）
半年予約1,100円（送料共）
普通号150円，大会号（1，7月号）350円
International Magazines PBMA8707JA
Printed in Tokyo, Japan.
Copyright © 1987 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は，「聖徒の道予約申し込み用紙」でお申し込みになるか，または現金書留か郵便振替（口座名／末日聖徒イエス・キリスト教会　振替口座番号／東京0-41512）にて管理本部経理課へご送金いただければ，直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒106東京都港区南麻布5-10-30/末日聖徒イエス・キリスト教会管理本部経理課☎03-440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1／末日聖徒イエス・キリスト教会　資材管理部配送センター☎0427-96-2820

●表紙：「足なえ，盲人を癒すイエス」
J・J・ティソット画

●本号の写真提供者――大会の写真はすべて視聴覚教材計画作成課写真班のエルドン・K・リンスフォーテン，マーティー・メイヨー，ジェド・A・クラークによる。そのほかの写真は，ダグラス・ジェームズ，クレイグ・モーヤー，フィリップ・シャートリフによる。

索　引

●以下のテーマによる話が，それぞれ右側に示されているページに掲載されています。

愛――▶69，81
証――▶61，65
贖い――▶77，88
イエス・キリスト――▶4，8，29，88
一致――▶65
祈り――▶23
永遠の生命――▶8
エイズ――▶49，90
A・セオドア・タトル――▶23
回復――▶57
価値観――▶90
家庭――▶90
逆境――▶73，77，81
教会の発展――▶57
教義と聖約――▶94
苦難――▶88
敬虔――▶49
系図――▶23
献身――▶77
幸福――▶90
従順――▶69，88
純潔――▶49，90
ジョセフ・スミス――▶57
神権――▶39，43
信仰――▶17，23，35，46
神殿活動――▶23
性教育――▶49，90
成熟――▶69
聖徒――▶23
誓約――▶11，23
責任――▶49
積極的態度――▶81
伝道活動――▶46，61，65，84
同性愛――▶49
忍耐――▶31
フェローシッピング――▶73，84
不屈の精神――▶73
復活――▶4，8
不道徳――▶49，90
ホームティーチング――▶53
目標――▶14
モルモン経――▶4，29，35，94
安らぎ――▶26
優先順位――▶14
誘惑――▶84
落胆――▶14
両親の義務――▶81，90
隣人愛――▶61

●各部会の祈りは以下の人々が担当した。土曜日午前――ディーン・L・ラーセン長老，ボーン・J・フェザーストーン長老。土曜日午後――ジャック・H・ゴーズリンド長老，ロバート・E・ウエルズ長老。神権部会――ジェームズ・M・パラモア長老，ジョージ・P・リー長老。日曜日午前――リチャード・G・スコット長老，ロナルド・E・ポールマン長老。日曜日午後――ヤコブ・ディヤガー長老，デレク・A・カスバート長老。

病気のため総大会に出席できなかった教会幹部は，十二使徒定員会会長のマリオン・G・ロムニー長老および七十人第一定員会名誉会員のジョン・H・バンデンバーグ長老のふたりである。

もくじ

末日聖徒イエス・キリスト教会第157回年次総大会報告…1

4月4日（土）午前の部会

アメリカへのキリストの訪れ
……エズラ・タフト・ベンソン……4
死後の生活……ラッセル・M・ネルソン……8
聖徒とは……W・グラント・バンガーター…11
人生の求めにバランスよく応じる
……M・ラッセル・バラード……14
「生ける」教会員……ハワード・W・ハンター……17

4月4日（土）午後の部会

教会役員の支持……トーマス・S・モンソン……20
教会監査委員会報告……21
1986年度統計記録……22
誓約……ボイド・K・パッカー……23
霊的な安らぎ……チャールズ・A・ディディエ…26
イエス・キリストについての
モルモン経の証……J・トーマス・ファイアンズ…29
忍耐――幸福への鍵……ジョセフ・B・ワースリン……31
一致して神の王国を建てる…L・トム・ペリー……35

4月4日（土）神権部会

神権の祝福……ダリン・H・オークス……39
近道はない……ロバート・L・シンプソン……43
涙，試練，信頼，証……トーマス・S・モンソン……46
敬虔さと道徳心……ゴードン・B・ヒンクレー……49
教会のホームティーチャーへ…エズラ・タフト・ベンソン…53

4月5日（日）午前の部会

神のみ手に使われる僕……ゴードン・B・ヒンクレー……57
私の隣り人，私の兄弟たち！…デビッド・B・ヘイト……61
一致の祝福……ヒュー・W・ピノック……65
「私はもう大人よ」……マービン・J・アシュトン……69
秘められた思い……トーマス・S・モンソン……73

4月5日（日）午後の部会

「わたしが勝利を得たと同様に
勝利を得なさい」……ニール・A・マックスウエル…77
すべての事は信仰と
希望によって……ポール・H・ダン……81
「疑いをいだく人々があれば
彼らをあわれみ……」…ロバート・D・ヘイルズ……84
救い主に心を向ける……アドニー・Y・小松……88
「幸せになれるかしら」…ジェームズ・E・ファウスト…90
モルモン経と教義と聖約…エズラ・タフト・ベンソン……94

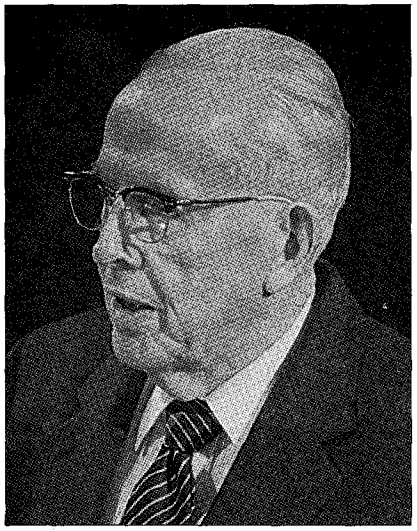
大会説教と教会教科課程……98
〈チャーチニューズ〉
ジョージ・R・ヒルⅢ……100
ジョン・R・ラサター……101
ダグラス・J・マーティン……102
L・アルディン・ポーター……103
アレクサンダー・B・モリソン……104
グレン・L・ラッド……105
ダグラス・H・スミス……106
リン・A・ソレンセン……107
中央若い女性会長会第二副会長
イレイン・L・ジャック姉妹……108
教会の使命が強調された地区代表セミナーと指導者会…108
各地のたより……111

●1987年4月4日（土）午前の部会

アメリカへのキリストの訪れ

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

「家族そろってニーファイ第三書を読んで，その神聖な内容について語り合い，自分たちのためと見立てて，どのようにその教えを生活の中に生かすかを決めるならば，どれほどすばらしい祝福が得られるでしょうか。」



兄弟姉妹の皆さん，再びこのすばらしい総大会を始めるにあたり，私の胸の中には全世界の末日聖徒に対する愛と感謝の思いが満ちあふれています。

きょうまでの6カ月間，モルモン経に書かれた主のみ言葉を繰り返し読むようにとの勧告にこたえてくださった教会員の方々を見て，私は深い感銘を受けてきました。それよって私たちは，霊性を高め，器の内側を清める助けを得ることができました。

大人も若人も，また小さい子供たちも，モルモン経によってどう生活が変わったかを力強く証してきました。私自身の生活も，この神聖な記録によって，今なお変わりつつあります。

最近も，復活された救い主のアメリカ大陸への訪れについて述べた，モルモン経のすばらしい記録を読み直していました。復活祭が近づくにつれ，私はニーファイ第三書の記述の美しさと力強さ，またそれが今の時代と今の世の人々にとって偉大な価値を持つものであることに，深い感動を覚えています。

ニーファイ第三書には，救い主が訪れる直前の時代のニーファイ人の歴史が記されていますが，当時と私たちが再臨を待ち望んでいるこの時代の間には，数多くの共通点が見られます。当時ニーファイ人の文明は最盛期にあり，民は繁栄し，勤勉に働いていました。多くの町が建設され，それを結ぶ道路が造られました。海上交易が行なわれ，神殿や宮殿も建てられました。

しかし，例にもれず，彼らも主を拒みました。多くの人々が高慢になり，不正直と不道徳がはびこりました。そして秘密結社も隆盛を極めるようになりました。それはヒラマンが述べているように，ガデアントン強盗団が「義人の大部分さえも誘惑して結社のすることを賛成させ，結社が掠め取った物を配分」するようにさえなったからです。（ヒラマン6：38）また「民はついにその財産と学問を修める便宜の多少とによって階級に差別をつけ始め」ました。（Ⅲニーファイ6：12）こうして現代と同じように，「サタンが民の心を煽動してあらゆる悪事をさせ，高ぶらせ，その心を誘って権力と威勢と財産とこの世の空しいものを貪らせることに非常に力」を奮ったのです。（15節）

モルモンはニーファイ人について，彼らは「知らずに罪を犯したのではない。自分らに関する神のみこころはとうに教えられてよく知っていた」と書いています。（18節）

義人はわずかしかいなくなってしまいました。（14節参照）ニーファイが大きな力をもって教会を導き，数々の奇跡を行ないましたが，「心を改めて主を信ずるようになった者は僅だけで」した。（Ⅲニーファイ7：21）民のほとんどが主を拒んだのです。彼らは予言者を石で打ち，キリストに従おうとする人々を迫害しました。

この時にあたり，自然をつかさどる神，すなわちイエス・キリストはご自身の手を差し伸べられました。かつてない激しい嵐が全地を襲いました。稲妻が走り，雷鳴が地を震わせました。荒れ狂う風に吹きさらわれ，二度と姿を見せなくなってしまった人々もいました。

「沈んでしまった名高い大都会も多くあり，焼けてしまった都会も多くあり，また家屋が地に倒れ，住民が死」んでしまいました。（Ⅲニーファイ8：14）

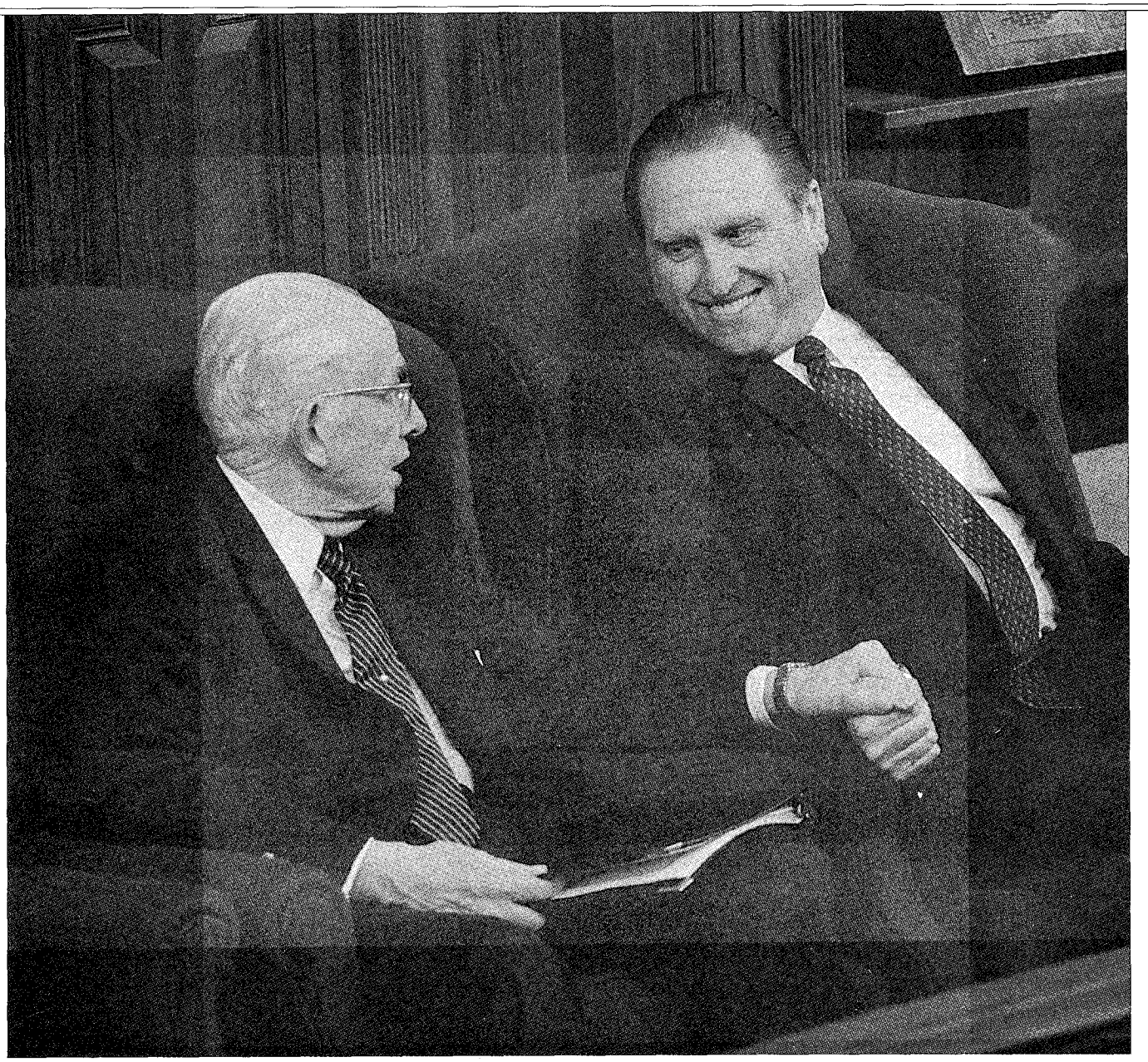
「地の全面が変って」しまったのです。（12節）

この自然の猛威は3時間にわたって続きましたが，やがて稲妻，雷鳴，嵐，大風，地震がやみ，暗黒が地を覆いました。3日間，光がなく，ろうそくに火をつけることもできませんでした。この暗黒の霧は非常に濃く，手で触れることができるほどでした。「すべての民の中に……ひどい悲しみと歎きと泣き叫ぶ声」がありました。

そして「この大きな恐ろしい時が来ない前に，悔改めをして予言者らを殺さず，石でこれを撃たず，また追い出さなければよかったものを」と言って民が泣き叫ぶ声が聞こえました。（23，25節）

そのとき，天からひとつの声があり，全地に聞こえました。

その声は恐ろしい滅亡について語り，それは民の罪悪といまわしい行ないが招いた結果にほかにならないと告げまし



●トーマス・S・モンソン第二副管長(左)と歓談するエズラ・タフト・ベンソン大管長

た。

その声が,「われが汝らを医すを得るために，汝らは今われに立ち帰りて罪を悔いまた心を改めざるか」と告げるのを聞いたときの，民の気持ちを想像してみてください。(IIIニーファイ9：13)

それから，その声の主がだれであるかが知らされました。「われは神の子イエス・キリストなり。」(15節) それはご自身も罪ある者たちにあざけられ，否まれた方の声でした。予言者たちはこの声の主すなわちイエス・キリストを宣べ伝え，キリストのために石で打たれ，死んでいったのです。民に聞こえたその声は主のみ声だったのです。

主はご自身が贖いの業を成し遂げ，モーセの律法を成就されたこと，また神への犠牲として，へりくだる心と悔いる精神を捧ぐべきことを宣言されました。

やみが消え去ると，多くの人々がバウンテフルの地の神殿の周りに集まってきました。その数は男も女も子供も入れて約 2,500人でした。民が，すでにその死のしるしが現われたイエス・キリストについて話し合っているときに，再び先の声が聞こえてきました。

モルモンは次のように書いています。「この声は荒々しい声でもなく，また高い声でもなかったが，小さな声でありながらもこれを聞いた者たちの骨の髄までつき通るようであって，かれらは全身ことごとくふるえおののいた。この声はまことにかれらの中心にまで浸みわたり心が燃えるような感じを与えた。」(IIIニーファイ11：3) 民は1度ならず2度までもそれを聞きましたが，何を言っているか理解することができませんでした。

モルモンはこう書き続けています。「この声は三度まで聞えたが，かれらはこのたびはよく聞き分けるように心を注いで……その声の意味が解った。その声は，『わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由

りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け』とかれらに仰せになっていた。」（5－7節）

世界の歴史を見ても，自分たちに語りかける父なる神のみ声を実際に聞いた民はごくわずかです。彼らが天に目を向けていると，「天から一人の男の方が降りたもうのが見えた。このお方は白い衣を召して，降ってきて群衆の中に立ちたもうた。」（8節）

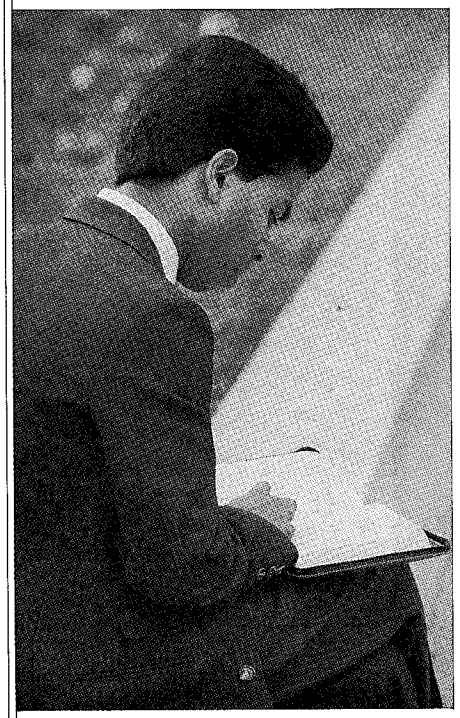
栄光ある，復活されたお方，また神会の一員であり，無数の世界の創造主，アブラハム，イサク，ヤコブの神が彼らの目の前に立たれたのです。

「時にそのお方は手を伸して群衆に話しかけて仰せになった。

『見よ，われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。

われは世の光にしてまた世の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き杯をすでに飲み，世の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示したり。世の人の罪をわが身に引き受くることに於て，われは最初よりすべて御父のみこころに従えり』と。」（9－11節）

群衆はひとり残らず地にひれ伏しました。イエスは彼らに，立ち上がってご自分に近づくようにと命じられました。そして，そのあばらに手を差し入れ，手足にある釘跡に触れるようにと言われました。そこにいた2,500人の人々は順に一人一人進み出ました。



そして実際に「各々みな目で見，手で触れて，この御方が予言者たちによってこの世に来ると誌されたお方であることを確に知り，また証を」したのです。（15節）

最後のひとりが救い主と顔を合わせて立ち，主の復活が疑いもなく真実であることを理解すると，「みな一せいによばわって，『ホザナよ。いと高き神の御名を讃美す』と言い，イエスの足下にひれ伏してイエスを拝し」ました。（16－17節）

主は忠実な予言者ニーファイをはじめとする人々を呼び寄せ，彼らにご自分のみ名によってバプテスマを施す権威と権能を授けられました。

主は民にこう教えられました。「汝らは悔い改め，わが名によりてバプテスマを受け，幼児のごとくにならざるべからず。しからずば，とうてい神の王国に住むことを得ず。」（38節）

そして，現在山上の垂訓と呼ばれているすばらしい教えを話されたのです。

それから主はこう言われました。

「汝らは理解力弱く，御父が今汝らに説き伝えよとわれに命じたまいし教えが，ことごとく汝らに了解されざること明らかなり。

されば，汝らは各々その住居に帰りて後，われがこれまで汝らに語りしことをよくよく考えて，汝らの理解できるために，また明日教えを聞く準備をするために，わが名によりて御父に祈るべし。われは明日再び汝らのところに来らん。」（IIIニーファイ17：2－3）

民のもとを去る時が近づいたことを告げたときに，主が「もう一度群衆を見まわしてごらんになると，群衆は涙を流してイエスに今しばらく自分らと共に居りたまえと言わんばかりにイエスをじっと眺めてい」ました。（IIIニーファイ17：5）

このとき復活された主は，憐れみの情に動かされ，病んでいる者，障害を持つ者たちを連れてくるようにと，民に命じられました。

「イエスがこう仰せになると，群衆は一同してその中にある病人，悩んでいる者，あしなえ，めくら，おし，またはどのような病気であれ悩んでいる者たちをつれてイエスのみもとに近よってきたから，イエスはその来た順序に従ってみなこれを医したもうた。」（9－11節）

次に救い主は幼な子たちを呼び寄せ，ご自分が御父に祈っている間，ひざまずいているようにと群衆に命じられました。

モルモンは，その祈りは「これを口で言いあらわせる者もなく，筆で書きあらわせる者もなく，また人間の心で想像できぬほど偉大で驚嘆すべきものである」（17節）と述べています。イエスは喜びの涙を流しながら，子供たちを一人一人近寄せ，祝福を与えました。そして最後に，群衆の方を向いて，「汝らの子供たちを見よ」（23節）と言われたのです。

民が天を仰ぎ見ると，「天が開けて天使らが火の中に取り巻かれているような有様で天降り，子供たちを取りかこんだので子供たちもまた火に取りかこまれ，天使らは子供たちに祝福を与え」ました。（24節）

この栄えある日と，それに続く幾日かの間に起こった出来事をすべて語り尽くす時間はありませんが，ニーファイ第三書に書かれていることが，すべての聖典の中でも特に感動的で力強いものであることは確かです。ニーファイ第三書はイエス・キリストとその予言者，救いの教えを証しています。この復活祭の時期にあたり，家族そろってニーファイ第三書を読んでその神聖な内容について語り合い，自分たちのためと見立てて，どのようにその教えを生活の中に生かすかを決めるならば，どれほどすばらしい祝福が得られるでしょうか。

ニーファイ第三書は私たちが何度も繰り返し読むべき書です。そこには，アメリカでの復活されたキリストへの証が，純粋なままに美しく語られています。救い主は，弟子たちのもとを去る時が近づいたときに，こう言われました。

「見よ，われはすでにわが福音を汝らに授けたるが，その福音を言い換うれば次のごとし。まずわが父われをつかわしたまいたれば，われは父のみこころを行わんとてこの世に来れり。

わが父のわれをつかわしたまいしは，われが十字架にかけられて，後にあらゆ

私たちの宗教のかなめ石であるモルモン経にはこう書かれています。「肉体の死は，すでにすべての人々に及んでいる。しかしながら，人が悔改めをすることができるように猶予が与えられたから，この世の生涯は試しの時期となり，神に逢う用意をする時期となり，またわれわれが話す死者の復活の後にくる永遠の生命を受ける用意をなすべき時期となった。」（アルマ12：24）

人は皆死からよみがえるのです。霊と体は再び合して完全な形となり，手足も骨の関節も本来の形に返ります。そして私たちは神の御前に引き出され，その行ないの善し悪しに応じて裁判を受けるため，御子イエス・キリストと父なる神と聖霊の法廷に召されます。（アルマ11：42－44参照）

この試しの生涯，将来に待ち受ける復活，最後の裁きについて考えると，復活された主がモルモン経のニーファイ第三書の中で弟子たちに向けられた質問を，心に留めておく必要があることがわかります。

主は弟子たちに「汝らはいかなる人物にてあるべきか」と尋ねられました。それに対して，主はみずからこう答えられたのです。「まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず。」（IIIニーファイ27：27）

キリストは私たちの模範であり，また贖い主にして，主なるお方です。

ニーファイ第三書が，復活したキリストの古代アメリカへの訪れを記した真実の記録であり，その教えを最初に語られたままの姿でとどめていることを証します。

イエスがキリストであり，現在ご自身の教会すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会の頭として立っておられることを証します。

また，キリストが力と大いなる栄光とをまとって再臨され，私たちの永遠の幸福のためにすべてのことをしてくださることを証します。

皆さんが日々，キリストにならって生きることにより，キリストにまみえ，共に住む備えをなさいますように。イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。

る人々をわれに引きよせんがためなり。また人がわれを十字架に上げたる故に，今度は御父が世の中の人を必ずひき上げて，これを各々の行いの善悪に応じて裁判するためにわが前に立たせたもう。……

悔い改めてわが名によりてバプテスマを受くる者は聖霊に満さる。またその者が終りまで忍ばば，われが世の中の人々を裁判する日に，御父の前にてこれを罪無き者とせん。……

そもそも，清からざるものは御父の王国に入ることを得ず。信仰をし，すべての罪を悔い改め，終りまで誠をつくし，以てわが血によりてその衣を洗いし者のほかには御父の安息に入り得る者なし。

さて，世界の隅々に至る者たちよ。汝らは聖霊を受けて聖められ，また終りの日にわが前に罪なしとせられんために今悔い改め，われに来てわが名によりてバプテスマを受けよ。これ汝らに与うる命令なり。

われまことに，まことに汝らに告ぐ，以上はわが福音なり。」（IIIニーファイ27：13－14，16，19－21）

復活されたキリストの働きは，聖地や古代アメリカの民への訪れで終わったわけではありません。奇跡は続き，キリストは現代においてもみ姿を人に示しておられるのです。

教義と聖約第76章で予言者ジョセフ・スミスはシドニー・リグドンと共に受けた示現について記録し，こう宣言しています。

「さて，この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句，われらの為す最後の証はすなわち『主は実に生きたもう』こと是なり。

われらは，彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また，御父の生みたもう独子なりと証したもう声を聞けり。

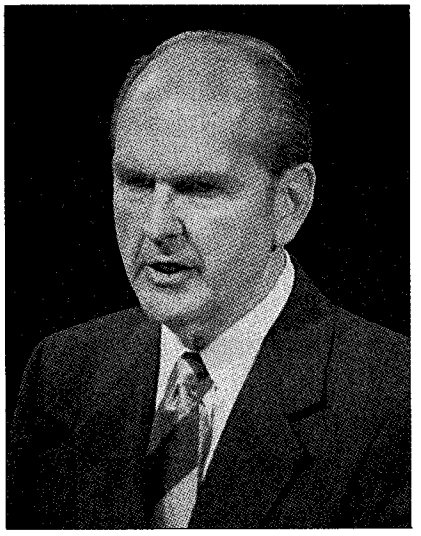
すなわち諸々の世界は彼の手により，彼の手を経て，また彼に因りて先に作られ，また現に作られ，これに住む者たちも皆神より生れたる息子と娘なることを証したもう。」（22－24節）

さて，これまで述べてきたことは，私たちにとってどのような意味を持つのでしょうか。それは，キリストが今復活した肉体をもって実在しておられるように，私たちも復活し，生き続けることができるということを教えてくれています。また，この人生は試しの時であり，やがて死と復活と裁きとがあることを示しています。

死後の生活

十二使徒定員会会員
ラッセル・M・ネルソン

「古代から現代に至るまでの間に，数多くの人々が，復活されたイエスはまことに世の救い主であると証しています。イエスによって，すべての人が復活できるようになったのです。」



きょうこの壇上にて，エズラ・タフト・ベンソン大管長に続いてお話しできることを光栄に思います。私は大管長を神の生ける予言者として支持いたします。ベンソン大管長は，1943年，すなわち私が医学部に入る前に使徒として聖任を受けられました。大管長はこの地上における先任使徒です。予言者に対する，また予言者の指示と霊感のメッセージに対する私の感謝の気持ちを申し加えさせていただきます。

大管長は，復活されたイエスが古代アメリカ大陸の人々に教えと導きを施されたことについて話されました。モルモン経に記されているこの尊い知識は，すべての人にとって，非常に重要な意味を持つものです。モルモン経は，真に，イエス・キリストについてのもうひとつの証です。

ベンソン大管長のお話を聞きながら，数年前にある出版社の方と話したときのことを思い出しました。その人は，いわゆる死というもののあとにも生活が存続するのかということについて，関心を持っていました。重い病気で，生と死の境をさまようような経験をしてから意識が戻った人の体験談について述べてくれないか，ということでした。このテーマに人々が興味を引かれることを察してか，その書物には「死後の生活」(Life after Life)という題がつけられるとのことでした。

その依頼について考えるにつけ，それまでに内密に打ち明けられた多くの出来事を思い起こしました。しかし私は，それらはいずれも神聖な出来事であって，この世的な方法，特に金銭的な利益のためには分かち合うことはできないと思いました。さらに，そのようなことを体験した証人たちの証が伴わない限り，「死後の生活」に関する例だけを述べても無意味であると思いました。

それよりも，死後の生活についてすでに立証され，また慎重に検証された証拠について研究することの方が論理的であり，説得力があるのではないかと思われます。

ベンソン大管長は，こうしたかけがえのない記録のひとつについて話してくださいました。イエスは，死からよみがえると，アメリカ大陸において生けるキリストとしての活動を行なわれました。ベンソン大管長が話された復活の出来事と前後して，様々な場所で，大勢の人が復活された主を目撃しました。

聖地にて親しくしていた人々と

1．復活された救い主を最初に見た人は，マグダラのマリヤでした。(ヨハネ20：16－17参照)

2．復活された主がほかの女たちに現われたことについても記録されています。ヤコブの母マリヤ，ヤコブおよびヨハネの母サロメ，ヨハンナ，スザンナ，ほかにも多くの女がこの出来事を目にしました。(マルコ16：1；ルカ8：3参照)

3．イエスはシモン・ペテロにもみ姿を現わされました。(Ⅰコリント15：5参照) ペテロは先任の使徒であって，今日のベンソン大管長のように，その当時における神権の権能の鍵を持っていました。

4．その夜遅く，クレオパと，ルカと思われるふたりの使徒は，エマオに向かう途中で，復活された主に会いました。救い主は彼らと共に食べ物を口にされました。(ルカ24：30，33参照)

5．主は，二階の広間にいた使徒たちにもみ姿を現わされました。主はご自分の手と足をお見せになりました。「彼らが焼いた魚の一きれをさしあげると，イエスは……みんなの前で食べられた。」(ルカ24：42－43)

6．使徒たちにみ姿を現わされてから8日後，イエスは再び彼らの前に立たれました。そのときは，疑い深いトマスがそこにいました。イエスはトマスに言われました。「あなたはわたしを見たので信じたのか。見ないで信ずる者は，さいわいである。」(ヨハネ20：29)

7．イエスは，テベリヤの海べにおいて，夜通し漁をして，何の獲物も得ることのできなかった7人の使徒に現われました。主は彼らの網を魚で満たしました。その後，ペテロは，神の羊を飼うよう戒められました。(ヨハネ21：1－24参照)

8．パレスチナでは，復活された主を大勢の人々が目撃しています。それは，ガリラヤの海べの近くの山における出来事でした。このときは，500人以上の兄弟たちが一度にイエスを見ています。(Ⅰコリント15：6参照)

9．主はその後再び「彼らに行くように命じられた山」に11人を連れて行かれました。そして，使徒たちに「それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民……に教えよ」(マタイ28：16，19－20) とい

う，あの尽きることのない責任を与えられました。

10. イエスは，特別な弟子のひとりとなった，自分の弟のヤコブにもみ姿を現わされました。（Ｉコリント15：７参照）

11. パウロは「そして最後に，……わたしにも，現れたのである」（Ｉコリント15：８。使徒９：４－５も参照）と言っています。

12. イエスは，オリブ山での昇天に先立ち，アジアにおける教会の指導者たちに別れを告げ，こう予言されました。「あなたがたは……地のはてまで，わたしの証人となるであろう。」（使徒１：８）

13. ステパノはエルサレムの門のところで石で打たれて殉教したとき，「天を見つめていると，神の栄光が現れ，イエスが神の右に立っておられるのが見え」ました。（使徒７：55）

ニーファイ人に対して

14. 復活された主が，アメリカ大陸に住んでいたニーファイ人に対して施された導きと教えの業は，ベンソン大管長の言葉で力強く語られています。そこでは少なくとも2,500人（IIIニーファイ17：25参照）が主のみ声を聞き，そのみ手とみ足にある釘のしるしに触れ，そのあばらに手を差し入れました。（IIIニーファイ11：７－17参照）このとき，多くの人が喜びの涙でみ足をぬらしたであろうと思います。

死者に対して

15. 主の導きと教えの業は，ほかの世界でも続けられました。イエスは，死後の霊の世界において，死者たちに教えと導きを施されました。（IIIニーファイ23：９－10参照）ペテロは次のように述べています。「死人にさえ福音が宣べ伝えられたのは，彼らは肉においては人間としてさばきを受けるが，霊においては神に従って生きるようになるためである。」（Ｉペテロ４：６。３：19－21も参照）

これについてはヨハネも次のように教えています。「死んだ人たちが，神の子の声を聞く……そして聞く人は生きるであろう。」（ヨハネ５：25）生ける主が死者の間で導きと教えの業を施されたことに対する証は，現代において，教義と聖約につけ加えられました。（教義と聖約 138参照。邦訳聖典では「死者の贖いに関する示現」として高価なる真珠に収められている）

失われた支族に対して

16. モルモン経には，イエスがイスラエルの家の失われた支族を訪れられたことが載せられています。主はおそらく，ほかの人々になされたのと同じことを彼らのためになされたと思われます。（IIニーファイ29：13；IIIニーファイ17：４；21：26参照）

この神権時代の人々に対して

2,000年たった今，イエスが復活されたことへの新たな証人が，この偉大な真理に対して彼ら自身の証をつけ加えています。

17. 予言者ジョセフ・スミスは，1820年，天父と復活された主なる御子の訪れを受けました。ジョセフはおふたりのみ姿を拝し，そのみ声を聞きました。ジョセフは，イエスが神の御子であることについて，天父ご自身による証を受けました。こうあります。「御父は，人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。御子まもた然り。」（教義と聖約 130：22）

18. それから12年後に，救い主は再びジョセフ・スミスとシドニー・リグドンにみ姿を現わされました。「われらは，彼がすなわち神の右に座したもうを見たり。また，御父の生みたもう独り子なりと証したもう声を聞けり」（教義と聖約76：23）と彼らは言っています。

19. 1836年4月3日（昨日からちょうど151年前のことです），予言者ジョセフは，カートランド神殿でオリヴァ・カウドリと共に，再び主にまみえました。「われらは，われらに面して教壇の胸欄に立ちたもう主を見たり。……

その眼は燃ゆる炎の如く，頭髪白きこと清き雪の如く，その顔は日の輝きにも勝りて光り輝き，その声は洪水の激する音の如し。誠にエホバの御声言いたもう。

われは始めなり終りなり。われは生ける者なり殺されたる者なり。父と汝らの間の仲保者なり。」（教義と聖約110：2－4）

そうです。イエス・キリストの復活は，歴史上，最も入念に立証された出来事なのです。イエスが現われたもうたことについて多くの事例をあげましたが，ほかにも多くのことが記されています。

これにも増してさらに驚くべきことは，贖い，復活というイエスの使命が，私たち一人一人が罪から清められ，栄光に満ちた復活にあずかるという特権にも影響を及ぼしているという事実です。神の業にして神の栄光は，至高のお方にしか完全に理解しがたいすばらしい方法をもって「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」ことなのです。（モーセ1：39）

教会の教師の皆さん，生徒たちには，老若男女を問わず，以上のように教える必要があります。これは，時にはユーモラスな結果を生じることがあります。ある指導者は次のように言いました。

「ある母親が，初等協会から帰った幼い息子にクラスで何を学んだのか尋ねました。『ぼくは前にちりだったから，またちりになるって，ママ，本当？』

『そうよ。「あなたは，ちりだから，ちりに帰る」（創世3：19）って聖典に書かれているわ。』

この幼い少年はそれに感嘆したようでした。翌朝，彼は学校へ行くために靴を探していました。はってベッドの下にもぐりこむと，驚いたことに，ちりとほこりのかたまりが見えました。その子は走って行って，母親に言いました。『ママ，だれかがぼくのベッドの下にいるよ。あの人，これから生まれてくるのか，もう死んじゃったのか，どっちなの。』」

復活の本質

そうです，ちり――すなわち土の元素――から成る混合物は，組み合わされて，人の体の生ける細胞となります。復活という奇跡は，私たちがまず造られたという奇跡に匹敵します。

どのようにしてふたつの胚細胞がひとつの細胞になるかについて，はっきりと理解している人はいません。それから生じた細胞が，どのようにして増殖したり分裂したり，それらが身の回りのすばらしいものを見る目となり，聞く耳となり，感じる指となるのかについてもわかっておりません。それぞれの細胞には，何千という遺伝子を持った染色体が含まれており，それらの細胞は科学的にそれぞれ独立し，独自の特質を具えています。人の体は，人それぞれの遺伝因子に従って，絶えず再生されるものです。お風呂に入ると，そのたびに汚れが落ちるばかりでなく，死んだ細胞や死につつある細胞が失われて，新しいものに置き換えられていきます。この再生および新生の過程こそ，復活という来るべき約束された現象の先ぶれです。

ヨブは「人がもし死ねば，また生きるでしょうか」（ヨブ14：14）と問いました。ヨブはそれに対して，信仰をもって，自分で次のように答えています。

「わたしは知る，わたしをあがなう者は生きておられる，後の日に彼は必ず地の上に立たれる。

わたしの皮がこのように滅ぼされたのち，わちしは肉にあって神を見るであろう。」（欽定訳ヨブ19：25－26）

復活の時が来ると，人は不死不滅の体を持ちます。今でこそ年をとり，衰弱し，朽ちる体も復活すると，再生の過程の対象でなくなるのです。「この朽ちるものは必ず朽ちないものを着」る（Ⅰコリント15：53）ようになるのです。

復活をもたらすこの偉大な神権の力は，この世を創造された主に託されています。「わたしは，天においても地においても，いっさいの権威を授けられた」（マタイ28：18）とイエスは教えられました。イエスはこの世での最後の時を迎え，助けを求めて御父に嘆願こそされましたが，死に勝る最終的な勝利は御子の上にありました。イエスは次のように言われました。

「父は，わたしが自分の命を捨てるから，わたしを愛して下さるのである。命を捨てるのは，それを再び得るためである。

だれかが，わたしからそれを取り去るのではない。わたしが，自分からそれを捨てるのである。わたしには，それを捨てる力があり，またそれを受ける力もある。これはわたしの父から授かった定めである。」（ヨハネ10：17－18）

この力について，イエスはユダヤ人たちに次のような微妙な表現で語られました。

「『この神殿をこわしたら，わたしは三日のうちに，それを起すであろう。』……イエスは自分のからだである神殿のこと

を言われたのである。」（ヨハネ２：19－21）

神殿の鍵は主に託されています。主は言われました。

「わたしはよみがえりであり，命である。わたしを信じる者は，たとい死んでも生きる。

また，生きていて，わたしを信じる者は，いつまでも死なない。」（ヨハネ11：25－26）

人が日の光栄の体をもって復活するには，神の戒めに従順でなければなりません。人を日の栄光に導く様々な戒めについては，この大会において，教会幹部の方々からお話があると思います。私たちに与えられたチャレンジは，それについて学び，従うことです。

私は，御子イエス・ギリストに感謝し，また，この世におけるイエスの使命，および復活されてからなされた導きと教えの業について神に感謝します。イエスは，ご自身で復活をされました。古代から現代に至るまでの間に，数多くの人々が，復活されたイエスはまことに世の救い主であると証しています。イエスによって，すべての人が復活できるようになったのです。「アダムにあってすべての人が死んでいるのと同じように，キリストにあってすべての人が生かされるのである。」（Ｉコリント15：22。モーサヤ３：16も参照）

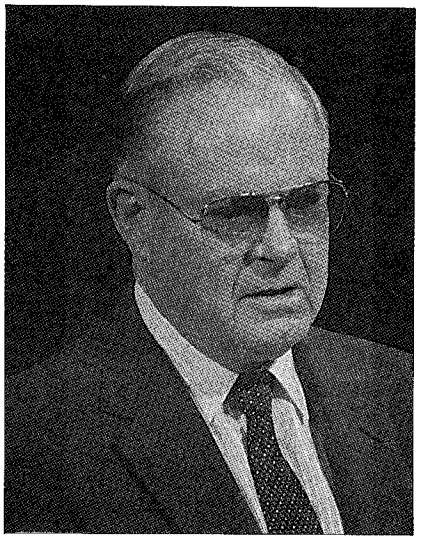
イエスの犠牲と栄光によって「霊と体とは再び合して完全な形となり，手足も骨の関節も私たちが今持っている本来の形に返」ることができるようになったのです。（アルマ11：43）

私は感謝の気持ちと断固たる確信を持って，死後にも命があると申しあげます。人は皆まず霊の世界において存在し，また，死から復活して存在し続けるのです。神が生きてましますこと，救い主イエスが神の御子であることを私は知っております。救い主こそ「よみがえりであり，命」です。（ヨハネ11：25）主は生きておられます。主は私の主人であって，私はその僕です。心から主を愛しております。私は主を証します。尊きイエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

聖徒とは

七十人第一定員会会長会
W・グラント・バンガーター

「聖徒というのは，永遠の生命を目指して，聖く，献身的にキリストに従う人々のことを指します。」



私は，「聖徒とは」ということについてお話ししたいと思います。ある人々は私たちをモルモンと呼んでいます。また，「セクト」（分派）あるいは「カルト」（邪教集団）と呼ぶ人々もいます。私たちはみずからを「聖徒」と呼んでいます。では，これらの言葉にはどんな意味があるのでしょうか。

モルモンという呼び名は，この教会の会員であればだれにでも通用するものです。

セクト（分派）というのは，特定の原則や教義に従って生活している人々の集まりです。初期の時代に，救い主に従った人々はセクトと呼ばれていました。

カルト（邪教集団）というのは，ある個人を崇拝する独特の宗教組織を言います。

聖徒というのは，永遠の生命を目指して，聖く，献身的にキリストに従う人々のことを指します。

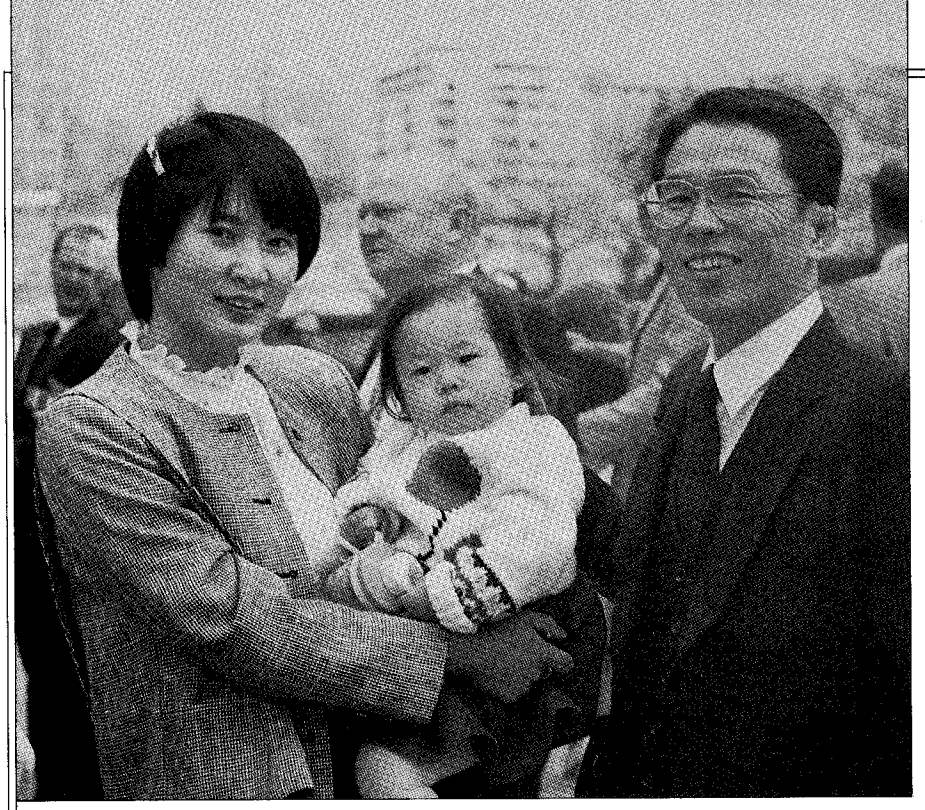
このように正しい意味が理解されていれば，これらの言葉は何ら悪いものではありません。しかし，いったんこれらがあざけりや中傷の意味で使われると，不快感を与えてしまいます。

これらの言葉が教会を非難する人々によって使われた場合は，ことさら当惑する教会員も多くいます。人を中傷したり，あざける目的でこれらの言葉を使うのは，昔ながらの子供っぽい幼稚な習慣です。石や棒で打たれるならまだしも，悪口を言われるだけなら痛くもかゆくもないことは，子供にでもわかりそうなことです。

礼儀のない人々が，この教会や会員をどう呼ぼうと大して問題ではありません。悪口というのは，昔から信心深いと自称する人々が楽しみとするところだからです。かつては，異教徒，冒瀆（ぼうとく）者，迷信家，ユダヤ人，偽善者などの言葉で呼ばれたことさえありました。

大切なのは，私たち自身が何を信じ，何をするかということであり，中でも私たちが何者であるかということが大きな意味を持ってくるのです。「あなたはクリスチャンとして生まれ変わりましたか。」この問いかけが，俗に救いの唯一の条件と言われる「キリストへの信仰を告白したか」どうかを意味するものであるとしたら，私はおそらく「いいえ」と答えるでしょう。しかし，この問いかけを文字どおりに，また教義的な意味で捕らえた場合は，「はい」と返事するのではないでしょうか。

ほかの教会からの改宗者で我が家の近所に住むカーメン・ブライア兄弟は，ソーシャルワーカーとして刑務所の囚人た



ちの世話をしていました。刑務所内で，あるひとりの若い囚人が福音に興味を持つようになったのです。ほかの教会の牧師をしているその少年の父親は，面会に来て，息子が囚人であるということ以上に，モルモンの教えを学んでいることに当惑してしまいました。

ブライア兄弟がこの父親に，なぜそんなに当惑し，悩むのかを尋ねました。すると父親は「あなた方は救われない」ときっぱり言うのです。

「どうしてですか」とブライア兄弟が聞き返しました。

すると彼はこう言ったのです。「あなた方はキリストを自分の救い主として受け入れてもいなければ，キリストによって生まれ変わってもいない。」

ブライア兄弟が言いました。「私に少し説明させてください。私たちの言い方はあなた方のとは少し違うかもしれませんが，私たちはイエス・キリストを通して文字どおり救われることを信じています。またキリストを私たちの救い主として受け入れていますし，キリストのみ名を身に受け，確かにキリストにあって生まれ変わっています。」

パウロはこう言っています。「わたしたちは，その死にあずかるバプテスマによって，彼と共に葬られたのである。それは，キリストが父の栄光によって，死人の中からよみがえらされたように，わたしたちもまた，新しいいのちに生きるためである。」（ローマ6：4）

教会の会員たちは，予言者アルマの言葉にあるように，「神に贖われて」生まれ変わっていること，また，「第一の復活にあずかる者の数に入って永遠の生命を得」られることを知るべきです。（モーサヤ18：9）

ベンジャミン王はこう言っています。「お前たちの結んだ誓約のためにお前たちはキリストの子と呼ばれ，キリストの息子や娘と呼ばれる。それは今日キリストがお前たちの精神を新に生みたもうたからである。お前たちはキリトの御名を信ずるから自分の心が改まったと言う。従って，お前たちはキリストにより生れてその息子や娘となった。」（モーサヤ5：7）

さて，キリストのみ名を身に受けて生まれ変わったことがわかった今，私たちが次に問われるのは，「それにふさわしい行ないをしているか」ということです。

聖徒というのは，聖く献身的にキリストに従う人のことを言います。末日聖徒が特に心しているのはこのことです。

そして次に来るのは，「私たちは完全だろうか」という問いです。この問いかけに対する答えとして，私は聴衆に向かって次のように言ったある話者の話をしたいと思います。彼は聴衆に向かってこう言ったのです。「この中に完全な方がいらっしゃったら，どうぞお立ちください。」立ちあがったひとりの男の人に，話者はこう尋ねました。「ご自分を本当に完全であると信じていらっしゃるんですね。」

するとその男の人が言いました。「いいえ，違います。自分のことで立ったのではありません。私の妻の最初の夫の代理として立ったのです。」

完全になることは，私たちの目標であるはずですが，実際に完全であると主張する教会員はほとんどいません。私たちは，永遠の生命を得るために，信仰を持ち完成に向かって努力していかなければなりません。

これに反して，不完全になる道は実に数多くあるのです。ベンジャミン王は長い説教をしたあとで，このように言いました。「私は罪を犯す手段をみなあげてお前たちに話すことはできない。罪を犯す手段方法はいろいろあって数えつくすことができないほど多いからである。

しかし，これだけは言えると言うのは，もしもお前たちが自分自身と自分の思想と自分の言葉と行いに注意をせず，神の命令を守らず，私たちの主が降臨したもうことについて聞いていることを生涯の終りまで信じないならばお前たちは必ず亡びると言うことである。それであるから世の人々よ，記憶をせよ，亡びるな。」（モーサヤ4：29－30）

日常生活において私たちを悩ます不完全さは，私たちに悔い改めをし，悔い改めの民とならなければならないことを教えてくれます。私たちは響きわたる大きな忠告だけでなく，ささやかな忠告にも心を留め，耳をすまさなければなりません。

1975年10月の総大会の最後にスペンサー・W・キンボール大管長はこのように言われました。

「私は自分の席に座っていながら，今夜この大会を終えて帰宅してからのことを心に思い巡らしていた。私の生活には，完全にする余地のある事柄が非常に多くある。私は心の中でそのリストを作っていた。そして今，大会を終えたらすぐにそれを始めたいと思っている。」（「聖徒の道」1976年2月号，p.145）

永遠の生命の中にあって，この世での生活は試しの時期と言えます。私たちはこの世に来る前に，それらの試しを受けることを望んだのです。そして今，私たちは大いなる試しの真っただ中にいます。「而して，これによりて彼らを試し，何にてもあれ，主なる彼らの神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。」（アブラハム３：25）主はこのように言われました。

世界中の多くの聖徒たちは，非常に立派な生活を送っています。彼らは試しを真剣に受け留めながら，正しく幸福な家庭を築いています。また，子供たちは「主の愛と誡命と」の中で（イノス１：１）立派に育っています。讃美歌の『家庭の中に』が彼らのテーマソングになっているのです。家庭の夕べや聖典に対する愛，集会での兄弟姉妹との交わり，什分の一を払うこと，教育や伝道の計画などは，彼らにとって，神殿にしっかり向きを定め努力していく際の大きな指針となっています。

これは，救いを得る唯一の条件として「キリストへの信仰を告白する」こととはずいぶん違っています。聖徒とは，マタイ伝25章の裁きの日に関するたとえを文字どおり理解している人々です。(31－46節を参照のこと）彼らはお互いに助け合い，貧しい人や悩める人に助けの手を差し伸べる人々です。このようにして，彼らは知らない間に，神の右に座している自分に気づくのです。皆さんがだれであろうと，何を考えていようと，神はご自分のみもとに戻って来られるようにと一定の条件を定めてくださっているのです。「最初の位を保つ者は更に附け加えられ……第二の位を保つ者は，とこしえに栄光をその頭に附け加えられ」るのです。（アブラハム３：26）

聖徒とは，誓約を交わし，福音の儀式を受けるために，求められている以上に正しい生活をする人々です。それらの誓約や儀式は，聖なる神権の力により権能を与えられた者を通して教えられ，施されます。聖なる神権は，人間によって作られたものではありません。儀式や誓約はこの神権に属するものです。主が，これなくしては「神の国にはいることはできない」（ヨハネ３：５）と言われたバプテスマのほかにも，神殿で受けられる祝福がいくつかあります。神殿において，私たちは神と聖なる誓約を交わします。そして再び主のみ前に帰れるよう，神権を通して幕のかなたに導いてくれる儀式を受けます。

もちろん，私たちはその儀式だけで聖徒になれるわけではありません。行ないが伴わなければなりません。また，たとえ聖徒といえども，キリストの測り知れない贖いがなければ，神のみ前に帰ることはできないのです。私たちが誓約を交わすのはそのためです。

この第二の位において，私たちは目先のことに目を向けてはいないでしょうか。それとも永遠に目を向けているでしょうか。1968年に，当時十二使徒定員会の会員であったスペンサー・W・キンボール大管長は，私たちにこのような話をされました。「ある日，友達が私を自分の牧場に連れていきました。彼は大きな新しい車のドアの鍵を開け，ハンドルの前に座ると誇らしげにこう言いました。『新車なんだ。いいだろう。』私たちは快適な乗り心地のこの車に乗って……造園されて間もない彼の美しい家に着きました。するとまたまた彼は誇らしげに言いました。『これがぼくの家だ。』

それから彼は芝生の生えた丘に車をつけました。太陽ははるかかなたの丘の陰に入りかけていました。彼はこの広大な自分の所有地を見渡しながら，大きく手を広げ，自慢して言いました。『この森から湖，絶壁，牧場小屋まで，またこの中にあるすべての物は私のものだ。あの牧場に黒く点在する家畜もね。』……

その後，私は御殿のような家で豪華な家具に取り囲まれながら死の床にいる彼の姿を見ました。彼の残した財産は莫大なものでした。私は彼の手を胸のところで組ませ，顔を布でおおってあげました。私は彼の葬式で話をし，行列に加わり……墓まで行きました。その墓は，背の高い，大柄の人がひとり入れるだけの小さなものでした。

昨日私は，その同じ牧場を見てきました。黄色の麦，緑色のムラサキウマゴヤシ，白い綿が，かつての所有者にはおかまいなしに咲きほこり，実をつけていました。」(「インプルーブメント・エラ」1986年６月号，pp.81－82)

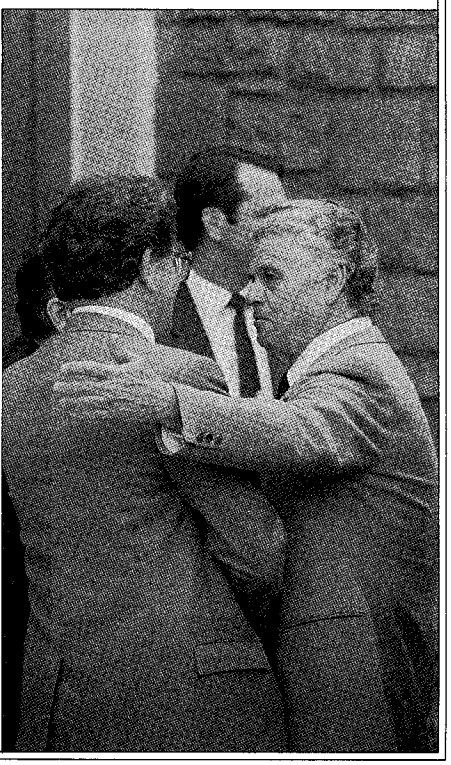
この地は主のものです。私たちは管理を任されているにすぎないのです。

誓約を交わした人の中にも，誓約を真剣に考えていない人々がいます。また，バプテスマを誓約としてではなく，形式として受けた人々は，聖餐にあずかることさえしていません。しかし聖徒と呼ばれる人々は，それらを真剣に考えます。神殿で交わされる誓約や神権の儀式は，神がイエス・キリストのみ名を身に受けた人々に望んでおられる献身的な生活へと導いてくれるものです。

エズラ・タフト・ベンソン大管長は，1984年，ローガン市における話の中で，アダムとその子孫は「神の御子の儀式に入るよう」に命じられていると語り，さらにこう言われました。「神の御子の儀式に入るということは，今日では，主の宮居においてのみ受けられる完全なメルケゼデク神権にあずかることを意味している。」(「エンサイン」1985年８月号，p.８）

「そはこれなくしては，何人も神の御顔すなわち御父の御顔を見て生き得る者なければなり。」（教義と聖約84：22）

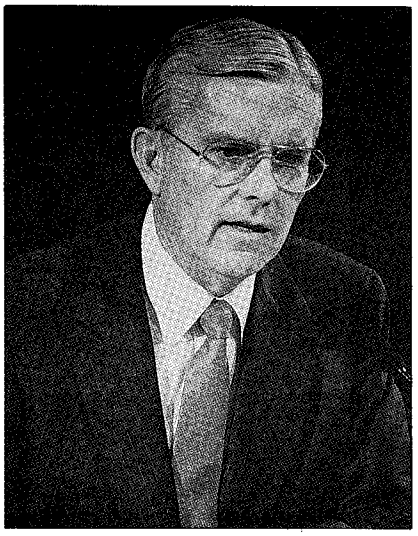
聖徒たちがこの神権を受け入れ，その儀式を受け，誓約を守ることができますように，イエス・キリストのみ名によりお祈りいたします。アーメン。



人生の求めにバランスよく応じる

十二使徒定員会会員
M・ラッセル・バラード

「まず基本的な事柄を重視しておけば，人生が私たちに求めてくる多くのものにも対処しやすくなります。」



愛する兄弟姉妹の皆さん，前回の総大会以来，私は自分自身の生活の中に，神権の祝福の力と会員の方々の信仰と祈りの力を感じてまいりました。私は長年にわたり，人々に祝福を授け，彼らの幸福を願っては断食し，祈り，健康が回復するようにと自分の信仰を行使してまいりました。しかし最近，重い病に伏した折，私はそのような信仰と祈り，祝福を受ける側に立つことになってしまいました。兄弟姉妹の皆さん，皆さんが私のために捧げてくださった祈りに感謝申しあげます。

同僚のひとりが私に，この病気を通して何か良いことがあるに違いないと言いました。そしてだれにとっても，時折逆境に遭うことは良いことであり，それが正直に，オープンに自己の人生を評価させ，内省させてくれる場合はなおさらであると言いました。確かに，私はみずからを省みる機会がありました。

手術の前夜，医者は私に，がんの可能性があることを告げました。ひとりきりになったとき，私の心は家族のことと召しのことでいっぱいになりました。しかし，私は忠実である限り，家族にしっかり結び合わせてくれる福音の儀式に，慰めを見いだすことができました。同時に私は自分にとって最も重要な事柄を達成するには，ここで優先順位を決め直す必要があることに気づきました。

時として，私たちは，内心重視していることや大切に思っていることにさらに心を向けるようになるために，個人的な危機が必要とされることがあります。聖典には，危機に出会い，それからのち今まで以上に神と人々によく仕えるようになった人々の例がたくさん出ています。おそらく皆さんも，自分の心の中をさぐり，勇敢にも人生の優先順位を評価してみるなら，私のように，それらをもっとバランスのとれたものにしていかなければならないことに気づかれるでしょう。

私たちは皆，自分が何をし，どんな人になりたいのかを正直に自己診断し，認識していかなければなりません。

ご存じのように，日常生活の複雑で込み入った様々なチャレンジに対処していくこと（これは決してたやすいことではありませんが），それが私たちの望む生活のバランスや調子を狂わせてしまっています。心ある多くの善良な人々は，そのバランスを保とうと一生懸命なのですが，彼らは往々にして圧倒され，くじけてしまうのです。

4人の小さな子供を抱えたある母親が言いました。

「私の人生にバランスなんてあったもんじゃないわ。子育てで精いっぱい。ほかのことを考える余裕なんてないわ。」

家族を養うことで頭がいっぱいのある父親はこう言いました。

「今は全時間を新しい仕事に費やさなくちゃならないんだ。家族のことも教会の責任もなおざりにしてしまっているけれど，あと1年すれば経済的にもゆとりができるし，落ち着くと思うんだ。」

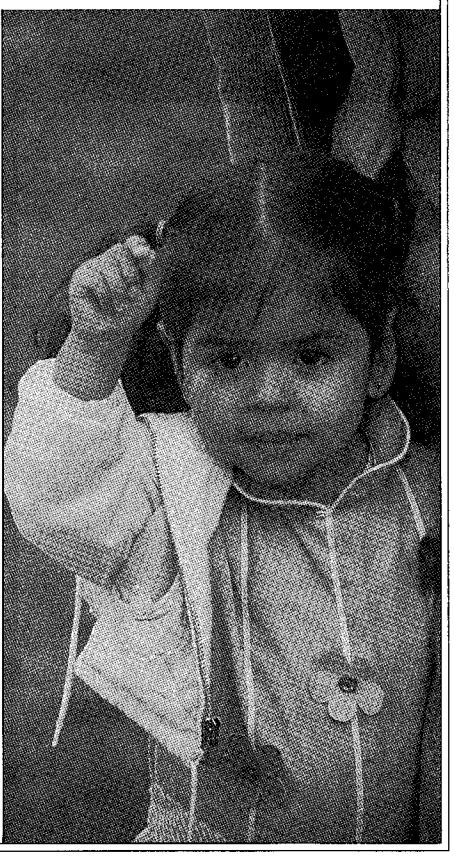
ある高校生が言いました。

「あまりにも多くの対照的な意見があるから，何が正しくて何が間違っているのか，いつも正しい判断をするのはむずかしいな。」

また次のような言葉を，私たちは何度耳にしてきたことでしょうか。

「運動がどんなに大事か，自分が一番良く知っているんだが，運動する時間がないんだ。」

ある片親の人が言いました。「家庭の管



理や子育てで自分に課せられていることすべてを達成するのは不可能に近いことです。ときどき世間は私にあまりにも多くのことを求めすぎているんじゃないかと思ってしまいます。どんなに一生懸命働いても，みんなの期待にはとても添えないように思うんです。」

4人の子供を持つまた別の母親が言いました。

「私の気持ちの中では，自尊心，自己信頼が，罪悪感や挫折感，失意と戦っています。昇栄に必要だと教えられているすべてのことを自分がしていないからです。」

兄弟姉妹の皆さん，私たちは皆しばしばこうした悩みを抱えます。これらはだれもが経験することです。多くの人々が，親として，家族として，また仕事や教会，社会において重要な責任を受けています。これらすべてにおいてバランスを保つのは，並大抵なことではありません。

しかし，私たちが主と交わした誓約を定期的に思い起こすようにすれば，優先順位を決めたり，生活にバランスを保たせることは容易になってくるはずです。誓約に思いをはせることにより，私たちは，交わした誓約と聖なる儀式に伴う約束にふさわしくなるために，どんな点を反省し，生活をどう変えていったらよいかがわかってきます。自分自身の救いを達成するには，しっかりした計画と，慎重ながら雄々しい努力が必要なのです。

人生の求めにバランスよく応じたいと考えておられる方々に，ここでいくつか提案してみたいと思います。きっとお役に立てると思います。ここで提案することは，非常に基本的な事柄です。したがって注意していないと，大切な概念を見逃しかねません。また，生活の中にそれらを取り入れていくには，よほど強い決心と自己訓練が必要であるということも心に留めておいてください。

まず1番目は，自分の人生について考え，優先順位を決めるということです。定期的に静かな時間を見つけ，自分はどこへ行こうとしているのか，また目的地に着くためには何をしなければならないのかを深く考えてください。私たちの模範であられるイエスは，しばしば「寂しい所に退いて祈」られました。（ルカ5：16）私たちもみずからを霊的に活気づけるために，たびたび救い主がされたと同様のことをする必要があります。毎日達成したいと思うことを書き留めてください。そしてその日の計画を書き込むときに，主と交わした神聖な誓約を思い起こしてください。

2番目は，達成可能な短期間の目標を決めるということです。多すぎも少なすぎもせず，高すぎも低すぎもしないバランスの取れた目標を定めるのです。自分に達成可能な目標を書き留め，重要なものから順次努力していくのです。目標設定にあたっては，神に導きを願ってください。

皆さんはアルマが，天使になって「神のラッパのように地を震わせる声で話し，万民に悔改めをすすめ」たい（アルマ29：1）と言ったことを覚えておられるでしょう。彼はこう続けています。「しかしごらん，私はただの人であるからこのように願うのさえも罪である。私は主が私に許したもうたことだけで満足しなくてはならないからである。

私は自分が任ぜられた務めをするほかに何も望むことはないはずである。」（アルマ29：3，6）

3番目は，人生にあってはだれもが経済的な問題に直面するということを認識することです。賢明な予算を立て，真に必要なものと欲しいものとをはっきり区別することが大切です。あまりにも多くの人々，家族が負債を負いすぎています。私たちに差し伸べられている魅力的にも見える借金の機会に十分注意を払ってください。支払いをするよりも，借金をする方がはるかに容易だからです。経済的な安心を得るのに，近道や一獲千金的な方法はないのです。この世の物質的なものに目がくらんでしまった人ほど，人生におけるバランスの原則を必要とする人はいないのではないでしょうか。

いかなる投資の誘いがあっても，十分な評価をしないまま他人に財産を託すようなことはしないでください。他人に財産を託したために多額のお金を失ってしまった人々がいます。経済的な管理が上手にできないうちは，バランスの取れた生活を送ることができないというのが私の意見です。

予言者ヤコブは民に向かいこう言っています。「それであるから，価値のないものに金を使うな。満足させることのできぬものに労力を費すな。勉めて私の言うことを聞き，私のこれまでに言ったことを記憶せよ。そしてイスラエルの聖者のもとに来て腐りもせず汚れることもできぬものを飽くまで食べて，あなたたちの霊を肥せ。」（IIニーファイ9：51）兄弟姉妹の皆さん，常に完全な什分の一を納めるようにしてください。

第4は，皆さんの伴侶や子供たち，親戚，友人たちと親密な関係を築くということです。このような人々は，皆さんが生活のバランスを保つ手助けをしてくれる人々です。最近教会で，合衆国の成人

を対象に，非常に幸福に感じるときはどんなときか，その経験について，また反対に非常に不幸であると感じるのはどんなときかについて調査が行なわれました。ほとんどの人々に幸福である，あるいは不幸であると感じさせているものに人間関係があげられていました。健康や仕事，お金や物質的なものもそれには及ばなかったのです。腹を割った正直なコミュニケーションを通して家族や友人とよりよい関係を築いてください。

すばらしい夫婦関係，家族関係は，やさしく思いやりのあるコミュニケーションによって保たれるのです。ちょっとした目くばせやうなずき，頭をなでるなどの行為がしばしば言葉以上のものを伝えてくれることを覚えていてください。ユーモアのセンスや良い聞き手になることもすばらしいコミュニケーションを保つうえで欠かせません。

5番目は，聖典を学ぶということです。私たちは聖典を学ぶことによって，常に主のみたまに近くあることができます。私が，イエスはキリストであるという確かな知識を得られたのも，聖典を通してでした。エズラ・タフト・ベンソン大管長は教会員に，モルモン経の探究を日々の習慣に，また生涯の課題にするようにと呼びかけられました。使徒パウロがテモテに与えた忠告は，私たちにもあてはまります。彼はこう書き送っています。「また幼い時から，聖書に親しみ，それが，キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を，あなたに与えうる書物であることを知っている。聖書は，すべて神の霊感を受けて書かれたものであって，人を教え，戒め，正しくし，義に導くのに有益である。」（IIテモテ3：15－16）

6番目は，私を含め十分な休息や運動，リラックスする時間を取れないでいる人が多いということです。健康でバランスの取れた生活をしたいと思うならば，日日のスケジュールの中に，これらを取り入れていくようにしなければなりません。肉体的な健康があってこそ，威厳や自尊心が高められるのです。

7番目は，予言者たちが家族に対して，お互いに福音を教え合うように，できればそれを毎週の家庭の夕べの中で行なうようにと繰り返し説いておられるということです。十分に注意していないと，このような家族の習慣は次第に私たちから離れていってしまいます。家族を永遠の生命へと導いてくれる「王国の教義」（教義と聖約88：77）を教え合う，この特別な機会を失ってはなりません。

サタンは常に私たちの証を打ち砕こうとしています。しかし，私たちが福音を学び，戒めに添った生活をしていれば，サタンに対抗する力を超えて私たちを誘惑し，混乱させることはできないのです。

最後に提案したいことは，個人で，また家族でたびたび祈るということです。両親は，みずからを訓練し，子供たちが定期的な家族の祈りに積極的に加わるよう導き，動機づけていかなければなりません。若人はいつも熱心に祈ることによって，何が正しいかを日々の生活の中で判断できるようになります。

予言者アルマは，祈りの大切さを次のような言葉で要約しています。「主の御前にへりくだり，その聖い御名を呼び，自分に堪えられない誘惑に逢わないようたえず目を覚して祈り，これによって聖霊の導きを得，謙遜，柔和，従順であって忍耐強く勘忍と愛情とに富み……。」（アルマ13：28）本当に霊的な生活をするならば，生活のあらゆる面でもっと楽にバランスを保つことができるようになります。

兄弟姉妹の皆さん，これ以外にも提案したいことは数多くあります。しかし私は，まず基本的な事柄を重視しておけば，人生が私たちに求めてくる多くのものにも対処しやすくなると思うのです。何事も多すぎると，バランスをくずしてしまいます。反対に重視すべきものが少なす

ぎても同じことです。ベンジャミン王はこう勧告しています。「すべてこれらのことが賢く秩序正しく行われるようにせよ。」（モーサヤ４：27）

私たちの目標や方向が明確でないと，費やす時間や労力が無駄になり，生活のバランスがくずれやすくなります。バランスの取れていない生活は，空気圧がばらばらな車のタイヤに似ています。そのような車の動きは荒々しく，安全性に欠けます。タイヤのバランスが完全な車は，走りがスムーズで乗り心地も快適です。人生においても同じことが言えます。人生のバランスを保つように心がけていけば，この世での生活はずっとスムーズになるのです。私たちの目的とするところは，「不死不滅と永遠の生命」（モーセ１：39）を得ることでなければなりません。これが私たちの目的だとしたら，私たちは自分の生活の中から，時間を浪費させたり，目標達成に役立たないようなことは取り除く必要があります。

指導者の皆さんにひと言申しあげたいと思います。会員たちに求めることが，彼らを永遠の生命に向かわせるものであるよう十分に配慮してください。会員たちが各々の生活の中にバランスを保てるよう，指導者の方々は彼らに個人的な目標や家族の目標を達成する時間が取れなくなるほど多くのことを要求しないように気をつけてください。

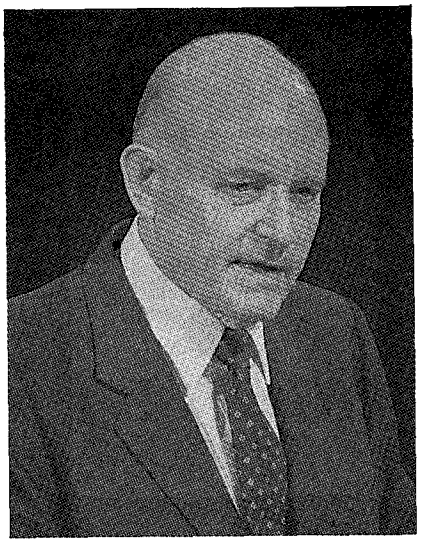
少し前のことですが，私の娘がこのように言ってきたことがありました。「お父さん，私自分でそれが本当にやれるのかわからなくなることがあるの。」彼女に与えられた答えを，同じような思いをしておられる方々に差しあげたいと思います。毎日最善を尽くして，基本的な事柄にあたってみてください。そうすれば皆さんの生活は，知らない間に，天父が愛してくださっているという確信を与えてくれる霊的な理解力で満たされることでしょう。このことがわかると，人生はさらに目的のある意義深いものとなり，バランスも保ちやすくなります。

兄弟姉妹の皆さん，日々，心に喜びを持って生活してください。人生はすばらしいものであることをへりくだり，証します。すべてをイエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

「生ける」教会員

十二使徒定員会会長代理
ハワード・W・ハンター

「もうひとつ考えなければならないことがあります。『自分は不動の決意をもって献身的に働く，真の生ける教会員だろうか。』」



ワーテルローの戦いが重大な局面を迎え，兵士たちの沈着さに戦いの成り行きがすべてかかっていたそのときに，不安な面持ちの急使がウェリントン公爵のもとへ駆けつけ，すぐさま援軍を送るか退却しない限り，イギリス軍は今にも始まるフランス軍の攻撃の前に敗北は必至であると言いました。ウェリントン公はそれに対して「落ち着け」と答えました。

その急使が「しかし，このままでは我が軍は敗北です」と反論すると，鉄の心を持つと言われていたウェリントン公は再び，「落ち着け！」と答えました。

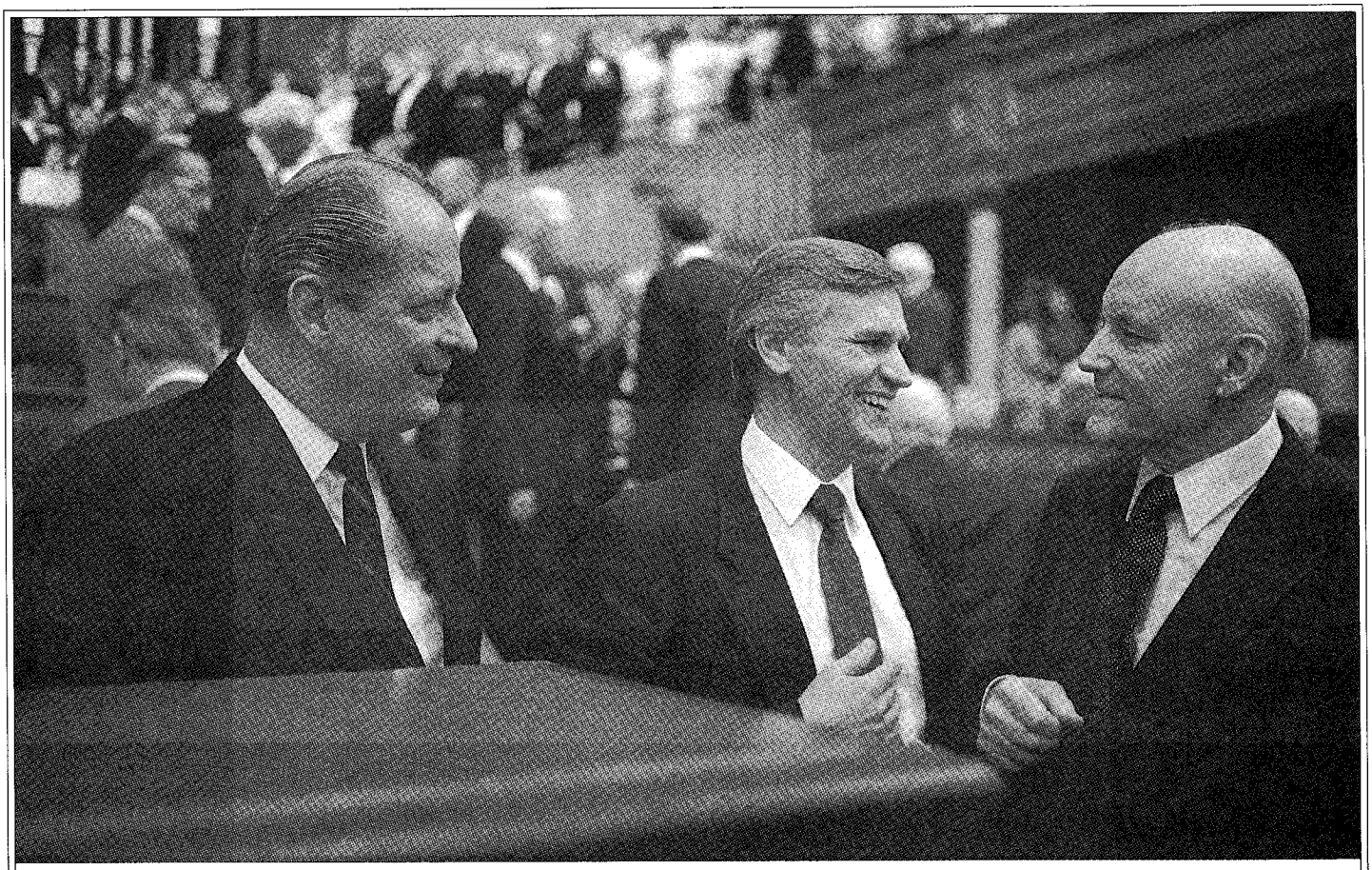
そして，その急使は，「持ち場を守ります！」と答え，大急ぎで馬を飛ばして行きました。

言うまでもなく，忠誠心と固い決断によってイギリス軍はその日勝利を収めました。（ウォルター・バクサンドール編「逸話辞典」p.225参照）

今この時代に，ワーテルローよりももっと重大な意味を持つ戦いが行なわれています。それは人の身と霊を守るための戦いです。この戦いの結果も同じように，一人一人の兵士の不動の決意にかかっています。サタンの激しい攻撃のさ中にあっても，指揮官の声ははっきりと聞こえてきます。「固く立て！　忠実であれ！」と。

兄弟姉妹の皆さん。今私の声を聞いておられる方々のほとんどが，しっかりと立ち，神の王国に忠実であることに感謝しています。皆さんはヒラマンに率いられた勇敢な兵士たちのようです。彼らは「神がかれらを自由なものになしたもうたその自由の道を堅く守り，毎日必ず自分の神である主を思い，慎んでたえず神の律法（おきて）と裁決と命令とに服従し，将来にかかわる予言を固く信じてい」ました。（アルマ58：40）私は，日々の平凡な生活の中で，クリスチャンとしての信仰に従っている教会員の方々についてお話ししたいと思います。

1831年の11月に，オハイオ州ハイラムで開かれた教会の大会において，主は教義と聖約のはしがきとして与えられた啓示の中で，この教会は「全地の面（おもて）に於（お）ける唯一の真にして生命（いのち）」ある教会であると言われ，さらに次のようにつけ加えられました。「主なるわれの悦（よろこ）ぶこの教会……われ悦ぶとは一人一人を指すにあらずして，わが教会員全体に就（つ）きて言えるなり。」（教義と聖約１：30）これは私たちにひとつの問いかけをしています。それは，変わることのない重要な意味を持つ問いかけです。「全体的に見れば，これが真実



●左からロバート・D・ヘイルズ管理監督，グレン・L・ペイス第二副監督，十二使徒定員会会員のハワード・W・ハンター長老

の命ある教会であることはわかる。しかし，私自身は真実の生ける教会員だろうか」というのが質問です。

この教会が真実の命ある教会であるという主のみ言葉を茶化していると受け取られるかもしれませんが，この質問は，自分は主と交わした誓約を全身全霊を尽くして守っているだろうかという意味です。また，それは，はたして自分は全力を出して福音に従い，み言葉を聞くだけでなく行なう者となっているだろうか，自分の信仰を実践しているだろうか，今も忠実だろうか，サタンの誘惑に負けずにしっかりと立っているだろうか，とも言い換えられます。サタンはあざけりや詭弁を用いて，私たちに道を踏みはずさせようとしていますが，「固く立て！」と心の内に呼びかける声に従うことによって，私たちは勝つことができます。

自分は生ける教会員だろうかと自問して，そうであるとはっきり言える人は，強い確信を持っている人です。生ける教会員とは，今もこれから先も，常に神と隣人を自分自身のように愛し，自分が何者であり，何を信じているかを行ないで示し，日々キリストが望んでおられる生活をする人です。

生ける教会員とは，自分のすべてを捧げようとする人です。そのような人は，ニーファイの次の勧告に従います。

「さて私の愛する兄弟たちよ，私は尋ねたい，あなたたちはこの真直ぐで狭い道に入ったら，それで万事終りであるか。ごらんそうではない。あなたたちがもしもキリストの言葉によってキリストを確く信仰し，人を救う大きな能力のあるキリストの功徳に全く頼らなかったなら，あなたたちはここまで進んでくることさえできなかったのである。

それであるから，あなたたちはこれからもキリストを確く信じて疑わず，完全な希望の光を抱き，神とすべての人とを愛して強く進まなければならない。それであるから，この後もたえずキリストの言葉をよく味わいながら強く進み，終りまで堪え忍ぶならば『永遠の生命を受ける』，かくの如く天の御父が言いたもうた。」（IIニーファイ31：19－20）

生ける教会員は自分が遂行すべき義務をよく知っています。福音を実践する人は，人生という旅の第一段階として，まずバプテスマを受けます。それは神と天使と天に対して，神のみこころに従うとの意志を示すことです。特に私たちは，最近この誓約を身に受けた全世界の人々に，歓迎の意を表わしたいと思います。私たちは皆さんを愛し，皆さんをはじめとする全世界のすべての教会員に対する私たちの関心を知っていただきたいと思います。末日聖徒の兄弟姉妹の交わりの中に皆さんをお迎えしたいと思います。「聖徒」という言葉は，私たちが皆完全であることを意味するものではありません。それは，信仰の上に固く立つように努力し，奉仕し，決心している者という意味です。

福音を実践する教会員は，決して自分が進もうと決意した道からそれることがありません。ある人が救い主のもとに来て，このように言いました。

「『主よ，従ってまいりますが，まず家の者に別れを言いに行かせてください。』

イエスは言われた,『手をすきにかけてから，うしろを見る者は，神の国にふさわしくない者である。』」（ルカ９：61－62）

すきを使って，まっすぐなうねを掘るためには，前方のある一点に目を向けてそらさないようにします。そうすると，まっすぐに進むことができます。しかし，もし後ろを振り返ったりすると，曲がった方向へ進む可能性が強くなります。曲がりくねった不規則なうねになってしまうのです。新しい会員の皆さんにお願いします。新たな目標にしっかりと目を向けて，自分の成長ぶり，真価，神からの祝福を思い起こすため以外には，過去の問題や過ちを振り返らないようにしてください。私たちのエネルギーを，後ろではなく前方に，すなわち永遠の生命と救いの喜びに集中させるなら，確かにそれらを得ることができます。

生ける教会員は，内なる命を生かすみたまに心を向けて，絶えずその導きを求め，力が与えられるように祈り，様々な障害を克服していきます。彼らの心はこの世的なものではなく，永遠の価値を持つものに向けられています。肉体的な喜びを得るために，霊の再生を犠牲にするようなことは決してしません。

生ける教会員は，命と成長の源が何かを理解し，キリストを最も重要視して日日の生活を送ります。人間には，自分を宇宙の中心に据え，自分の望み，欲求にほかの人を従わせようとする傾向があります。しかし，自然の摂理はそのような誤った考えと相いれるものではありません。私たちが人生の中で果たすように求められている最も大切なものは，神から与えられたものです。私たちは，神を自分の意のままに動かそうとするのではなく，神のみこころに自分を従わせようと努力する必要があります。そうする人は生ける教会員として進歩し続けることができます。

最も大切な第一の戒めは，「心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛」することです。（マタイ22：37）神を愛するには，神に求められていることをする必要があります。神のようになりたいという望みを，行ないで示さなければならないのです。

生ける会員はひとたび改宗すると，兄弟姉妹を力づけなさいとの戒めに従い，また，自分の喜びを人々に分かち合おうと熱心に努め，決してその望みを捨てたりはしません。パトリック・ヘンリーはこの世を去る直前にこう言いました。「これで家族への財産相続は終わったが，……もうひとつ彼らに与えたいものがある。それはキリストへの信仰である。……キリストへの信仰さえあれば，私から１シリングも受けなかったとしても，彼らは富める者となるだろう。逆にその信仰がなければ，私からこの世のすべての富をもらったとしても，彼は貧しい者となるだろう。」（タイロン・エドワーズ編「新思想辞典」p.561）

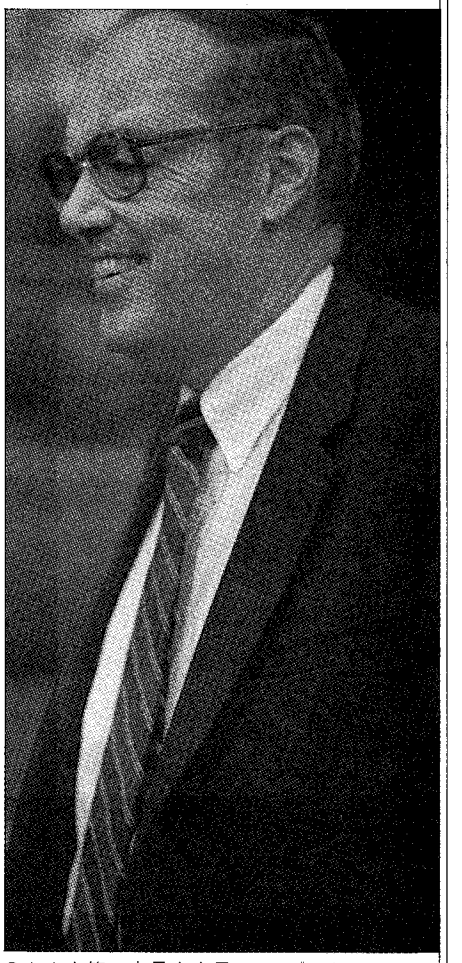
生ける教会員は，信仰を行ないで示さなくてはならないことを理解しています。そのような聖徒は自分の自由意志によって，多くの善をなし，よい働きをしようと熱心に努めます。ヒーバー・Ｊ・グラント大管長があるときこう言いました。「私たちはみずからの内に自由意志を持ち，自分のことを自分でします。どのようなことでも命令されるまで待っているようではいけません。すべてのことをやむを得ずにする人は怠惰であり，賢いしもべとは言えません。私たちは熱意，望みを持ち，全能の主から授けられた力の限りを尽くして，人生の戦いを精いっぱい戦い抜く決心をする必要があります。この地上で，自分の能力に応じてほかのだれにも劣らぬ働きをし，神のみ業を推し進めることができれば，それは非常に誉れあることです。」（「インプルーブメント・エラ」1939年10月号，p.585）

福音の教えに従う教会員は，互いに愛し合います。父親や夫を失って悲しんでいる人を見舞い，みずからは世の汚れに染まることがありません。

生ける教会の会員として，私たちは生ける神を信じています。ヨシュアはヨルダン川を渡るに先立ち，イスラエルの民を集めてこう言いました。「あなたがたはここに近づいて，あなたがたの神，主の言葉を聞きなさい。……生ける神があなたがたのうちにおいでになるこを〕……あなたがたは知るであろう。」（ヨシュア３：９－10）少年ダビデも，ゴリアテに戦いを挑まれたとき，勇敢にもかたわらにいる人々に次のように言いました。「この割礼なきペリシテびとは何者なので，生ける神の軍をいどむのか。」（サムエル上17：26）エレミヤも同じように，主を真の神，生ける神と呼んでいます。（エレミヤ10：10参照）

私たちは，この教会が生ける真の神が建てられた真実の命ある教会であると強く信じています。しかし，もうひとつ考えなければならないことがあります。「自分は不動の決意をもって献身的に働く，真の生ける教会員だろうか。」

皆さんが固く立ち，真の生ける教会員となり，約束の恵みを受けられますように。その約束の恵みとは，教義と聖約の中に「これらの者は，シオンの山にまた生ける神のいと聖き神聖なる市に来りぬ」（教義と聖約76：66）と書かれている人々の中に数え入れられることです。これらをイエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。

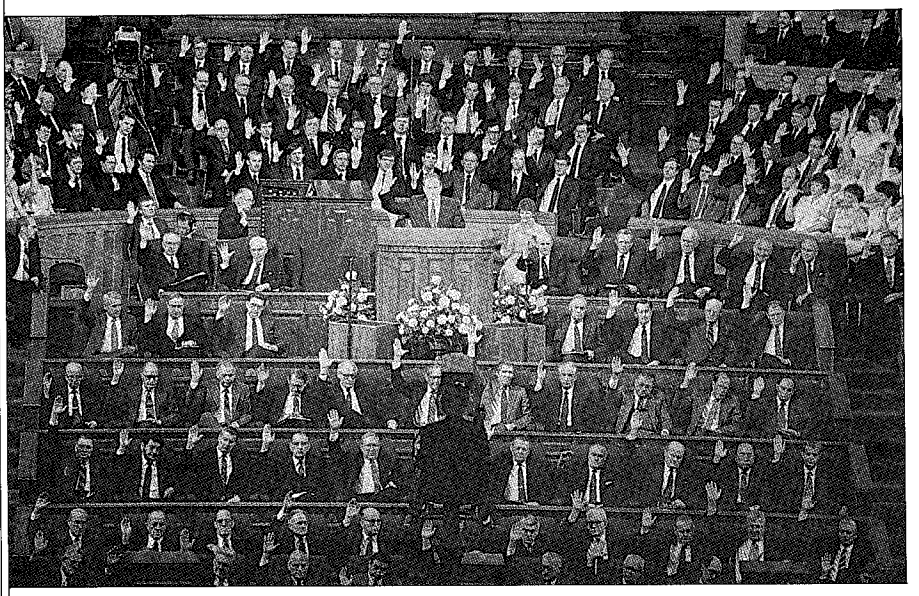


●七十人第一定員会会員のＦ・バートン・ハワード長老

●1987年4月4日（土）午後の部会

教会役員の支持

第二副管長
トーマス・S・モンソン



兄弟姉妹の皆さん，これから教会幹部，および中央役員を支持していただけるよう提議いたしたいと思います。

私たちは，エズラ・タフト・ベンソン大管長を予言者，聖見者，啓示を受ける者として，また末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長として，ゴードン・B・ヒンクレーを大管長会第一副管長として，またトーマス・S・モンソンを大管長会第二副管長として支持するよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方はその意を表わしてください。

マリオン・G・ロムニーを十二使徒評議員会会長として，ハワード・W・ハンターを十二使徒評議員会会長代理として，また同評議員会会員としてマリオン・G・ロムニー，ハワード・W・ハンター，ボイド・K・パッカー，マービン・J・アシュトン，L・トム・ペリー，デビッド・B・ヘイト，ジェームズ・E・ファウスト，ニール・A・マックスウェル，ラッセル・M・ネルソン，ダリン・H・オークス，M・ラッセル・バラード，ジョセフ・B・ワースリンを支持するよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方はその意を表わしてください。

大管長会の副管長および十二使徒を，予言者，聖見者，啓示を受ける者として支持するよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。もし反対の方があれば同じくその意を表わしてください。

次の兄弟の方々を新たに七十人第一定員会会員として，5年の間，働いていただけるよう提議いたします。ジョージ・R・ヒルIII，ジョン・R・ラサター，ダグラス・J・マーティン，アレクサンダー・B・モリソン，L・アルディン・ポーター，グレン・L・ラッド，ダグラス・H・スミス，およびリン・A・ソレンセンです。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方もその意を表わしてください。

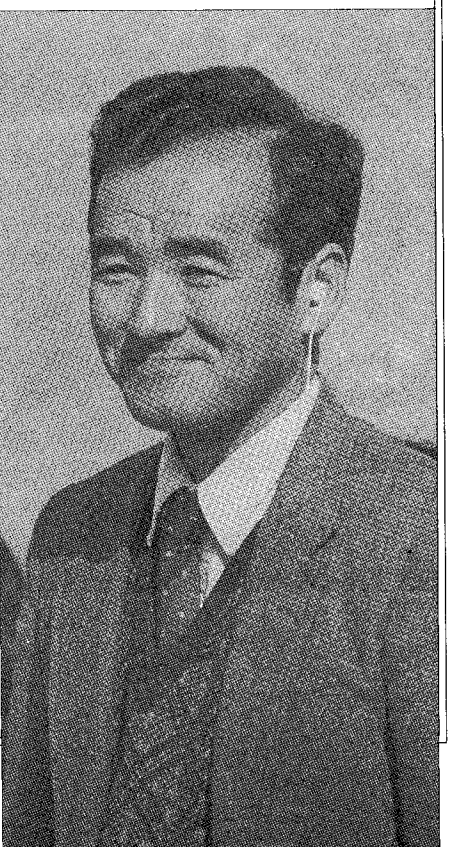
モーリーン・J・ターリー姉妹は，アーカンサス・リトル・ロック伝道部長として責任を受けられたご主人と共に任地へ行かれます。そのため，彼女を中央若い女性会長会第一副会長の責任より解任したいと思います。同様に第二副会長のジェイン・B・マラン姉妹も解任したいと思います。これらの姉妹のそれぞれの責任に対する献身的な働きに感謝を示してくださる方は挙手をもってその意を表わしてください。ありがとうございます。

若い女性のアーデス・G・カップ姉妹は，ジェイン・B・マラン姉妹に第一副会長として，イレイン・ロウ・ジャック姉妹に第二副会長として働くよう依頼されました。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方も同様に示してください。

そのほかの教会幹部，中央管理役員の方々を現状のままで支持してくださるよう提議いたします。賛成の方はその意を表わしてください。反対の方もその意を表わしてください。

ベンソン大管長，提議は全会一致で承認されました。

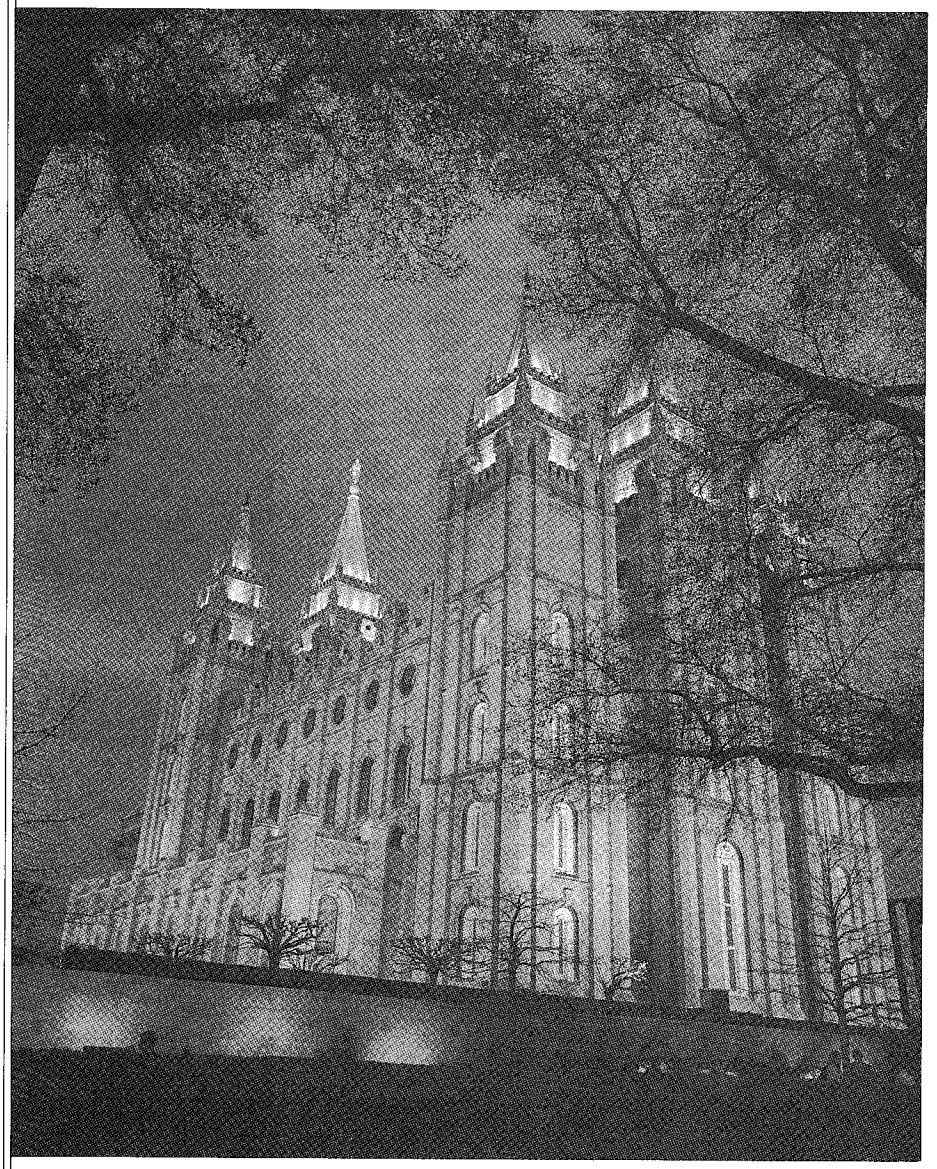
新たに支持されました兄弟たちとジャック姉妹は壇上の席へお着きください。



教会監査委員会報告

教会監査委員会委員長
ウイルフォード・G・エドリング提出

末日聖徒イエス・キリスト教会大管長会への報告



私たちは，教会の中央基金の収支管理と，その管理下にある組織の妥当性を評価するために，予算編成，会計および監査の方法，またそれにかかわる1986年12月31日現在の教会の年次財政報告書，および基金の収受，支出の管理の方法を検討いたしました。

年度内の教会中央基金の支出は，大管長会の承認を受けたものであり，予算手続きに従ったものでありました。予算案は，大管長会，十二使徒評議会および管理監督会で構成される什分の一配分評議会で承認されます。また主要な支出は，毎週開かれる予算承認委員会で，予算案に基づいて行なわれるよう管理されます。

急速に発展し，また変化している教会の動向に立ち遅れることのないよう，教会の中央基金の会計は財務部により，最新の会計技術と施設を駆使して管理されております。

管理部は，ほかのあらゆる部門から独立しており，財政監査，運営監査，教会が導入しているコンピューターシステムの監査を行なっています。監査はこれからも引き続き，教会の各部門，および全世界にわたる教会管理の組織に対してなされます。その中には，伝道部，学校，教会管理事務所および各部門の活動が含まれます。教会の発展と活動の拡大に伴って，教会の資産を守るための監査部の役割も大きくなっています。

ワード部，ステーキ部などへの基金の監査は，ステーキ部監査委員によって行なわれ，監査報告書は教会監査部で検査されます。教会財務部が銀行口座を維持しない，教会所有または管理の法人組織の事業については，公認会計士の資格を持つ内部の専門家，独立した専門の監査会社，または政府の監査機関が監査を行なうようになっています。

財務部，監査部，教会の法務顧問が一同に会して，教会内の財務運営の方法を検討した結果，私たちは，予算編成，会計，および監査方法が教会の必要と目的にかなっており，また1986年12月31日現在の教会中央基金の収支に関するすべての事柄が，教会の定められた方針と手続きに従って運営され，会計処理されているとの見解に達しました。以上謹んでご報告申しあげます。

教会監査委員会
ウイルフォード・G・エドリング
デビッド・M・ケネディー
ウォーレン・E・ピュー
メリル・J・ベイトマン
テッド・E・デービス

1986年度統計記録

大管長会秘書
F・マイケル・ワトソン提出

教会員に情報を与えるために，大管長会は1986年12月31日付で，教会の成長と現況を示す統計記録を発表した。（会員数には，大会前に入手した1986年の報告に基づく推定が含まれている）

教会ユニット

ステーキ部数 ……1,622
地方部数 ……346
伝道部数 ……193
ワード部数……10,527
ステーキ部内の支部数 ……2,792
伝道部内の支部数 ……2,070
ワード部／支部が
　組織されている独立国……98
ワード部／支部の組織されている
　未編入地域，植民地，属領……24

（以上の統計から，1986年1年間にステーキ部が40，ワード部／支部が379増えたことがわかる）

教会員数

1986年末現在，総会員数 ……6,170,000

1986年度の教会の成長

記録上の子供の増加……93,000
バプテスマを受けた
　記録上の子供……72,000
改宗者数 ……216,210

神権者数

メルケゼデク神権者 ……745,000
アロン神権者 ……844,000

宣教師数

専任宣教師……31,803

1986年4月以降に世を去った，著名な教会員

A・セオドア・タトル（七十人第一定員会会員），ヘンリー・D・テイラー（七十人第一定員会名誉会員），ジェームズ・A・カリモア（七十人第一定員会名誉会員），O・レスリー・ストーン（七十人第一定員会名誉会員），メイ・J・ダイヤー（アルビン・R・ダイヤー長老未亡人），ビバリー・J・コール（ウォルド・P・コール長老夫人），G・カーロス・スミス・ジュニア（元中央YMMIA会長）

●エズラ・タフト・ベンソン大管長（左）とトーマス・S・モンソン第二副管長

誓　約

十二使徒定員会会員
ボイド・K・パッカー

「儀式と契約は，神のみもとに行くための資格証明書になります。ふさわしくなってそれを受けることは，生涯の目標であり，最後までそれを守ることは，この世におけるチャレンジです。」

私は前回の大会の記録を完全なものとするために，せん越かとは思いますが，今大会の記録に，ひいては教会歴史の中に，ひとつの話をつけ加えたいと思います。

昨年10月の総大会の最後の部会において，A・セオドア・タトル長老は，信仰について霊感あふれる感動的な説教をされました。原稿を準備せずに，聖典を持って真心から話されたのです。タトル長老の話が終わると，司会者のヒンクレー副管長は次のように言われました。

「軽率であると言われるかもしれませんが，あえてお話ししたいと思います。タトル兄弟は重い病気にかかっていて，今話されたばかりの信仰，私たちの信仰を必要としています。タトル兄弟の話を聞かれた教会員の方々が，今述べられたような信仰をもって，タトル兄弟のために天父に祈ってくださったら，どんなにうれしいことでしょうか。」（「大会報告」1986年10月，p.93）

最後の話者であるエズラ・タフト・ベンソン大管長は，ヒンクレー副管長の言葉を支持し，タトル兄弟の快復のため断食と祈りを捧げるようにみずから訴えられました。

しかし，タトル兄弟は快復しませんでした。それから7週間後に他界されたのです。

ここで，祈りがこたえられなかったと思い込んで皆さんの信仰が揺らぐことがないように，あるいはタトル兄弟のために断食と祈りをするよう予言者自身が全教会員に呼びかけたにもかかわらず，兄弟が亡くなったことで当惑することがないように，私が経験したことをお話ししたいと思います。

私はこの経験を葬儀のときに話すつもりでしたが，その日は胸がいっぱいで話せませんでした。

ある日曜日，タトル兄弟はほとんど寝たきりで家にいました。ご家族が教会に行って留守の間，私はタトル兄弟と数時間一緒に過ごしました。

タトル兄弟は，世界中から寄せられた愛の便りに深く感動していました。どの手紙にも，タトル兄弟の快復を願った信仰の祈りが記されていました。その多くは，タトル家族が長年にわたって奉仕した南アメリカから寄せられたものでした。

その日私たちは，タトル兄弟の半生を振り返ってみました。ユタ州マンタイの平凡な末日聖徒の家庭に生まれたときから始めて，私もよく知っている彼のお父さんや，熱心に神殿で奉仕されたお母さんについて話しました。

タトル長老は伝道，大学生活，マーン・ウィテイカー姉妹との結婚，海兵隊での勇敢な働きについて話しました。

ブリガムシティーで一緒にセミナリーを教えたときのことや，セミナリー・インスティテュートを管理したときの思い出について話しました。

信仰のあつい7人のお子さんのことや，いつも兄弟が「世界一の子供たち」と呼んでいたお孫さんたちのことも話しました。

それから，七十人第一定員会に召されたことと，その後の割り当てについて話しました。タトル家族はすぐに南アメリカへ召されました。そして米国に帰って落ち着く間もなく，南アメリカへ再び戻るようにという面接を受けました。

ほかの人ならこう答えたかもしれません。「どうしても召されるのでしたら，もちろん行きます。」しかし，タトル兄弟姉妹はそのようなことは言いませんでした。誓約を交わしていたからです。タトル姉妹と子供たちは一言も文句を言わずに兄弟に従い，何度も南米に戻って，通算7年余りの年月をそこで過ごしました。

南米に最初に召されたときに始まった重い病が治癒しなくても，それは問題ではなかったのです。ある日タトル兄弟は，ラテンアメリカの謙遜な人々について思いやりを込めて話しました。わずかなものしか持たない人々が，タトル兄弟の生涯にすばらしい祝福をもたらしたのです。

タトル兄弟は，自分にはこれ以上の祝福にあずかる資格がないし，必要もないと言いました。もっと祝福を必要とする人がほかにいたのです。タトル長老は，次のように話してくれました。「私の快復のために捧げられたこれらの祈りについて，主にお話ししました。そして，私の思うままにこの祝福を使えるかどうか，お尋ねしました。もし許されるなら，祝福を私から取りあげて，それをもっと必要とする人々に差しあげてくださるようにお願いしました。」

タトル長老はさらに続けて言いました。「私は主に，これらの祝福を取りあげて，

ほかの人に与えるように嘆願したのです。」

タトル兄弟は，私たちの祈りがもたらす祝福を，人知れず苦しんでいる人々のために使いたいと思ったのです。それは，私たちの多くが忘れても，タトル兄弟には決して忘れることのできない人々でした。

聖典は次のように教えています。「義人の祈は，大いに力があり，効果のあるものである。」（ヤコブ5：16）

主は，快復を願う私たちの祈りよりも，この聖められた人の願いを聞かれたのかもしれません。皆さんはそう思いませんか。

すべてのことがわかるわけではありませんが，私たちの祈りが無駄ではなかったと考えるのは，間違っているでしょうか。南アメリカ大陸のあちこちで，この偽りのないタトル兄弟から謙遜な人々に思いがけない祝福がもたらされることを，だれが否定できるでしょうか。

もし従順であれば，このような気高い目標が私たちの生活の中で成就するのではないでしょうか。

さて，疑い深い人はそのようなことをあざ笑うかもしれません。しかし少なくとも私は，聖徒たちの祈りが受け入れられ，記録されて，タトル兄弟が願ったように，その祝福が絶望に沈んだ人々に振り分けられたと信じ，満足しています。

いずれにしても，すべての祈りは「主のみこころが行われますように」（使徒21：14）という思いで締めくくるべきではないでしょうか。

タトル兄弟は最後の数週間，常に明るい態度をとり，見舞いに来てくれた人々をいつも慰めていました。私が会いに行ったとき，兄弟は担当の医師たちをベッドの側に呼んで，これまで治療してくれたことについて一人一人に感謝を述べていました。

タトル兄弟は，感謝祭の日が過ぎるまでは生きようと決意しました。家族が毎年その祭日を悲しい気持ちで過ごすことのないようにするためです。その夜，タトル兄弟は子供たち一人一人と会って，遠くにいる子供には電話をかけて，愛と祝福を与え，別れを告げました。アラスカに住む娘のクレアリーと連絡が取れたのは，夜遅くなってからでしたが，それが済むまでは，この世を去るわけにはいかなかったのです。

翌朝早く，タトル兄弟は苦しむことなく，静かな期待を胸に抱いてこの世を去りました。その瞬間，部屋全体が言いようのない平安に包まれました。

マーン姉妹は，以前も，そのときも，それから後も，心の平静と受容の面で完璧な模範を示してきました。

それでは，この経験から得た教訓をまとめてみましょう。

タトル兄弟は，教会幹部として28年間仕えました。世界中を旅し，ヨーロッパでしばらくみ業の管理もしました。しかし，タトル兄弟が何度も語っていたように，いかなる場所を訪れようとも，またいかなることを行なおうとも，タトル兄弟にとって主に仕えた最高の経験は，愛するマーン姉妹と共にプロボ神殿の神殿長を務めたことでした。

神殿長の多忙なスケジュールについて知っている人は，ほとんどいません。日によっては，早朝の3時から始まって，翌日のほぼ同じ時刻まで働き続けることもあります。

タトル兄弟は，神殿を管理していたのではなく，召しによって神殿で働いていたのです。ほかの人の下でも喜んで働いたことでしょう。タトル兄弟がこの割り当てについて感じた喜びは，召しそのものに対する理解よりも，誓約に対する理解によるものです。

誓約とは，神聖な約束，すなわち聖典の中にあるように，神と人との間で交わされる厳粛な永遠の約束です。完全なる福音そのものが，新しくかつ永遠の誓約と定義されています。（教義と聖約22：1；66：2参照）

数年前，私は英国でステーキ部長の任命を行ないました。その人は後に別の召しを受けて，きょうこの会場に集っています。彼はすぐれた方向感覚の持ち主です。まるで，星の位置から方角を知る，六分儀を持った船長のようでした。そのステーキ部長が大会に来るたびに，私は会って話をしましたが，彼自身とステーキ部が正しい進路を保っていることに，いつも感心させられました。

ステーキ部長が解任されるとき，私は幸いにも，そのステーキ部を再組織する割り当てを受けました。そしてそのときに，ステーキ部長の「六分儀」が何であるのか，また彼がそれをどのように使って自分の位置を確認し，自分や会員たちの進むべき方向を定めてきたのか知りました。

ステーキ部長は解任を受け入れて，こう言いました。「私はステーキ部長として働く召しを喜んで受け入れましたが，この解任も同じように受け入れます。私は召されたという理由だけで働いたのではありません。誓約を交わしているから働いたのです。私はステーキ部長として仕えるときも，ホームティーチャーとして仕えるときも，まったく同じように誓約を守ることができます。」

このステーキ部長は，「誓約」という言葉を理解していました。

彼は聖書の研究家でも学者でもありませんが，ともかく大切なことを学び取っていました。すなわち，昇栄というものは，高い地位によってではなく，誓約を守ることによって達成されるのです。

船乗りは，天体の光，すなわち昼には太陽，夜は星から放たれる光を頼りに方角を知ります。あのステーキ部長は，進むべき方向を定めるのに，船乗りの六分儀を必要とはしません。心の中に，航海用のどんな計器より精密で確かな「六分儀」があったのです。

だれもが持っている霊の「六分儀」は，日の光栄から放たれる光の原則にのっとって働きます。皆さんの心の中のこの六分儀を，「誓約」という言葉や「儀式」という言葉に合わせてください。そうすれば，光が入ってきますから，それによって自分の位置を調整し，人生の進むべき道を定めることができます。

国籍や人種，性別，職業，学歴を問わず，また生まれた時代にかかわらず，すべての人にとって人生とは，日の光栄の王国におられる神のみもとへ帰る，故郷への旅なのです。

儀式と誓約は，神のみもとに行くための資格証明書になります。ふさわしくなってそれを受けることは，生涯の目標であり，最後までそれを守ることは，この世におけるチャレンジです。

自分自身と家族のために儀式と誓約を受けた人は，亡くなった親族のために，ひいては全人類のために，身代わりの儀式を行なう責任があります。

しかし中には，死者の救いのために身代わりの儀式を行なうという教義を嘲笑（ちょうしょう）する人がいます。非常に奇妙な教えだと思っているのです。

思慮深いクリスチャンであれば，そのような教義に驚かないはずです。キリストの犠牲は，すべての人類のための身代わりの捧げ物ではなかったでしょうか。まさに贖罪（しょくざい）は身代わりによって行なわれたのです。

主は，私たちが自分ではできないことを，私たちに代わってしてくださいました。ですから，自分ではできない人々のために，神殿で身代わりの儀式を行なうのは，クリスチャンらしい行為ではないでしょうか。

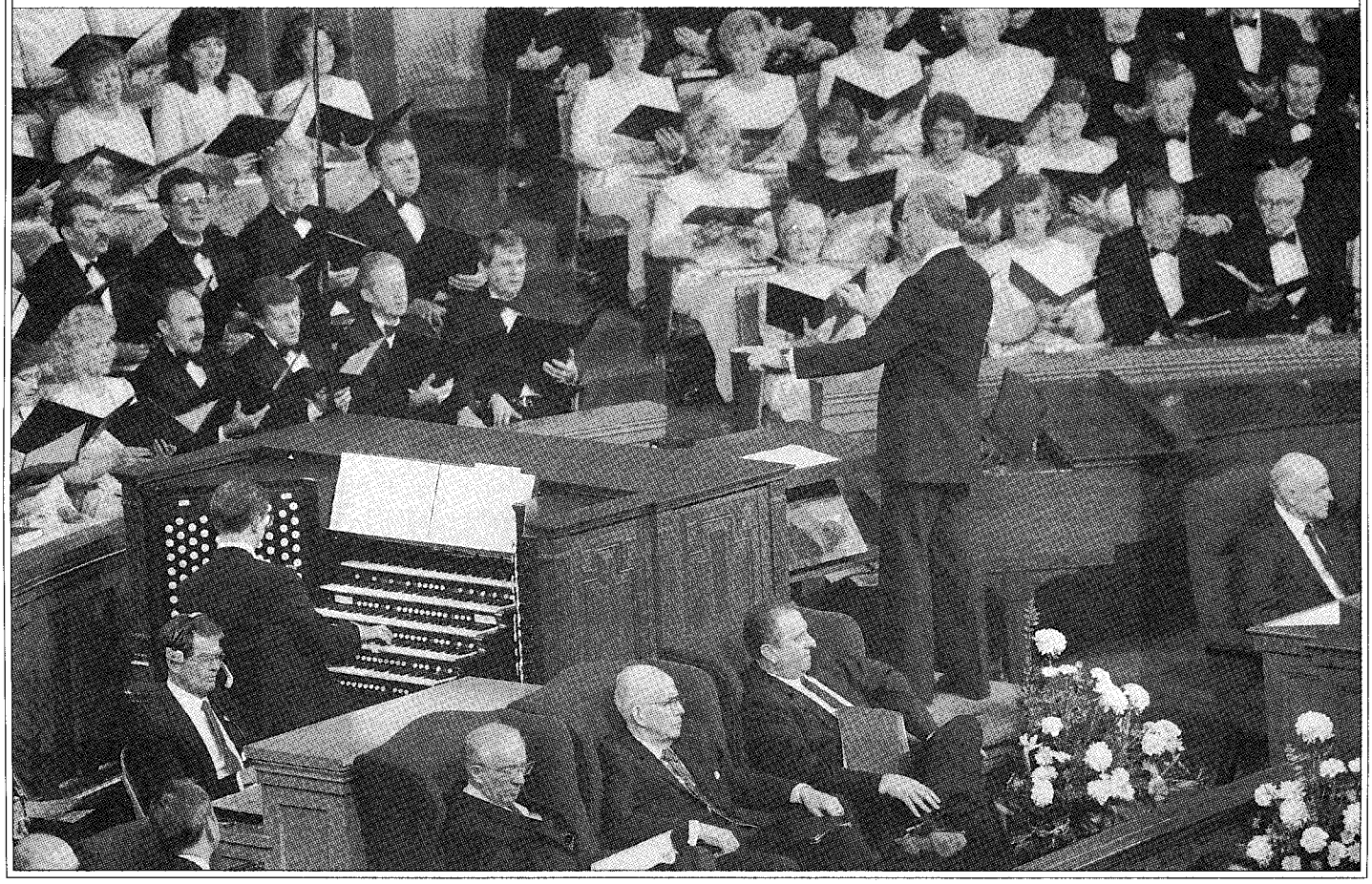
私は「家族の歴史」と呼ぶ方が好きですが，系図は神殿の業に欠かすことができません。神殿には名前が必要です。系図がなければ，生者のための儀式しか執行できないでしょう。亡くなった親族の名前を探求することは，きわめて重大な義務なのです。この業には，神殿に参入するときとまったく同じみたまが伴います。

伝道中の人や小さな子供のいる人は，今はこの業に多くの時間を費やすことができませんが，系図のもたらすみたまを保つことはできます。年輩の人々に話しかけ，彼らの言葉を記録し，家族の記録を作成し，神殿に参入することができるのです。

一部の教会員には，系図を退屈で煩わしい負担であると見なす傾向があります。彼らは系図を年輩の人や「そのようなものに興味のある」人に任せて，満足しています。

気をつけてください。「そのようなものに興味のある」人は，よい方を選んだと言えるかもしれないからです。皆さんにあえて申しあげますが，ほかの責任に召された人や，系図に興味のない人は，系図を行なっている人を軽視したり，そのじゃまをしたりしないでください。あらゆる励ましを与えて，できる限り助けてください。

予言者ジョセフ・スミスは，次のよう



に語っています。「エライジャの教義，すなわち結び固めの権能とは，次のとおりである。もし地上においても天においても結び固める権能を持っているなら，私たちは賢くなるべきである。まず第一にすることは，この地上で息子や娘を自分に結び固め，それから自分自身を永遠の栄光の中にいる先祖の人々に結び固めることである。」（「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.340）

予言者たちが語ったエライジャのみたまは，確かに実在し，亡くなった親族の記録を探し求める人々に伴います。

系図の業に携われば携わるほど，私は「死者」という言葉に違和感を覚えてきます。それに代わる適切な言葉が見つかりませんが，「この世を去った人」という表現の方が私にはしっくりきます。私は，軽々しく口にできない神聖な事柄を非常に多く経験してきたので，幕のかなたに行った人々を「死者」という言葉で表わせるとは思えないのです。

神殿と系図の業は，主イエス・キリストの復活と贖罪とを信じる信仰の明らかな証です。幕のかなたで再び生きることを疑うなら，私たちが行なっているこの業にどのような理由があると言うのでしょうか。

この業は，主イエス・キリストの犠牲の持つ贖いの力に対する私たちの証なのです。

さて，タトル兄弟やご家族はどうでしょうか。私たちと霊界を隔てているのは，壁ではなく幕であることを思い出してください。タトル兄弟は誓約を守りました。幕は薄くなり，裂けることもあり得ます。残された私たちだけでこの業を行なうのではないのです。

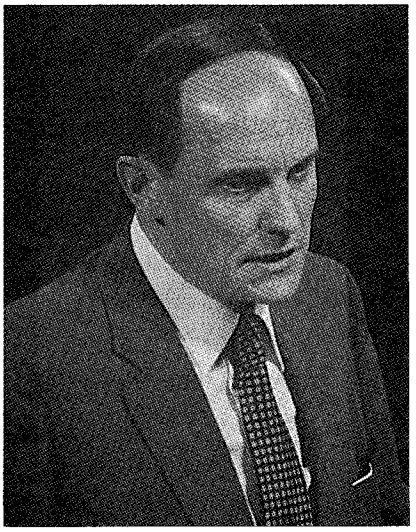
先駆者となって系図を行なった人々や，幕のかなたの先祖たちが，時として，私たちのすぐそばにいます。私はこの業が主の教会における天のみ業であることを証します。幕のかなたに行った人々が生き続け，この世に導きと恵みを施し，最後にはこの業が完結されることを証します。

願わくば，この業に参加する機会のある人々が，その機会をみずから求め，全力を尽くして働くことができますように。イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。

霊的な安らぎ

七十人第一定員会会員
チャールズ・A・ディディエ

「主に立ち帰り主の啓示を信じるとは，疑念や不安の渦巻く時代にあって，それらに押し流されない生き方を意味します。」



時の初めから，人類は自分自身と自分を取り巻く環境についての知識や真理を追求し，偉大な科学上の発見をもたらしましたが，検討の余地を残した理論も作り出しました。人間の探求心は際限がないように見えます。昨日まで真理と見なされていた答えがきょうは違い，明日はさらに変わるかもしれません。

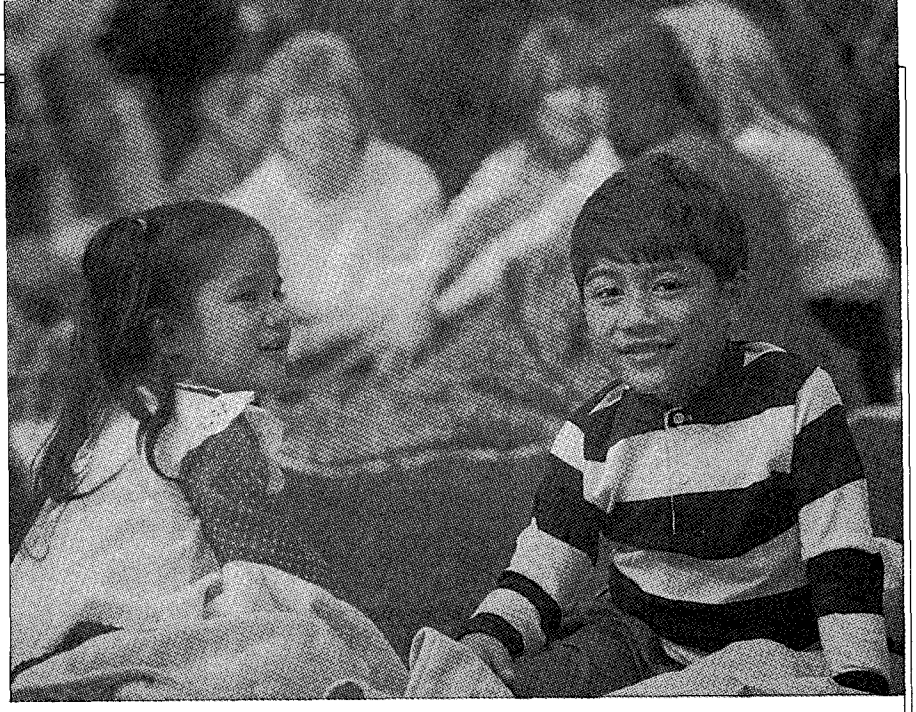
こうした探求は科学のみならず，生活のあらゆる面に及んでいます。以前にも増して，男性や女性，子供の価値と役割が問い直されつつあります。おそらくそうして個人を不安，束縛，恐れ，偏狭から解放し，確固としたものを与えようとしているのでしょう。まるで人は常に，自分の真理や知識で安心を得ようとしているかのようです。

ありとあらゆる価値観が頻繁に見直され，矛盾した結果を生み出す状況の中に置かれれば，大衆の生活は絶えざる変化のために安心どころか不安が絶えずつきまとっているのも不思議ではありません。そのために多くの人々，特に若者がみずからの責任を放棄し，生命を断つまでに至ることも多く見られます。何という矛盾でしょうか。

試練や苦難，変化の絶えない人生にあって，だれもがある程度の安心や保障を求めているのは明らかです。つまり何らかの安定して変わらない，よりどころとなるものを求めているのです。安心や保障を振りかざしたあらゆる種類の品物や組織が私たちの周りにあるのもそのためです。たとえば，合衆国の家庭で子供の気持ちを落ち着かせるのに柔らかいお守り毛布をよく使ったり，家屋や個人の財産を守るのに警備保障を利用します。社会保障制度は社会生活上の困難を救済するために考案されたものです。政治の世界では，国連の安全保障理事会が世界平和を維持するために努力しています。私たちは，精力をすり減らして，いわゆる安全を求める姿をときどき笑ったりしますが，私たちは実際にそれを必要としており，そのために喜んで投資もしているのです。しかし私たちの努力の割には，本当に求めている真の安全をまだ手にしているとは言えません。「人間の腕に依り頼」んで（IIニーファイ4：34）いるからなのでしょうか。

安心や保障は私たちの生活で重要な位置を占めています。それは真の意味での自己確認や，人生の目的に対する認識，人とのかかわり方，日々の問題や困難への対処の仕方といった問題を含んでいるからです。さらに生死の問題にもかかわってきます。私たちは日々の生活で，善

悪，正邪の選択に迫られます。幼年時代から老年に至るまで，もし私たちが安心感を得られなかったり，偽りの安全によって生きるならば，生きる姿勢や目標，周囲の人との関係に支障をきたすでしょう。幼児のときから両親の愛によって安心感を得，成長とともに律法に従って得られる心の平安を持ち続けるならば，自分だけではなく周りの人も幸せにすることができます。ですから問題の核心は常に，偽りの安らぎを退けて正しい安らぎをどこで，どのように見いだすかという点にあります。ここでは，正しい安らぎを「霊的な安らぎ」と呼ぶことにしましょう。



霊的な安らぎには興味深い利点があります。まず，税金を払う必要がありません。変わることがありませんし，人の自由，つまり自由意志を制限することもありません。それは建設的で心休まる霊的な永遠の結果をもたらします。

自由意志の行使には不安や危険が伴うもので，安全が約束されているとは限りません。また霊的な安らぎの保障が危険や悩み，障害を自動的に取り除いてくれる訳でもありません。

では霊的な安らぎはどのように得られるのでしょうか。答えは非常に単純で，簡単すぎると思う人が大勢いるかもしれません。第1に主に立ち帰ることです。予言者アビナダイは次のように言っています。「しかしながら，お前たちが誠心から主に立ち帰り，主に頼って熱心に仕えるならば，主はみこころのままにお前たちを奴隷の境涯から救い出したもう。」（モーサヤ7：33）

2番目は主を信じて頼ることです。いにしえのニーファイは語っています。「おお主よ，われ今日まで主を信じて頼りしが，これより後いつまでも主を信じて頼り奉る。われは人間の腕に依り頼む者はのろわるることを知る故に，人間の腕に依り頼むことなし。まことに人に信頼を置き，人間を依り頼む腕と為す者は禍なるかな。

まことに神は願う者に惜しまず与えたもうことをわれは知る。」（IIニーファイ4：34－35）

主に立ち帰り，主を信じて頼るとは，主の啓示から学ぶことです。霊的な安らぎは，神の性質を明らかにする啓示から生じます。一般的に言って，どのような姿の神を信じるかによって，現在と将来のみずからの人間性が左右されます。神の真の性質が啓示されなければ，肉欲に従う人間は，「おのが心のままに振舞いおのれらの神の姿を求むれども，その姿は人の世の像にしてその本質は一個の偶像なり」（教義と聖約1：16）という道を歩むことになります。

霊的な安らぎは，私たちのために備えられた救いの計画の啓示から生じます。「神は人々と話し合って創世の前から備えてある贖いの計画を示したもうた……。」（アルマ12：30）この救いの計画によって私たちは従うべき指針を得，世の危険に対してみずからを強める確かな道を知ることができるのです。

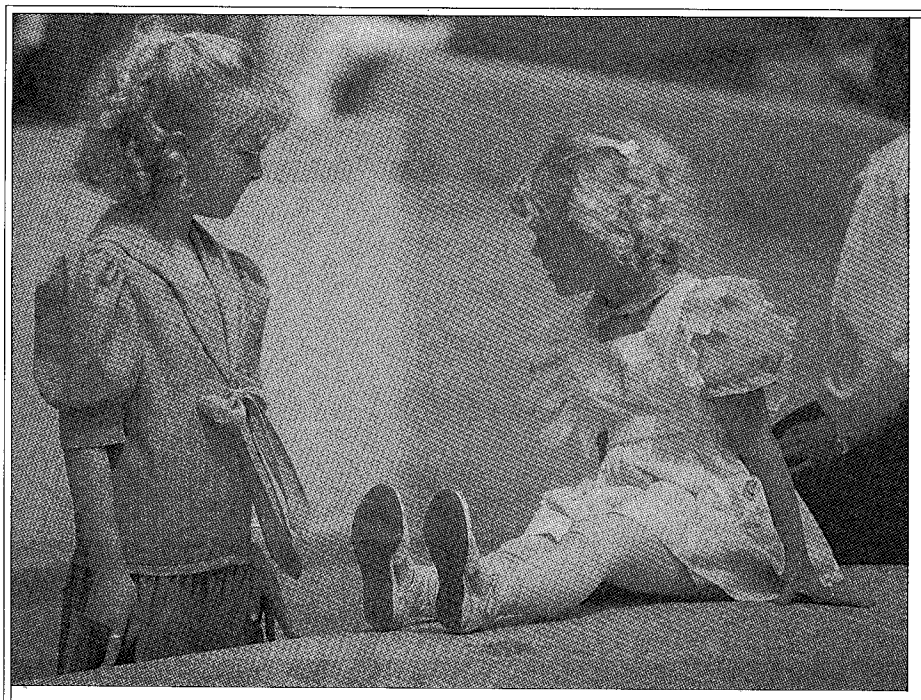
霊的な安らぎとは，救いの計画の源であるイエス・キリストについて教える啓示です。「私たちはキリストのことを話し，キリストのことを喜び，キリストのことを説教し，キリストのことを予言し，また私たちの子孫にどこに罪の赦しを求めるかを知らせるために自分たちが予言したことも書くのである。」（IIニーファイ25：26）この源は明らかにされ，私たちの前に確認されています。ほかを探す必要はないのです。

霊的な安らぎは，死の恐れを和らげる啓示からもたらされます。「しかしながら，確に復活があるから墓は勝つことができず，死の苦痛はキリストによって除かれる。」（モーサヤ16：8）復活だけではなく永遠の生命がもたらされることを知って，何と慰められるでしょう。

「あなたたちは何を望むべきか。よく言っておく。あなたたちはキリストの身代りの贖罪とその復活の力とによって，自分たちがよみがえって永遠の生命を得ることを望むべきである。」（モロナイ7：41）

いつまでも変わることのない永遠の生き方を約束する啓示が与えられた結果として，霊的な安らぎは確かなものとなります。「神は昨日も今日も，いつまでも同じにましまして変ることなく，また変ろうとする様子も見えないことは聖文に言ってあるではないか。」（モルモン9：9）日ごとに価値観を改めたり，考え直して，悩む必要はないのです。

啓示が私たちの真の姿と神との関係を明らかにしてくれるので，霊的な安らぎは深いものとなります。この点は時の初めからアダムに啓示されました。「見よ，汝はわれにありてひとつなり。神の子の一人なり。かくの如く一切の者はわが子らとなるを得ん。」（モーセ6：68）同じ啓示はほかの人にも与えられました。たとえばモーセです。「見よ，汝はわが子なり。……汝はわが生みたる独子の生写しなり。わが生みたる独子は今も将来も救い主とならん。」（モーセ1：4，6）近代においてもジョセフ・スミスやオリヴァ・カウドリをはじめとする多くの人々に同様の啓示が与えられました。「見よ，



わが子よ，われ汝に告ぐ。」（教義と聖約9：1）

自分の真の姿を理解すると，誘惑に直面したときその知識を生かして誘惑を退け，正しい行動をとることができます。自分が神の子であると啓示によって知っていたモーセは，サタンに次のように宣言しています。「汝，退け。サタンよ，われを欺かざれ。神われに汝はわが生みたる独子の生写しなりと宣いたればなり。」（モーセ1：16）結果は言うまでもありません。主はモーセを呼んで言われました。「祝福なるかな汝モーセよ，そは全能の神なるわれ汝を選びたればなり。而して汝は多くの海よりも強くせられん。そは海も汝が神なるかの如くその命に従えばなり。」（モーセ1：25）次の主のみ言葉によって，霊的な安らぎはより確実なものとなりました。「われは汝と共にあり。すなわち汝の命数尽くる日までも共にあり。」（モーセ1：26）

男性と女性の役割を示す啓示によって，霊的な安らぎは揺るぎないものとなります。堕落の後，天父はアダムとイヴにみずから親しく語りかけられ，それぞれの役割を教えられました。相互の関係，それぞれの役割，とるべき行動，結婚など，男性と女性にかかわるすべてのことは，過去も現在も明確に定義されています。それは私たちが天与の役割を通して強められるためなのです。

戒めに従った結果がどんなものであるかを教える啓示によっても，霊的な安らぎは保障されます。「さらに私はお前たちが神の命令を守る人々の受ける幸福な楽しい境涯をよく考えるように望む。ごらん，その人たちはこの世に関係のあることでも霊に関係のあることでもすべてに祝福を受けて，もし最後まで耐え忍んで忠実であるならば天に迎えられ，とこしえに幸福な有様で神と共に住めるのである。」（モーサヤ2：41）

つまるところ，霊的な安らぎは啓示によって徐々に深められ，救いの儀式を一つ一つ受けていくときに，揺るぎないものになっていきます。この救いの儀式とは主との誓約を意味します。ジョン・A・ウイッツォー長老は次のように述べています。「儀式が施され，祝福が授けられると，人は力を与えられる。この力は現世での日常茶飯事から来世にまでかかわるものである。それは単なる知識や献身ではなく，名目でもない。言うならば，日々の生活に使われる力を実際に付与することである。」（「教義と聖約のメッセージ」G・ホーマー・ダラム編，p.161）

過去，人々は啓示によってイエス・キリストの降臨に対する確信を得，聖なる予言者によって語られた主のみ言葉が必ず成就すると確信しました。私は意図的にこれまでモルモン経を引用してきましたが，この近代に与えられた啓示も同じ約束を伝えています。ベンソン大管長は次のように宣言されました。「神は私たちに，モルモン経を様々に活用するよう期待しておられる。……

私たちは……福音の教えの基としてモルモン経を使わなければならない。……

モルモン経……（を）『私たちの学問と利益になるように』見立てる必要がある。（Ⅰニーファイ19：23）また，教会に反対する人々に対処するときにも，モルモン経を使わなければならない。……

私たち教会員は，……このモルモン経を世界の隅々にまでも響きわたらせ，証する者とならなければならない。」（エズラ・タフト・ベンソン『モルモン経は神のみ言葉です』「聖徒の道」1975年8月号，p.367）

モルモン経は現代に向けて記されたメッセージです。したがって，私たちが霊的な安らぎを確保して救いの計画における協力者となれるように，モルモン経は神と予言者からの召しにこたえる助けとなります。しかも，今日の誤った考えや悪の影響力は不安や不幸をもたらし，私たちの倫理感や道徳感を打ち壊そうとしていますが，モルモン経は私たちがそうした諸悪に立ち向かうのにも役立ちます。

いついかなるときも世界のどこにあってもどのような人であっても，人類に示された主の見地，すなわち唯一まことの物の見方によって人生の体験を正しく理解し判断するには，啓示を通して主に立ち帰り，主を信じてより頼むことが助けになります。主に立ち帰り主の啓示を信じるとは，疑念や不安の渦巻く時代にあって，それらに押し流されない生き方を意味します。

それは，奉仕し正しく選択するという私たちの決意の土台となるものです。また真の安全をもたらし，イエス・キリストのみもとに行くときに授けられる約束を与えてくれます。主のくびきは負いやすく，その荷は軽いのです。

私はみずからの生活をもって，個人が受ける啓示と聖典の持つ力を証いたします。私は神が生きておられ，エズラ・タフト・ベンソン大管長が生ける予言者であることを知っています。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

イエス・キリストについてのモルモン経の証

七十人第一定員会会員
J・トーマス・ファイアンズ

「イエス・キリストについてのもうひとつの証であるモルモン経の中の真理を絶えず吸収して，あなたの霊の肺を永遠の生命の成分で満たしてください。」

この大会に出席するために，私たちは様々な交通手段を利用しました。車やバス，列車などの陸路で来られた方もあれば，飛行機で来られた方もあります。しかし，どのような交通機関を選んだにしても，私たちは皆同じ目的地に到着しました。

ここに着くまでの間，だれもが共通して享受していたものがほかにもあります。安全な旅をするためにだれもが必要とするあるものです。旅客機を利用された方は，それについて乗務員から丁寧な説明を受けたはずです。飛行機に乗ると，まず「ご搭乗ありがとうございます」という心地よいあいさつに迎えられ，それから入念な説明を受けます。「機内の気圧が下がりますと，酸素マスクが自動的に出てまいります。まずお手元のマスクをご自分の鼻と口にお当てになり，その後助けを必要とするお子様方に手をお貸しください。」

空気中の酸素は非常に大切なもので，私たちの体はこの貴重な物質の供給を絶えず受ける必要があります。わずかな時間でも酸素が欠乏すると私たちの精神と肉体に重大な損傷を与えます。酸欠状態が長びくと生命さえ失いかねません。しかし，その大切さを留意させられたのは航空機の利用者だけでした。正常な状態であれば，空気は私たちの周囲の至る所にあるからです。みずからすべきことと言えば，必要な酸素を肺に送り込み，身体の重要な器官に供給することだけです。

こうした生命を維持する物質を十分に供給しても，70年かそこらで，死すべき肉体は機能を停止してしまいます。ではこの現世を越えて何が存在するのでしょうか。幕のかなたに持っていけるものは何でしょうか。モルモン経の中で，アミュレクは次のように教えています。

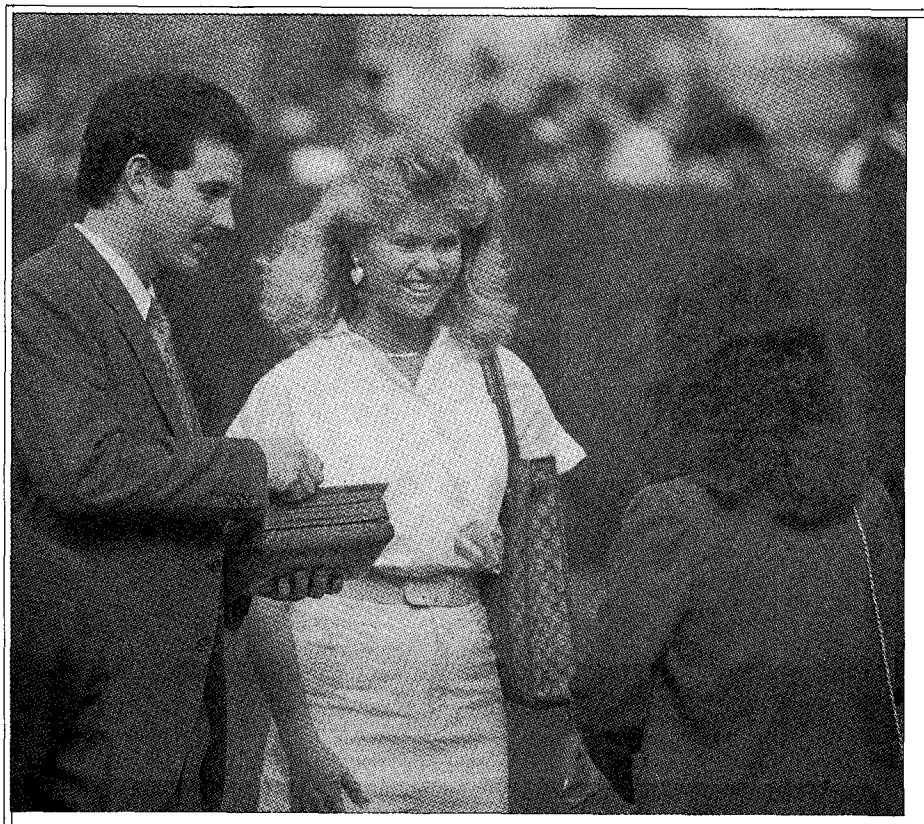
「あなたたちがこの世を去る時あなたたちの肉体を離れる霊は，永遠の来世に於て再びあなたたちの身体に宿る力を持っているからである。」（アルマ34：34）

空気が肉体のために必要であれば，霊のためには何が必要でしょうか。それは御父と御子を知ることです。

「永遠の命とは，唯一の，まことの神でいますあなたと，また，あなたがつかわされたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ17：3）

肉体が酸素に依存しているように，永遠の生命も霊の栄養素を必要としています。一番大切な霊の栄養素とは，神に対する知識であり，御子に対する知識です。御子について学ぶうえで，この地上で最もよいよりどころとなるのは何でしょうか。それはモルモン経として知られている，イエス・キリストについてのもうひとつの証を学ぶことです。これによって聖霊を受け，モルモン経が真実であるという証を得るのです。

この大会では，イエス・キリストについてのもうひとつの証であるモルモン経からの真理が数多く証されてきました。そしてさらに多くの証が生まれることでしょう。私たちは恵まれて，予言者がイエス・キリストの降臨を予見して語った言葉を，旧約聖書の中に見いだすことができます。次に主が肉体を持って来られ，多くの人に知られたことが新約聖書の中に記されています。そのうえ，イエス・キリストについてのもうひとつの証，つ



まりモルモン経という三重の祝福を受けています。妻のヘレンと私は，数カ月でモルモン経を数回読みました。その間，私たちは次のように自問してきました。

「もしこの書物がイエス・キリストについてのもうひとつの証であるならば，それはどのように証しているのだろうか。」

そこで私たちはこの特別な証をもう一度読むにあたって，祈りの気持ちをもってみずからを備え，救い主に関する聖句をすべて書き留めることにしました。するとこの神聖な記録の最初のページを開いた途端に幕が開け，イエスはキリストであるという証がパノラマのように広がっていったのです。

最初の情景を紹介しましょう。一心に主に祈るリーハイが次のような体験をしました。

「一すじの火柱が現われて父の前にある岩の上に立った。そして父は多くのことを見たり聞いたりした。

父はまた天の真中からおりてくる一人を見たが，その人は真昼の太陽よりもまばゆく光り輝いているのが見えた。そしてこのほかにこの人についてくる12人の人たちも見たが，その人たちはみな大空に輝く星よりも光り輝いていた。この人たちは天からおりてきて地上を歩いて行ったが，一番初めの人が私の父の前にきて立ち，父に一冊の本を与えてこの本を読めと言った。」（Ｉニーファイ１：６，９－11）

このように天から与えられた示現にリーハイはどのように反応したでしょうか。

「父が見たり聞いたりしたことや，さきに授かったあの本の中で読んだことなどが，一人のメシヤが降臨になることとこの世の人々が贖われることとを，はっきりかくすことなく現わしていると証をした。」（Ｉニーファイ１：19）

私たちはまだニーファイ第一書の１章から探究を始めたばかりなのに，節を追い，章を進めるごとに後から後から主の実在が証されていくのです。

ニーファイ第一書第13章では，別名を主，贖い主，メシヤ，基督イエスと呼ばれる神の子羊に関する記述が，わずか16節の中で22カ所も出てきました。

時間の都合で，この神聖な記録の中にある人類の救い主についての記述を数百カ所も省略しなければなりません。実に600年の歳月が過ぎていったことになります。さてここで時間を取って，次の情景を霊的に深く味わってみましょう。

「神殿のまわりには，多勢のニーファイの民が集まって……すでにその死のしるしが現われたイエス・キリストについて話し合った。」（Ⅲニーファイ11：１－２）

民は声を聞きました。その後彼らは再びその声を聞きましたが，それが何を言っているかわかりませんでした。

「さて，この声は三度まで聞えたが，かれらはこのたびはよく聞き分けるように心を注いで声のする方向へ目を向け，その声が出てくる天をじっと眺めた。すると三度目にはその声の意味が解った。その声は，『わが喜ぶ愛子を見よ。われはこれに由りてすでにわが名の栄光を示しぬ。わが愛子に聞け』とかれらに仰せになっていた。」（Ⅲニーファイ11：５－７）

そこで御父の招きに答えて，救い主は次のように言われました。

「『見よ，われはイエス・キリストなり。予言者らがこの世に来ると証をしたるその者なり。われは世の光にしてまた世の生命なり。われは御父がわれに授けたまいしかの苦き杯をすでに飲み，世の人の罪をわが身に引き受けて御父の栄光を示したり。世の人の罪をわが身に引き受くることに於て，われは最初よりすべて御父のみこころに従えり』と。

イエスがこの言葉を言いたもうと群っていた一切の者は，キリストが昇天してから自分らに現われたもうと言う予言が自分たちの間に伝えられていたことを思い出して地にひれ伏した。

その時主は群衆に向って言いたもうた。

『汝らわが肋にその手をさし入れ，わが手足にある釘あとに触れて，われがイスラエルの神にして全世界の神なること，またわれが世の人の罪を負うて一度殺されたるを知るために起ちてわれに近づけ』と。

そこで群っている人々は近よってその手をイエスの肋にさし入れ，またイエスの手足にある釘あとに触れた。かれらは，一人一人みなイエスに近よってこれをなし，各々みな目で見，手で触れて，この御方が予言者たちによってこの世に来ると誌されたお方であることを確に知り，また証をすることができた。」（Ⅲニーファイ11：10－15）

天は開かれ，確かな知識が地にもたらされたのです。さらに救い主のみ言葉は続きます。

「次に述ぶるはわが教義なれど，わが教義は御父がわれに授けたまいしものなり。……われは御父が世界いたる所の人人に悔い改むべきことと，われを信ずべきこととを命じたもうことを証す。

故にわれを信じてバプテスマを受くる者は誰にても救わるべし。かかる者は神の王国に住むことを得る者なり。」（IIIニーファイ11：32－33）ここで再び，数百年に及ぶ聖なる記録の記述をかなり省略させていただかなければなりません。そしてこの記録の最後のページから，あのなつかしい声が聞こえてきます。

「キリストの御許に来てキリストによって全くなれ。すべて神のみこころに背くことを捨てよ。もしこのようにして勢いと心と力とをつくして神を愛するならば，神があなたたちに与えたもう恵みは充分である。恵みが充分ならばあなたたちはこの恵みを受けてキリストにより全くなる。もし神の恵みを受けキリストにより全くなるならば，決して神の能力と権能とを否定することができない。

もしあなたたちが神の恵みを受けキリストにより完全な者となって，神の能力と権能とを否定せぬならば，神の恩恵を蒙りキリストにより聖められ，御父の誓約の中にあること，すなわちキリストが血を流したもうたことによりあなたたちは罪の赦しを受けて汚れを除かれ聖くなる。」（モロナイ10：32－33）

飛行機で，あるいは車やバス，列車で，私たちはこの同じ目的地に着きました。私たちを招いているもうひとつの共通の目的地があります。天父と共にある永遠の生命です。私たちの死すべき体が酸素に依存しているごとくに，永遠の生命も霊的な糧によって養われているのです。

永遠の生命への旅路にあって，皆様に心を込めて申しあげます。「ご搭乗ありがとうございます。」

イエス・キリストについてのもうひとつの証であるモルモン経の中の真理を絶えず吸収して，あなたの霊の肺を永遠の生命の成分で満たしてください。そうすれば再び御父のみ前にたどり着けるでしょう。

今日，救い主は生きておられます。この証を聖なるイエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

忍耐――幸福への鍵

十二使徒定員会会員
ジョセフ・B・ワースリン

「私たちは，努力がなければ得られないものかどうか，自分にとって良いものかどうか，正当なものかどうかにはまったくおかまいなしに，欲しいものをすぐに要求する傾向があります。」

人類に下された最も大いなる言葉のひとつは，モルモン経の中の次の一節ではないでしょうか。「アダムが堕落したのは人類を生ずるためであり，人類が現世に在るのは幸福を得んためである。」（IIニーファイ2：25）これは，人生の主要な可能性を捕らえた言葉です。私はこれに，忍耐を学んでこそ人は真の喜びと幸福を得られるとつけ加えたいと思います。

辞書には，忍耐とは苦痛や悲しみに文句を言わず静かに耐えること，あせらず血気にはやらないこと，逆境や困難，反対に出会っても確固とした態度でいることと定義されています。

モルモン経の中で，アルマは忍耐について私たちにわかりやすく説明してくれています。彼は地にまかれた種が大きな木に生長するたとえを用いながら，眼識のある言葉を述べています。「種子から生える木が生長し始め……あなたたちがよく注意してこの木を養い育てるならば，根を下ろして成長し実を結ぶであろう。

このように……勉めはげみ，厚い信仰を以て気長に御言葉を養い育てるならば，やがてその言葉の実をとって腹に満ちるまでそれを食い，もう飢えることもなく渇くこともないであろう。この言葉の実は最も貴重であってあらゆる甘いものよりも甘（く）……あなたたちは……信仰と勤勉と忍耐に対する報いを受けるであろう。」（アルマ32：37，42－43）

はたして，私たち教会員はモルモン経を，神聖な聖典のひとつとして十分に認識しているでしょうか。人生の様々な試練に対処していくうえで，忍耐がなぜ必要なのかを，ニーファイは次のように明確な言葉で説明しています。「それは，すべての物事には必ずその反対のものがなければならぬからである。……もしも物事にその反対のものがないならば，正義も不正も聖潔も憐むべき様も善も悪も生ずることができぬ。それであるから，すべての物事はみな合して一つとならなければならない。……

もしも律法がないと言うならばまた罪もないと言わずばなるまい。もしも罪がないと言うならば，また義もないと言わずばなるまい。しかして，もしも義がないならば幸福はないであろう。義も幸福もないならば，罰も不幸もないであろう。そして，もしもこれらの事がないならば神もまたないのである。従って，もし神

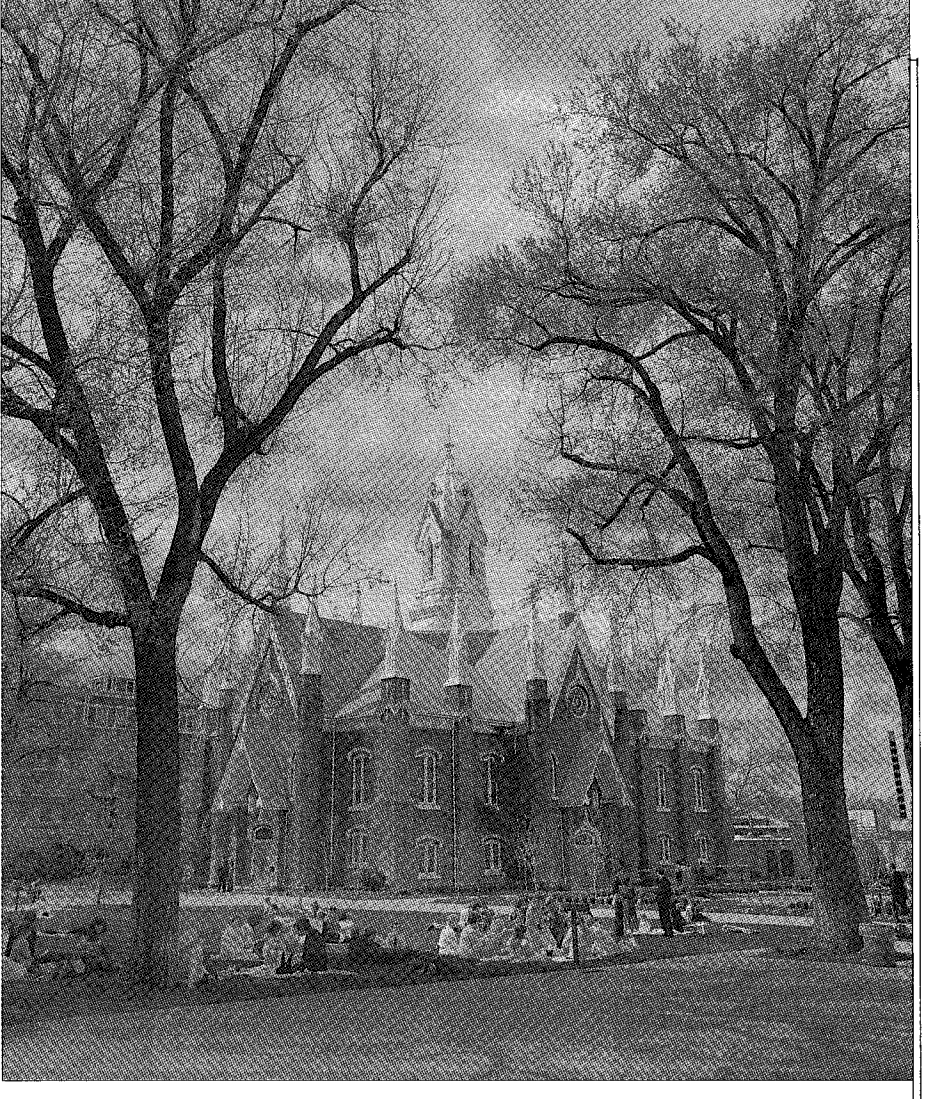
がないならば我々もなくこの大地もない。何となれば，これでは作用するものも作用せられるものもないから万物の創造ができるはずもなく，従って万物はことごとく消えうせていたに違いないからである。」（IIニーファイ２：11，13）

使徒パウロは，忍耐する目的についてローマの聖徒たちに次のような書簡を送っています。「（わたしたちは）……艱難をも喜んでいる。なぜなら，艱難は忍耐を生み出し，忍耐は錬達を生み出し，錬達は希望を生み出すことを，知っているからである。」（ローマ５：３－４）

今からちょうど40年前，大管長会の一員であったＪ・ルーベン・クラーク・ジュニア副管長は，「伝統的な支えを見失う」というテーマで話をし，私たちがいかに十戒の教えからそれてしまっているかを指摘しました。（「チャーチニューズ」1947年３月８日，pp.８－９参照）

40年前にそうした状態であったとしたら，今日はどうでしょうか。1947年代は，テレビやコンピューターが誕生したばかりで，人工衛星による放送やビデオもなく，コンピューターによる詐欺行為なども存在しない時代でした。当時に比べ，現在は確かに礼儀や慎みといった面で道徳が低下しています。当時は赤面し，恥ずかしさのために顔をそむけてしまうような卑わいな事柄やヌード，ポルノグラフィーをあおり立てるような物が，今日では雑誌やビデオとなって公然と私たちの目に入ってきます。十分に気をつけていないと，こうしたものは家の中にまで自由に入り込んできてしまいます。私たちはひとつの民として，今日予言者の言葉に十分聞き従っていないために，伝統的な支えからさらに遠ざかってしまっています。

私たちを奮い立たせ，行動へと駆り立ててくれるためには，ある程度のあせりや短気な気質も必要かもしれません。しかし，今日見られる困難や不幸は，忍耐力のなさに起因している場合が多いのです。自分自身に対して，家族や友人に対して，さらには主に対してまでも忍耐を欠いてしまうことがあまりにも多すぎるようです。私たちは，努力がなければ得られないものかどうか，自分にとって良いものかどうか，正当なものかどうかにはまったくおかまいなしに，欲しいものをすぐに要求する傾向があります。またアルコールや麻薬に頼ることであらゆる欲求を即座に満足させたり，結果を考えずに不正を働いたり，怪しげな投資をしたりして一時的な富を築こうとする人もいます。ほかのどの時代にも増して，今日ほど忍耐力の行使がむずかしく，かつ必要とされている時代はないのではないでしょうか。



聖典から学ぶ忍耐

主は末日聖徒に，み業に従事するにふさわしい神の特質のひとつである忍耐心を与えてくださいました。（教義と聖約４：６参照）そして主は，聖徒たちに，苦難の中にあっても忍耐することを忘れないように（教義と聖約24：８；31：９；54：10；98：23－24参照），忍耐を持って物事の決断をするようにと勧告しておられます。（教義と聖約 107：30参照）さらに救い主は私たちに完全になるように教え（マタイ５：48；IIIニーファイ12：48参照），このように言っておられます。「汝らは今神の前に留ること能わず，また，人の為に導きと恵みを施す天使と共に居ることも能わず。この故に汝ら全くせらるるまで引きつづき耐え忍ぶべし。」（教義と聖約67：13）

忍耐の模範

主イエス・キリストは，忍耐の完全な模範です。真理に関しては決して妥協されることのない主も，この世にあってみ業についておられたときはたびたび忍耐を示されました。主は，十二使徒を含め弟子たちの信仰が薄く，主の神聖な召しをなかなか理解できないでいるときにも忍耐を持って彼らを導かれました。またご自分を苦しめた群衆，罪を犯した女，癒しの力を求めた人々，幼な子たちにも忍耐を示されました。そして最後には，あざけりの中での裁判とはりつけの苦しみをも，忍耐を持って身に受けられたの

です。

改宗してからローマで殉教するまでの約30年間にわたる伝道中，使徒パウロは5度もむち打たれ，少なくとも3度は意識を失うほどのひどい打ち方をされています。また数回にわたり投獄され，船は3度にもわたり難破し，あるときは石で打たれ，死んだようになって道に横たわっていたこともありました。このような苦難にもめげず，彼は力強く伝道の業を推し進めたのです。彼はローマ人にこう書き送っています。「神は，おのおのに，そのわざにしたがって報いられる。

すなわち，一方では，耐え忍んで善を行って，栄光とほまれと朽ちぬものとを求める人に，永遠のいのちが与えられ，他方では，党派心をいだき，真理に従わないで不義に従う人に，怒りと激しい憤りとが加えられる。」(ローマ2：6－9)

予言者ジョセフ・スミスの受けた苦難や苦悩は，多くの点でパウロのそれに似ています。ジョセフも投獄され，暴徒に襲われ，打たれました。さらに彼は，背信的な側近の裏切りにも遭い，ひどく心を悩ませました。しかしジョセフは，反抗され裏切られたあとも，彼らに友情の手を差し伸べることをやめませんでした。

何年も前のことですが，ドイツ・オーストリア伝道部で伝道部長をしていたロイ・A・ウェルカー兄弟は，オーストリアのザルツブルグにある支部の問題解決のために，ひとりの宣教師を派遣する必要を感じていました。この伝道部には間もなく8人の新しい宣教師が到着することになっていました。彼はその中にひとりでも，オーストリアで働けるようなビザとお金を持っている人がいるようにと祈りました。彼は答えを求めて，2週間祈り続けたのです。8人の宣教師が到着する前の晩，伝道部長は，ザルツブルグに派遣すべき宣教師の名前を，主のみたまのささやきによって知らされました。ささやきを通して知らされた人は，オーストリアに行くための必要な備えがすっかりできていました。その宣教師とは，ほかならぬ私でした。

伝道部長の見せた忍耐は，その支部の問題解決に寄与しただけでなく，予期せぬ方法で私と私の家族に祝福を残すこととなりました。

私がザルツブルグに着任して間もなく，その地域一帯は，ドイツ・オーストリア伝道部からスイス・オーストリア伝道部に変わったのです。その後スイスのチューリッヒに転任になった私は，ジュリアス・ビルター兄弟という温厚で親しみやすい系図専門家の会員と知り合うことになりました。彼は私の先祖の系図に関連した記録に詳しく，6,000人にも及ぶ私の先祖の名前を探し出してくれたのです。のちに，私は彼らのための神殿の儀式をすべて終えることができました。

今日求められる忍耐

私たちは，自分自身に対して忍耐強くなければなりません。自分自身の短所や長所をよく知り，正しい判断のもとに選択や決定を下し，あらゆる機会を利用しながら，従事する仕事に最善を尽くしていかなければなりません。最善を尽くしている限り，不当に落胆したり失望する必要はないのです。たとえゆっくりではあっても，得られた進歩に満足すべきです。

また，証を強めていくにも忍耐が必要です。即座に得られる劇的な示現を期待するのではなく（それも必要に応じて与えられますが），証を求めて祈り，聖典を学び，予言者やほかの教会指導者の助言に従い，福音の原則に添った生活をしていくのです。そうすれば私たちの証は自然に強まっていき，気づかないときがあっても生活の原動力となってくれるはずです。

家族や身近な人々に対する忍耐は，幸せな家庭を築いていくうえで欠かすことができません。しかし現実は，家族といった身内の人々に対してよりも，他人に対しての方がより忍耐強かったり，丁寧であったりということが多いようです。そしてどういうわけか，非難やとげとげしい言葉，口げんかなどは，外よりも家の中で聞かれることが多いのです。

夫は妻に対して，妻は夫に対して忍耐強くあってください。完全を求めてはいけません。生じてくる相違点を解決するためにお互いに納得のいく方法を見いだしてください。結婚生活に関するマッケイ大管長の次の助言を思い起こしてください。「結婚前は目を大きく開け，結婚後は半分つぶりなさい。」(「大会報告」1956年4月，p.9参照)時にはあなたの妻が先に車に乗り，子供の用意をしている夫をせかせて，警笛を鳴らすこともあり得るのです。

親である皆さんは，子供に対して忍耐強くあってください。たとえ同じことを何度も繰り返す必要があっても，小さな子供たちに本を読んであげたり，宿題の助けをしてあげてください。リチャード・L・エバンズ長老はこのように言っています。「子供たちは，どんなささいな問題でも安心して親にゆだねられることがわかると，のちにより重大な問題をもゆだねてくるようになる。」(「エンサイン」1971年5月号，p.12)子供たちの持っている自然の好奇心をうまく利用しながら，彼らの学習意欲を高めてあげてください。また福音の原則を，やさしい，わかりやすい言葉で教えてください。子供たちが家庭の夕べや家族の祈りを乱すようなことがあっても，忍耐を忘れず，ひたすら福音や教会の指導者，救い主に対して，あなた方が抱いている敬虔(けいけん)な気持ちを伝えてください。

若人に対して，特に子供から大人への変換期にある人々に対して忍耐強くあってください。彼らの多くは，外見や考え方では大人のようであっても，大人としての判断を下せるだけの経験を積んではいません。彼らが必要な経験を積み，危害を加えるような落とし穴にはまらないよう導いてあげてください。

●会衆と共に讃美歌を歌う七十人第一定員会会員

子供の立場にある皆さんにも申しあげたいと思います。両親に対して忍耐強くあってください。デートや服装のこと，また最近の音楽や家の車を使うことなどの重要な事柄について両親が少しも理解していないと感じていても，とにかく彼らの意見を聞いてください。皆さんの両親は，皆さんがまだしていない経験をたくさん積んできているのです。皆さんが出会う誘惑やチャレンジの中で，彼らが経験していないものは，ほとんどないはずです。私が今述べたような重要な事柄を親にはわかってもらえないと思い込んでいる人々は，ぜひとも両親の高校や大学時代の卒業記念アルバムを開いてみてください。大切なことは，両親は皆さんを愛しており，皆さんが真の幸福を得るためにできる限りのことをするつもりでいるということです。

私はさらに，経済的な事柄に関しても忍耐強くあるよう勧めたいと思います。性急な経済上の決断は避けてください。経済的な問題に決断を下すには，忍耐をもって入念に検討することが必要です。一獲千金的な試みが功を奏することはめったにありません。借金には十分注意を払ってください。利息に税金がかからないからといって，容易に入手できる貸付金には特に気をつけてください。若い夫婦の皆さんは，皆さんの両親が長年の努力の末，手に入れた家や自動車，電気製品，そのほかの調達品のそろった中で結婚生活のスタートを切ろうなどと考えるべきではありません。

最後に，天父と永遠の進歩に関する計画に対しての忍耐について触れてみたいと思います。まず天父に対して忍耐心を失うことは，まったく愚かなことと言えます。なぜなら天父は全知全能のお方であり，私たちの霊の父だからです。またそのみ業と栄光とは，御子イエス・キリストを通して「人に不死不滅と永遠の生命とをもたらす」（モーセ１：39）ことだからです。ニール・A・マックスウェル長老は次のように言っています。「忍耐は，天父に対する我々の信仰に深く結びついている。我々が天父に対して不当に忍耐に欠けるということは，神ご自身よりも我々の方が知識があることを示唆するものであり，少なくとも，我々の時間表が神ご自身のものよりすぐれていると自負していることになる。いずれにせよ，神が全知全能のお方であることを疑うことになるのである。」（「エンサイン」1980年10月号，p.28）

またリチャード・L・エバンズ長老はこのように言っています。「かつて宇宙の創造主がせわしく事をなされたという証拠は，どこにもない。代わりに，この豊かな美しい地球の至る所に，また天空の端に至るまでも主の忍耐ある目的と計画，み業の証拠が満ちている。」（「大会報告」1952年10月号，p.95）

次にマービン・J・アシュトン長老の言葉を引用してみましょう。「我々は，神が忍耐してくださるかどうかを心配するには及ばない。なぜなら，神は忍耐の権化であられるからである。我々の過去の行動や現在の自分に対する考え方がどうであろうと……神は〔我々を〕見捨てられることはない。」（「年度講話：ブリガム・ヤング大学礼拝説教1972－1973」ユタ州プロボ，ブリガム・ヤング大学出版，1973年，p.104）

私は，主がご自分の民に忍耐を示してくださっていることに深く感謝しています。また私個人に示してくださっている忍耐と，イエス・キリストが神であることを証する特別な証し人として働ける機会に心から感謝しています。

私は世界各地の教会を訪れて，いかに大勢の人が忠実に福音の原則に従って生活しているかを目にし，喜びでいっぱいです。そのような方々に，私は次の主の約束をお伝えしたいと思います。「そは生くる者は地をつぐことを得，死ぬる者は全く働きを休みて安息を得。……わが備えたる父の住居に於て冠を受けしむればなり。

然り，その足シオンの地の上に立ちて，わが福音に従い居る者は幸福なるかな。その者は報いとして地の善きものを受け……天より祝福をもて冠を受くべ〔し。〕」（教義と聖約59：２－４）

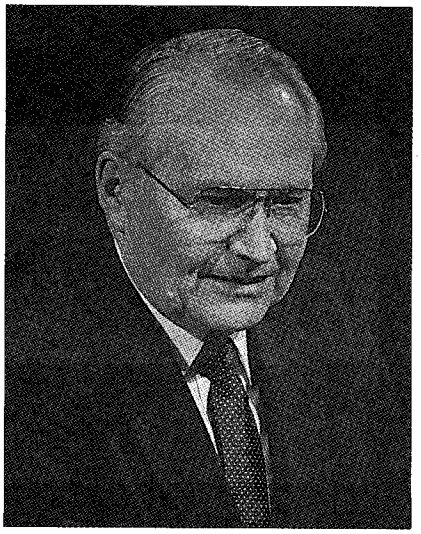
私はこの世にあって，不安や試練，様様な圧力や苦難に直面し，逆境の最中に立たされても忍耐強くあるように祈ってやみません。

忍耐は神の特質のひとつであることを証し，話を終えたいと思います。私は天父が生きておられ，私たち一人一人を愛してくださっていること，またイエスはキリストであり，私たちの主，救い主であることを証します。主はこの末日にジョセフ・スミスという予言者を通じて福音を回復されました。エズラ・タフト・ベンソン大管長は，このみ業を指導される主の予言者です。これらのことをイエス・キリストのみ名により証申しあげます。アーメン。

一致して神の王国を建てる

十二使徒定員会会員
L・トム・ペリー

「ねたみや陰口はないでしょうか。兄弟姉妹の成功を自分のことのように喜べるでしょうか。すべての人が私たちのように富んだ者となれるよう，持ち物を分かち合っているでしょうか。そして最後に，私たちは兄弟姉妹の守り手，『番人』になっているでしょうか。」



大管長，私は大管長のお話に非常に深い感銘を受けています。私もまたモルモン経をテーマにお話ししたいと思います。モルモン経は，一千年にも及ぶ人類の歴史を振り返ることによってのみ得られる，将来への展望を可能にさせてくれる偉大な古代の記録です。この記録の中に，私たちは，義に舞い戻っては離れていく民の姿を見ることができます。また，彼らの神への信仰と神の王国建設への願望から来る一致や，人々の心が利己的な欲求，肉欲的な快楽，富やこの世の財産に向いたときに起こる争いをも見ることができます。

古代アメリカ大陸における予言者の最初の警告のひとつは，ヤコブ書の2章に記されています。この中でヤコブは，民の心に巣食っている富や誇りへの執着心を非難しています。彼は民に，心を再び主に向けるように訴え，こう話しています。

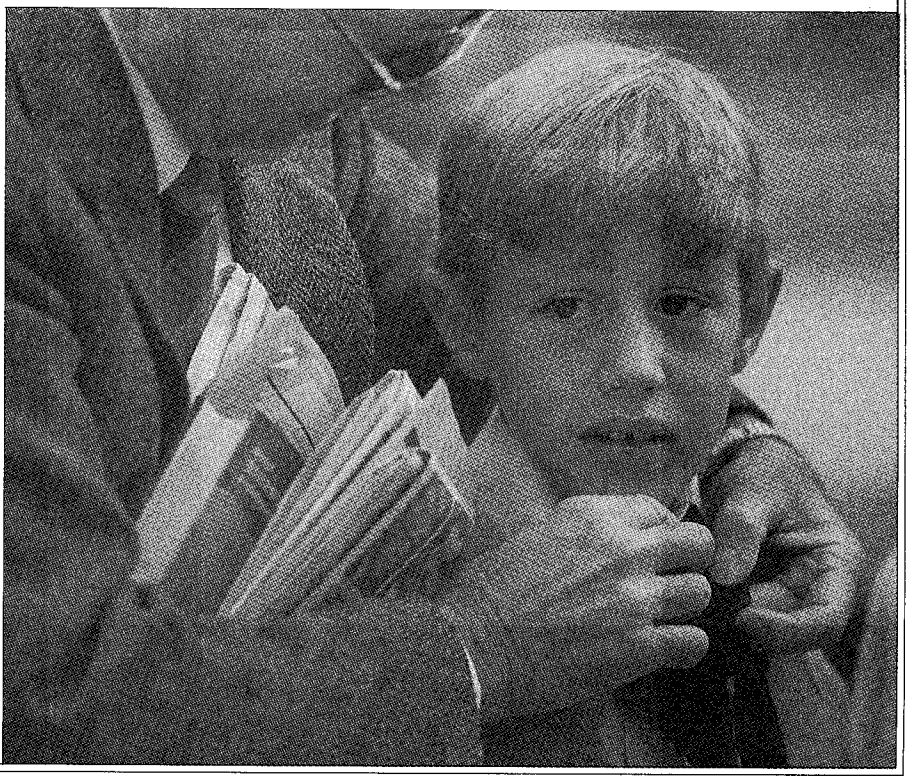
「あなたたちは天の幸を豊に賜わって多くの宝を手に入れたけれども，あなたたちの中にはほかの兄弟たちよりは沢山に宝を手に入れたから心が高ぶり，その衣服の値が高いのを自慢し，また自分はほかの兄弟たちよりもすぐれているからと思ってこれを苦しめる者がある。

しかし私の兄弟たちよ，あなたたちがこのようなことをして神はこれを義しいとしたもうであろうか。いや，かえってあなたたちを罪ありとしたもうのである。あなたたちがもしもかたくなであって，このような行いをつずけたならば，神の裁きが必ず速にあなたたちに下るに違いない。」（モルモン経ヤコブ2：13－14）

人は，往々にして繁栄すると同時に主から離れていきます。繁栄し，豊かになると，人は高慢になり，貧しい兄弟姉妹を見下げ，彼らを自分より劣っていると考えるのです。ヤコブの言葉にはありませんが，この逆についても言えます。裕福でない人々が恵まれていないと感じ始め，自分の持っていない物に心を奪われてしまうのです。そして自分がそのような苦境に立たされていることで，他人を責め，主を責めるのです。こうしてついには，主から離れていくのです。

大切なのは，富の多少にかかわらず，主はこの世の財産に対する執着心と王国建設への無関心さをとがめられるということです。

ヤコブはさらに次のように勧告しています。「あなたたちは自分の兄弟を自分自身のように思え。かれらと皆親密にして，あなたたちのようにかれらも富者になるように惜まずにあなたたちの財産を与え



よ。」（モルモン経ヤコブ２：17）

「自分を愛するように隣り人を愛せよ」というあの第二の大いなる戒めが，ここにもぴったりあてはまります。ヤコブは民に対し，自分よりも貧しい兄弟姉妹を差別せず，自分の持っているものを彼らと分かち合うようにと説いています。

「財産を求める前にまず神の王国を求めよ。

あなたたちがすでにキリストに望みをもってから宝を求めたならばその通りに宝が手に入るであろう。しかし，その時あなたたちがその宝を求める目的は，裸でいる者に着物を着せ，飢えている者に食を与え，束縛されている者を救って自由にし，病んでいる者と悩んでいる者とを救うなど，およそ善事（よいこと）を行うことである。」（モルモン経ヤコブ２：18－19）

主から与えられる戒めの中で，物事の優先順位が問題になる場合がよくあります。主は私たちに，繁栄してはならないと言っておられるのではありません。もしそうだとしたら，それは富をもって民を祝福したという主に関する多くの記録に矛盾してしまいます。主は，まず主を求め，主を見いだし，そののちに富を求めるようにと言われているのです。そうすることによって，私たちの心は正され，第一に主を愛するようになります。そしてその結果，私たちは得た富を神の王国建設のために使うようになるのです。

多くの予言者が語っているように，モルモン経の記録が保管され，奇跡的な状況の中で翻訳のためにジョセフ・スミスの手に託されたのは，何よりも，今の時代の人々に警告を与えるためでした。したがって，私たちも民に対するヤコブの勧告に十分心を留め，この聖典を，今の時代の私たちに向けて書かれたものとして読む必要があります。主のみ言葉は，私たちの心に深い反省を促してくれます。生活の中の優先順位はどうだろうか。何よりもまず，永遠に関する事柄に最大の投資をしているだろうか。永遠に目を向けているだろうか。この世の事柄に財産をつぎ込んでしまい，主のことを忘れ去るというわなにはまり込んではいないだろうか。

もちろん，これらはどれも容易に答えられる質問ではありません。しかし，私たちは具体的な実例から，はっきりした理解を得られる場合がよくあります。それはほかの方法では見いだせないものです。教会の初期の指導者たちの物語は，神の王国を第一に求めるということがどういうことかを，私たちに教えてくれるすばらしい模範となってきました。そうした逸話が実際に私にとって大きな意味を持ち始めたのは，若い宣教師として伝道に出てからです。当時の宣教師たちは，現在のような豊富な教材には恵まれず，持ち物と言えば，聖典と「時満ちたる時代」という題のレコード数枚と蓄音器の入った大きな黒いケースだけでした。私はいつも自分より背の低い人が同僚になるようにと願っていました。なぜなら，この大きな黒いケースをほうきの柄につるし，それをふたりで運んでいくときに，自分の方が背が高ければ，重心が同僚の方に移動してくれるからです。これらのレコードには，最初の示現からノーヴー時代に至るまでの教会の初期の歴史が収められていました。

その中に，聞くたびに私も同僚も涙を禁じ得ない逸話が入っていました。それ

の人々と親しくし，財産を惜しまず分かち合うようにという彼の民に対する言葉の中に，一致の精神を促すメッセージを読みとることができます。(ヤコブ2：17参照)

以上のことから，私は，教会の兄弟姉妹に対する接し方によって，自分が神の王国を第一に考えているかどうかがわかるという確信を得ました。私たちの間には，一致を深めてくれる特別な絆があるでしょうか。ねたみや陰口はどうでしょうか。兄弟姉妹の成功を自分のことのように喜べるでしょうか。すべての人が私たちのように富んだ者となれるよう，持ち物を分かち合っているでしょうか。そして最後に，私たちは兄弟姉妹の守り手，「番人」になっているでしょうか。

私は世界中の教会を回っていて，多くの建設的な事柄を目にし，驚かされています。それでもなお，私たちはひとつの民としてまだ十分に可能性を発揮しているとは言えません。必ずしも一致協力しているとは言えないのです。個人的な名誉や成功の方に関心が行き過ぎて，神の王国建設という共通の目標に対する関心が薄すぎるようです。

主が私たちに求めておられるすべてのことに目を向けると，圧倒されてしまうかもしれません。しかし言うまでもなく，多く与えられる者は，多く求められるのです。大きなチャレンジを前にしたときは，段階的に対処していく方法を考えるとよいでしょう。まず一歩を踏み出し，さらにまた一歩ずつ踏み出していくのです。どんなに小さな歩みでも，主は喜んでくださるに違いありません。なぜなら，主はその限りない知恵によって，しばしば小さなことから大きなことが起こるのをご存じだからです。

最初の一歩は，普通，主と主の輝かしいみ業に対する決意を深めることから始まります。すなわち，主のみ業を第一に考えるという決意です。そのあとは，この最初の決意に従って歩みを進めていくのです。もちろん進む方向は様々です。

私たちは，教会の兄弟姉妹に奉仕することによって援助を与えることができます。福音を受け入れていない人々のところへ行って，真理に改宗させることもできます。また，神殿に行き，死者のための偉大な贖いの業をすることもできます。主のみ業に従事する私たちの熱意が深まれば深まるほど，主は私たちの能力を高めてくださいます。また同じ業に働く民としてさらに親近感が深まります。主のために，またお互いのために払う犠牲を通して，私たちは神の子供としての自分の才能に気づき，主の輝かしい最後の降臨のために道を備えることができるのです。

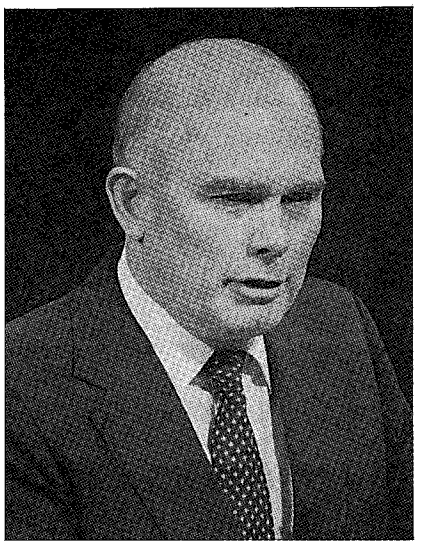
私たち一人一人が，ほかの何よりもまず神の国を第一に求めるというチャレンジを受け入れることができますように，またそうすることによって，ひとつの民としての親近感を深め，心と思いにおいてひとつとなれますように，イエス・キリストのみ名によりへりくだりお祈り申しあげます。アーメン。

●1987年4月4日（土）神権部会

神権の祝福

十二使徒定員会会員
ダリン・H・オークス

「信仰を込めた熱心な求めに応じて，いつでも聖霊の導きのままに神権の祝福を授けられるように備えてください。」



1866年の春，いわゆるブラック・ホーク戦争と呼ばれる戦いで，開拓者たちは，ユタ州南部の大勢の住民に襲いかかるインディアンの激しい攻撃を撃退しようと，苦慮していました。ヒーバー・C・キンボール副管長のふたりの息子もこのとき，3カ月間だけインディアンの討伐隊に招集されました。息子たちの出発に先立って，キンボール副管長は彼らに神権の祝福を授けました。副管長は明らかに，息子たちが兄弟であるレーマン人の血を流すことを恐れて，神がこのイスラエルの一族に立てた偉大な約束をまず述べました。そして，息子たちを祝福し，行く先々でひとりのインディアンとも出会わないことを約束しました。闘志に燃え，硝煙のにおいにあこがれていた息子たちは，これを聞いてがっかりしてしまいました。しかし，祝福は成就しました。3カ月後に，彼らは戻ると次のように当時の模様を伝えました。

「私たちは……敵意に満ちたインディアンの様々なグループを追って，何マイルも馬で旅をした。そしてあちこちで何回もインディアンに接近した。彼らは，私たちの行く先々で周辺の村々を襲い，住民を殺害して，家畜を追い散らした。」

しかし，一行はひとりのインディアンとも出会うことがなかったのです。（オルソン・F・ホイットニー「使徒ヒーバー・C・キンボールの生涯」pp.439－41）

神権の祝福の中で，主の僕は，聖霊の導きのままに神権を行使し，祝福を受ける人の利益となるように天の力を呼び寄せます。そのような祝福は，メルケゼデク神権者が施すことができます。この神権はあらゆる霊的な祝福の鍵を握っています。（教義と聖約107：18，67参照）

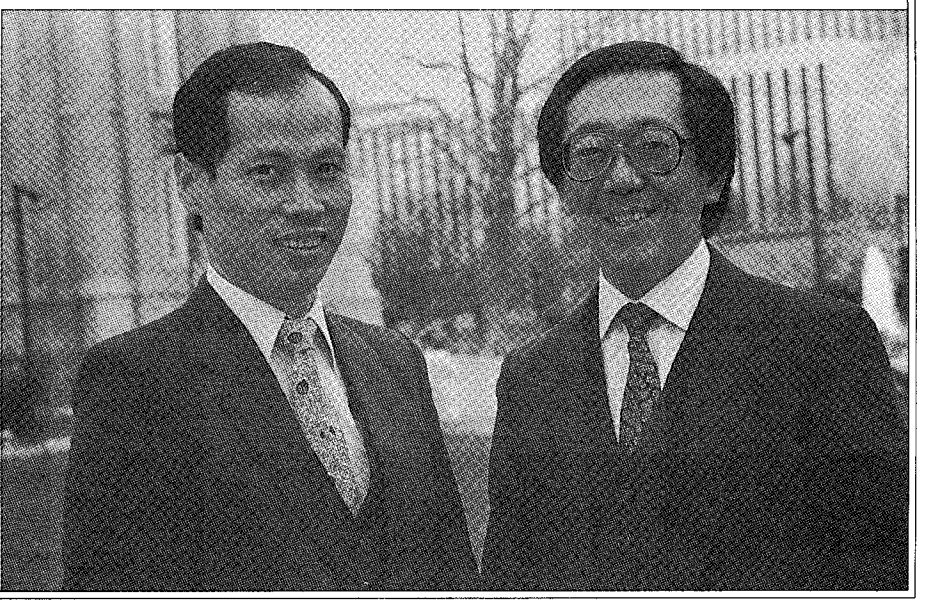
神権の祝福には様々な種類があります。これから数々の事例をあげるにあたっては，神権の祝福はそれを必要とするだれにでも与えられますが，要請がなければ授けられないという点を心に留めてください。

病人の癒（いや）しの祝福は，聖典にあるように最初に油を注ぎます。（ヤコブ5：14－15；マルコ6：13；教義と聖約24：13－14；42：43－48；66：9参照）祝福師の祝福は，聖任を受けた祝福師が授けます。

大切な決定を下すために導きを望んでいる人は，神権の祝福を受けることができます。個人的な問題を解決するために霊的な力を特別に必要としている人も，祝福を受けることができます。妊婦も出産の前に祝福を受けられます。ふさわしい父親が，結婚を前にした息子や娘に神権の祝福を授けた貴い思い出を，多くの末日聖徒の家族は記憶にとどめています。また，子供たちが何かの理由で家庭を離れるとき，たとえば学業や兵役，長期の旅行の場合，父親の方から神権の祝福を申し出ることもよくあります。

新しく召された宣教師も，出発の前に，父親の祝福をよく希望します。私には全盲の友人がいますが，彼は父親から次のような祝福を受けたことを覚えています。「あなたが持つ障害にもかかわらず，伝道を無事終えることができるでしょう。召しを立派に果たし，人々に対する愛が深まるでしょう。」ひとりのすばらしい末日聖徒の生活に，この祝福が成就したことを，私は証します。

以上のような状況の中で授けられる祝



福は，時に「慰めと助言を与える祝福」と呼ばれます。これは普通，父親か夫，または家族の中のそのほかの長老が授けます。この祝福は，それを受けた本人の霊的な導きとして，家族の記録に残し，保存しておくことができます。

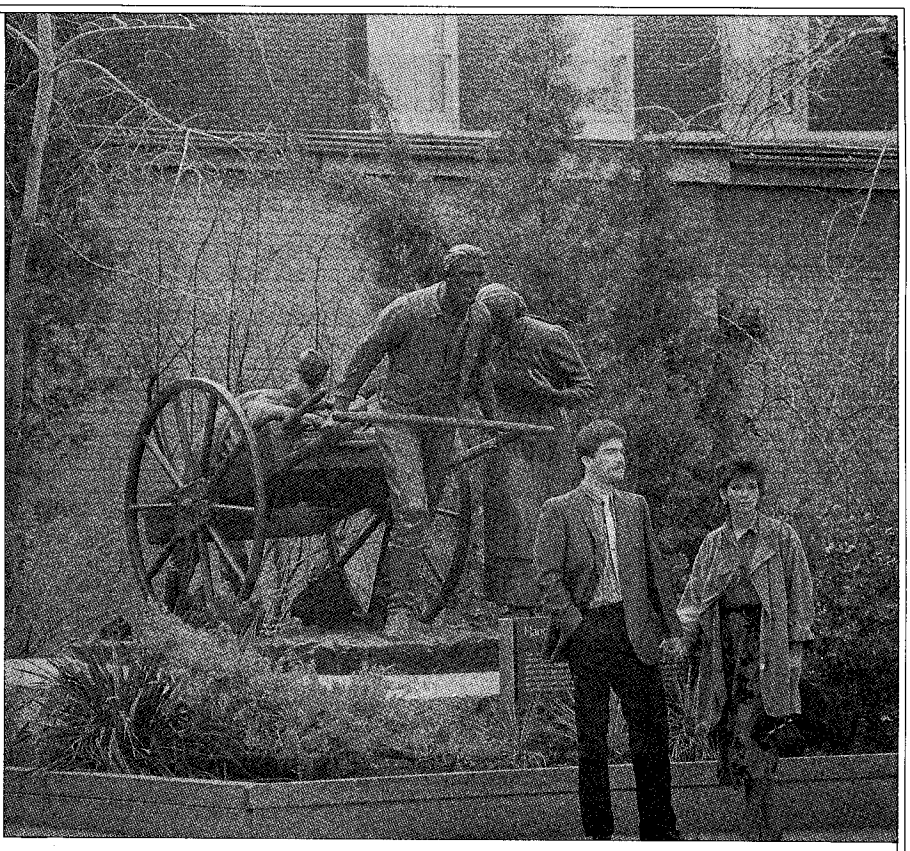
10年以上前のことですが，ある十代の少年がエズラ・タフト・ベンソン大管長に祝福を願って来ました。その少年の父親はあまり教会に通っていない長老でしたが，ベンソン大管長はこう質問しました。「折を見てお父さんに話してみてはどうでしょうか。そして父親に祝福を授けてもらえるかどうか頼んでみるのです。」若者はいぶかりながらも，そうすると約束しました。後に彼は次のように知らせてきました。

「ベンソン兄弟，実は私たちの家族にすばらしいことが起こったんです。……父は，ぼくに本当にすばらしい祝福を授けてくれました。……そして祝福が終わったとき，ぼくたちの家族は今までにない感謝と喜びと愛の絆でしっかりと結ばれました。」（『若人に贈る言葉』「聖徒の道」1978年2月号，pp.46－47）

神権への聖任や，教会の召しへの任命に関連しても，神権の祝福は授けられます。おそらくこれが，最も頻繁に施されている神権の祝福でしょう。

仕事のうえで大きな責任をこれから引き受けようとするときに祝福を求めた人が，私たちの中には大勢います。かつて私自身も，何年も前にそのような祝福を受け，直ちに慰めを覚え，長い期間にわたって導きを受けることができました。

ある教会幹部がラッセル・M・ネルソン博士をステーキ部長に任命する際，心臓外科医として緊迫した時間の中で，困難な問題を解決する力が与えられるように祝福しました。ネルソン長老は，ある心臓手術で危険が軽減し，術後の快復が早まったことで，その祝福がどのように成就したかを語っています。8年後，ネルソン長老を祝福した本人が，彼の患者となりました。スペンサー・W・キンボール長老がむずかしい心臓手術を受けることになったのです。ハロルド・B・リー長老とN・エルドン・タナー長老は，ネルソン博士を次のように祝福しました。「手術は誤りなく行なわれ，すべて順調に進み，技術の不足を感じる必要はありません。それは，あなたがこの手術を行なうために主によって備えられていたからです。」（「エンサイン」1984年5月号，pp.87－88）この祝福は実現しました。その後少ししてから，すっかり快復した気力あふれるネルソン長老の患者は，教会の大管長となり，様々な出来事や歴史に残る教会の発展を通して，指導力を発揮しました。



神権の祝福にはどのような意義があるでしょうか。世の中の宝を探しに，ひとりの若者が家庭を離れる準備をしていると考えてみてください。もし父親がこの若者に磁石を与えれば，息子は自分の道を知るために，この道具を利用するでしょう。金銭を与えれば，この若者は世の物を得るために経済力を活用するでしょう。神権の祝福とは，霊的な事柄に対する力を授けることなのです。それは手で触れたり，重さを計ったりすることはできませんが，永遠の生命への道に立ちふさがる障害を私たちが克服しようとするとき，大きな意味を持つものなのです。

幼な子たちが救い主のみそばに近寄っていけるように，主がどのように声をかけられたか忘れないでください。そして「彼らを抱き，手をその上において祝福され」ました。（マルコ10：16）復活された主がアメリカ大陸の民を訪れられたときも，「イエスは……かれらの小さい子供たちを一人一人近よせてこれに祝福を与え，かれらのために御父に祈りたもうた」（IIIニーファイ17：21）のです。

神権の祝福を授ける場合，メルケゼデク神権者にとって，主に代わって語ることは，きわめて神聖な責任です。主が近代の啓示の中で述べられたように，「わが言（ことば）は……成就すべし。わが声にて言わるるも，僕らの声にて言わるるもみな一つ」（教義と聖約1：38）なのです。主の僕が聖霊に感じて語るとき，その言葉は「主の意（こころ）となり，主の精神となり，主の言となり，主の声となり」ます。（教義と聖約68：4）しかし，祝福の言葉が，聖霊の導きを受けず，単に祝福する神権者の希望や意見を述べただけであれば，祝福は主のみこころと一致する場合にだけ成就することになります。

ふさわしいメルケゼデク神権者は自分の子孫に祝福を残すことができます。聖典にはその例が数多く見られます。アダムの祝福（教義と聖約107：53－57参照），イサクの祝福（創世27：28－29，39－

40；28：3－4；ヘブル11：20参照），ヤコブの祝福（創世48：9－22；49；ヘブル11：21参照），そしてリーハイの祝福などです。

ジョセフ・スミス・シニアが死の床にあったとき，子供たちが最後の祝福を受けるために彼の周りに集まってきました。最初に妻を祝福したあと，父親スミスは長男のハイラムから始め，子供たちに次次と彼のいわゆる「臨終の祝福」を授けました。（ルーシー・マック・スミス「ジョセフ・スミスの生涯」pp.308－13；ピアソン・H・コーベット「祝福師ハイラム・スミス」pp.240－41参照）

近代の啓示の中で，教会員の両親は，その子供たちを教会員の前に連れて来るように命じられています。そこで長老たちは，「イエス・キリストの御名によりて按手を施し，且つ御名によりてこれに祝福を授くべきものとす」（教義と聖約20：70）と定められています。両親が聖餐会に乳児を連れて来て，長老（通常は父親）が命名し，祝福を授けるのは，このためなのです。

この神権会に集っている青少年の中で自分はまだ神権の祝福を受けたことがないと思っている人がいるならば，そのような人は，実は過去に少なくとも2回，またはそれ以上すでに祝福を受けていることを知っていただきたいと思います。

神権の祝福はひとりの人に与えられるだけではありません。ときとして何人かの集団に授けられることもあります。予言者モーセは死の直前に，すべてのイスラエルの人々を祝福しました。（申命33：1参照）予言者ジョセフ・スミスはカートランド神殿で働く「姉妹たちに祝福を宣言し」，「会衆」をも祝福しました。（「教会歴史」2：399参照）最近では昨年の4月の年次総大会で，ベンソン大管長は末日聖徒を祝福して，また，「全地のすべての善良な人々〔に〕……善を行ない悪を拒む力がさらに増し加えられ，モルモン経がさらに理解できるように」祝福しました。（『神聖な務め』「聖徒の道」1986年7月号，p.78）

場所も神権の祝福の対象となります。福音を宣べ伝えるために，様々な国が祝福され，奉献されています。神殿と礼拝の家も神権の祝福によって主に奉献されます。主のみ業のために使用される場合は，このほかの建物も奉献されます。「教会員は，聖霊がとどまることができる神聖な建物として，自分の家庭を奉献することができます。」（「教会指導総合手引き」〔1986年版〕p.11－5）宣教師や神権指導者は，自分を受け入れてくれた家庭に，祝福を残すことができます。（教義と聖約75：19；アルマ10：7－11参照）青少年の皆さん，皆さんもあとしばらくすれば，そのような祝福を施すように依頼されるでしょう。霊的な備えをしてくださるようにお願いいたします。

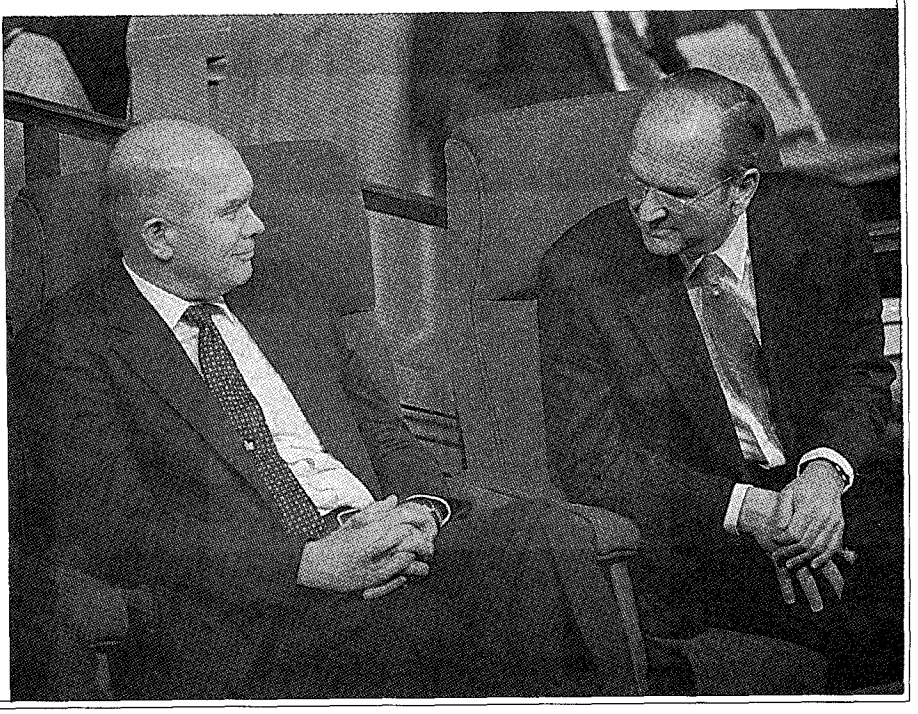
さて，残りの時間を用いて，さらにいくつかの神権の祝福の例をあげてみましょう。

およそ100年前，サラ・ヤング・バーンスは助産婦の資格を取りました。彼女はアリゾナ州で仕事を始める前に，ある神権指導者から祝福を受けました。彼女はその中で，「常に正しいことを行ない，妊婦にとって最善の事柄を行なえるように」祝福されました。45年間にわたって，サラは1,500人の子供を取りあげ，母親と子供をひとりも死なせることはありませんでした。「むずかしい問題に出会ったときはいつでも……」と彼女は思い出を語っています。「何者かが霊感を与えてくれました。そして何を行なえばよいのかを知らせてくれたのです。」（L・J・アリントン，S・A・マドセン共著「ボンネットをいただいた婦人――モルモンの女性と開拓史逸話集」p.150）

1864年，ジョセフ・A・ヤングは，東部における教会の問題を処理するという特別な使命に召されました。父親であるブリガム・ヤング大管長は，彼が無事に旅を終えて帰って来られるように祝福しました。帰路，ジョセフ・ヤングは大きな列車事故に遭いました。彼は次のように伝えています。「列車全体が破壊され，私のいる車両の，私の隣の席までそれが及びました。ところが私自身はかすり傷ひとつ負わずに脱出できたのです。」（ディーン・C・ジェシー「ブリガム・ヤングの息子たちへの手紙」p.4）

少年のころ，私はノーヴーでの勇気ある物語に鼓舞されました。その中には私の祖父のおじの話も含まれています。1844年の春，予言者ジョセフ・スミスを陥れようとする者たちがいました。その指導者のひとりであったウィリアム・ローは，ノーヴーの自宅で秘密の集会を開きました。招待者の中には，19歳のデニソン・ロット・ハリスと友人のロバート・スコットがいました。デニソンの父親は私の先祖にあたりますが，彼も招かれていました。父親が予言者ジョセフ・スミスに相談すると，集会には出席せず，息子を出席させるようにと助言を受けました。

●左から十二使徒定員会会員ダリン・H・オークス長老，ラッセル・M・ネルソン長老



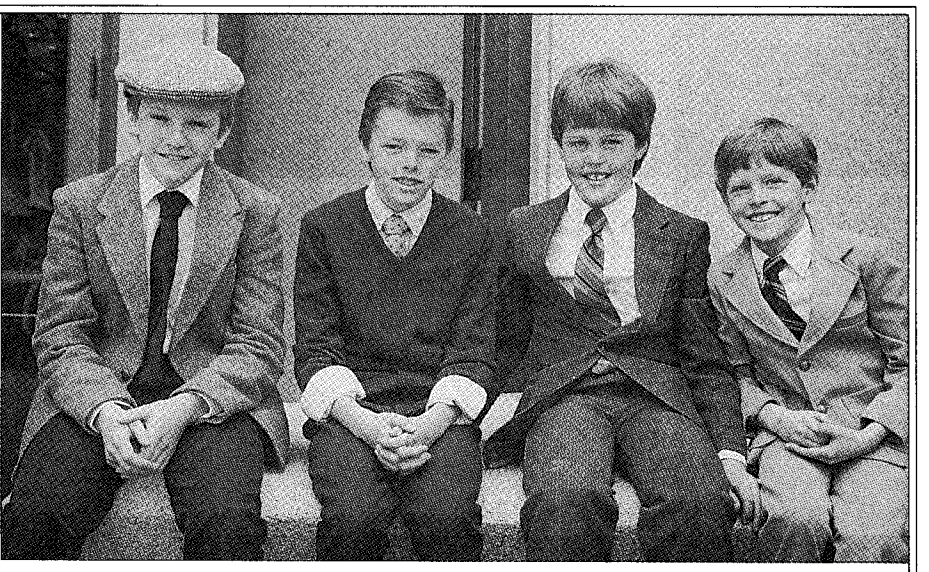
予言者はふたりに，話を聞き漏らさず，その内容を報告するようにと指示しました。

この最初の集会の司会者は，ジョセフ・スミスを堕落した予言者であると決めつけ，殺害の意志を表明しました。予言者はこの報告を聞くと，もう一度集会に出席するようふたりの青年に依頼しました。彼らはそれを実行し，予言者に謀略を漏らしました。

3回目の会合が，その1週間後に開かれました。予言者はもう一度彼らに出席を依頼しましたが，それが最後の集会であることをつけ加えました。「用心して，何も語ってはなりません。彼らと何の誓約も約束も交わしてはなりません。」予言者はそう勧告しました。彼らの使命が非常に大きな危険を伴うものであることも忠告しました。予言者自身はまさかと思いましたが，ふたりが殺される可能性もないわけではありませんでした。そこで予言者ジョセフ・スミスは，神権の力によってデニソンとロバートを祝福し，ふたりの命が奪われることがあっても，大いなる報いがあることを約束しました。

この神権の祝福に力を得て，彼らは3度目の集会に出席し，陰謀者たちの暗殺計画に耳を傾けました。そして，全員がこの策略に加わり，秘密を守る誓いを終えてから，デニソンとロバートに順番が回ってきました。彼らは，誓いを立てなければ殺すと脅したのです。ひとりでも反対する者がいれば，秘密の計画が漏れる恐れがあるので，陰謀者たちの半数は，ただちにふたりを殺すことを主張しました。あちこちでナイフが引き抜かれ，怒りに狂った男たちがふたりを殺そうと強引に地下室へ連れて行こうとしました。

そのときです。ほかの陰謀者たちが彼らを呼び止めました。両親がおそらくふたりの居場所を知っているだろうと言うのです。もし彼らが戻って来なければ，村の警鐘が鳴りわたって，少年たちの死と，秘密の計画が知れてしまうであろうとも言いました。長い言い争いの間，ふたりは生死の境に立たされていたわけです。ついにこのグループは，集会の内容を一言でもほかに漏らしたならば生かしてはおかないと脅したあとで，ふたりを解き放つことに決めました。そして解放



されたのです。こうした脅迫にもかかわらず，また，陰謀者たちとどんな約束もしてはならないという予言者の勧告に従ったので，デニソンとロバートはいち早く予言者ジョセフ・スミスにすべてを報告しました。

ふたりを守るために，予言者は，少なくとも20年間この出来事をたとえ父親にも明かさないように，勇気あるふたりの青年に約束させました。その2，3カ月後に，ジョセフ・スミスは暗殺されたのです。

多くの月日が流れました。教会員は西部に定住しました。デニソン・L・ハリスが，南ユタのモンローワード部の監督を務めていた際，エフライムにおける教会の集会で大管長会の一員に会いました。1881年5月15日の日曜日，予言者ジョセフ・スミスが暴徒たちの復しゅうから本人を守るために口を封じた後，実に37年を経てから，デニソン・ハリスは，この時の体験をジョセフ・F・スミス大管長に伝えました。（末日聖徒イエス・キリスト教会歴史部所蔵「1881年5月15日，デニソン・L・ハリス監督による口述書，MS2725」参照；この資料は後日「コントリビューター」1884年4月号，pp.251－60に掲載された）デニソン・ハリス氏の子孫からは，多くの著名な末日聖徒が輩出しました。そのひとりが，ブリガム・ヤング大学で長期にわたって学長を務めたフランクリン・S・ハリス氏です。

神権の祝福について話そうとすると，様々な思い出が走馬燈のように私の脳裏によみがえってきます。私の息子や娘たちが，人生における最も困難な時期を乗り越えられるように祝福を求めて来たのを覚えています。霊感に満ちた約束の数数と，それが実現したときに強められた信仰について思い出すと，喜びがわきあがってきます。私は息子のことを考えると，新しい世代の持つ信仰に誇らしい思いがします。司法試験を前にして，遠く離れた父親と会うことができないために，息子は家族の中で一番連絡の取りやすい神権者である義理の弟に，神権の祝福を依頼しました。混乱した若い改宗者が，自虐的な生活態度を改められるように祝福を求めて来たときのことを覚えています。この青年は普通とは違った祝福を受けました。私自身が自分の口をついて出た言葉を聞いて驚いてしまいました。

兄弟の皆さん，年齢にかかわりなく，霊的な力の必要なときには，神権の祝福を受けることをためらわないでください。父親やそのほかの長老の皆さん，自分の子供たちや天父のほかの子供たちを祝福する特権を大切にし，喜んでください。信仰を込めた熱心な求めに応じて，いつでも聖霊の導きのままに神権の祝福を授けられるように備えてください。

これは私たちの救い主の真実の教会です。私はイエス・キリストが救いの使命を持っておられることを証します。私たちはこのお方の神権をいただいているのです。神の祝福があって，その導きのもとにこの神権を行使し，神の子供たちを祝福することができますように。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

近道はない

七十人第一定員会会員
ロバート・L・シンプソン

「気高い生まれの若人の皆さん，王国の神権者である若人の皆さん，信仰において現代のニーファイのようになってください。もちろん，時には困難にぶつかることもあるでしょう。それはわかります。しかし，報いはきわめて大きなものです。」

愛する兄弟の皆さん，そしてアロン神権を持つすばらしい若人の皆さん。きょうの皆さんの立派な様子は言葉では言い表わせません。皆さんがこの場におられること，言い換えれば，主との約束を守り，この大切な神権会に集われたことは，すばらしいことです。

若い人々の信仰がなければ，私たちはどうなっていることでしょう。私は，旧約聖書の中のダビデという名前の少年のことを考えています。またモルモン経の歴史に登場するニーファイという名前の若者について考えています。さらにジョセフ・スミスという名前の15歳の若者のことも考えています。この若者には信仰があり，この神権時代の頭となったのでした。私は，若い人々の熱意と信仰，深い洞察力に心から感謝しています。

短いお話を紹介しましょう。あるひとりの牧師がようやくのことで，自分は水の上を歩けるだけの信仰ができたと感じるまでになりました。そこで，全国にそのことを知らせると，至る所から人々が見にやって来ました。数千人も集ったでしょうか。ところが一番前の列に末日聖徒の教会の執事がひとりいたのです。この少年はこの種の信仰には大いに関心を持っていました。日曜学校でも家庭の夕べでも聞いていたからです。こうしてこの少年は，この牧師から5メートルと離れていない一番前の列に陣取ったのでした。

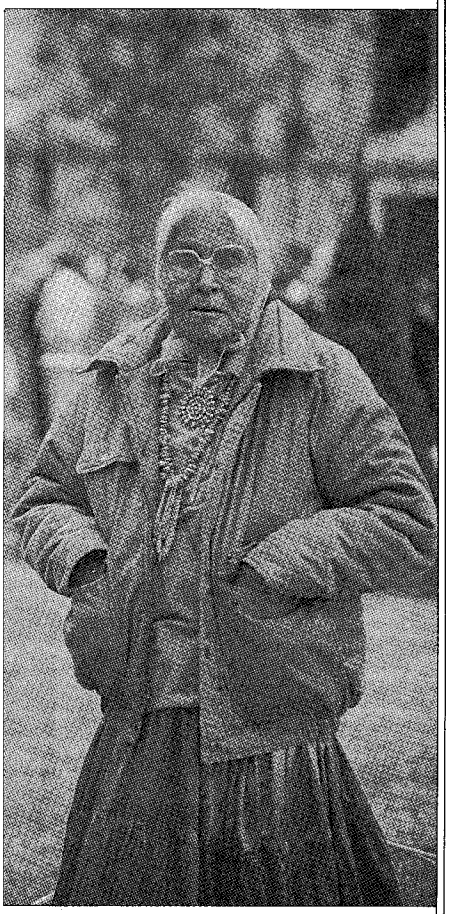
牧師は水辺まで歩いて来ると，一瞬ためらった様子でした。やがて，かがんでズボンをまくり上げたとき，その少年がこう言ったのです。「おじさん，絶対無理だと思うよ。」実際この牧師は失敗したのでした。

最近のことですが，十代のあるアロン神権者のグループにとても感銘を受けました。彼らは非公式の福音勉強会のために監督やアドバイザーたちと一緒に集っていたのですが，会そのものは小さく打ち解けたもので，自由に話し合いができるものでした。最初の話し合いやあいさつを聞いただけでも，この若者たちが皆，自分の監督を尊敬し，定員会アドバイザーに感謝の気持ちを抱いていることは明らかでした。また話し合いを聞いていると，主を愛していることもはっきりわかります。ところが，こうしたことにもかかわらず，いろいろと問題を持って悩んでいる少年たちもいたのです。その朝，大きな問題が3つ浮かび上がってきました。まず第一の問題は，「なぜ，人生はこんなにつらいものなのか」ということです。

それからしばらくすると，15歳くらいの男の子が言いました。その少年は，明らかに学校の同級生たちの様々な圧力に悩んでいる様子でした。「学校がそれほど価値あるものかどうか，わからないんだ。」

そして最後に皆が知りたがっていたのが，これです。「この教会が真実であるという確信を，どうやったら持てるのだろうか。」

こうした疑問は今に始まったことではありません。人類の起源と同じくらい古くからある疑問ですし，一部の人だけが悩んでいる問題でもありません。この会場に集う大勢の皆さんの中に，こうした同じ問題について，長い間悩まされずにきたなどと言える人がひとりでもいるでしょうか。



人生はつらいものであるという，第一の問題から始めてみましょう。私は，あるセミナリーの生徒の言った次の言葉が気に入っています。その生徒はこう言ったのです。「この現世での生活は，ぼくたちが前世にいたときに受けてきた説明と変わりはないよ。日曜学校の先生が言ってたけれど，ぼくたちは喜び呼ばわったんだって。そのうえ，地球に来ることに賛成しただけでなく，文字どおりその機会を与えてくださるよう，熱心にお願いしたんだって。」アドバイザーのひとりが聖典を引用して，私たちが自分の責任を果たせば，主は苦しんでいるときにいつでも助けの手を差し伸べてくださると説明しました。「見よ，わたしは戸の外に立って，たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら，わたしはその中にはいって彼と食を共にし，彼もまたわたしと食を共にするであろう」(黙示3：20）と救い主は言われました。若人の皆さん，おわかりいただけましたでしょうか。戸を開けるかどうかということは，私たちにかかっているのです。救い主が「わたしから離れては，あなたがたは何一つできないからである」（ヨハネ15：5）と言われたとき，もうひとつ重要な鍵を与えてくださっているように思えます。何と力あるみ言葉でしょうか。

2番目の問題を覚えていますか。「学校がそれほど価値があるものかどうか，わからない」というものでした。これに対し，監督のひとりがすぐに次のような質問をしました。「いつの日か御父の持っておられるすべてのものを受けるにふさわしい者になるということは，価値あることだと思いませんか。」さらに，その監督は，御父の持っておられるものをすべて受けるということは，まさに神権の誓詞と誓約の根幹であると説明を続けたのです。ここで，この神聖な義務について教義と聖約第84章に与えられている言葉をもう一度，一緒に読んでみましょう。この義務は私たちが皆同じように負っているものです。心して聞いてください。33節から始めましょう。

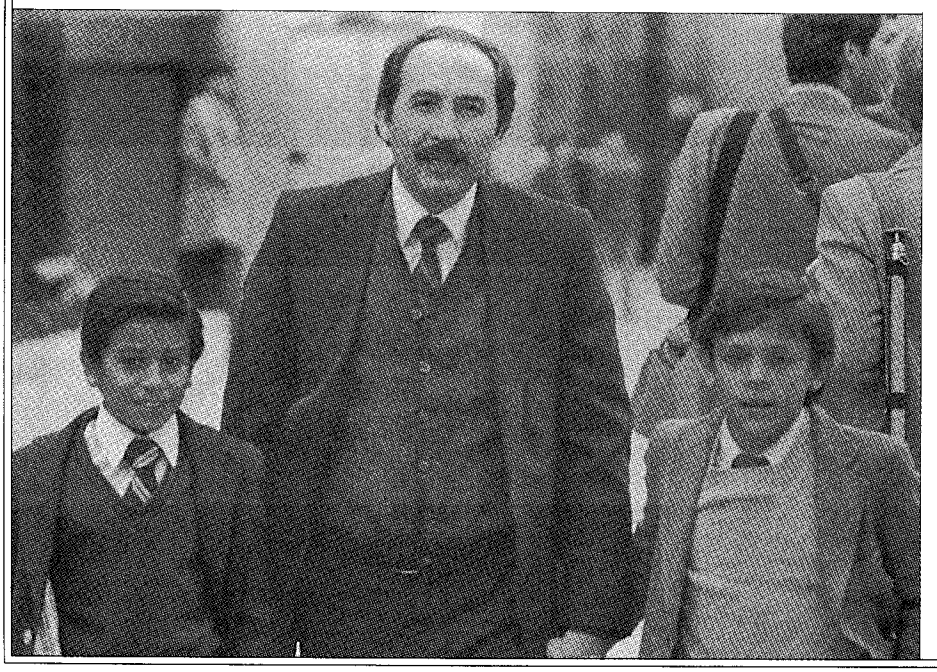
「およそ忠実にしてわが今語れる二つの神権を得，而してその天よりの召を全力を尽くして遂行する者たちは……聖められて……。」

ここから少し飛ばして，38節に行きます。

「而して，わが父を受け入るる者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。

而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり。」(33，38－39節)

若い友人の皆さん，今読みあげたこうした条件は，すでに設定されているのです。そのことを理解してください。すでに確認済みのことなのです。私たちにはすでに神権の権能が与えられています。主は神権の召しを全力を尽くして遂行する者には皆，ある将来を保証すると約束しておられます。その将来とは，永遠の生命であり，これは聖典に従って表現すれば，あらゆる賜のうち最大なるものなのです。(教義と聖約14：7参照)私たちはすでに聖任されていますので，その道を歩み始めています。いや，歩み始めているだけでなく，もう引き返すことのできない地点まで来ているのではないかと思われます。救い主が，これは御父が「破ることも変えることも為したもうはずなし」(教義と聖約84：40)と言われた誓詞と誓約であると断言しておられるからです。



ここで，興味深い話をひとつ短く紹介しましょう。破ることも変えることもないという，あの誓詞と誓約に関する最後の聖句を読み終えたとき，ひとりの若者がこう言いました。「みなそのとおりだとすれば，自分の自由意志はどこにあるんだろうか。」このとき，ちょうど祭司に聖任されたばかりの少年がこう答えたのです。「ぼくたちは，前世にいるときに自由意志を使ったんだよ。だれでも，バプテスマの前には自分がバプテスマを受けることに同意するし，ぼくたちだって，毎週聖餐式のときにそのバプテスマの誓約を新たにしているじゃないか。監督から面接を受けたときには，神権を受ける条件に同意したんだし，ぼくは別に自分たちの自由意志が侵害されているなんて思わないよ。」

この少年の言ったことはまったくそのとおりです。いまだかつて，私たちの自由意志が侵害されたことはありませんでした。

神権の神聖な誓約を引き受けている人人が，それを投げ出したり，「むずかし過ぎて，私にはできません」などと言ったりしないよう心から望んでいます。ニーファイにもたくさんの問題がありました。レーマン，レミュエル，レーバンといった問題が次々に起こったのです。それでもニーファイは，必要なときには天の軍勢が総力を挙げて助けてくれることを固く信じていました。ニーファイの次の言葉を思い出してください。

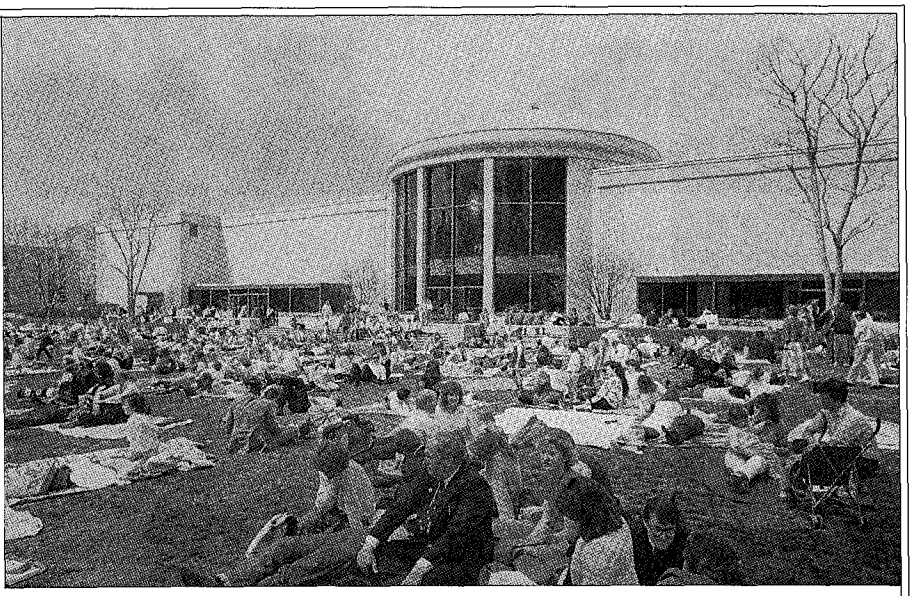
「私は主の命じたもうたことを行って行う。私は，主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，

主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである。」（Ｉニーファイ３：７）

ここまで読んだとき，ひとりの若い執事がこう言ってからかいました。「でも，ニーファイはぼくの行っている学校へ行かなくてもよかったでしょ。」この少年は，自分が抱えている問題は多少形は異なるものの，ニーファイの問題と同じくらい大きな問題なのだと言いたかったのです。そのとおりかもしれません。しかし，重要な点はこうです。主はニーファイを見捨てられなかったし，リバティーの牢獄にいるジョセフ・スミスをも見捨てられませんでした。ですから，学校で同級生の圧力に苦しんだり，そのほか様々な問題で苦しむ少年を，主は見捨ててはおかれない，ということです。

私たちにはこの神権の権能が授けられていますが，これに伴う偉大な祝福を求めて準備をしている私たちは皆，主のお考えの過程に従い，折に触れて清めを受けなければなりません。私たちがきょうここに集っていることが確固とした事実であると同様，教会幹部であれ，監督であれ，長老であれ，執事であれ，その過程はまったく同じです。ですから逆境が訪れたときには，それは前進するための準備の一段階ではなかろうか，と考えるように努めることが必要になってきます。学校は確かに行く価値のあるところです。そうです，若人の皆さん，学校は確かに行く価値のあるところなのです。

さて，３つ目の大きな問題に移ってみましょう。「この教会が真実であるという確信を，どうしたら持つことができるのだろうか」というものでした。さて，地上での生活を送っている間に，いわゆる完璧な証を得ることのできる人がいるのでしょうか。私たちは皆，この現世では，証を強めていく果てしない過程の途上にあるのだと思います。シオンの若人の皆さん，奇跡を経験したいとか，いわゆる天からの確かなしるしを得たいとかいったことは，考えないでください。永遠に至る道には近道はないのです。そうすると，生涯を通じて証を強めていくときには，最後まで忍耐するということが，もうひとつ別の大切な要素になってきます。これは，聖典で言っているように，「規則に規則を加え，則（のり）に則を加え，ここにもすこしくかしこにも少しく」（教義と聖約128：21）という過程です。



証を深めていくためには，いつでも変わらぬ基本的な原則が存在しているのです。

例としてモルモン経を使ってみましょう。モロナイ書第10章４節はだれでも知っている聖句ですが，ここに書かれている偉大な約束によれば，まずモルモン経を読み，次に誠心誠意でキリストを信じながら天父に尋ねることになっています。そしてそれを行なったときには，聖霊の力によって一切のことが真実であるかどうかがわかる，と教えられています。

さて，それがモルモン経についての証であろうと，あるいはまた，什分の一や知恵の言葉，断食の律法や安息日を聖く守ること，そのほかいかなる原則であろうと，その過程はまったく同じです。まず第一に，聖典を通じてその教えを理解しなければなりませんし，次にできる限りその教えに従って生活しなければなりません。そのあとで，誠心誠意でキリストを信じながら天父に尋ねるのです。そうすれば，聖霊の力によって，その教えの真実であることが明らかにされることでしょう。

もし真理を知りたいと願うならば，知識を深め，積極的になり，そして備えをしておいてください。

聖典を読むことにより，そして霊感あふれる指導者たちの言葉に耳を傾けることにより，真理についての知識を深めてください。

力の限りを尽くして，積極的にその真理に従った生活をしてください。

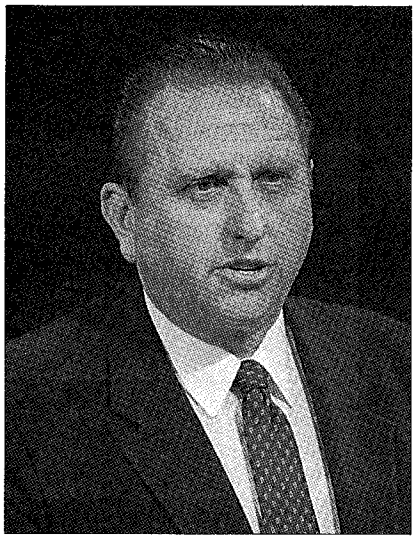
そして，導きを受けることができるよう，また答えがもたらされたときにはっきりとそれが認識できるよう，自分でふさわしい生活を送り，みたまの賜を受ける備えをしてください。

気高い生まれの若人の皆さん，王国の神権者である若人の皆さん，信仰において現代のニーファイのようになってください。もちろん，時には困難にぶつかることもあるでしょう。それはわかります。しかし，報いはきわめて大きなものです。そして，次のことを忘れないでください。皆さんのように，前世で予任されていた人たちは，そして皆さんのように，聖霊の賜を受けている人たちは，さらに皆さんのように，神権の権能を授けられている人たちは，強い証を得る能力を間違いなく秘めています。絶えず深まりゆく証を持つことができるのです。いにしえのヨシュアが言ったように，「あなたがたの仕える者を，きょう，選びなさい。ただし，わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」（ヨショア24：15）以上のことを断固として行なうならば，「神権の教理は天より下る露（つゆ）の如（ごと）くに汝をうるおさん」（教義と聖約121：45）という状態になることでしょう。皆さんがそのような体験をすることができますよう，イエス・キリストのみ名により，へりくだってお祈りします。アーメン。

涙，試練，信頼，証

第二副管長
トーマス・S・モンソン

「たゆみない信仰，変わらない信頼，熱心な望み。心から主に仕える人々は，いつもそのような特質を示してきました。」



皆さんは人の価値について考えたことがあるでしょうか。人間一人一人が持つ潜在的な能力について考えたことがあるでしょうか。

私は，十二使徒評議員会会員になって間もないころ，ソルトレークシティーのモニュメントパーク西ステーキ部の大会に出席したことがあります。教会中央福祉委員会のポール・C・チャイルド兄弟と一緒でした。チャイルド兄弟は聖典によく精通しています。私がアロン神権者の当時，管轄のステーキ部長を務めた方でした。私とチャイルド兄弟とは大会訪問者として一緒に出席していました。

チャイルド兄弟は，自分の番が来ると教義と聖約を取り出し，壇上から下りて彼の話し相手である神権者たちのいる場所に行きました。そして第18章を開け，読み始めました。

「汝ら，人の値は神の前に大いなることを憶えよ。……

而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し，唯一人の人たりともわれに導かば，わが御父の国に於て彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや。」（教義と聖約18：10，15）

チャイルド兄弟は聖典から目を離すと，神権者の兄弟たちに質問をしました。「『人の値』とは何でしょうか。」監督，ステーキ部長，高等評議員を指すのを避け，長老定員会の会長を選びました。その兄弟は少しうとうとしていたらしく，質問の意味を聞きそびれたようです。

すっかり目の覚めた兄弟が答えました。「チャイルド兄弟，もう一度質問を言っていただけませんか。」質問がもう一度繰り返されました。「『人の値』とは何でしょうか。」

私はチャイルド兄弟のやり方をよく知っていました。ですから長老定員会会長のために懸命に祈りました。永遠とも思われそうな一瞬の沈黙の後，定員会会長が口を開きました。「チャイルド兄弟，人の価値とは，神のようになる能力です。」

その場にいた人々は皆その答えに考えさせられました。チャイルド兄弟は壇上に戻ると，私の方に身を傾けて言いました。「深遠な答え。深遠な答えだ」と。それから話を続けました。私はその霊感された答えについて考えていました。

天父が教えを授けるために備えたもうた貴い霊に手を差し伸べ，指導し，心に触れることは，非常に大きな責任です。簡単なことではありません。首尾よくそれを果たすには，普通その前に涙や試練，信頼，証が伴います。

救い主が使徒たちに与えられた指示の意義について考えてください。「それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民を弟子として，父と子と聖霊との名によって，彼らにバプテスマを施し，あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。見よ，わたしは世の終りまで，いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：19－20）

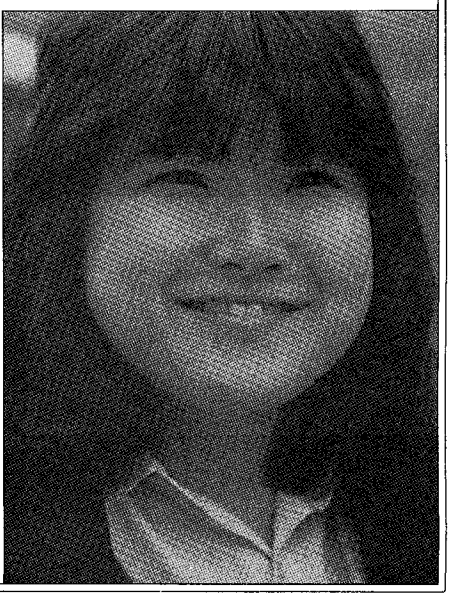
主が指示を与えられた相手は，土地を所有するのでもなく，学識を持っていたのでもありません。ただ信仰の人，献身の人，神から召された慎み深い人々でした。

パウロはコリント人に次のように証しています。「兄弟たちよ。あなたがたが召された時のことを考えてみるがよい。人間的には，知恵のある者が多くはなく，権力のある者も多くはなく，身分の高い者も多くはいない。

それだのに神は，知者をはずかしめるために，この世の愚かな者を選び，強い者をはずかしめるために，この世の弱い者を選」ばれたのである。（Ⅰコリント1：26－27）

このアメリカ大陸において，アルマは息子ヒラマンに次の同じような勧告を与えました。「今お前はこのことを聞いて，私の信じているのを愚であると思うかも知れぬ。しかし見よ，お前に言うが，小さくてやさしい事から大きな事がでてくる。また小さな手段で賢い人をうち破ることがたびたびある。」（アルマ37：6）

神の僕は昔も今も，主のみ言葉から慰めを得ることができます。「わたしは……



いつもあなたがたと共にいるのである。」（マタイ28：20）このすばらしい約束は，執事，教師，祭司の定員会指導者として召されたアロン神権者の支えになっています。また，将来伝道に出て働く備えをするときの励みになります。だれでも失望するときがあるのですが，そのようなときにも慰めとなります。同じ確信は，メルケゼデク神権者がワード部，ステーキ部，伝道部で指導し，管理するときにも，兄弟たちを鼓舞し霊感を与えてくれます。

「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ，小なる事より偉大なる事起る。

見よ，主は真心と喜びて事に従う精神とを求む。喜びて従順に従う者たちは，この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん。」（教義と聖約64：33－34）

たゆみない信仰，変わらない信頼，熱心な望み。心から主に仕える人々は，いつもそのような特質を示してきました。

これらの特質は，福音の回復に続いて行なわれた初期の伝道活動によく現われています。早くも1830年の4月，フィニアス・ヤングは予言者の弟サミュエル・スミスからモルモン経を1冊受け取りました。数カ月後に，フィニアス・ヤングは北方のカナダへ向かっています。キングストンという場所で，回復された教会についての証を述べました。合衆国の国境を越えた最初の証です。

1833年，予言者ジョセフ・スミス，シドニー・リグドン，フリーマン・ニッカーソンはカナダ北部のマウント・プレザントへ向かいました。そこで，教えを施し，バプテスマを授け，支部を組織しました。1835年6月には，十二使徒の中の6人がカナダで大会を開いています。

1836年4月，ヒーバー・C・キンボール長老をはじめとする人々がパーレー・P・プラットの家で予言のみたまに満たされ，プラット兄弟の頭に手を置いて次のように宣言しました。「汝は北方の地，カナダのトロントに行き……人々が完全なる福音のために備えているのを目にするであろう。彼らは汝を受け入れ，汝は彼らの間に教会を組織し，多くの者が真理の知識を得て喜びで満たされるであろう。その伝道部で生じることから，完全な福音が英国に広がり，かの地で偉大なみ業が行なわれる基となるであろう。」

今年の7月，英国でこのみ業が開始されてから150年経たことを祝して，記念行事が行なわれます。初期の宣教師，また主がこの末日の業を前進させるために備えられた人々の偉大な業績に対して，私たちはうれしく思っています。

奉仕の召しは，主のみ業の特徴を成してきました。都合のよいときに召しが来ることはほとんどまれです。召しは謙遜さをもたらし，祈りを生み，決意を持たせます。この召しはカートランドにやって来ました。啓示がそれに続きました。召しはミズーリにも来ました。迫害が起きました。召しはノーヴーにも来ました。予言者が殉教しました。召しはグレートソルトレーク盆地にもやって来ました。苦しみが訪れました。

あのような困難な状況下で行なわれた長旅は，信仰の試しでした。しかし，試練と苦しみの中から生まれた信仰は，信頼となり証となりました。神だけが犠牲を知っておられます。神だけが悲しみの

深さを知っておられます。神だけが，神に仕える人々の心を知っておられるのです。

過去の教訓は私たちの記憶をよみがえらせ，生活に影響を及ぼし，行動の指針となります。ここで主から授けられた約束を思い起こしてみましょう。「この故に汝らは……主の用向を有てる者なり。されば，何事にまれ主の意に従いて汝らの為すところはすなわち主の業務なり。」（教義と聖約64：29）

こうした教訓がラジオとテレビで報道されたことがあります。「死の谷の日々」という放送番組で，なつかしく思われる方も多いかと思います。オールド・レンジャーと呼ばれるナレーターが昔の西部の物語を語り出すと，彼がまさに我が家にやって来たかのような感じを覚えたものです。

あるときオールド・レンジャーは，セントジョージにあるタバナクルの窓ガラスがどのように入手できたかについて，語ったことがあります。

窓ガラスは合衆国の東部で製造されました。ニューヨークで船に積まれ，時には危険を伴いながら，ホーン岬を経てアメリカ西海岸にたどり着きました。箱詰めされたこの貴重なガラスは，カリフォルニア州サンバーナーディーノに運ばれて，セントジョージへの旅を待ったのでした。

デビッド・キャノンとセントジョージに住む兄弟たちはガラスを受け取るために，荷馬車でサンバーナーディーノに行く責任を持っていました。それが到着すれば，主のタバナクルは完成です。しかし，問題がひとつありました。800ドルという大金がガラス代に必要だったのです。そのような大金はありません。デビッド・キャノンは妻子に向かってこうもらしました。「タバナクルのガラスを買うために，お金ができるだろうか。」

幼い息子が答えました。「お父さん，できるよ。」そう言うと，自分の持っていた2セントを取り出して，父に差し出しました。デビッドの妻ウィルヘルマイナ・キャノンも，女性に共通の「へそくりの場所」を探り，金貨3ドル50セントを出してきました。こうして地域全体で募金が始まり，総計200ドルが集まりました。それでも600ドルの不足です。

全力は尽くしたものの目標額を達成できず，デビッド・キャノンは絶望のため息をつきました。家族は疲れ果て落胆して，寝ることも食べることもできないほどでした。そこで祈りを捧げることにしました。夜が明けました。サンバーナーディーノまでの長い旅路に向けて，荷馬車や御者が集まってきました。しかし，依然として600ドルが不足です。

そのときです。ドアをたたく音がしました。近郊のワシントンという町に住むピーター・ニールセンが入って来ました。彼はデビッド・キャノンにこう告げました。「デビッド兄弟，家を増築するために蓄えた資金をあなたのところに持ってきたら，あなたに使ってもらえるという夢を何度も見たんです。」

デビッドの幼い息子をはじめ，その場にいた全員がテーブルを囲む中で，ピーター・ニールセンは絞り染めの小さなふろしきを取り出すと，金貨を一枚一枚テーブルの上に落としました。デビッド・キャノンが金貨を数えると，ガラス代金に必要なちょうど600ドルです。1時間とたたないうちに男たちは別れを告げ，タバナクルのガラス調達のためにサンバーディーノに向かって荷馬車で旅立ちました。

この実話が「死の谷の日々」で放送されたとき，デビッド・キャノンのあの幼い息子は87歳になっていました。彼はうっとりその話に耳を傾けていました。祈りがこたえられ，人々が驚きの目を見張る中で，金貨が一枚一枚テーブルに落ちていくときの音を，彼は心の中で聞いていたのではないかと私は思います。

タバナクルや神殿は，石材，木材，モルタル，ガラスだけでできているのではありません。使徒パウロが神殿について述べた言葉を読むと，それが真実であることがわかります。「あなたがたは神の宮であって，神の御霊が自分のうちに宿っていることを知らないのか。」（Ⅰコリント3：16）このような神殿は信仰と断食によって築かれます。また，奉仕と犠牲によって築かれます。試練と証によって築かれるのです。

もし今私の話を聞いている兄弟たちの中で，召しに応え，犠牲を払い，ほかの人々に祝福を分かち与える準備ができていないと感じる兄弟がいれば，「神が召される者には神が資格を与えられる」という真理を覚えてください。主はスズメが地に落ちるのさえもご存じです。ましてや，主に仕える人々を見捨てられるはずがありません。

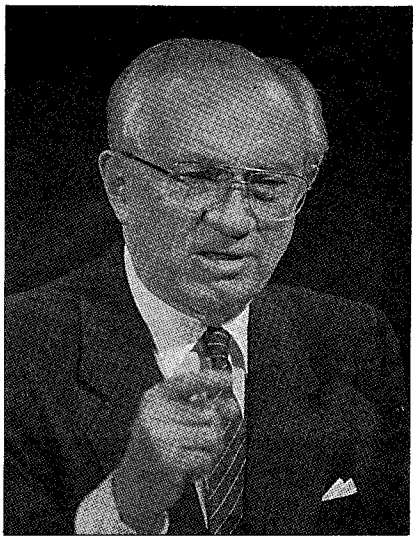
神権を持つ兄弟の皆さんに，神の祝福がありますように。皆さんは「選ばれた種族」（Ⅰペテロ2：9），王国の神権者なのです。

予言者ジョセフの次の言葉に，私たちは確固とした態度でこたえることができますように。「兄弟よ，われらまことに偉なる大義に向って進まざらんや。進み行きて退くことなかれ。奮い起てよ，兄弟たち。進み進みて勝利に至れ。」（教義と聖約128：22）私はへりくだり熱心にこれを祈ります。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

敬虔さと道徳心

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

「仲間の誘惑があってもきっぱりと断わって，皆さんの力と独立心を示してください。その勇気が弱い人々の力となるでしょう。その模範が周囲の人々に決意を促すでしょう。」



ベンソン大管長と幹部の方々の依頼により，すべての教会員にかかわりのある2，3の事柄について話したいと思います。

最初に，集会，特に聖餐会での敬虔さについてです。これは，アロン神権者やメルケゼデク神権者だけでなく，教会員すべてにかかわりのある問題です。

私たちはなぜ聖餐会に行くのでしょうか。もちろん聖餐にあずかることによって誓約を新たにするためです。これは集会の中で一番大切な要素です。また，教えを受け，神につける事柄について黙想し，霊とまこととをもって主を礼拝するためでもあります。私たちが聖餐会に出席するのは，主が啓示の中で言われた次のような戒めがあるからです。

「汝誠に真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て，汝の神に義しき捧物となすべし。

汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様，祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。

そは誠にこの聖日は，汝命ぜられて働きを休み，いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。」(教義と聖約59：8－10)

この世の騒がしい営みを離れて，天の神聖な事柄に思いを寄せるのは，私たち一人一人に必要なことです。50年以上前になりますが，私が英国のロンドンで宣教師として働いたときのことです。当時私たちはバタシー市の公会堂を借りて集会を開いていました。堅い床の上にいすを置いて座っていました。いすが動くたびに音がするのです。しかし，それよりもっと悪いことがありました。支部の会員たちのおしゃべりです。

あるとき，私たちはチラシを配布していて出会った一軒の家族を集会に招待しました。期待に胸を膨らませ，宣教師として彼らを歓迎するために，私たちは入り口の傍らに立っていました。会場はいつものようににぎやかで，会員たちは互いに騒々しく話に熱中しています。この家族は会場に入って来ると，静かにいすのある場所へ行き，少しの間ひざまずいて目を閉じ，祈りを捧げました。そして，周囲の騒がしい中にあって敬虔な態度でいすに腰をかけたのです。

率直に言って，私は困りました。この家族は礼拝行事だと思って訪問し，そのとおりに行動したのです。

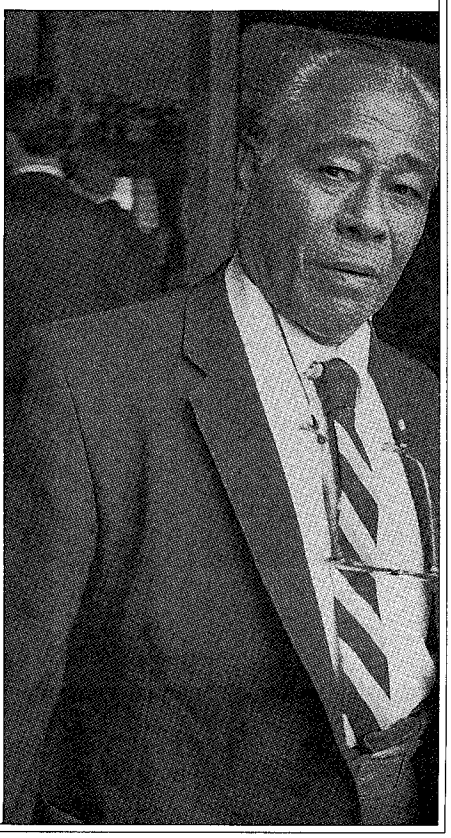
彼らは閉会後，静かに立ち去りました。私たちが次に訪問したとき，この家族はどんなに失望したかを語ってくれました。私はそのときの経験を忘れることができません。

すべての神権者の皆さん，特に監督会の皆さん，美しい礼拝の精神が聖餐会で感じられるよう熱心に努めてください。また，教会の建物の中で敬虔な態度がさらに広く見られるように努力してください。

礼拝堂の通路にはカーペットが敷かれ，多くの新しい建物には床全体にカーペットが敷き詰められていることをうれしく思います。固定式の長椅子が折り畳み式の椅子に取って変わりました。教会の建物を計画，修復，保全する際には，礼拝の精神に影響を与える物理的側面の重要性を常に配慮する必要があります。

音楽も，もちろん大切な要素です。教会の大半の建物にはオルガンが備えつけられています。適切に演奏するなら，集会で礼拝の雰囲気を高めるのに役立ちます。讃美歌を歌ったり，宗教曲の中から曲目を選んでワード部聖歌隊が歌ったりすることも，すべて礼拝の精神を高揚させるのに役立ちます。

社交も教会のプログラムの大切な一面



です。楽しい会話を通して多くの人々と友情をはぐくむようにお勧めします。しかし，そうしたことはロビーで行なうべきであって，礼拝堂に入ればそこが神聖な場所であることを理解しなければなりません。出エジプト記には，燃える芝の中で主がモーセに現われたと記されています。主が呼ぶと，モーセは「ここにいます」と答えました。(出エジプト３：４)

主は言われました。「ここに近づいてはいけない。足からくつを脱ぎなさい。あなたが立っているその場所は聖なる地だからである。」(同５節)

礼拝堂に入るとき，皆さんに靴を脱ぐようにお願いしているのではありません。しかし，主の家に入る人はすべて，聖なる場所を歩き聖なる場所に立っているのだ，という思いを持つ必要があります。そうすれば，ふさわしい行動が取れるでしょう。

壇上に座る人は，良い雰囲気作りに大きな役割を果たします。事前に準備を整え，聖餐会の前に簡単な祈り会を持てば，会が始まってから壇上で耳打ちをする必要はなくなるはずです。

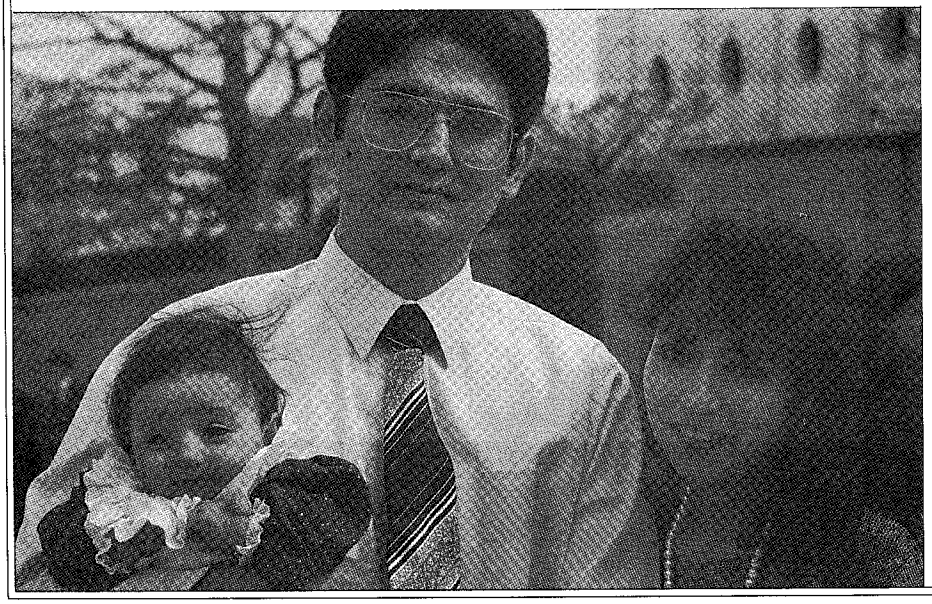
アロン神権者は訓練を受けて，自分たちの執行する聖餐が神聖なものであり，主のみ前に聖いものであることを理解する必要があります。祈りははっきりと，また天父と交わる気持ちで捧げることができるように，励ましと訓練を与えてください。聖餐台の前の祭司は，そこに集った会衆全員を神聖な誓約のもとに置くことになります。祈りは軽率に捧げるべきものではありません。これは義務を負い約束を交わすという気持ちを表明することなのです。聖餐を執行する祭司には，清らかな心を保つと同時に手も清潔にする必要があることを教えなければなりません。

聖餐の執行が終わると，祭司や執事がその場を離れて礼拝堂のあちこちに散っていく光景がよく見られます。祭司たちのいすの座り心地がよくないのかもしれません。もしそうであれば，聖餐の儀式が終わってから静かに最前列に移動できるように，彼らのために席を確保してはどうでしょう。

最も重要な点は，礼拝堂の中で敬虔(けいけん)に振る舞うことの大切さを，人々が，特に若い人たちが理解できるように，彼らを訓練することなのです。

教会員の父親は皆，次回の家庭の夕べで家族とこの点について話し合い，それ以降もときどき家庭の夕べの話題に取りあげてください。次のようなテーマで話し合うとよいかもしれません。「聖餐会の雰囲気をよくするために，私たち一人一人に何ができるでしょうか。」これが実行されれば，すばらしい結果が生じるでしょう。

現在統合化プログラムが実施されていますが，子供たちが集会中座っているには３時間は長い時間です。幼い子供たちを抱える母親にとっても長い時間です。しかし，配慮の行き届いた訓練を施し，置かれた環境の諸要素を慎重に考慮するなら，改善は可能です。たとえば幼い子供を持つ母親は，あらかじめ通路側に席を取るとよいでしょう。必要な場合には静かに席を立って子供の世話をできるようにするためです。



エホバは，いにしえのイスラエル人にこう言われました。「あなたがたはわたしの安息日を守り，わたしの聖所を敬わなければならない。わたしは主である。」(レビ19：30，下線付加)

兄弟の皆さん，家庭の中でこの大切な問題について話し合ってください。役員の皆さんは，計画会の中でこの問題について検討してください。まだまだ改善の余地があり，わずかな努力で事態は好転します。敬虔な雰囲気が高まれば，すべての人が祝福を受けます。皆さんの働きを期待します。

次にきわめてデリケートな問題について取りあげます。私はこれを，昨晩の指導者会で話した方がよいか，この神権部会で話すべきかしばらく迷いました。しかし，多くの人々の関心を集めている話題であり，12，３歳の少年少女にまである程度知れわたっているところから，この席上で取りあげる方が適当であると判断しました。したがって問題の性質上，慎重に話を進めていきたいと思います。

世界中に恐ろしい悪疫が広がりつつあります。公衆衛生関係の行政職員がきわめて憂慮しており，だれもが気をつけなければならない問題です。

米国公衆衛生局の局長は，今後わずか４年間で17万人のエイズ死亡者が出るだろうと予告しています。合衆国以外では，さらに深刻な地域もあります。

エイズ（後天性免疫不全症候群）は多くの場合，命にかかわる病気です。おもに性的な交渉によって感染し，次いで麻薬の乱用から発生します。不幸なことに，病気が蔓延(まんえん)するときはいつもそうであるように，罪のない人々も犠牲になっています。

私たちは周囲の人々と同様，医学的な発見によってこの恐ろしい病気の治癒(ちゆ)と予防が可能になることを望んでいます。しかしそうした発見とは別に，神から授けられただれにもわかる規則を守る方が，ほかの何ものにも増して感染の波を食い止められるのではないでしょうか。それは結婚前の純潔と，結婚後の貞節です。

神の予言者たちは昔から，同性愛，私通，姦淫が重大な罪であることを繰り返し教えてきました。結婚した相手以外との性的な交渉は主から禁じられています。私たちはこの教えをもう一度確認します。人は善悪を選び取る自由意志を与えられています。予言者リーハイはヤコブに次のように教えました。

「それであるから，人はみな現世に於て自由であり，およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命とを選ぶか，または悪魔は万人が自分のようにみじめになることを求めているから，その束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか，これは全く人間の自由である。」（IIニーファイ2：27）

繰り返します。人には善悪を選ぶ権利が与えられています。しかし，選択の結果を選ぶことはできません。神の戒めを犯す人は，霊的および肉体的な危険にさらされます。使徒パウロは，「罪の支払う報酬は死である」（ローマ6：23）と宣言しています。

「肉欲に迷う心は死を招き霊のことを思う心は永遠の生命を招くということを記憶せよ」（IIニーファイ9：39）とヤコブは教えています。

イエスは，行ないだけではなく思いも制御しなければならないという戒めを与えています。「だれでも，情欲をいだいて女を見る者は，心の中ですでに姦淫をしたのである。」（マタイ5：28）

人間の行動には責任という原則が伴います。予言者アルマはこう語っています。「われわれの言葉はわれわれを罪に定め，われわれの行ないもまたみなわれわれを確に罪があるとする。われわれは潔白な者と認められず，思うことでさえもわれわれを罪に定める。このような恐ろしい有様では，われわれは思い切って自分の神を仰ぎ見ることができ〔ない〕……しかし……われわれは仕方なく進み出て神が栄光，能力，威勢，荘厳，主権をもちたもう御前に立ち，尽きぬ恥辱を抱きながら，神の裁判がすべて正義であること……を認めなくてはならない。」（アルマ12：14－15）

肉欲や欲望に勝って思いを制御しなければなりません。思いが，啓示された真理と完全に調和するようになると，行ないもそれに伴って正しくなります。

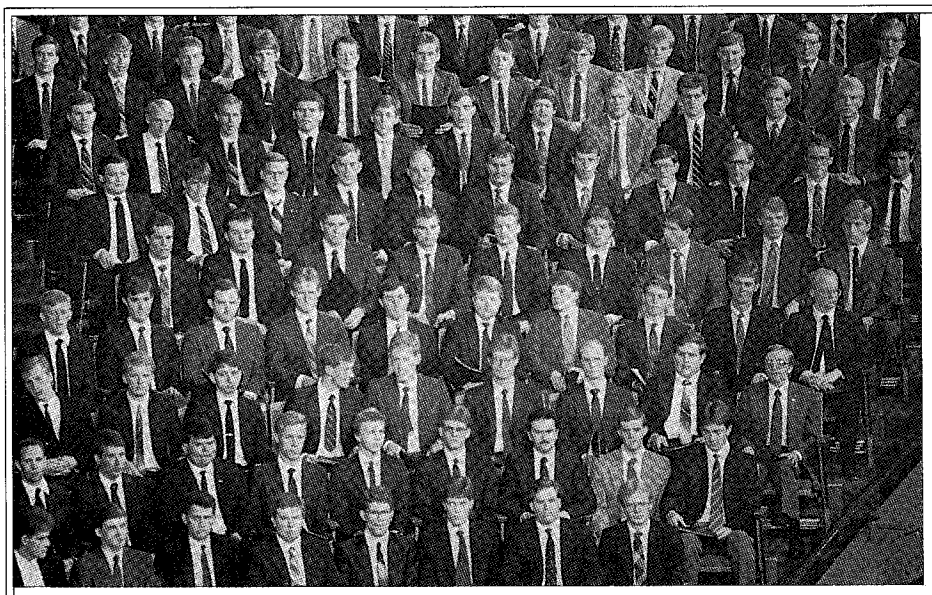
時代を超越した箴言の言葉は，最初にそれが語られたときと同様，今日でも真実です。「人となりはその心に思うそのままであるからだ」（欽定訳箴言23：7）とあります。

私たち一人一人は自己を訓練し，努力を重ねるならば，思いと行動を制御できるようになります。これは霊的，肉体的，情緒的に成熟する過程の一部なのです。

ある予言者はこう教えています。「肉欲に従う人は神の敵であ……る。しかし，人がもし聖霊の導きに従い肉欲に従うことをすてて主キリストの身代りの贖罪に由って聖徒と〔ならなければ〕……とこしえに神の敵となるであろう。」（モーサヤ3：19）

私たちは至る所の人々に対して，創造主の教えに従って生活し，肉体的な誘惑を退け，しばしば悲劇を招く道徳的な背罪を犯さないように，強く要望します。

男女の結婚は神によって定められたものであり，信頼と貞節の絆によって結ばれた永遠の関係でなければならないと主は言われました。すべての末日聖徒は，この神聖な目的を心に抱いて結婚に臨む



必要があります。結婚を，同性愛の傾向や習慣を治癒するための一手段と見なしてはいけません。二度とそうした傾向に陥らず習慣を繰り返さないという固い決意をもって，結婚とは別に克服しなければなりません。

以上の事柄を申しあげたうえで，特に知っていただきたいのは，私たちは罪の苦い結果について考えるとき，罪のあるなしを問わずその犠牲者に対してキリストと同じ同情心を感じるということなのです。罪はとがめても罪人を愛した主の模範に従ってください。苦しんでいる人には，いたわりと慰めをもって手を差し伸べ，必要を満たし，問題を解決できるように援助しなければなりません。しかしここで再度申しあげますが，安全な道，幸福に通じる道は，結婚前の純潔と結婚後の貞節にあります。主はこの神権時代に次のように言われました。「絶えず徳を以て汝の想を飾るべし。」（教義と聖約121：45）注目すべきすばらしい約束がこれに続きます。「然る時は，汝の自ら信ずること神の前に強くなり……，聖霊は常に汝の伴侶となり，汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり，汝の支配は永遠の支配とな〔る。〕」（同46節）

最後に，以上と関連する事柄について話したいと思います。それは世界中で疫病のように広がっている「セックスアドベンチャー」と呼ばれるものです。

学校で行なわれている性教育は，深刻な問題である十代の妊娠，中絶，そのほかの悲しむべき事柄に対する解決策であると考えている人が，大勢います。

公立学校における性教育の是非をここで論じるつもりはありません。しかし，一言申しあげれば，新聞「U.S.A.トゥデイ」に掲載されたある方の意見に，私は賛成します。「公立学校における性教育にこれまで以上に力を入れたところで，婚姻前の純潔と婚姻後の貞操について，はっきり教えない限り，性革命がもたらした有害な影響を排除することはできない。現今の性教育の課程には多くの欠陥がある。その背後にある思想は純潔をあざ笑い，貞節を軽んじて，セックスアドベンチャーを美化している。善悪は存在しないと教えているのである。……

性の解放が提唱されて30年，性病は猛威を奮い，十代の妊娠がはびこるようになった。……公立学校における性教育は，性に関して正しい選択ができるような倫理観を育成するよりも，青少年の道徳的な感覚を取り去っている。……

現在の性教育は人間本来の慎みや道徳心に反するものである。」（トティー・エリス『性に潜む危険を子供に教える』「U.S.A.トゥデイ」1987年3月16日付，p.12A）

私たちの中には，この筆者が述べた慎みと道徳心が存在します。今晩この会場に集っている若い男性に申しあげますが，不道徳の中に幸福はありません。純潔の中にあるのです。主はこの点を明言しておられます。また，人間の歴史がそれを実証しています。教会は徳を守るように呼びかけています。雄々しく悪を退けるように呼びかけています。性的な違背は罪であると宣言しています。それは主のみこころに背き，教会の教えに反し，人の幸せや福利に逆らうものです。

次の点を覚えておく必要があります。忘れてはなりません。天の知恵と経験は，人格を強め，心の平安を得，人生で幸福に至る道が，徳と道徳的な清さにあることを教えているのです。数千年に及ぶ歴史を11冊の大部の書物に著わしたウィル・ダラントとアリエル・ダラント夫妻は，次のように述べています。「思春期の若人は自分の性の欲求に完全な自由を与えてどこが悪いのかと思うであろう。しかし，もし習慣や道徳，法律などで規制されなければ，彼らは十分成熟する前に人生を台無しにしてしまうに違いない。性とは火の川であって，個人や社会がそのための破滅から免れるには制御する必要がある，ということを理解する前に人生を破壊してしまうのである。」（「歴史の教訓」pp.35－36）

若い兄弟の皆さん，皆さんは主から実に多くの恵みを授かっています。歴史が始まって以来，主はこの大切な時代に皆さんを地上に送ってくださいました。主は皆さんのためにこの栄えある福音を地上に回復し，それにあずかれるようにしてくださいました。これほど豊富な知識，経験，富，機会を与えられた時代はほかにありません。

皆さん自身のために，皆さんの現在と将来にわたる幸せのために，皆さんの次の世代のために，疫病を避ける場合と同じように性的な罪を遠ざけてください。

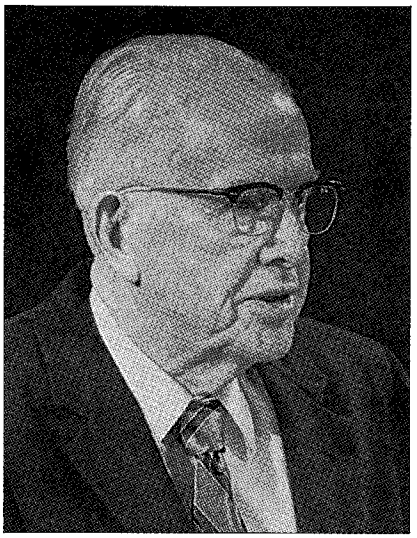
仲間の誘惑があってもきっぱりと断わって，皆さんの力と独立心を示してください。その勇気が弱い人々の力となるでしょう。その模範が周囲の人々に決意を促すでしょう。

貴い生得権を持ち，偉大な約束を受けた愛する兄弟の皆さん，皆さんの上に神の祝福がありますように。「神の命に従って生き」てください。（アルマ37：47）皆さんにそのようにする力が与えられますように，へりくだって祈り，私の愛と祝福を皆さんに残します。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

教会のホームティーチャーへ

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

「ホームティーチャーほど偉大な教会の召しはほかにありません。天父の子供たちが教会から受ける援助の中で，謙遜で献身的な決意に満ちたホームティーチャーの奉仕ほど大きな助けはほかにありません。」



愛する神権者の皆さん，今宵皆さんと共に集い，神のみこころにかなう優れた人々の話に耳を傾ける機会を持てるのは喜ばしいことです。私は皆さんの持っておられる力と信仰を感じています。今晩この会場に集ってくださった方方に賛辞を送りたいと思います。

今宵皆さんにお話しできるこの機会をうれしく思っています。私は施行された当初から神の霊感を受けて進められてきた神権プログラムについてお話しする必要があると感じています。このプログラムによって心を揺り動かし，生活を改善し，人を救うことができます。このプログラムは天父の承認の印を受けています。これは非常に重要なプログラムであって，忠実に実行するなら教会の霊性を一新し，個々の会員と家族を昇栄に導く助けとなるでしょう。

そのプログラムは神権ホームティーチングを指します。皆さんがみたまを受けて，ホームティーチングに対する私の思いを正しく理解してくださるように，心から願っています。

兄弟の皆さん，ホームティーチングはありきたりのプログラムではありません。聖徒たちを見守り，教会の使命を達成するための神権による手段なのです。ホームティーチングは単なる割り当てではなく，聖なる召しなのです。

ホームティーチングを軽く考えてはなりません。ホームティーチングの召しは主イエス・キリストがみずから親しく皆さんを召されたかのように受け入れる必要があります。

救い主ご自身も教師でした。地上に生を受けたこの唯一完全なお方は，謙遜で献身的な霊感に満ちた教師であられました。ご自身に従った人々には救いと昇栄をもたらされたのです。

私の願いは，教会のすべての兄弟たちがホームティーチングの重要性を理解することです。

今晩私は新しい教義を取りあげている訳ではありません。これまでにあった教義を再確認しているのです。教義と聖約第20章を開けてみましょう。予言者ジョセフ・スミスが1830年4月に受けたこの啓示の中で，主は神権者に次のように宣言しておられます。

「常に教会員を守護し，彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす。また教会員の中に邪曲なきよう……注意すべきものとす。また教会員のしばしば集会することをはかり，またすべての会員にその義務をつくすようになさしむ。」(53－55節)

「また各会員の家庭を訪れて，彼らが声を挙げてもひそかにても祈りを為し，すべて家庭の務めにいそしむよう勧めをなすなり。」(51節)

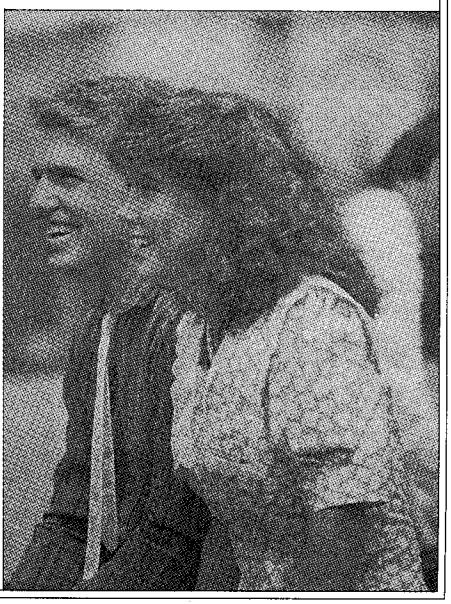
兄弟の皆さん，これが神権ホームティーチングなのです。

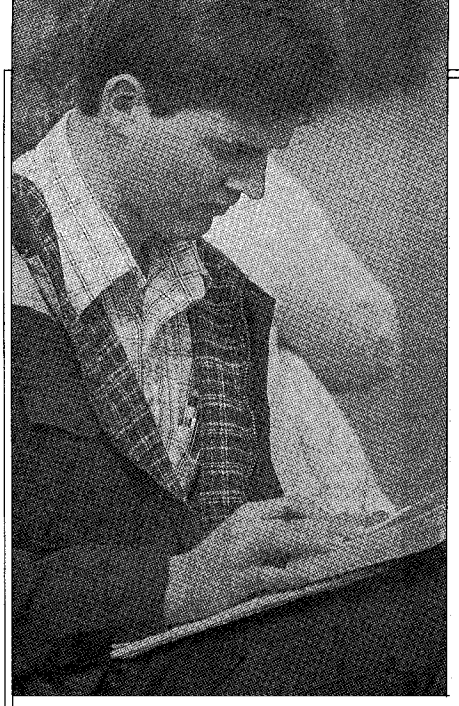
この種のホームティーチングは，初期の弟子たちによってキリストの時代にも行なわれていました。モルモン経の時代にも実践されています。モルモン経ヤコブ書第1章には次のように記されています。

「私ヤコブと私の弟のヨセフとは，すでにニーファイの按手によってこの民を教え導く祭司と教師とに立てられていた。私たち二人は主の御前にその職をつくして責任を負い，私たちがもしも一生けんめいに神の道を民に教えなかったならば，民の犯した罪の責任を私たちが負わなくてはならないことを認めた。」(18－19節)

この霊感されたプログラムが近代に開始されて以来，教会の指導者は再三再四ホームティーチングの大切さを強調してきました。

マリオン・G・ロムニー会長はかつて総大会で次のように述べました。「正しく機能を果たしているホームティーチングの下では，神聖な任務を託され，神権指導者と監督から権能をもって召された2名のホームティーチャーが『各会員の家





庭』を訪れる。これらのホームティーチャー，すなわち神権者は，主イエス・キリストの代理として，各教会員の福祉に心を配る，重要で栄えある責任を果たすものである。彼らは，家庭と教会の両方で義務を果たすように各会員を促し，励まさなければならない。」(「ホームティーチング集会」1966年4月8日)

デビッド・O・マッケイ大管長は次のように語っています。「ホームティーチングは，天父の子供たちを養い，鼓舞し，助言し，指導するために，最も差し迫った報いの大きいプログラムのひとつである。……それは神聖な奉仕の機会であり，天よりの召しである。ホームティーチャーとして，天からの霊感をあらゆる家庭に，人々の心の中にもたらす務めは，私たちの義務である。この務めを愛し，全力を尽くすなら，高貴で献身的な神の子供たちのホームティーチャーに，計り知れない平安と喜びと満足がもたらされるであろう。」(「指導者用手引き」前文)

メルケゼデク神権およびアロン神権を持っておられる善良な兄弟の皆さん，ホームティーチングは啓示されたプログラムなのです。

ホームティーチングは養い，愛し，活発な会員にもお休み会員にも個人的に手を差し伸べるための原点なのです。

それは神権による慈善奉仕です。

私たちの信仰を実際の行ないに示すための手段です。

私たちが真の弟子であるか否かを試されるひとつの試験です。

教会が行なう活発化に中心的な役割を果たすものです。

「それ，小なる事より偉大なる事起る」(教義と聖約64：33) という聖句を成就させる召しなのです。

ホームティーチャーほど偉大な教会の召しはほかにありません。天父の子供たちが教会から受ける援助の中で，謙遜で献身的な決意に満ちたホームティーチャーの奉仕ほど大きな助けはほかにありません。

効果的なホームティーチングに欠かせない基本となる3つの事柄があります。それらを簡単に検討してみましょう。

第1は，ホームティーチングの担当家族をよく知るということです。

本当に知るのです。よく知りもしない人のためによく奉仕することはできません。マリオン・G・ロムニー会長は次のように強調しています。

「各ホームティーチャーは担当家族の中の子供や青少年，大人一人一人と『個人的に』親しくなる必要がある。

ホームティーチャーとしての義務を申し分なく果たすには，神権者として，また監督の代理として世話を託された家庭，家族の中のすべての子供，青少年，大人，つまり全員の態度や活動，興味，問題，職業，健康状態，幸福度，計画と目的，肉体的，物質的，霊的な必要や環境などに常に心を配っていなければならない。」(「神権ホームティーチングセミナー」1963年8月9日，pp. 3－4)

そして効果的に家族に働きかけるための鍵は，父親との連絡を密にしておくことです。家族に対する父親の正しい望みを知り，それを実現できるように父親を助けてください。ささいなこと，小さなことであっても，家族にとっては大きな意味を持つ事柄を実行するように，ぜひとも皆さんに勧めます。たとえば，家族全員の名前を覚えてください。誕生日や特別な祝福を授ける日，バプテスマ，結婚式などに注意してください。ときには，顕著な業績をあげたり，功績を残したときに電話やカードで称賛の言葉を送ってください。

ホームティーチングの同僚と定期的に「メルケゼデク神権手引き」(PBCT 0044JA) の8ページから10ページまでを検討し，担当家族に役立つ優れた提案を見つけてください。

とりわけ，担当の家族や個人と真の友情を築いてください。ちょうど救い主が「われ汝らを友と呼ばん。汝らはわが友……なり」(教義と聖約93：45) と私たちに言われたのと同じです。友人は毎月義務で行なう以上の訪問をします。友人は割り当てを果たすこと以上に相手への援助に関心を向けます。友人は愛を示し，耳を傾け，手を差し伸べます。

ロムニー会長は，ある寒い晩にロムニー家を訪問したいわゆるホームティーチャーについてよく話しました。私たちはその話を覚えています。このホームティーチャーはいすに腰を下ろしてメッセージを伝えてくださいと勧められても，帽子を手にしたまま，そわそわしていました。そしてこう言ったのです。「ではお伝えしましょう，ロムニー兄弟。外はだいぶ寒いので，車のエンジンをかけたままにしてきましてね。実は監督に報告できるようにちょっと寄っただけなんですよ。」

兄弟の皆さん，私たちにはこれ以上のことができるはずです。もっとよくできるはずです。

効果的なホームティーチングの2番目の基礎は，各家庭に携えていくメッセージをよく知ることです。そして，それは主が担当の家族や個人に伝えてほしいと望んでおられる特別なメッセージであることを知る必要があります。

ホームティーチャーは心の中に目標や目的を持ち，それを達成できるように毎回の訪問を計画する必要があります。訪問の前には同僚と会って一緒に祈り，指導者からの指示を確認し，これから家族のところに携えていくメッセージについて検討し，特別な必要がないか話し合います。

ホームティーチャーは，自分たちで準備したものか，または神権指導者から受けた大切なメッセージを伝えなければなりません。毎月「聖徒の道」に掲載される大管長会メッセージを，ホームティーチャーが利用してくださるように強くお勧めします。家長が家族のために特別なメッセージを依頼することもできます。

また，メッセージを伝えるときに忘れてはならない点ですが，できる限り担当家族と一緒に聖典を読んでください。訪問のたびにそれが習慣となるようにしてください。特にモルモン経の中から，皆さんが伝えるメッセージを強調できるような聖句を一緒に読んでいただきたいと思います。そのとき予言者の次の言葉に心を留めてください。「人はその（モルモン経の）教えに従うことにより，ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」（モルモン経「序文」）皆さんの担当家族はモルモン経が持つ力を絶えず必要としているのです。

私たちの伝えるメッセージが，アルマが当時の教師たちに与えた命令に添うものであるように願っています。「アルマは，自分が教えたことと，聖い予言者らが言ったことのほかは何ごとも教えてはならないとこの祭司たちに命じた。」（モーサヤ18：19）

適切なメッセージを携えて訪問し，みたまによって教えてください。みたまはこのみ業の中で唯一最も大切な要素です。担当の家族は皆さんの愛と関心をみたまを通して知り，メッセージが真実であることを理解し，従いたいという望みを持つのです。

ホームティーチャーとして皆さん自身がみたまを受けられるような生活を心がけてください。効果的に教えられるように福音にのっとった生活を送ってください。

アルマは私たちに次のように教えています。「『誰であっても神の心にかない神の道を歩み神の命令を守る者でなければ，その人を信じて教師または教会の指導者にしないようにしてほしい。』……祭司らと教師らはみな（アルマの手を経て）聖められたが，正しい人でなくては何人も聖められなかった。それであるから，祭司らと教師らはその民を見護（みまも）り義しさに関わる教訓を与えて民を養った。」（モーサヤ23：14，17－18）

次の点も忘れてはなりません。すなわち，できるときにはいつでも，訪問のたびに家庭で祈る必要があります。皆さんが祈るように指名されたときには，みたまによって真心から祈り，担当の家族や個人のために主の祝福を求めてください。

●十二使徒定員会会員のボイド・K・パッカー長老（左），マービン・J・アシュトン長老とあいさつを交わす大管長会

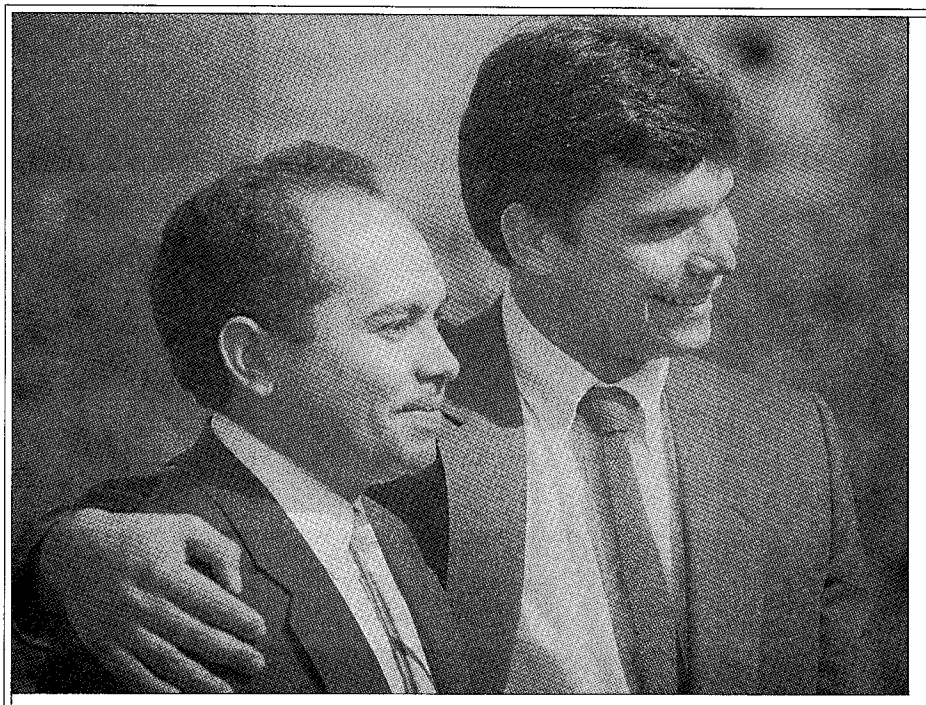
そうです。効果的なホームティーチングのふたつ目の原則とは，自分の伝えるメッセージをよく知り，みたまによって教え，メッセージを伝えるときには必ず祈り，聖典を読むことなのです。

では，効果的なホームティーチングのための最後の要素を紹介しましょう。それはホームティーチャーとしての召しを全力を尽くして遂行するということです。

ホームティーチングというこの偉大な神権プログラムに対して，月並な訪問で満足していてはなりません。どの点をとっても優れたホームティーチャーになってください。群れの真の牧者となってください。月の初旬にホームティーチングを行ない，必要に応じてさらにフォローができるように十分な時間を取っていただきたいと思います。

できれば毎回はっきりとした訪問の約束を取ってください。担当家族に訪問の日時を知らせ，彼らの時間を尊重してください。

メルケゼデク神権者の皆さん，アロン神権を持つ青少年が皆さんの同僚である場合は，彼らをよく訓練してください。担当家族と接触し，レッスンを行なう際に，青少年を効果的に活用してあげてください。ホームティーチングを尊ぶ気持



ちをこうした若い人々に知らせてください。彼らが先輩同僚になったときには，皆さんと同じようにその召しを愛し，全力を尽くして働くようになるでしょう。

忘れないでください。影響力のあるホームティーチャーになるには，質と量の双方が不可欠なのです。皆さんは質の高いレッスンを行なう必要がありますが，同時に，どの家族とも毎月ホームティーチングを行なう必要があるのです。担当家族すべての牧者として，活発な家族にも教会をお休みしている家族にも，99匹の小羊に手を差し伸べるだけで満足してはなりません。目標はあくまでも毎月100パーセントのホームティーチングでなければなりません。

質の高いホームティーチングが行なえるように，神権指導者は一組のホームティーチャーに3軒から5軒を越えて担当家族または個人を割り当てないようにしてください。これがむずかしい場合もあるでしょう。しかし，祈りの気持ちをもって，これらの割り当てについて考慮してくださるようにお勧めしたいと思います。

担当家族の一人一人を大切に見守ることが肝要です。モルモン経にはこの原則が美しく説かれています。モロナイ書第6章には次のような聖句があります。「人々はバプテスマを施され，……キリストの教会の会員の中に数えられ，その名を書き留められた。それはこの人々を忘れてなおざりにせず，神の善い教えでこの人々を養いたえず善い道をふませ，たえず慎んで祈ることをつとめさせ，またこの人々の信仰のもとであり信仰を完全になしたもうたキリストの功徳にだけ頼らせるためである。」（4節）

兄弟の皆さん，私たちが担当の家族や個人全員を心に留めて毎月彼らを「数え」，彼らが正しい道を歩めるように神の良いみ言葉で担当家族を養えるように願っています。

定員会の指導者の皆さんは，毎月霊的なホームティーチング面接を行なって，ホームティーチャーの働きについて報告を受け，現在の必要を評価し，翌月の割り当てを行ない，ホームティーチャーが神聖な召しを遂行できるように教え，強め，鼓舞してください。ホームティーチャーとのこのような面接は，指導者にとって進行状況を評価し，自分が仕えるように召された個人や家族に，より一層奉仕するための機会をもたらしてくれます。

最後にホームティーチングに関する私自身の証を述べて，この話を終えたいと思います。私はアイダホ州ホイットニーで過ごした少年時代を，まるで昨日のことのように覚えています。私の家は農家でした。子供たちが外で野良仕事をしていると，父が庭先から大声で私たちを呼び集めたのを覚えています。「馬をつないで，戻ってくるんだ。ワード部ティーチャーが来てくれたぞ。」私たちが何をしているときでも，それがワード部ティーチャーの話を聞くために，居間に集まるための合図になるのでした。

このふたりの忠実な神権者は，徒歩か馬に乗って毎月やって来たものです。私たちは，ホームティーチャーは毎月来るものだと思っていました。彼らの来なかった月を思い出すことができません。その訪問はすばらしいものでした。ふたりはいすの後ろに立って，家族に話しました。そして輪の中を回って一人一人の子供に声をかけ，自分の務めを果たしているか尋ねるのでした。私たちが正しく答えられるように，ときどき母や父がワード部ティーチャーの来る前に心構えをさせてくれたものです。私たち家族にとってその時間は貴重なものでした。彼らは常にメッセージを携えてきて，それらは必ず役立つものだったからです。

ホイットニーでのこうした初期の時代から，ホームティーチングについて数多くの改善が加えられてきました。しかし基本的な点では今なお変わっていません。そこには同じ原則が見られます。思いやりを示し，手を差し伸べ，みたまによって教え，毎月大切なメッセージを伝え，家族の一人一人に愛と関心を寄せることです。

ホームティーチャーに神の祝福がありますように。皆さんは，個人と家族を強め見守るために，防衛の最前線にいるのです。

皆さんの召しが神聖であって，天より授けられた責任であることを理解してください。

担当家族をよく知ってください。また，メッセージをよく知り，みたまによって伝えてください。そして最後に，ホームティーチャーとしての召しを真に全力を尽くして果たしてください。

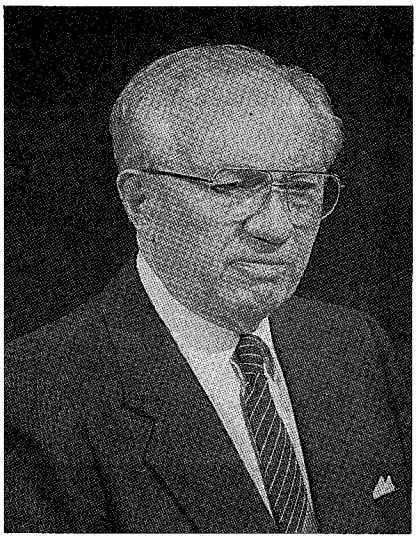
そうするときに，人々の心に触れ，生活を変え，救いが得られるように助けるときに伴う天の祝福と，言葉では表現できないほどの喜びが与えられることを約束いたします。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

●1987年4月5日（日）午前の部会

神のみ手に使われる僕

第一副管長
ゴードン・B・ヒンクレー

「末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史の中に，今日ほど輝かしい時代はありませんでした。」



兄弟姉妹の皆さん，このすばらしい大会に共に出席でき，うれしく思っています。主の力強いみ業が予言どおりに成就している様を生きて目のあたりにすることができ，感謝しています。

末日聖徒イエス・キリスト教会の歴史の中に，今日ほど輝かしい時代はありませんでした。また主のみ業が今ほど栄えた時代もありません。

そして全世界の末日聖徒がこれほど大きな喜びと感謝の念に満たされた時代もありません。

昨日は教会の年次統計報告が発表されましたが，退屈な数字の羅列にしか思えなかった人もいるかもしれません。しかし私にとっては，その数字はまさに奇跡の現われでした。年度末現在の教会員数は600万をはるかに超えました。1830年4月6日にピーター・ホイットマーの丸木小屋で，6人で始まったときのことを考えると，実にすばらしい成長ぶりです。

1986年の末におけるシオンのステーキ部数は1,622でした。最初の小さなステーキ部がカートランドで組織されたのは，1831年でしたが，当時と比べると考えられないほどのすばらしい成長です。

また，昨年度末現在，植民地などを含め全世界122カ国に及ぶ15,000以上の場所で，この教会の集会が開かれています。また伝道部数は193を数え，32,000人の宣教師がその中で働いています。教会が組織される前に，サミュエル・スミスがたったひとりで，リュックに数冊のモルモン経を入れて伝道したことがあります。彼はニューヨーク州西部の道を歩き，ここに1冊あそこに1冊とモルモン経を置き，それを読んだ人々の生活を神に向けさせようとしました。

モルモン経の初版5,000冊は，物惜しみしないマーテン・ハリスが自分の農場を抵当にして得たお金で出版されたものでした。昨年印刷，発行された英語版のモルモン経は164万3,000冊で，ほかの言語の版を含めると全部で約300万冊にもなります。

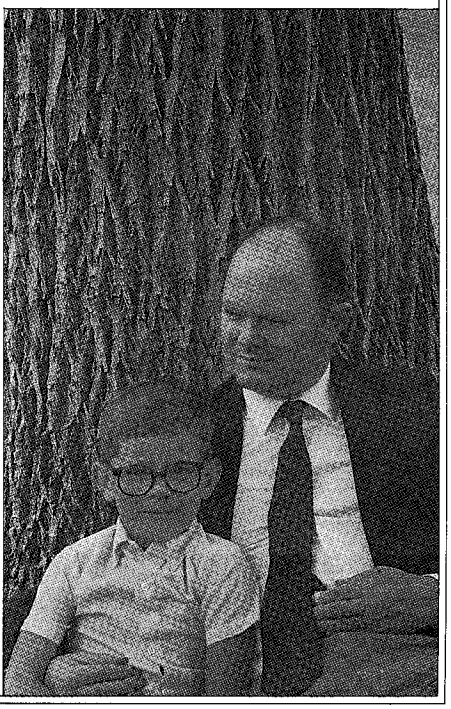
マーテン・ハリスはいろいろと弱点もありましたが，彼はこの神聖な記録を出版するために，自分の土地を抵当に入れてお金をつくりました。私はそこまでした彼を深く愛しています。この信仰ある行ないによって，地上の数多くの人々が，心を変え，主に対して証を持ち，主を愛するようになってきました。私はさらに神に近づくことができるという約束とともに，モルモン経を読むようにとの勧告を現在の予言者から繰り返し与えられていることに感謝しています。

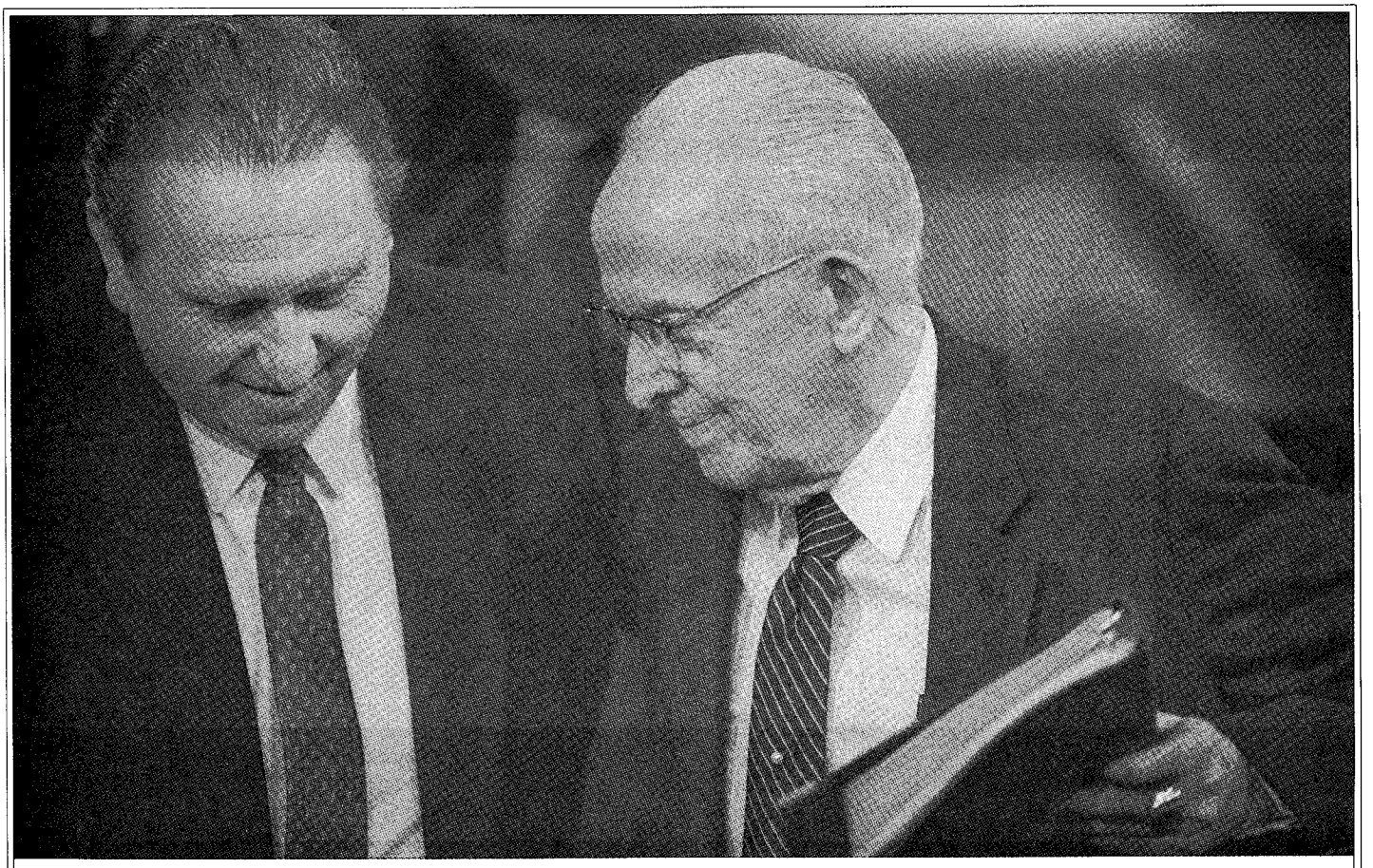
教会では毎週，支出承認委員会が開かれ，礼拝堂の建設などのために教会基金を用いることについて討議，承認がなされます。そこで提示されるのは大体，ワード部やステーキ部の名前，それに金額を示す数字です。

毎週行なわれるこの会の様子を部外者の人が見ていたら，何と退屈なことかと思うかもしれませんが，私には絶え間ない奇跡の連続と感じられます。ここで，その会のごく普通のアジェンダの中から短く紹介してみたいと思います。

(1)ヘルシンキ・フィンランドステーキ部ミッチリワード部，(2)ラパス・ボリビア・ミラホーレステーキ部オラジェスワード部，(3)ブエノスアイレス・アルゼンチン・キルメスステーキ部キルメス・オエストワード部，(4)サンパウロ・ブラジル北ステーキ部カンポ・グラシデワード部，(5)ブリスベーン・オーストラリアステーキ部ギンピーワード部，(6)ソウル韓国カンソーステーキ部ブチョンワード部，(7)ボゴタ・コロンビア・ケネディーステーキ部ケネディー第1ワード部，(8)カラカス・ベネズエラステーキ部カウリマエワード部。このほかにもまだありますが，これらはこのみ業が世界各地で進展していることを示しています。

このようにすばらしいことが教会のユ





ニットの集会場建設のために毎週毎週行なわれているのです。

この神権時代に教会が最初に建てたのはカートランド神殿ですが，それからまだ151年しかたっていません。何とすばらしい成長ではないでしょうか。

このタバナクルの一角を占めるテンプルスクウェアについてもいろいろと考えることがあります。テンプルスクウェアは，アメリカでも有数の観光地となっています。昨年ここを訪れた人の数は，260万にのぼります。ある週にここを訪れた人々が残した証の中から幾つか紹介したいと思います。

ミシガン州から来た長老派教会の会員。「モルモンのイエス・キリストに対する強い信仰を見させていただきました。」

カリフォルニアのあるキリスト教徒から。「テンプルスクウェアは私にとって大変な衝撃でした。ぜひもっと勉強したいと思います。」

カリフォルニアから来たバプテスト教会の牧師。「本当にすばらしい経験でした。非常に驚きました。皆さんの上に神の祝福があるように。」

アルゼンチンからの観光客。「私にはこの教会が必要です。」

ウィスコンシン州のルーテル教会の会員。「人生の目的を見失っていましたが，モルモン経を読んで心に強く感ずるものがありました。」

オーストラリアからの訪問者。「キリストの生涯について教えてくださったガイドの方に感謝しています。」

イリノイ州からの観光客。「シカゴにもこの教会があるとよいのですが。」

カナダから来たバプテスト教会の会員。「テンプルスクウェアで感じた平安をいつも心の中に保っていたいと思います。」

英国国教会の会員。「私は，この教会の会員になりたいと思います。それは可能なことでしょうか。」

これらはみな，奇跡と呼ぶに値するものではないでしょうか。ついでにもうひとつ，注目に値するすばらしいことについて話したいと思います。この7月にイギリスに伝道が開始されて150周年を迎え，英国諸島の教会員はその記念行事を行ないます。英国への伝道もまた，信仰による行ないのなせる業でした。1830年当時，末日聖徒はふたつの場所に集合していました。大半の教会員は，カートランドとその周辺に集まっていました。そしてもうひとつは，カートランドから約1,200キロ離れたミズーリ州でした。当時は，経済的に不況の時代で，たくさんの銀行が倒産し，多くの人々が財産を失いました。カートランドの教会も例外ではありませんでした。あら捜しや悪口が教会に脅威を与えていた時代でした。このような状況にあったときに，ジョセフ・スミスがヒーバー・C・キンボールに次のように言いました。「ヒーバー兄弟，主のみたまが私にささやきました。わが僕ヒーバーを英国に遣わし，わが福音を宣言し，かの国に救いの門戸を開かしめよと。」（オルソン・F・ホイットニー「ヒーバー・C・キンボールの生涯」p.104）

この召しは非常に重要な意義を持つものでした。だれかごく普通の人がほかの人に対してこのような命令を下すというようなことが，信じられるでしょうか。その召しを引き受けるということは，貧しい家族をあとに残し，自分も一銭の金も持たずにニューヨークへ行き，さらに

は大西洋を越えていくということを意味しているのです。また，辺境の地で学校教育もろくに受けずに育った人が，高い教育と知性を具えた人々が住むイギリスの大都市へ行くということなのです。ヒーバー・C・キンボールもためらいを感じました。そのような数々の問題が彼の脳裏をよぎりました。それでも彼は，日記の中にこう書いています。

「こうした問題について考えてみても，自分の責任を避けることはできなかった。天父のみこころを理解すると，どんな困難があろうとも，その召しにこたえようという気持ちになった。私は神がその全能の力をもって助けてくださり，必要な力をすべて授けてくださると信じた。確かに家族は私にとってかけがえのない存在で，ほとんど無一物の状態で彼らをあとにするのは忍びなかった。しかし，キリストの真理の教えと福音は，何にもまして大切なものであった。」(「ヒーバー・C・キンボールの生涯」p.104)

7月にはこのときのことについて数多くのことが語られると思いますが，ジョセフ・スミスから召しを受けたヒーバー・C・キンボールと6人の同僚が，家をあとにし，陸地を進み，海を越え，英国諸島に力強いみ業の基を据えたと言うだけで十分だと思います。やがて福音はイギリスからヨーロッパへ広められ，さらには全世界へ広められていくようになったのです。これらのことは，一体何を示しているのでしょうか。それは，神のみ手の偉大な現われであり，また，予言者ジョセフ・スミスの力強い影響力の現われです。彼は聖典の中に語られたこの時満ちたる神権時代を開くように召され，聖任された予言者です。今も昔と同じように，多くの人々が彼のあら捜しに多くの時間を費やし，ジョセフ・スミスが語ったとはまったく無縁の事柄をもとにして，彼を批判しています。

常に成長し，常に力を増し加えてきたこのみ業の基を築くために，ジョセフ・スミスと共に働いた人々がいますが，彼らの言葉と比べてみた場合，このような批評家たちの言葉に，どれほどの真実性があるのでしょうか。ここで，ジョセフ・スミスをよく知り，彼と共に働き，祈り，苦しんだ人々，また彼が全能者に油注がれたこの時代の予言者であることを確信し，そのためにこの世的な喜びや富を捨てた人々の証をいくつか紹介したいと思います。

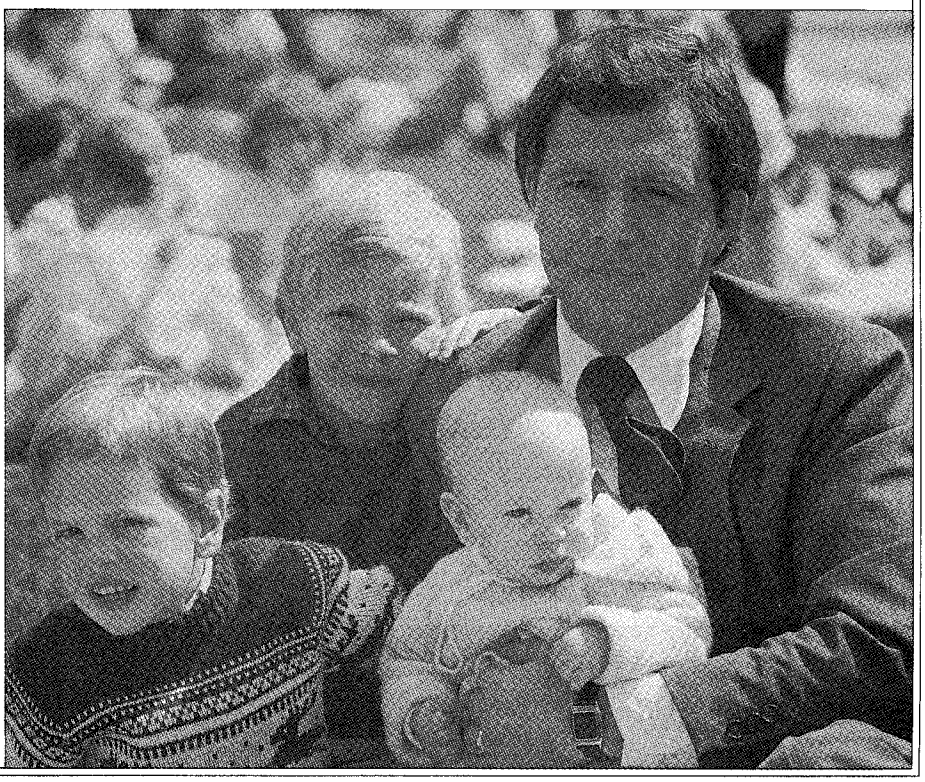
最初は，教会に入るまでに2年間福音を研究したブリガム・ヤングの言葉です。彼はジョセフ・スミスについて次のように言っています。「ジョセフ・スミスを非難してよしとされる人があるだろうか。私はほかのだれにもまして彼を知っている。彼の両親でさえも私ほどは彼のことを知らないであろう。この地上に生を受けている人の中で私以上に彼のことを知っている人はいない。私は声を大にしてこう言う。イエス・キリストを除いて彼ほど立派な人物は存在しなかったし，これからも存在することはないであろう。私は彼の証人である。」(ブリガム・ヤング「ブリガム・ヤング説教集」p.459)

ジョン・テイラーはイギリス出身の才能と学識に恵まれた説教師であり，聡明な人物であった。彼はこう言っている。「私は長年にわたってジョセフ・スミスと親しくしてきた。一緒に旅をし，公の場でも私的な場でも共に時間を過ごし，様々な集会に一緒に出席し，何百回も彼の公開説教，また個人的に友人や仲間に与えた助言などを聞いてきた。……私は彼がカーセージの牢獄で顔を黒くぬった残忍な暴徒たちに殺されたときも，生きてその場に居合わせた。そのときは私自身も身に傷を受けた。このように私は様々な状況の中で彼を見てきた。私は神と天使と人の前に，彼が善良，正直，高潔な人物であることを証する。彼は私的にも公的にも非の打ちどころのない人物で，神の人として生き，死んだのである。」(エズラ・C・ダルビーによる引用『神の予言者ジョセフ・スミス』1926年12月12日，ソルトレークにおける話)

ウイルフォード・ウッドラフは教会が組織された3，4年後にバプテスマを受けた人です。彼はカートランドへ行き，そこでジョセフ・スミスに会いました。それからミズーリ州まで彼と共に旅をしました。彼の言葉を読んでみましょう。

「私たちは千数百キロの距離を共に旅しました。そのとき私は神とその予言者の結びつきがいかなるものかを初めて知りました。私は彼が予言者であることを完全に理解しました。示現を読み，彼が受けた啓示を読んで，それらは地上の人間が考え出したものではなく，全能の神の霊感によって与えられたものであるということを悟りました。」(マシアス・F・カウリー「ウイルフォード・ウッドラフ」p.610)

オルソン・プラットは聡明さと鋭敏な



精神を兼ね備えた人物でしたが，ジョセフ・スミスについてこのように言っています。

「私は1830年に予言者ジョセフ・スミスを親しく知るようになり，以来，彼の死に至るまでその関係を続けてきました。私は非常に恵まれて……彼の家で……寝起きし……公的な教師としてだけでなく，ひとりの市民，また夫，父親としての彼もよく知ることができました。私は彼が家族と共に朝夕熱心に謙遜な祈りを捧げる姿を目にし，彼の口から家族，隣人，友人を力づけ励まし慰める永遠の生命の言葉が語られるのを聞きました。彼が聖霊の霊感を受け，かけがえのない啓示の言葉を語り伝えるときには，その顔は輝いていました。彼が受けたその啓示は私たちを導くために今では印刷物になっています。……

私は彼が神の人であることを理解していました。それは私の単なる個人的な考えではありません。天から証を受けたのです。」（エズラ・C・ダルビー，p.14）

今申しあげてきたのは，ジョセフ・スミスに親しく接し，彼のためなら命をも捨てようと思っていた人々の賛辞です。

しかし，信仰こそ違え，ジョセフ・スミスへの賛辞を惜しまなかった人々もいました。そのような人物の例として何度もあげられるのが，ニューイングランドの聡明な人物ジョサイア・クインシーです。彼は予言者が殉教する43日前にノーヴーを訪れ，のちにはボストンの傑出した市長となった人です。彼は予言者ジョセフ・スミスについて次のように述べています。

「経済的に最も貧しい階層の中に生まれ，学校教育もほとんど受けず，きわめてありふれた名前を持つこの人物は，39歳の年齢で，この世においてきわめて大きな影響力を持つ存在となったのである。スミスという姓を持つ人は数多くいるが，このジョセフ・スミスほど人々の心を捕らえ，生活を変えた人はほかにいない。それが良いものであるにせよ，悪いものであるにせよ，彼は今も強い影響力を人人に与えているのである。その力は人々の間からいまだに消えていない。」（ジョサイア・クインシー「思い出の人々」p.400）

この力強い予言者を愛したある人は，次のように述べている。

「自分が唱道する大義のために，命を捨てる人は，おのが正直さと誠実さを問う最大の試練にこたえるのである。人が自分の証に命を捧げるとき，批判者は皆口をつぐみ，すべての声はその犠牲者の前に畏敬の念をもって完黙する。」（エズラ・C・ダルビー，p.1）

彼が全能者の力と霊感によって世に出したモルモン経だけを取っても，彼の名を歴史の中に永遠にとどめるに十分です。神の力により，ジョセフ・スミスを通して与えられたこの驚くべき啓示の言葉に加えて，私たちは取るに足らない批判者の群れをはるかに凌駕する予言者が与えられています。

もうひとり，ジョセフ・スミスを一度は裏切り，苦しめたものの，のちに彼から愛と赦しを受けた人の言葉を読んでみます。

「神権とみさかえをもて
鍵を永遠に彼持つ
古き予言者とともに
主の王国に入らん」
（ウィリアム・W・フェルプス「たたえよ，主の召したまいし」讃美歌144番）

このみ業が人から人へ，国から国へと広められていくことに何の不思議があるでしょうか。批判し，破壊しようとする人々をものともせずに，力においても数においてもこのみ業が成長し，影響力を強めていることに何の不思議があるでしょうか。これは，神ご自身が予言者を通して，地上に回復されたみ業なのです。ジョセフ・スミスと共に働いたパーレー・P・プラットはこう述べています。

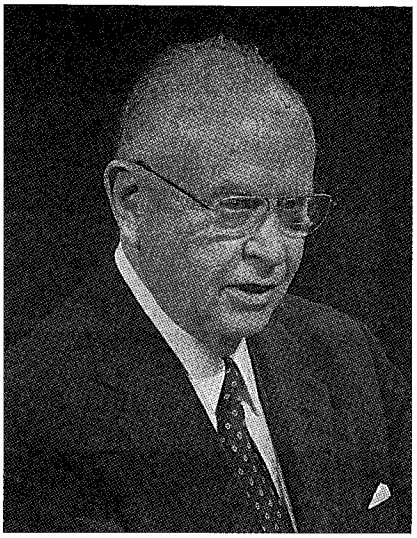
「彼の働きの結果は，永遠に続き，まだ生まれていない無数の人々が，神のみ手にあって働いた貴い器として彼の名を尊ぶようになるであろう。彼はその短い生涯の間に，予言者ダニエルが，ほかのすべての国を打ち破って永遠に立つと言った王国の基を据えたのである。」（パーレー・P・プラット自叙伝」p.46）

この話の冒頭にも申しましたが，私はこのみ業の成長に驚嘆しています。しかし，私たちが今目にしているのは，これから起こるはるかにすばらしい事柄に比べれば，ごく小さなことなのです。私はこのことを聖霊の力によって証します。永遠の父なる神と主イエス・キリストが実在し，予言者ジョセフ・スミスとそのあとを継いだ予言者たちが神に召された人々であることを証します。キリストのみ名を受け，キリストのみ業を進めているこの教会が真実の教会であることをイエス・キリストのみ名によって証します。アーメン。

私の隣り人，私の兄弟たち！

十二使徒定員会会員
デビッド・B・ヘイト

「夫婦の宣教師は多くの場合，その成熟さや豊かな経験，洞察力，愛のゆえに最も有力な宣教師の内に数えられるのです。またその愛のために不思議な方法で扉が開けられるものです。」



あるとき，律法学者はイエスを試みて「わたしの隣り人とはだれのことですか」（ルカ10：29）と尋ねました。その問いは，まさに私たち一人一人が投げかける価値のある問いです。

主は期待に反して，深遠な意味を持つたとえで律法学者に答えられました。よきサマリヤ人のたとえがそれです。

エリコに向かおうとしていた旅人が，不運にも強盗の手に落ちました。彼は略奪され，打たれ，瀕死（ひんし）の状態で放っておかれました。

神殿に向かって歩いていた祭司は，旅人に目をくれただけで去ってしまいました。同じように，当時祭司の補助をしていたレビ人も，かたわらを通り過ぎていきました。イエスの時代のユダヤ人にとって，このたとえに現われる犠牲者に対しての無関心さは，宗教的に認められた妥当な行動だったのです。彼らの教えはこうです。「異邦人を殺してはいけないが，たとえ異邦人が死の危険に瀕したときでも，助けなければならないという義務はなかった。それは，彼らにとって異邦人は隣人とは見なされていなかったからである。」（ダメロー「聖書注解」p.751）

これに対してサマリヤ人は，ユダヤ人に軽べつされていたにもかかわらず，苦しんでいるその人を見て，３つのことをしました。（１）その人に同情を寄せ，（２）彼に近づいて傷に包帯を巻き，（３）彼の面倒をみたのです。（ルカ10：30－35参照）

イエスはこのたとえを話した後，その３人のうちだれがこの人の隣人であったかを律法学者に問われました。祭司だったでしょうか。レビ人だったでしょうか。それともサマリヤ人だったでしょうか。律法学者は明白な答えをせざるを得ませんでした。「その人に慈悲深い行いをした人です」と彼は答えました。それに対して救い主は，「あなたも行って同じようにしなさい」（ルカ10：37）と言われたのです。

神が私たちすべての父であり，お互いが兄弟姉妹であるとの永遠の真理を教えるうえで，これほど完璧なたとえがあるでしょうか。

私の隣り人，私の兄弟たち！　それこそ主，救い主の教えなのです。私たちはすべての人を自分の兄弟のように，また隣り人を自分自身のように考えなければなりません。（教義と聖約38：24参照）

霊感に基づいて世界中で行なわれている伝道活動は，この真理を基盤としています。すなわち，回復された福音の栄光ある真理を，私たちの兄弟姉妹である隣り人と分かち合うということなのです。

●中央若い女性会長会（左からジェイン・B・マラン第一副会長，アーデス・G・カップ会長，イレイン・L・ジャック第二副会長）

初期の時代以来，ジョセフ・スミスをはじめとする私たちの予言者は，すべての資格ある会員は証を述べ，隣り人を警めるよう教えてきました。多くの神権者が，準備らしいことをする時間などほとんどないような状態で伝道に召されました。総大会の席上で，何の予告もなく自分の名前が呼ばれるのを聞いた人もいます。にもかかわらず何千もの方が伝道の召しに応じたのです。

ベンソン大管長は，お父さんが教会の私書箱Bから手紙を受けたときの証をしてくださいました。私書箱Bの手紙とは，当時，大管長会からの伝道の召しだったのです。ベンソン大管長の父親は妻と子供を残してその召しに応じました。そのお陰で，彼らの家族は伝道の精神に恵まれ，多くの人に祝福をもたらしました。

この私書箱Bの精神を土台とした伝道の召しは，今日すべての若い男性に与えられています。彼らは若いころから主に仕える準備をしてきています。何万人もの若人がチャレンジにこたえました。奉仕の召しであるこの私書箱Bの精神は，すべての若い男性や召しを果たしたいと願う献身的な若い女性に注がれてきたのみならず，年輩の夫婦にも届いています。

今から11年前，スペンサー・W・キンボール大管長は次のように宣言されました。

「宣教師として働ける夫婦が何百組もいます。皆さんのように年輩の方々で，子供も成長し，退職され，自分の資金で伝道に出，福音を教えることのできる夫婦です。そういう夫婦がたくさんいるのです。どうか監督のところへ行って，話してみてください。皆さんがなすべきことは，それだけです。そして監督に，『もし私たちでよければ，伝道に出る準備はできています』と言ってください。そうすれば，多分伝道に召されることでしょう。」（エドワード・L・キンボール編「スペンサー・W・キンボールの教え」p.551）

キンボール大管長がその呼びかけを行なって以来，その必要性はずっと増え続けています。今日，何百どころか何千ものよく準備された夫婦が必要なのです。

幾多の経験を積み，信仰深い夫婦の方々，この方々は白髪が混じり，しわも多少はあるかもしれません。でもそれは円熟の象徴なのです。仕事を退職したものの，隠居するまでにはまだ数年精力的に働けるという方，息子や娘たちは独立した生活を営んでおり，体も健康でいつか監督に「私たちは準備ができています。主が必要とされるところでしたら，どこへでも参ります」と言う日を夢見ておられる方々が数多くいらっしゃるはずです。

ホリス・カーゼイ兄弟，姉妹も，その例にもれません。彼らは家を売り，小さな農場を買い，農場の中の家を暖かく快適になるように改装しました。畑もきれいにして菜園を作りました。「隠居生活に入る準備をしていました。」カーゼイ兄弟姉妹はそう語っています。

ふたりはもともとバプテスト教会の会員で，この年になって宗旨変えをするなどとは夢にも思っていませんでした。しかし，宣教師や近所の家族のお陰で，バプテスマを受けることになったのです。結婚40年目の記念日に，ふたりはアトランタ神殿で結び固めを受けました。間もなく，彼らはステーキ部宣教師に，またそのあとで専任宣教師として召されました。

宣教師訓練センターに着いたふたりはこう話してくれました。

「私たちは，ニワトリと七面鳥，うさぎは人にあげ，子馬と犬を２匹息子のところであずかってもらいました。そしてフリーザーを空にし，猫を人にあげ，窓に板を打ちつけ，小屋を封鎖し，全部のスイッチを切り，10人の孫にお別れのキスをしてここに来ました。」何とすばらしい生き方ではありませんか。

皆さんの中で，心配な方や，十分な能力がないのではないかと思ってちゅうちょしていらっしゃる方々がありましたら，予言者の勧告に従って，監督に相談してみてください。そうすることで，救い主であられる主の福音を宣べ伝える霊感あふれる伝道活動の第一歩を踏み出してほしいのです。

私が学んだ教訓の中に，神の子である私たちの能力は，必要に応じて増し加えられるということがあります。直面するいろいろな問題に順応していく私たちの能力を過少評価してはいけません。問題が大きいからといって，また複雑だからといって恐れる必要はありません。人間の潜在能力ほど偉大で，かつ十分開発されていない資源はこの地上にはないでしょう。

永遠の父なる神と御子イエス・キリストについて個人的な知識を持つことに次いで大切なのは，学び，問題を理解し，克服するという自由ではないでしょうか。

皆さんの多くは，自分自身の持つ能力に目覚めていないのではないでしょうか。新しい支部や活発な会員の少ないワード部において，皆さんは強い基となることができます。

若い宣教師と同じ方法で伝道する必要はありません。夫婦の宣教師は多くの場合，その成熟さや豊かな経験，洞察力，愛のゆえに最も有力な宣教師の内に数えられるのです。またその愛のために不思議な方法で扉が開けられるものです。

ある伝道部長が，忘れ難い夫婦宣教師についてこのように証しています。

「実のところ，レスリー長老と姉妹が初めて来られたとき，うまくいくかどうか心配でした。レスリー長老は太り過ぎていましたし，補聴器を付けていました。姉妹のひざには人工の骨が入っていました。でも，彼らはやさしい雰囲気にあふれ，その情熱はすばらしいものでした。ごく普通の方々でしたが，愛に満ちておられました。

私はふたりをテネシー州のジェームズタウンに送るようにとの霊感を受けました。そこには長い間，宣教師もなく苦闘している小さな支部がひとつありました。

このふたりに街頭伝道はできないことはわかっていました。最初の２，３週間の報告には特別なことは記されていませんでした。手紙には，『この地の人と知り合いになっているところです』と書かれていました。

その後２，３週間しますと，今度は教会に出席している非教会員のことが書かれていました。最初はふたり，次に４人，次に７人とその数は増し，ついには一時に24人の求道者が来るほどでした。間もなくバプテスマも始まりました。老若を問わず，彼らほどバプテスマを多く施した宣教師はほかにありません。

レスリー長老も姉妹も，レッスンプランにそのまま添って教えることはできなかったと思います。でもふたりには，人々への愛が脈々と流れていました。ふたりはその小さな町に溶け込み，友愛と奉仕，理解に満ちた心で町の人々の心を勝ち得ることができたのです。

今日，ジェームズタウン支部には新しい建物が建ち，100人以上の会員が出席するまでになりました。多くの方が，信仰と力をこの支部のために注ぎましたが，レスリー長老，姉妹ほど大きな，しかも惜しみない働きをした人はいませんでした。」

愛，奉仕，思いやり，これらは心から自分を愛するように隣り人を愛する者に具わった資質なのです。

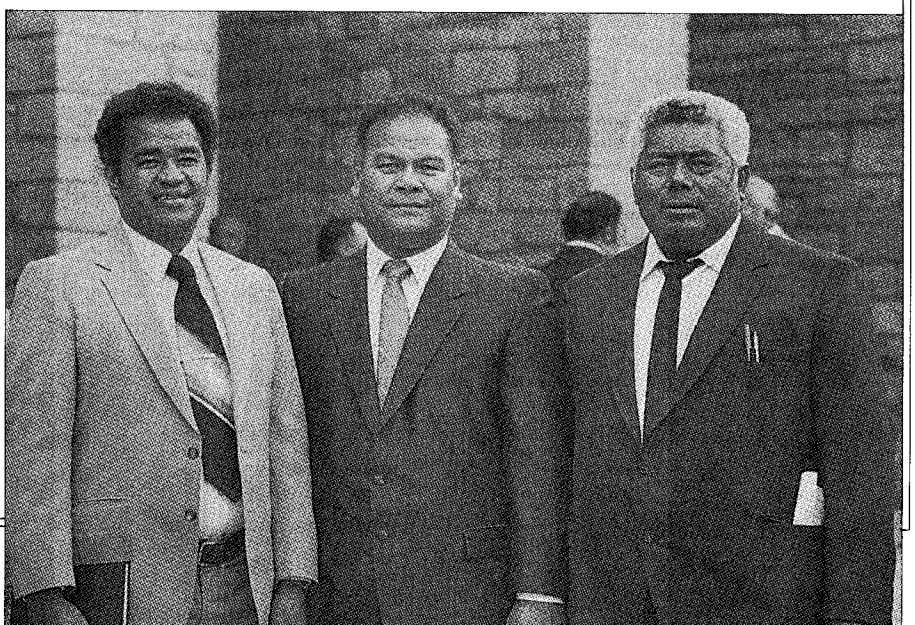
皆さんは夫婦として幾年月も共に過ごしてこられたことと思います。しかし，そこでは味わえなかった新しい祝福を伝道地で見いだされることでしょう。おふたりで経験したことのないほど親密に，また熱烈にこの報い多き業に携わるのです。あなたの伴侶の心の内に秘められた新しい一面をも見いだすことになるでしょう。また一致の精神も深まり，天父との絆も強まることでしょう。

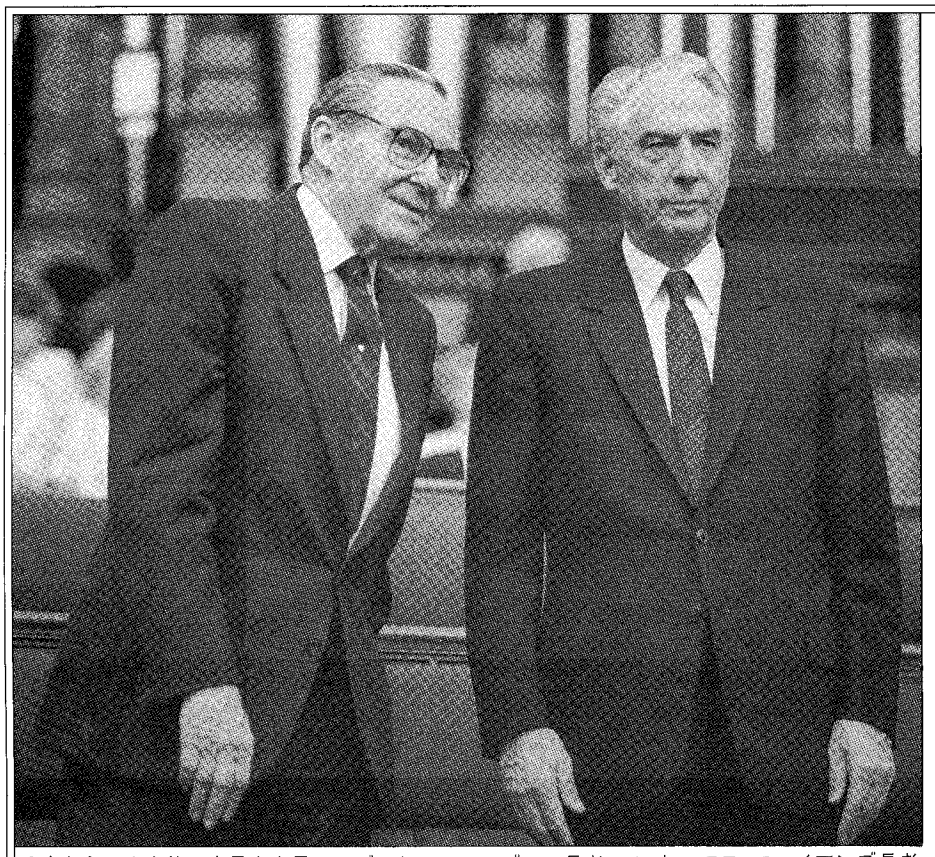
皆さんの隣り人はだれでしょうか。よきサマリヤ人のように，待ち望む人に真実の福音をもたらし，思いやりを示し，話に耳を傾け，傷を癒し，そして特別な方法で惜しみない愛をすべての人に示すのです。

リン・ショークロフト兄弟，姉妹は，エクアドルに着いたときに一種のカルチャーショックに陥り，２週間ほどは人々と意思の疎通を図ることがあまりできませんでした。

そして，「１年半は何と先が長いことか」と思ったそうです。

「私たちが見たのは，若い宣教師たちの生の生活でした。そして最初に思ったのは，自分たちが一人前の働きができるようになるまでは，せめてこの若い宣教師たちの面倒をみてあげようというものでした。私たちはクッキーやシナモンロールを作るための鉄板や材料の買い出しに出ました。棒状のチョコレートを買ってきて，それを小さく切って，チョコレートチップクッキーを作りました。





●左から七十人第一定員会会員のロバート・L・シンプソン長老，J・トーマス・ファイアンズ長老

宣教師から多くを学びました。彼らが私たちより先に言葉を覚えたことも気になりませんでした。彼らが喜んでクッキーを食べるのを見るだけで，私たちの努力は報われました。私たちは彼らが持っていなかったもの，そう，家庭の雰囲気をかもし出すことができたのです。

私たちは，宣教師のためにクッキーを焼く以外は何もしなかったように聞こえるかもしれませんが，そうではありません。地元の教会指導者と共に活発化のプログラムに参加したり，教えたり，音楽や系図，福祉の業にも携わったのです。

また，宣教師や求道者のために毎週オープンハウスを開きました。力を合わせて働きました。

準備の日には宣教師が来てクッキーやシナモンロールを作ったり，聖典について話したりしました。また，がっかりするようなことがあるとよく私たちのところに来て話をしました。本当に彼らを愛しています。

若い夫婦に字を教えたり，父親が再び教会に出席するようになって家族に幸せが戻ったのを見たりしたとき，私たちは鼻歌まじりで，足どりも軽く自分たちのアパートに戻ったものでした。本を読むことができるようになった若い母親が，その喜びを手をたたいて表わしたとき，またこの町に召されていなかったら，多分この小さな赤ん坊は生命を取りとめていなかっただろうと考えたとき，これらの経験の数々が伝道の一時一時を実りあるものにしてくれたことがわかったのです。

苦しみながら外国語を学ぶだけの価値があったでしょうか。はい，確かにありました。若い宣教師と歩調を合わせていかなければならないと感じたでしょうか。いいえ。私たちは自分なりの方法で奉仕しました。私たちは受け入れられたでしょうか。本当に温かく受け入れてくれました。」

ショークロフト姉妹は，夫婦で伝道に出る人は愛や福音の証とともにおいしいクッキーやシナモンロールの作り方を勉強することを勧めています。それにうんとたくさんの愛をもって出ることも勧めています。

これらの宣教師は，自分自身を犠牲にして人に手を差し伸べるという救い主の教えの良き模範なのです。そうすることで，黄金の時代を伝道に捧げ，自分自身と家族と教会のために多くの貢献をすることとなったのです。

2度目，3度目の伝道に出られる夫婦宣教師もおられます。また必要性を悟って外国語の勉強を始められた方もおられます。

数年前，カリフォルニア州の有名な方が私とヘイト姉妹がスコットランドに伝道に出ることを知ってこうおっしゃいました。「私は他人から真に偉大な責任を託されるような良い人生を送ってこなかったのが残念です」と。

人間の心の奥底には，何か役立つことをしたい，本当に大切なものに加わりたいという気持ちがあるものです。人生において，毎日の気楽でマンネリ化した生活から離れ，予言者の召しにこたえ，自分たちの霊を高めるとともに他人を祝福するにふさわしい霊的状態に到達するときがあるものです。

それができる教会の夫婦はすべて，19歳の若者と同様，伝道に出ることを目標に掲げるべきです。子供や孫にとって，円熟した年代に伝道に出ることほど良い模範はないのではないでしょうか。

私たちの隣り人はだれでしょうか。天父の子供すべてが隣り人なのです。福音をもたらし，私たちの従順さと，愛と奉仕を示すことができるのは何と大きな祝福ではないでしょうか。

監督は祈りの気持ちをもって可能性のある夫婦を検討してみてください。主はニーファイ人にこう教えられました。「されば汝らはわが名によりてたえず御父に祈らざるべからず。

而して，汝らが必ず受くと信じて，わが名によりて御父に乞い求むるものは，その正当なるものなる限り，すべて汝らに与えらる。」(IIIニーファイ18：19－20)

このようにすれば，みたまがどのように答えるかを示してくださいます。

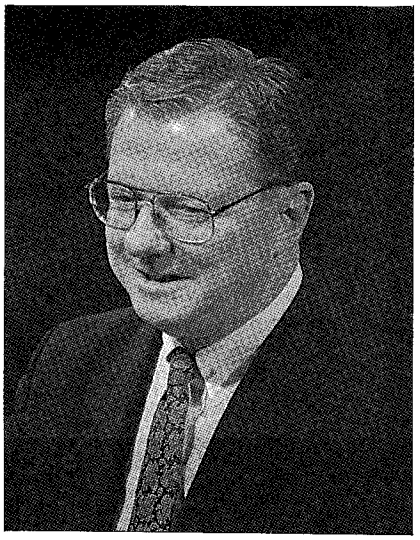
私は，へりくだって隣り人に仕えるときに大いなる喜びと満足感が得られることを証いたします。

この業は神が導いておられる業です。神は生きておられます。イエスは神の御子です。この証をイエス・キリストのみ名を通していたします。アーメン。

一致の祝福

七十人第一定員会会員
ヒュー・W・ピノック

「一致があるところでは，すばらしいことが起こっています。一緒に働くと，私たちは自分の取るに足らない小さなことを忘れるものです。そして組織や目的のために奉仕することをいとわなくなります。」



主が宣言された4つのきわめて重大な戒めがあります。非常に影響力が大きいために，その前には日常のささいな事柄が無意味に見えてきます。

主の教えの中からそれを引用してみましょう。「『心をつくし，精神をつくし，思いをつくして，主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な，第一のいましめである。

第二もこれと同様である，『自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ。』」(マタイ22：37－39)

では第3の戒めとは何でしょうか。「もしあなたがたがわたしを愛するならば，わたしのいましめを守るべきである。」(ヨハネ14：15)

そして第4の戒めとは，「もしひとつとならずば，汝(なんじ)らはわがものにあらず」(教義と聖約38：27) です。

この第4の戒めである，一致についてお話ししたいと思います。

私たちはまず次のように問うてみなければなりません。「家族はひとつとなっているだろうか。家庭の中に真の平安があるだろうか。」

ある遠くの町に住むひとりの男性が，生計を立て，家族を養い，さらに教会の召しを果たそうと悪戦苦闘していました。それでも借金はかさむ一方で，家族は不満だらけ，おまけに子供たちも好ましくない行ないが目だつようになり，家族はみなばらばらの方向を向いている有様でした。仕事も突然解雇の憂(う)き目に遭(あ)い，精神的苦痛は募るばかりでした。

どうにも算段がつかず思案に暮れているところへ，父親の挫折感や苦悩を感じ取っていた10代の娘が言ったのです。「お父さん，家族ですもの，何でもできるじゃないの。さあ，一緒に働きましょうよ。放課後なら私にもいい仕事があるし，ビルも新聞配達の口が見つかったのよ。それに，そろそろ地下室の貯蔵食品に手をつけてもいいころじゃないかしら。」

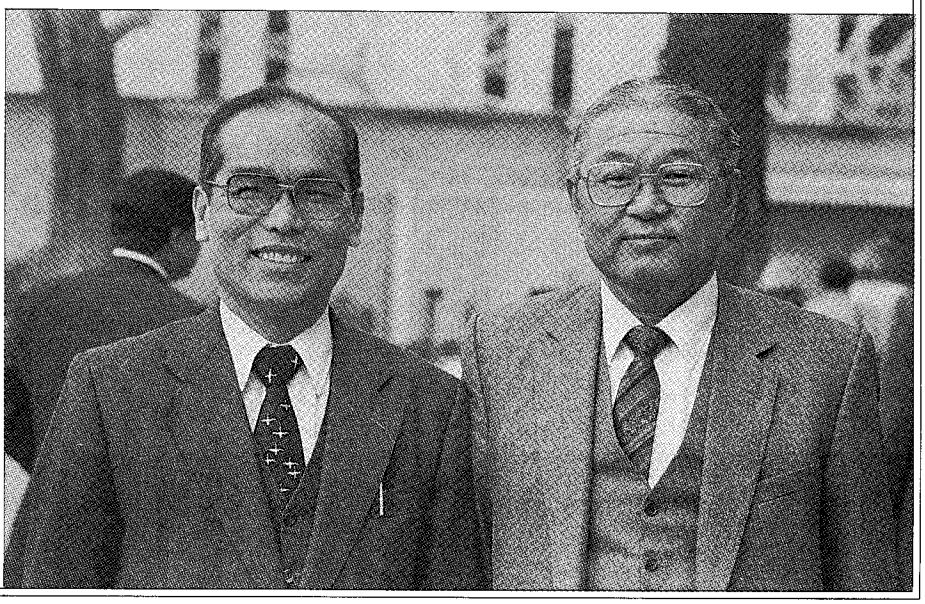
やがて家族全員に一致の精神が伝わり，力を合わせて努力し始めました。時間をかけて家族が互いに支え合うようになると，事態は好転していきました。

リーハイがその生涯を閉じるにあたり，愛する者たちを自分の周りに呼び寄せたことを覚えていらっしゃることと思います。みずからも多くの試しに遭ってきたこの愛深き家長が家族に願ったことは，住み慣れた故郷を離れて，はるかかなたの新世界への旅立ちでした。そこで彼らが遭遇したものは，厳しい環境と危険，そして不和でした。リーハイは家族に次のように語っています。

「さて私がお前たちのことを思うて喜びに満ち，悲しみ憂(うれ)いて墓の中に入ることなくお前たちのために喜び楽しんでこの世を去るよう，わが息子たちよ，塵(ちり)の中から立ち上って……そして精神をひとつにし心をひとつにして決心を固めあらゆる事に一致結束せよ。これはお前たちが束縛の身の上にならないためである。」(IIニーファイ1：21)

家族を愛してやまない父親としては，彼らが繁栄するためには一致しなければならないことを承知していたのです。

さて私たちは隣り人と一致しているで



●七十人第一定員会会員

しょうか。あなたの住む地域は，あなたが住んでいることによって平安を増していますか。

モンタナ州南西部に，ふたりの牧場主が隣り合って住んでいました。ふたつの牧場を仕切っているさびた有刺鉄線が正確な境界線にはなっていないとお互いに思っていたので，このふたりはいがみ合っていました。互いに相手が自分の土地に侵入していると思い込んでいました。郡の役所でも不動産の記録がはっきりしないのです。

ふたりは息子同士が遊ぶことも禁じました。争いは日に日に激しくなり，何年にもわたるののしりや脅迫の応酬が続いた揚げ句，一方の牧場主が自分に言い聞かせるようにつぶやきました。「もうたくさんだ。」自分の土地から田舎道を抜けて郡道へ出ると，さらにそこから大通りを隣の土地まで車を走らせました。

「何の用だね。」敵が聞きました。

「さあ，お宅の雇い人と息子たちを連れて来てくれないか。うちの方も連れて来ることにするから。そうしたら，お宅の好きな場所にへいを設けよう。今までのようなことはもうたくさんだ。私は友達になりたいと思っているんだよ。」

やせた隣人の表情が和らぎ，互いのほおに涙が伝わっていきました。隣人の返事はこうでした。「さて，バージニア市まで車を走らせて，現在のへいが我々の正しい境界線を示していると記録してこようじゃないか。」

ふたりはそのとおりにしました。そして問題も解決しました。どうしてなのでしょう。一方が隣の家族とひとつになりたいと思ったからです。

ここからあまり遠くない地域でも深刻な問題がありましたが，隣人たちが心をひとつにしたお陰で，事が重大になる前に解決できました。若く美しい女性がステーキ部大会で事の次第を話してくれました。「私はニューヨークから来た改宗者です。両親は子供たちが永遠の結婚をすることを願っていましたが，私たちのいた小さな支部には，結婚相手になるような教会員はいませんでした。そこで我が家はユタ州へ引っ越してきたのです。

やがて私は夫となる人を見つけました。彼はその地方のオートバイ・クラブの会長をしていて，黒皮のジャンパーにオートバイ用のブーツをはいているような人でした。私たちはオートバイの相乗りもしました。それは母が望むような結婚ではありませんでしたが，そのころには私はもう教会から心が離れていたのです。」

その後どうなったでしょうか。「私たちは新しい家に引っ越しました。そこへは友達がよく集まってきました。私たちのせいで，ご近所がひどく不愉快な思いでもしているのではないかと，私なりに心配もしました。私たちがぶらぶらしていると，とうとう隣人のひとりが子供を連れて我が家にやって来ました。

それで隣人たちはどうしたと思いますか。我が家には芝刈り機がないので，彼らは芝を刈って片づけてくれました。病気のときには花を持ってきてくれたり，食物を届けてくれたこともたびたびでした。我が家の幼い娘は子供たちの遊びに仲間入りさせてもらい，お誕生日に皆さんをお招きしたこともありました。」

彼女と夫が隣人たちにお礼を言おうとすると，彼らの返事はこうでした。「いやあ，私たちは皆，好きで助け合っているんですから。」ふたりは愛と一致のある隣人たちから快く迎えられたことを感じ取りました。

彼女の話はさらに続きます。「10カ月後，私たちは黒皮のジャンパーとオート

バイ用のブーツを，神殿の白い衣と靴に換えました。聖壇に向かい合ってひざまずき，部屋を見回すとそこにはあの隣人たちの姿がありました。我が家の芝を刈ってくれたり，私たちのためにいろいろと心を尽くしてくれた人々です。」

彼らは本当にひとつとなっていました。彼女は近所づき合いの中にも，そしてワード部にもすばらしい一体感があったことを報告してくれました。それは決して一時的なものではありませんでした。

バスケットボールやフットボール，あるいはサッカーの試合でも，チームに完全な一体感がみなぎり，5人ないしは11人の選手が一丸となっている光景を目にすることがよくあります。こんなときは，間違いなく急に試合の流れが変わってしまうものです。事実，チームワークの善し悪しを見れば，どちらのチームが勝つかわかります。

この一致による祝福は，至る所で見受けられます。私はまだ20代のころに監督に召されました。私は未熟でしかも経験不足でした。そこで私よりも知識も経験も豊富な年上の方を，副監督としてふたり選びました。彼らはどうしたと思いますか。み業を成し遂げるために心をひとつにしました。私たちが共に働いた5年間は，すばらしい奉仕の時でした。それは彼らが一致して王国のために働くことを望み，しかもそれにふさわしく物事をよくわきまえていたからです。

伝道部やワード部，ステーキ部の中でも，若い女性や日曜学校のクラスに一致があるところでは，すばらしいことが起こっています。一緒に働くと，私たちは自分の取るに足らない小さなことを忘れるものです。そして組織や目的のために奉仕することをいとわなくなります。

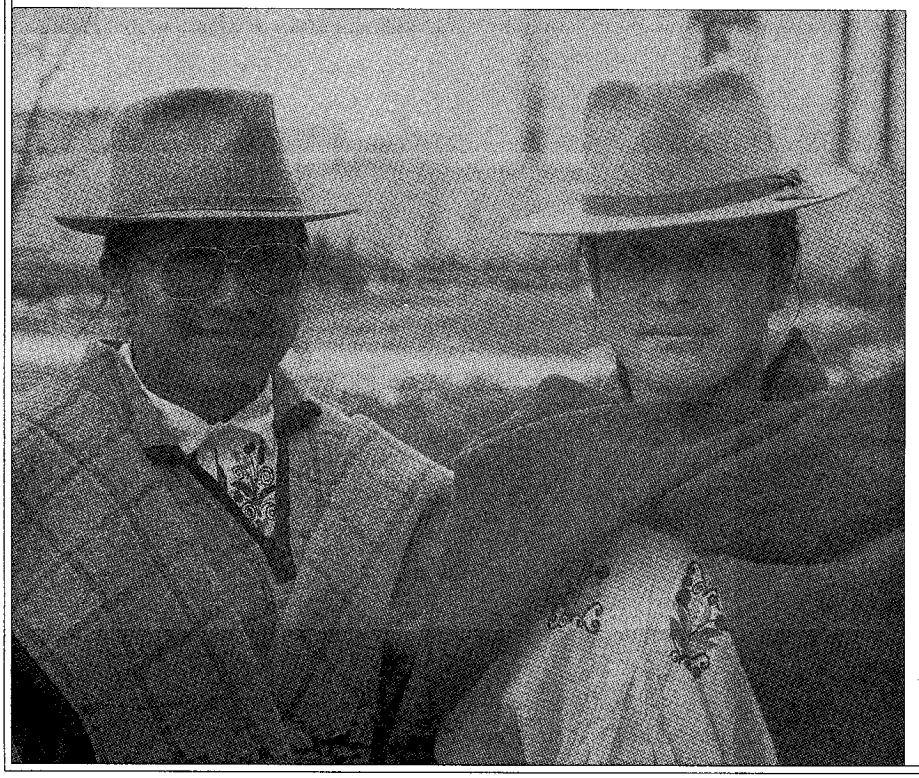
総大会でスペンサー・W・キンボール大管長が，ふたりの忠実な副管長と，もうひとりのお元気な副管長にやさしく支えられながら席に着かれた姿は，私たちの記憶にまだ新しいところです。現在と同様に，当時の大管長会もその大切な在任期間を，ひとつとなって働かれたのでした。皆さんがそれぞれの職においてひとつであるように，教会の使命を遂行するときにも，私たちは一体となるのです。その使命とは，福音を宣言し，聖徒たちを完成に至らせ，この世を去った人々を救うことです。しかし私たちは本当に心をひとつにして，私たちの知っている人人の生活に，これらの永遠の祝福をもたらしているでしょうか。

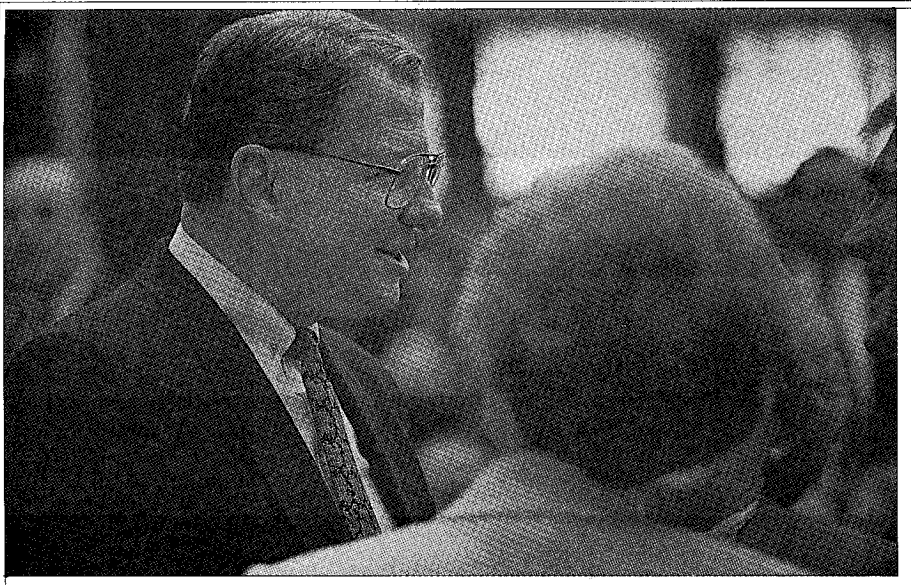
アイダホでの特別な出来事は今でも忘れられません。それは春もまだ浅いころのことでした。あるステーキ部長から電話がかかってきたのです。彼は「ぜひこちらへ来て，見ていただきたいことがあるのですが」と言いました。そこで私は南アイダホへ車を走らせました。ステーキ部長は私を数マイル離れた貯水池へ連れて行きました。近くに小さな町が点在しているところでした。ダムはほとんど満水状態で，今にもあふれそうになっていました。そこでステーキ部長は言いました。「今年は洪水になりそうだなどと考えている人はほとんどいません。貯水池を下った谷あいでのんびりと暮らしているのです。水路を作って余分な水が貯水池から流れるようにしないと，どんなことになるかよくわかっていないのです。」

このステーキ部長は少年のころからずっとこの辺りの山を歩き回ってきたので，こんな季節に大量の残雪があって，貯水池の水かさがこれほど増しているのを見たことがないと言うのです。彼は自分が何をすればよいかわかっていました。そして私から彼に言えることはこれだけでした。「正しいと思うことをやってください。あなたがしなければと判断したことを行なってください。」

数週間後にそこを訪れた私は，巨大な土木機械が同じ動作を繰り返しながら水路を掘っているのを目にしました。大人も子供も手にシャベルを握り，共に力を合わせて働いていました。数日で約37キロにも及ぶ溝が掘られるという奇跡がまさに起ころうとしていました。水害にあった農地もいくつかありましたが，大部分は無事でした。どのようにして，またなぜそれができたのでしょうか。それは勇気ある人々が一致団結して，なすべきことを行なったからです。少人数では決してなし得なかったことです。しかしステーキ部長の陣頭指揮による一致の精神で，州の軍隊や各建設会社（支払いがどうして行なわれたか見当もつきませんが），あるいは近隣や遠方の人々から貴重な道具が貸与され，谷あいの土地が守られたのです。それはまさしく，一致がもたらした末日の奇跡でした。

ところで数週間前に，私は著名なビジネス界のリーダーであり，キリスト教の教師でもあるひとりの人物とニューヨークで話す機会がありました。彼はおよそ220にも及ぶキリスト教各教派のまとめ





役として，精力的に働いていました。彼は末日聖徒イエス・キリスト教会のすばらしさを飽きることなく話していましたが，特に教会員の献身と確固たる信仰に触れながら，そのすばらしさをいくつも数えあげていました。

彼の意見はこうでした。「末日聖徒イエス・キリスト教会の特筆すべき特徴は，あなたがたが一致して業をなすことにあるようです。同じ方向を見つめ，ひたすら主の望まれることをなそうとひとつとなっていることです。同じ教義を学び，指導者に従い，そしてひとつに結ばれていることです。」

これは私にとって貴重な教訓でした。彼の意見は私も十分承知していたつもりですが，だれよりも他教派の教会と接触の多い人物からそれを聞かされると，私たちの絆の強さと一致の力を改めて意味深いものとして実感したのです。

私たちの際立った特徴のひとつに，一致に向けて努力することがあげられます。私たちは指導者を支持し，その勧告や指示に従います。なぜ一致すべきかということについては様々な理由があげられます。しかし，その中で最も重要なのは，ひとつとなるように求められているという点だと思います。主は教義と聖約の中で教会員に，ご自身のみ言葉とひとつとなるために集合せよと求めておられます。（教義と聖約41：2参照）ジョセフ・スミスは安定した統治について触れ，「一致は力なり」.(「教会歴史」6：198)と言いました。まさに一致が教会と家庭に力を増し加えているのです。

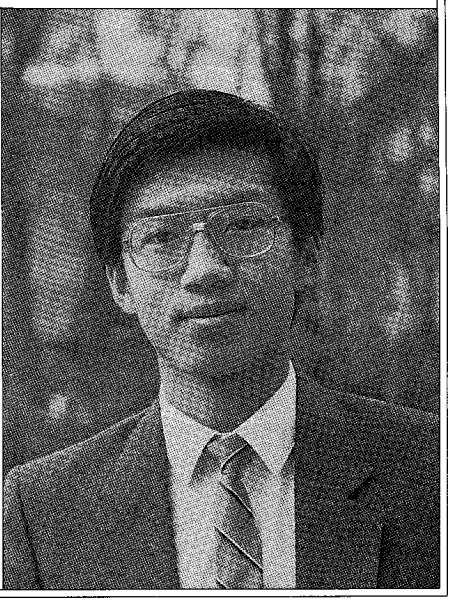
ここで再び，モルモン経の中で救い主がほかの羊に向かって話しておられる箇所を開けてみましょう。イエスは西半球の人々と共に祈って言われました。「さて父よ，われはこの弟子たちのために祈る。またかれらの言葉を信ずるすべての者のためにも祈る。」（IIIニーファイ19：23）主はそこに集められた信者と宣教師のみならず，教えを聞くであろう人々のためにも祈っていらっしゃいます。「そはこれらの者がわれを信じて父がわれにいますが如くこれらの者がわれに在り，われらが一つとならんためなり。」（IIIニーファイ19：23）

さらにイエスは古代アメリカの人々の前に立って，祈られました。「父よ，われは世のために祈らず，ただその信仰の厚き故に父が世の中より選び出してわれに加えたまえる者共のために祈り，かれらがわれによりて清められんことと，また父がわれにいます如くわれもかれらに在りてかれらと一つになり，かれらによりてわが栄光を示さんことをねがう。」（IIIニーファイ19：29）そしてこのイエスこそ，旧約聖書の中でエホバとして，次のような霊感あふれるみ言葉を述べたそのお方なのです。「見よ，兄弟が和合して共におるのはいかに麗しく楽しいことであろう。」（詩篇133：1）

私たちはどのようにイエスの栄光を讃美したらよいでしょうか。またその贖いにどのように感謝すればよいでしょうか。儀式と誓約に対してどれほど感謝の意を表わすことができるでしょうか。それはまさに神を愛し，隣り人を愛し，戒めに忠実に生きること，そしてひとつとなることによってできるのです。主の教えに心を向けましょう。まことにパウロが，「主は一つ，信仰は一つ，バプテスマは一つ」（エペソ4：5）と教えたように，私たちも主や周囲の人々とひとつになります。また私たちの指導者として召された方々に，つぶやかずに従います。私たちがその指示を実践することで，指導者は私たちの忠実さを知るのですから。

兄弟姉妹の皆さんが，この偉大なるみ業にあってひとつとなられますように。まだ教会員でない方々が心を開いて理解できるよう，愛と思いやりの心で彼らと交わりましょう。また群れから離れた方々を見いだして，彼らが再び戻って私たちと共にひとつとなれるよう，助けましょう。この一致と，またその一致を心から望むことによって，私たちの生活に平安と力とが増し加えられることを，子供たちが実際に目で見て感じ取ることができるよう祈るものです。

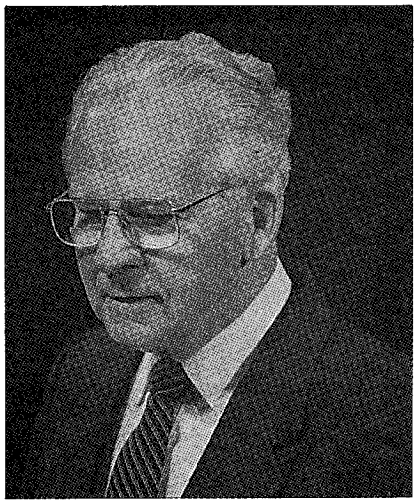
兄弟姉妹の皆さん，共に働けることを心から感謝しています。そして私たちを導くために召されている予言者や指導者に一致して従うことで，この時代が抱える社会問題や経済的な危機を，一人一人が解決できるようお祈りいたします。家族や隣人，団体や組織が不一致によってもたらされる苦しみや問題を避けることができるよう，贖い主イエス・キリストのみ名によって祈ります。アーメン。



「私はもう大人よ」

十二使徒定員会会員
マービン・J・アシュトン

「自分を裁くのはあらゆる面で非常に危険なことです。自分が今どこにいるかよりも，自分がどの方向に進んでいるかの方がはるかに大切なことは事実です。」



数週間前，教会で重要な地位にある人から特別な依頼を受けました。「友達の家族なんですが，両親とティーンエージャーの娘が話し合いを始めるので立ち合ってもらえませんか」というのでした。

私たち4人が話し始めてすぐにわかったのは，コミュニケーションのチャンネルが，偏見やおどし，批判，憎しみなどでふさがれてしまっていることでした。言葉の嵐が激しくなり，私は聞き手は自分だけであることに気づきました。彼らは個人としてまた全体として，私が相談役，判士，仲裁者，審判となることに同意をしたものの，気がついてみると，私は話を聞いてくれる機会がやって来ないかと辛抱強く待っていたのです。熱気を帯びた，感情的な口論の最中に，ティーンエージャーの女の子が憎しみを次のように繰り返し表現しました。「そんな話し方をしてほしくないわ。私はもう大人よ。そんなふうに私を扱わないで。私はもう大人よ。私の人生を支配することはもうできないわ。私はもう大人よ。」

「私はもう大人よ」と彼女が言うたびに，私は身がすくむような思いでした。定義から言えば，大人とは，成熟の年代に達した成人のことです。

人がある年齢に達したとき，その人が法的に成人として見なされることは事実です。しかし，きょうここで私たちが話している大人とは，行動および態度のうえで成人であるということです。

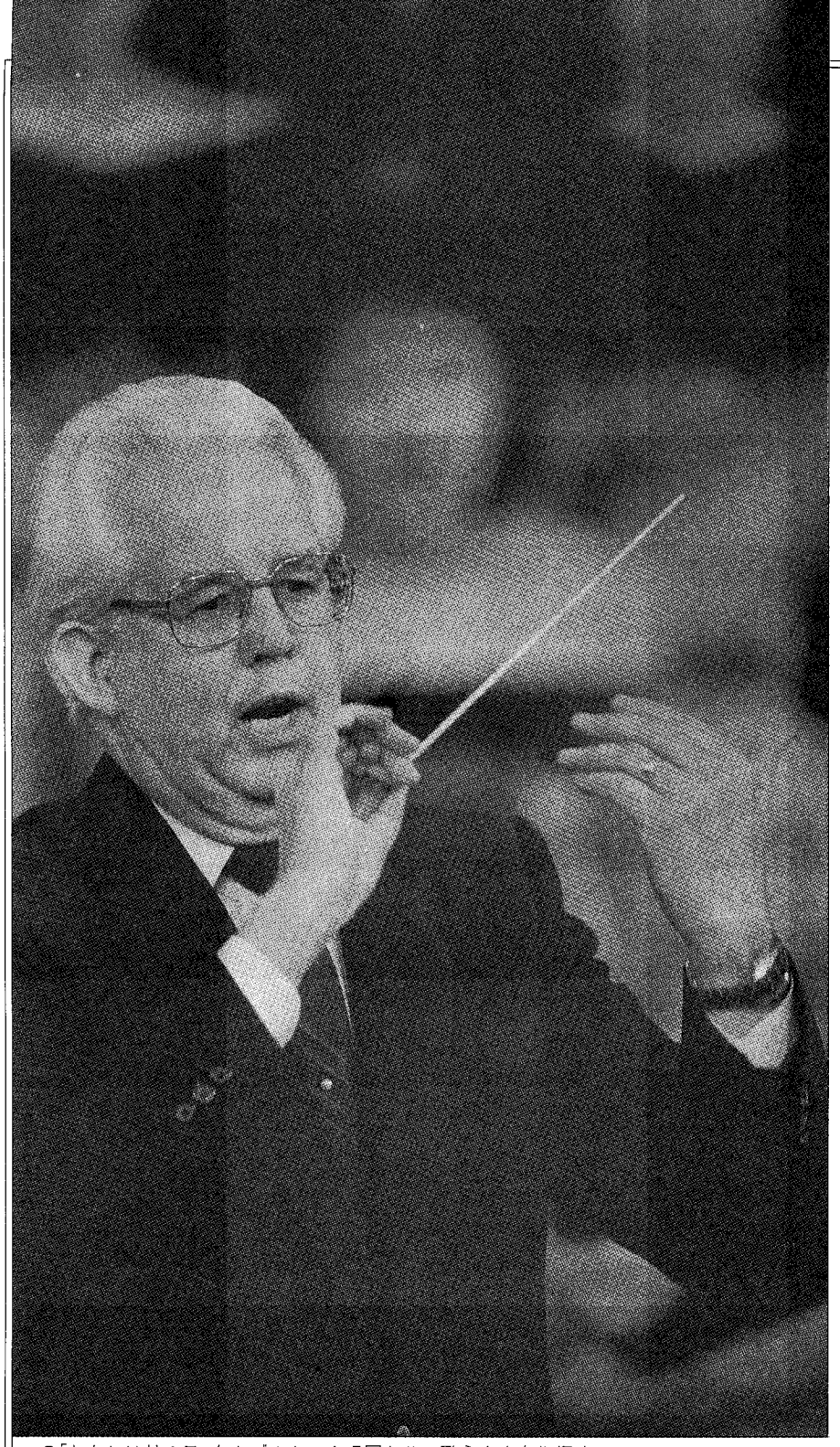
だれかに対してその人が大人であると宣言する権利や責任がだれにあるのかは，私にははっきりわかりませんが，往々にして，そうするうえで最も資格に欠けるのは，自分が大人であると宣言する人自身であることは確かです。もしも大人になっていたら，自分でそれを表明する必要はありません。その人の振る舞いこそ，その人の真の成熟度を示すものです。態度に関する限り，大人であるということは，年齢やしわ，あるいは白髪とともにやって来るものではありません。大人としての振る舞いはひとつの過程であると言っても過言ではないでしょう。それは，自己修養，自立，たゆまぬ努力によってはぐくまれるものだからです。

ティーンエージャーの女の子が「私はもう大人よ」と言う言葉にあまり感心はしなかったものの，公平に見て彼女の方がその部屋にいるほかの人より大人であると思われることがときどきありました。年長の人が，議論の決着をつけるために，「自分の方が年上なんだから」という言葉を使うのを耳にしますが，それはあまり効果的であるとは言えません。年齢の相違を主張するよりも，親としての振る舞いを通して，愛や尊敬を得ることの方がよほど優れています。

全世界の若い男性および女性の皆さん，皆さんはご両親共々，自分が大人であることを発表したり宣言したりする必要はありません。それは信仰と働きによって示されるものです。あなたの結ぶ実によって明らかになり，そう呼ばれるのです。口ぎたない口論や，感情的な態度，人を見下し傷つける批判，意味のない反論，無礼は何の得にもなりません。自分を滅ぼすようなつまらない悪意，反抗，報復などはやめて，よい羊飼いによって示された安全な道に戻ろうではありませんか。

口論をやめるには勇気がいります。しかし，成熟さが定着すると，生き方も大人の生き方になるのです。「すべての無慈悲，憤り，怒り，騒ぎ，そしり，また，いっさいの悪意を捨て去りなさい。

互いに情深く，あわれみ深い者となり，神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように，あなたがたも互に



●「わたしは神の子」をタバナクル合唱団と共に歌う会衆を指揮する
ジェロルド・D・オタリー兄第

ゆるし合いなさい。」(エペソ4：31－32)多くの年長者が，本当の意味で大人になることなく人生を過ごしているというのは，驚くべきことです。

私は長年にわたり，イエス・キリストがピラトの前に立っている姿を心の中ではっきりと描いていました。イエスをあざけり，とがめる怒り狂った群衆の前にイエスが立つと，ピラトはイエスに答えさせ，報復させようとしました。ピラトはイエスに自分が王であると言わせようとしました。しかし，イエスは沈黙を守りました。その生涯こそが説教だったからです。イエスは完全なお方であり，天父の尊い独り子でした。イエスが大人であることは，それがおのずと物語っています。

「イエスは総督の前に立たれた。すると総督はイエスに尋ねて言った，『あなたがユダヤ人の王であるか。』イエスは『そのとおりである』と言われた。

しかし，祭司長，長老たちが訴えている間，イエスはひと言もお答えにならなかった。

するとピラトは言った，『あんなにまで次々に，あなたに不利な証言を立てているのが，あなたには聞えないのか。』

しかし，総督が非常に不思議に思ったほどに，イエスは何を言われても，ひと言もお答えにならなかった。」(マタイ27：11－14)

教会において成熟した態度を養う機会は数多くあります。先日も，チャーミングなティーンエージャーが若い女性の教師に次のような多大な賛辞を贈るのを聞きました。「彼女の模範やレッスンを通して，身ぎれいにすることの大切さを学びました。人はそれぞれ異なってはいるけれども，皆等しく大切な人間であることを学びました。どなり合うのではなく，話し合いによって，意見の相違を解決することを教えてくれたのです。」

ボーイスカウトプログラムの良い点は，定められた道から外れないことを少年に教えてくれることです。山の頂上に登るには，岩場や険しい道も越えていきます。最高賞はやさしいものからむずかしいものまで，数々の技能賞を得ない限り，受けることはできないのです。しかし，少年たちを成熟させるのは，賞ではありません。スカウトプログラムを最後までやり通すことなのです。

「ある人に，ふたりのむすこがあった。ところが，弟が父親に言った，『父よ，あなたの財産のうちでわたしがいただく分をください。』(私はもう大人ですから)そこで，父はその身代をふたりに分けてやった。」(ルカ15：11－12)

放とう息子のたとえ話は非常によく知られています。この息子は自分のものを持って遠くへ行き，放とうに財産を使い果たしました。

「彼は本心に立ちかえって言った，

『……父のところへ帰って，こう言お

う，父よ，わたしは天に対しても，あなたにむかっても，罪を犯しました。

もう，あなたのむすこと呼ばれる資格はありません。(しかし私は前より大人です）どうぞ，雇人のひとり同様にしてください。』

そこで立って，父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに，父は彼をみとめ，哀れに思って走り寄り，その首をだいて接吻した。」(17－20節)

お互いに別れ別れになっている間に，父も成熟したということができます。また父親のキリストのような模範を見たこの兄にとっても，それが成熟の過程となったことは否めません。

レーマンとレミュエルは不平を言い，弟のニーファイに激しい言葉を使いました。それは自分たちが年長であり，ニーファイよりは大人であると思ったからに違いありません。「ニーファイ，そのように私を扱うのはやめよ。私は大人なんだから」とレーマンが言う声が聞こえませんか。

ニーファイは次の言葉をもって，成熟さを表わしました。「そこで私ニーファイは，私の父に『私は主の命じたもうたことを行って行う。私は，主が命じたもうことには，人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり，それでなくては，主は何の命令も人に下したまわないことを承知しているからである』と言った。父はこれを聞くと，私が主に祝福されていたことを知って非常によろこんだ。」（Ｉニーファイ３：７－８）リーハイは大人であっただけに，どの息子が最も成熟し，主から祝福を注がれるのか知っていました。

さて私たちの中には，成熟した態度というものが常に努力しなければ保ち得ないことを理解していない人が大勢います。イエス・キリストの弟子となるためには，正義と主のみ言葉を実践し続ける必要があります。教会員が教会の活発な会員であることについて熱意をもってその喜びを話すのを聞くたびに，「すばらしい。しかし，それはいつまで続くのだろうか」という思いが浮かびます。ついでながら，以前に，保険の勧誘員から声をかけられたことがありました。「私は教会の活発な会員です」という言葉で始まる勧誘を聞いたとき，まず思ったことは「だれがそう言ったのかな」ということでした。

麻薬中毒を克服した人は，(うれしいことに，そのような人は大勢います）現在の状態を人に言うことに時間を費やすより，悪癖を避けることにもっと時間を使うべきです。道徳的に清い人は，それを人に言うことより，純潔によってもたらされる祝福について実践し，教えることにもっと時間を費やしたならば，より一層大人らしく振る舞えることでしょう。什分の一の完納者は，そのように呼ばれたりほめられたりすることからではなく，什分の一の原則を忠実に守り続けることから，より多くの喜びと報いを得るようになるでしょう。

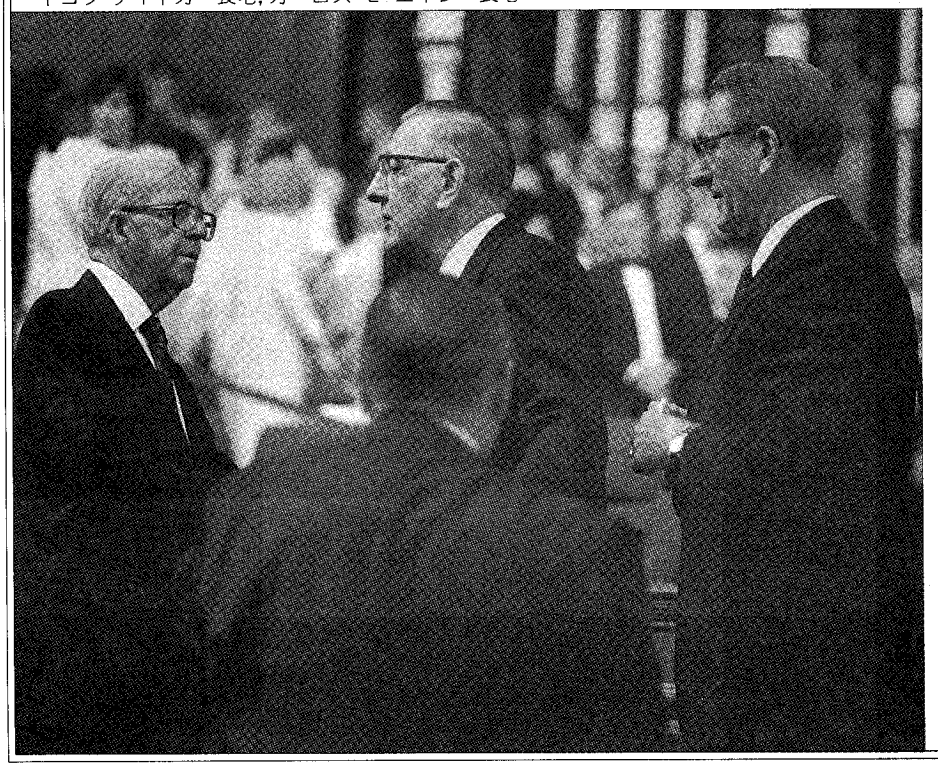
高校や大学などで，きちんとした服装や行動の標準を守っている指導者や学生をあざける人がいますが，大人らしく振る舞う人々は，自分が置かれた状況を喜んで受け入れていきます。どの学校でも責任感にあふれた生徒の態度は喜ばれるものです。「名誉にかけて，全力を尽くします」という誓いは，それが書面になったものにせよ，自分に言い聞かせたものであるにせよ，人格形成のうえで何らかの違いをもたらします。無節操な生き方をする人が多い今日の世の中では，みずから何か責任を負い，それを守っていくなどということは，煩わしく，時代遅れなことのように見えます。しかし，それがためになるものであることは，大人である人にはよくわかることです。

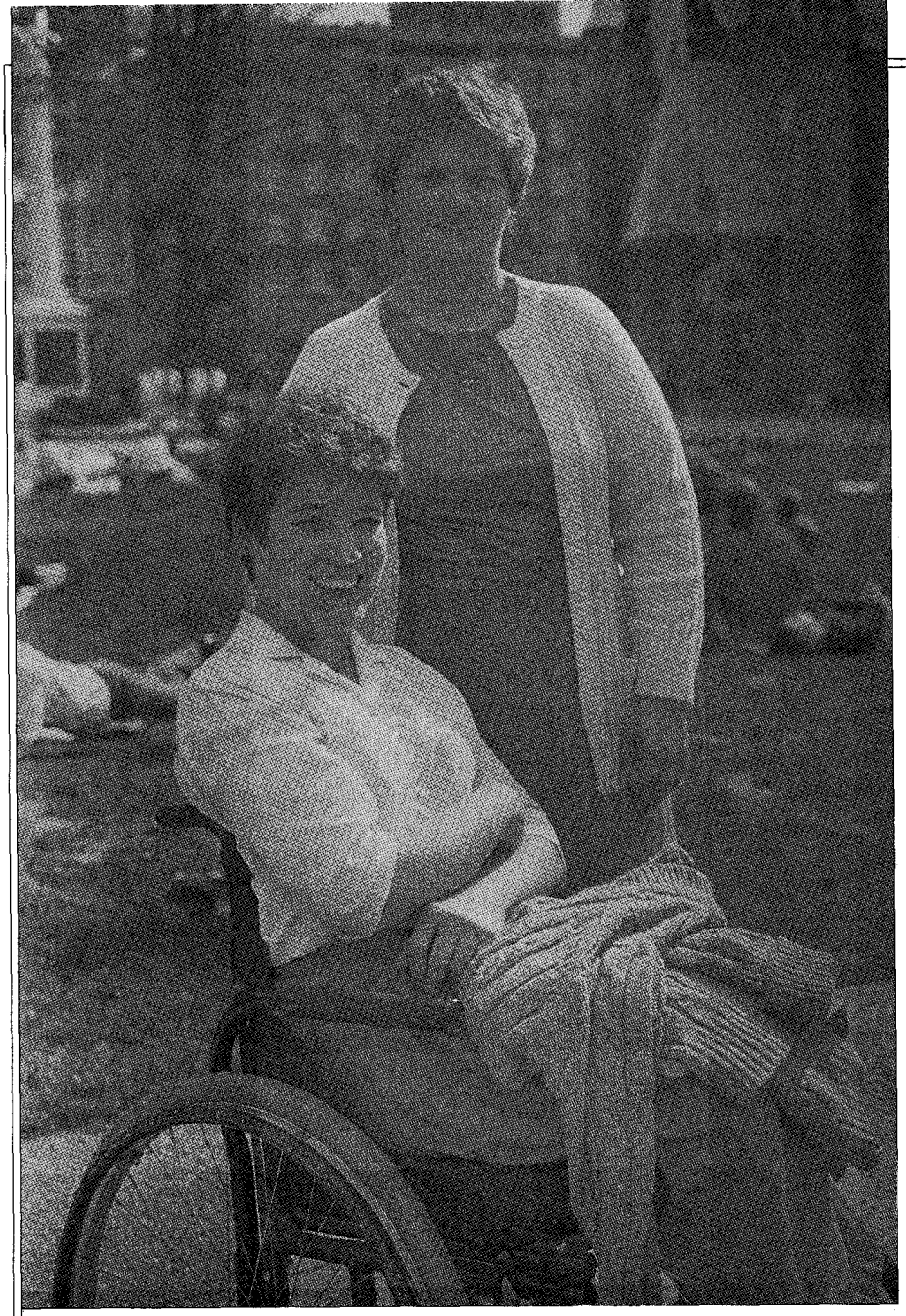
未熟な人は，カウンセリングを受けたり，自分の行動について報告をしたりすることを嫌います。そのようなことは子供のすることであると考えるのです。しかし，絶えず成長しようと努力する人は，自分についてもっとよく知り，問題解決の糸口を見いだすうえで，カウンセラーが助けになることを認識しています。私たちの教会では，カウンセラーは，予言者はもちろんのこと，私たち一人一人のための援助の源です。

自分の振る舞いに対して「私はもう大人だ。そのように扱わないでくれ」という言い訳をする人に注意してください。真の大人となるためには，道徳的な成熟さと学力のうえでの成熟さが適度に混ざり合っていなければなりません。正しい方向に進もうとする人々の人生において，日々進歩しようとする決意こそ，最高の優先順位が置かれるべきものなのです。

大管長会がすべての教会員に対して，教会に戻るように呼びかけていることには，真の目的と力があります。強さ，成

●左から七十人第一定員会会員フランクリン・D・リチャーズ長老，ヤコブ・ディヤガー長老，カーロス・E・エイシー長老





長，幸せは，自分の生きている方向について分析することによって生じます。道を見失った人，誤解されている人，気分を害された人，また活発に集っている人も皆一緒に教会に来て，イエス・キリストの福音の中で友情をはぐくむように勧められています。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員になるだけでは十分ではありません。もしも私たちが，大人として，真実かつ永遠の進歩のために前進しようとするならば，神権会，扶助協会，若い女性，若い男性，初等協会，日曜学校に参加するのは必要なことです。教会で個人が活発に活動に参加することを促進しようとする場合に，良い資格を持つ会員となることよりも，よく参加する会員となることの方がはるかに良いことを，私たちは認識する必要があります。私たちには，未熟な人を励まし，その進歩と成長のための機会を提供する責任と特権があるのです。

ジョセフ・スミスは，自分はごつごつした石のようであって，人生の流れによって磨かれた，と人々に述べています。つまずきや落胆，不意の出来事が，短い生涯の中でジョセフを賢明な人物としたのです。人の成熟の度合は，忍耐によって計られることがよくあります。「またもし彼ら汝を坑に投げ入れ，または人を殺す者の手に引渡し死刑の宣告決るといえども，またもし汝海の深所に投ぜられ，寄せくる大波汝を呑まんとし，烈風汝の敵となり，諸天黒闇を集め，風雨火石相共に汝の道を塞ぎ，なかんずく地獄のあぎと大口開けて汝を呑まんとすとも，わが子よ汝この事を知れ，すなわちこれ皆汝に善からんため，汝に経験を与えんためのものなり，と。

『人の子』は一切これらのものの下に身を落したり。汝は彼より大いなるか。」（教義と聖約122：7－8）

若い友人の皆さん，自分にレッテルを張ることのないよう，私は愛をもってお勧めします。全国一，世界一となっても，あなたがひとりで自分を勝利者にし，トロフィーを授けているのであれば，何の意味もありません。同じように，自分を敗北者，取るに足らぬ者，落伍者，失敗者と見なす権利はだれにもありません。自分を裁くのはあらゆる面で非常に危険なことです。自分が今どこにいるかよりも，自分がどの方向に進んでいるかの方がはるかに大切なことは事実です。私は，これまでに本当に教養のある人が「自分には教養がある」と言うのを聞いたことは一度もありません。しかし，世界的に傑出した人物に数えられようとしている人の中に，自分の知恵を自分の進歩のためや同僚を助けるために使わずに，むしろ自分の能力や知識を喧伝するために時間を費やし，それによって名誉を台無しにしている人がいます。

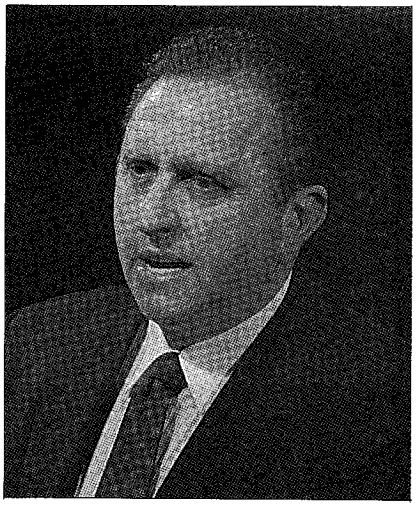
母親，父親，家族の皆さん，年を取った分だけ内面的にも成熟していくとは限りません。ほかの人に対する思いやりは，言葉や行ないをもって伝えるようにしましょう。威嚇，聞くことのできない耳，見ることのできない目，感じることのできない心は，喜びや調和，成長をもたらすことはありません。永遠に続く成熟さは，他人や自分，神に対する忍耐によってもたらされるのです。神の目から見て，また日々の行動により「もう大人」であることが認められるようにしましょう。

神は私たちの天父であり，イエスはキリストです。天父と御子を知ることにより，私たちはキリストを生活の中心に置く大人となることができますように。イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

秘められた思い

第二副管長
トーマス・S・モンソン

「その精神，その決意，つまり古い自分を捨てて真の可能性に近づこうとする心は，人の良心の奥底に秘められているのです。」



数カ月前私は，ブリガム・ヤング大学構内のマリオットセンターで満員の聴衆を前にして壇上に立ちました。私の責任は，話をし，高め，啓発し，霊感を与えることでした。私の話を聞こうとしているのは前途有望な若人で，親や家族，教師，そして神の望みや夢，願いを一身に受けている人々でした。皆，この死すべき世でのパレードに参加しています。ある者は芸術にたけ，ある者は人文科学に，またある者は自然科学や物理学に興味を持っています。こうした学生たちは勉学に励み，人生の様々な道を歩み，その創造された目的を達成しようとしていました。そして，みずからの人生を通して，彼らの求める昇栄への準備として数々のことを経験するのです。

また私は，経験を積んで熟練した職工となろうとしている人々のことも考えました。そして，次に心に浮かんだのは，準備を放棄し，悪い友達とつき合い，完成へと導く道からそれさせ，悲しみ，失望，破壊が待ち受ける多くのまわり道へと誘惑する悪い習慣や行ないを身につけた人々のことでした。

道を踏み外した息子，強情な娘，不きげんな夫，口やかましい妻，すべてが変われるのです。雲は晴れ，嵐はやむのです。やがて人は成熟し，交友関係は変化し，環境は変わります。人間の行動は，必ずしもひとつの型で説明することができないのです。

永遠の見地に立てば，私たちのこの世での生活は，ほんのつかの間です。まわり道は避けるべきです。犠牲が大きいからです。私たちの内にある霊性を，肉体に支配させてはなりません。私たち一人一人は，自分が何者であり，神からどうなるように期待されているかを心に留めなければなりません。

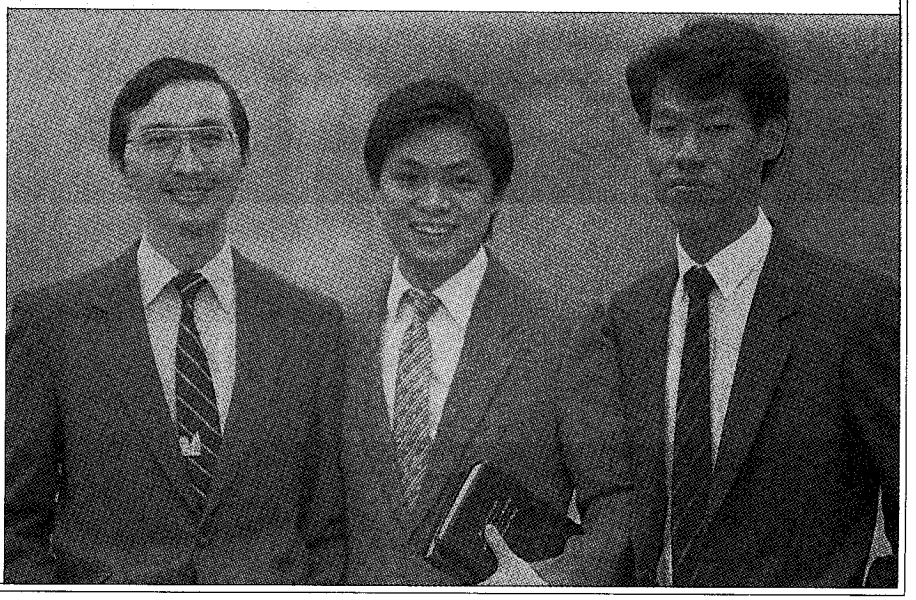
詩人ワーズワースは，霊感を受けて記したその「不死を知る頌（しょう）」の中で，私たちが来た天の家に心を向けるように言っています。

われらの誕生は，ただ眠りと前世の
忘却とにすぎず。
われらと共に昇りし魂，生命の星は，
かつていずこにか沈みて，
はるかより来たれり。
すぎ去りし昔を忘れしにはあらず，
また赤裸にて来たりしにもあらず，
栄光の雲を曳（ひ）きつつ，
われらの故郷なる神のもとより
来たりぬ。

（『幼年時代を追想して不死を知る頌』岩波文庫「ワーズワース詩集」田部重治訳，岩波書店）

この永遠との霊的な交わりを見いだし，追い求めるとき，私たちは霊感を肌で感じ，神が私たちの信頼に応じて導きを与えてくださることを悟るのです。聡明（そうめい）で義なる人物であったヨブは，その高邁（こうまい）な真理についてこう述べました。「人のうちには霊があり，全能者の息が人に悟りを与える。」（ヨブ32：8）私たちは時折，心が鈍くなったり，また到達できる水準よりもはるか下のところでさまよったりすることがありますが，それはすべてこの霊感を受けられなくなっているからなのです。

大恐慌のころのことですが，家を失い，うちひしがれ，職を失った者たちが，私たちの家からさほど遠くないところを列車で通り過ぎました。また何度も何度も裏のドアを弱々しくノックする音がしま



した。ドアを開けると，そこにはよれよれの服を着た，やせこけた人が立っていました。ふたりのときもありました。そして大抵の場合，手にあのなつかしい帽子を持っていました。髪はぼさぼさで顔はひげだらけでした。そしていつも同じ言葉を口にしました。「何か食べるものをいただけませんか。」私の母は，「お入りください。どうぞテーブルへ」と快く応じるのでした。そして，ハムサンドイッチを作り，ケーキを切り，ミルクをつぐのです。母は，その訪問者に，家や家族のこと，それに生い立ちについても尋ねたりしました。母は希望を与え，激励の言葉を投げかけました。こうした訪問者は，去るときには「ありがとう」と心を込めて言うのでした。失望の顔は満足のほほえみに取って変わり，曇っていた目は希望にあふれました。人の最も高貴なる属性である愛は，驚くべきことを成し遂げるのです。

私たちは人生の旅の途中で，人生が多くのチャレンジに満ちていること，しかもそのチャレンジの内容が人によって異なることに気がつきます。私たちは成功を願い，ワンダーウーマンやスーパーマンになろうと努めるのです。少しでも失敗の徴候があれば，狼狽（ろうばい）し，失望さえするのです。失敗したことのない人などどこにいるでしょう。

そのような時がバスケットの選手としての私にもありました。その試合は接戦でした。ところがコーチはその試合の明暗を決するような大切なプレーに私を使ったのです。そして，どうしてそうしたかいまだもって理解できないのですが，私はボールを受け取るとドリブルで相手のチームの間を通り抜け，バスケットに向かって高くジャンプしました。そしてボールが指先を離れた瞬間，私は相手チームのバスケットに向かって投げたことを悟りました。私は今まで祈った中で一番短い祈りをしました。「どうか父よ，ボールが入りませんように。」祈りは答えられましたが，その瞬間に苦難が始まったのです。私は聴衆から「モンソン，モンソン，モンソン，退場！」という叫びを浴びせられ，コーチはやむなくそのとおりにしました。

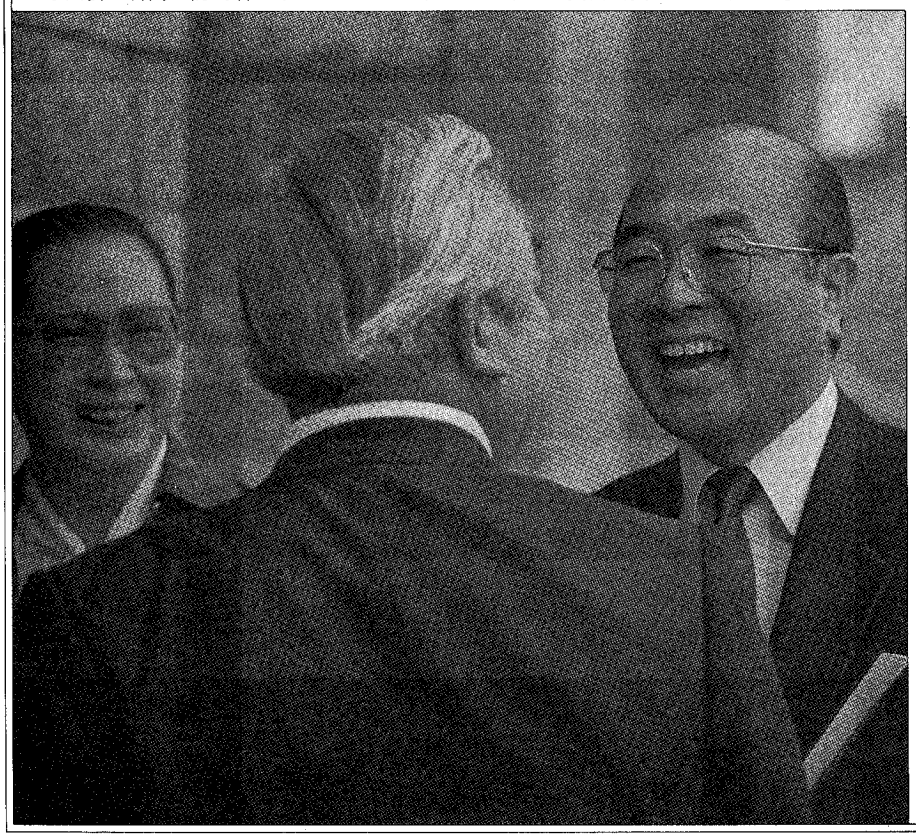
私は少し前，ハリー・トルーマン大統領についてのエピソードを読みました。大統領の任を終えて，ミズーリ州インデペンデンスに戻った後の話です。彼はトルーマン図書館で小学生の質問に答えていました。やがて小さな，しかつめらしい顔をした少年が尋ねました。「大統領，あなたは子供のころ，人気者でしたか。」大統領はその子を見つめてこう答えました。「いいえ，私は人気者ではありませんでした。人気者は，スポーツがうまく，けんかも強い連中でした。私はそんな人物ではありませんでした。コウモリのようにめがねをかけないと何も見えませんでしたし，本当のことを言うと，私は臆病者だったんです。」それを聞いたその少年は，拍手をしました。するとみんながそれに続いたのでした。

私たちの責任は，平凡な人間から秀でた人間になることであり，失敗を土台にして成功に到達し，最上の自分になることです。神の最大の賜のひとつは，もう一度やってみることの喜びです。失敗をしたらそれでもう終わりということではないのです。1902年のこと，「月刊アトランティック」という雑誌の編集長は28歳のある詩人に次のようなメモとともにその分厚い詩集を送り返しました。「私たちの雑誌には，あなたのひどい詩を載せる余地はありません。」その若き詩人はのちの有名なロバート・フロストでした。1894年に英国の弁論の教師は，16歳のある少年の通信簿に「成功の見込みほとんどなし」と書きました。その16歳の少年は，ウィンストン・チャーチルだったのです。

セオドア・ルーズベルト大統領は言いました。「批評家や，失敗を指摘する人や，どうやったらもっとうまくできたかなどと横から言う人のことはどうでもいい。実際に物事を行なっている人にこそ名誉の冠が与えられるべきだ。」

私たちは人が変わり得ることを知っています。人は良くなれるのです。その好例はタルシシのサウロです。聖典には，サウロが主の弟子たちをおびやかしたと書かれています。すると天から光が降り，声が聞こえてきました。「サウロ，サウロ，なぜわたしを迫害するのか。」サウロは尋ねました。「主よ，あなたは，どなたですか。」すると主は，「わたしは，あなたが迫害しているイエスである」と言われました。次のサウロの答えは私たちが見習うべきものです。「主よ，わたしは何をしたらよいでしょうか。」（使徒9：4－6参照）こうして，迫害者サウロは，

●大会の合間に訪問者とあいさつを交わす七十人第一定員会会員の菊地良彦長老ご夫妻



伝道者パウロとなったのでした。昼は夜にとって変わり，暗やみは光に道を譲ったのです。

網を捨てて主に従ったシモン・ペテロにも，苦悩の時がありました。彼も弱い時があり，誓いをもって主を否定しました。そして変わったのです。それからは，主を拒むことは決してありませんでした。こうして彼は神の王国に迎えられたのです。

アルマの子アルマの模範もあります。彼はよこしまな道を捨て，改心しました。彼は真理を教える者となりました。彼の息子であるヒラマンやコリアントンへのやさしい勧告は，文字どおり珠玉と言えるでしょう。ヒラマンに「わが子よ，忘れずに青年の時智恵を得よ。青年の時から神の命令を守ることを習慣とせよ」(アルマ37：35) と言い，コリアントンには「空(むな)しくて愚なことは何事であっても惑わされてはならない」(アルマ39：11)と言っています。

そして今の世でも，デビッド・O・マッケイ大管長が繰り返し述べたように，イエス・キリストの福音は悪人を善人に，善人をさらに善い人へと変えることができます。人間の性癖を変え，その生活を変えることができるのです。

この変化はだれにでも訪れます。1985年12月，大管長会は教会をお休みしている人々に対して，再び戻ってくるようにお招きいたしました。その宣言では，教会を遠ざかっている人，批判的な人，罪を犯した人に対して「立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルにつき，聖徒の交わりという甘く，心を満たしてくれる木の実を再び味わいなさい」と呼びかけております。数百，何千という人がこの招きにこたえてくださいました。その方々の人生は新しい意味を持ったのです。その方々のご家族は祝福を受けられました。神に近づいたのです。

その精神，その決意，つまり古い自分を捨てて真の可能性に近づこうとする心は，人の良心の奥底に秘められているのです。しかしその道は険しく，つらいものです。スウェーデンのゴテボルグに住むジョン・ヘランダーもそのことに気づきました。26歳のジョンは身体障害者です。自分の体の動きをコントロールすることができないのです。

●タバナクル合唱団にほほえみかける大管長会

ところがジョンは，スウェーデンのカングスバッカのユースカンファレンスで，1,500メートルのレースに出場したのです。彼には勝つ見込みなどありませんでした。ばかにされ，笑い者にされるのが関の山でした。おそらくジョンは，遠い昔に遠いところに住んでいたある方を覚えていたのでしょう。その方もあざけられたのではなかったでしょうか。笑い者にされたのではなかったでしょうか。侮辱されたのではなかったでしょうか。しかし，その方は打ち勝ちました。レースに勝ったのです。ですから，ジョンも勝てるかもしれません。

そのレースは実にすばらしいものでした。懸命に走り，突進し，ほかの走者はジョンをどんどん引き離して行きます。人々は驚きの目で見つめていました。こんなに遅い走者はだれだろう。ジョンが1周の半分までしか行かないうちに，ほかの走者は2周目を走っていました。先

頭グループの走者たちがゴールに近づくにつれて，緊張が高まりました。だれが勝つだろうか。2位はだれだろう。最後の力を振りしぼって皆は走り，テープが切られました。群衆は歓声をあげ，勝者が決まりました。

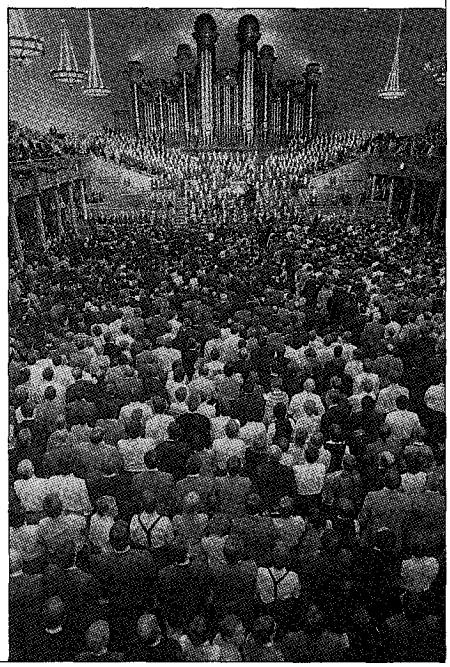
レースは終わったかのようでした。でも，レースが終わっても走り続ける人がいました。彼はゴールラインを通過しました。でもそれは第1周目のものでした。その走者は負けたことがわからないのでしょうか。コースに残っているのは，彼だけです。これは彼のレースです。勝利を収めるのは彼です。だれも席を立つ者はいませんでした。すべての目がこの雄々しいランナーに注がれました。彼は最後のコーナーを曲がると，ゴールに向かいました。人々は驚きと賞賛の目でジョンを見つめています。ジョンの姿に自分自身を見たのです。ションがゴールに近づくと，人々は一斉に立ちあがりました。そして大きな拍手がわき起こりました。疲れ果て，よろけて転びながらも，ジョン・ヘランダーは再び張られたテープを堂々と切ったのでした。係員も，血も涙もある人間です。声援は遠くまで響きました。そしておそらく耳をすましていたなら，偉大なる審判員である主も「良い忠実な僕よ，よくやった」(マタイ25：21) と言われるのが聞こえたことでしょう。

私たち一人一人は人生のレースの走者です。走者が多いことは慰めでもあります。永遠の審判員がすべてを理解しておられることを知れば，力がわいてきます。一人一人が走らなければならない真理の道はチャレンジに満ちています。でも，皆さんも私も，ひとりで走るわけではありません。家族や友人，指導者という観衆が私たちの勇気をたたえ，つまずいても立ちあがってゴールに進む決意をしたときに拍手を送ってくれるのです。人生のレースは，短距離の選手が走るような平坦でやさしいコースではありません。落とし穴や障害物で満ちています。しかし，次の讃美歌は私たちを勇気づけてくれます。

おそるな，われは汝(なんじ)が神
常に汝と共にあり
助け与え，強くして
わが正しき力をもて
汝をささえ励まさん

主われにたよる者の霊
敵の手には渡し得ず
地獄かれに迫るとも
われその霊を見捨てはせず
必ずわれは見捨てず
(讃美歌96番『主のみ言葉は』)

挫折感を捨て去りましょう。進歩を妨げるような悪習を捨てましょう。すべての者に備えられた賞，つまり神の日の光栄の王国での昇栄を求め，それを得ようではありませんか。これが私の強い願いです。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

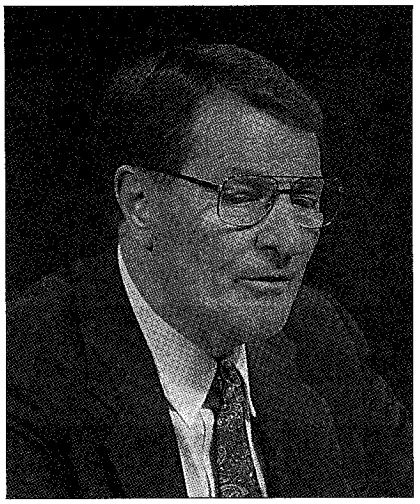


●1987年4月5日（日）午後の部会

「わたしが勝利を得たと同様に勝利を得なさい」

十二使徒定員会会員
ニール・A・マックスウェル

「私たちは生活の中にイエスの徳を取り入れ，イエスのような人にならなければなりません。たとえ欠点が多く，不完全であっても，この聖なる過程を怠ってはならないのです。」



末日の世に起こる出来事や状態を考えると，私たち教会員は，足をしっかり地につけ，根を深くおろし，揺らぐことのない確固たる信仰を築くことがぜひとも必要になってきます。（コロサイ1：23；2：7；IIペテロ1：12参照）イエスは弟子たちにこのように言われました。「私があなた方に教え，戒めることを行なうよう，心しなさい。」（ジョセフ・スミス訳ルカ14：28）

この言葉を心に留めていないと，世の嵐は容赦なく私たちに吹きつけてきます。しかし常に心に留め，注意していれば，うわさ話や間違った教義，この世的な哲学や行ないに惑わされることはありません。またテレビのつまらない番組にうつつを抜かし，古代アテネ人のように，「何か耳新しいことを話したり聞いたりすることのみに，時を過ご」したりする（使徒17：21）こともないでしょう。この世のはかない流行を追いかけてはなりません。「この世の有様はすぎ去」っていくのです。（Iコリント7：31）

私たちは，まず主に対するしっかりした証がなければ，イエスに命じられたことを，心して守っていくことはできません。イエスがいかに善人であったとしても，人間としてしか見なされなければ，その助言は歴史上の一道徳家の教えに過ぎないのです。しかし，私たちの幸福を心にかけてくださる無数の世界の創造主であられる主が，「汝，姦淫（なんじ，かんいん）を犯すべからず」と命じられれば，それはまったく違ったものとなるのです。「神のみこころに従って……肉体の意志に従」わないこと（IIニーファイ10：24），これが私たちに課せられた責任と言えます。

詩人でもあった予言者ヤコブは，誓約を破ることがいかに「感じ易（やす）い心」を傷つけ，いかに心に「深い傷を負」わせるかを目のあたりに見ました。（モルモン経ヤコブ2：9，35）また，誓約をあまりにも軽々しく考える人々がいるために，ヤコブの心は悲しみ，「重く」沈みました。（ヤコブ2：3参照）今日，傷を負った人々を目にして，私は今まで以上にこのヤコブの気持ちがよくわかるようになりました。

悲しいことに，教会員の中に「神のみこころに従う」ことをせず，交わした誓約に十分心していない人々がいるのです。

たとえば，結婚の誓約を破り，ふさわしくないまま主の聖餐にあずかっている人がいます。

身の入っていない時間だけの奉仕をしている人，体だけが出席している人，真の聖徒としての深い思いを持たず，単なる教会員としてうわべだけの活動をしている人がいます。

福音の中の見出しだけを読んで済ませ，キリストについてあまり語ることもせず，キリストにあって喜びを得ることもなく，主の誓約を載せた聖典を軽視している人もいます。

また高慢なために，従順さや霊的素直さに欠ける人もいます。このような人は，すべてのひざが主に対してかがむ裁きの日に，ひざまずくことができず，たとえ才能を見せびらかそうとしても，それをたたえてくれる人に会うことはないのです。

自分だけの都合で会員資格を保持している人は，キリストの真の弟子ではありません。

真の弟子は，片手で信仰の盾を高くかかげ，襲いかかる悪の矢を払いのけながら，もう一方の手で鉄の棒にしっかりつかまっている人です。（エペソ6：16；Iニーファイ15：24；教義と聖約27：17参照）誤解のないようにしてください。真の弟子となるのには，あくまでも両手が必要なのです。

真の弟子はまた，規則に規則を加えられ，経験に経験を加えられながら，自分たちの仕える主に近づく人です。私たちは「キリストの思い」（Iコリント2：16）を持ち合わせているようにならなければ，「キリストを頼る」（ヒラマン3：29）男性，女性になることはできません。これは，パウロの言葉にあるように，「かつて

は悪い行いをして……心の中で……敵対していた」者についても言えることです。（コロサイ1：21。ピリピ2：5参照）

私たちは，たとえサタンのように賢くなったとしても，神のみこころを知ることはできません。（モーセ4：6参照）

また「常に学んではいても」人生の荒波の中にあっては，永遠の真理を見失ってしまうこともあるのです。悲しくも，次の短い詩の中にこのことが歌われています。

毎日の生活の忙しさに真の命を失い，
知識を求める途中で知恵を失い，
情報の中に知識が失われていく。
（T・S・エリオット「岩」より）

私たちが強められて真の弟子となれるよう，主は私たちに予言者と聖典を与えてくださいました。

「弱き者に世に来るべきことに対して備えしめ，また……主の使となる備えをなさしむるなり。而して世の弱き者により，主はその『みたま』の力によりて国々の民をむち打つなり。」（教義と聖約133：58－59）

完全な福音を身につけることによって，私たちはサタンに打ち勝つことができます。そしてさらに誓約を守れば，私たちは霊的にも守られるのです。

近い将来，教会員は次のニーファイの予言を成就するに違いありません。

「神の子羊の能力が子羊の教会の聖徒らと，主の誓約を受けて世界の各所にちりぢりとなった民の上とに下り，これらの人々が義と大きな栄光にかがやく神の能力とを以て武装した……。」（Iニーファイ14：14）

しかしながら，教会員の全体的な善の力は，まだ「よろずの国民のはたじるし」（教義と聖約115：5）となって，光を輝かせるには至っていません。

世の罪悪がなければ，教会は数字のうえでも霊的な面でももっと急速に発展するはずです。（Iニーファイ14：12参照）また，私たち一人一人が，立派なクリスチャンになることによってもそれは可能です。（ルカ9：23参照）そのためにも，私たちはまず肉欲や誘惑を避けなければなりません。

復活されたイエスはこう言われました。「汝らはかくのごとき情欲を抑えてその十字架を負う方（が）……勝れり。」（IIIニーファイ12：30）

すなわち，日々良きクリスチャンとして生活するには，日々それらの肉欲に打ち勝つ努力をしなければならないのです。

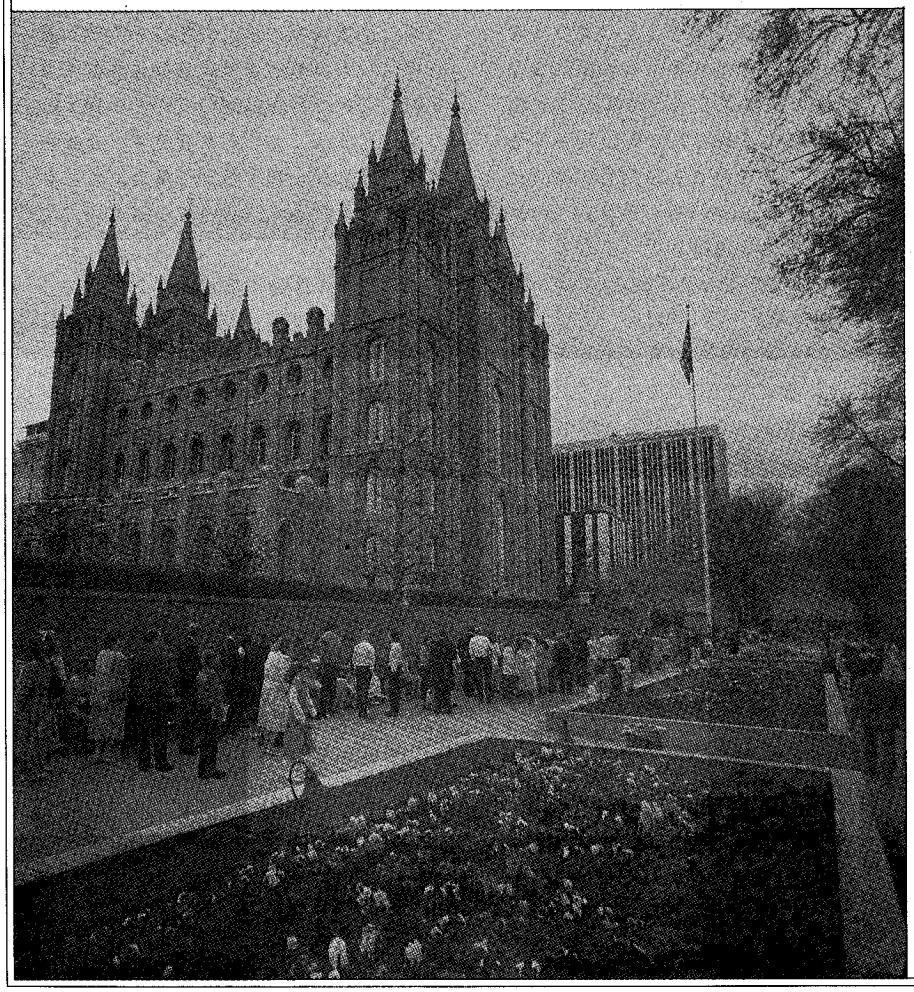
誘惑を受けながらもそれを「心に留めたまわ」なかった主にならえば，私たちも「世の常」（Iコリント10：13）である誘惑に満ちたこの世にあって，立派に生きていくことができます。もちろん，イエスはご自分に降りかかってきた途方もない誘惑に気づいておられました。しかしイエスはそれらをいつまでも心に留めておくことはされず，即座にそれらを退けられたのです。私たちも受けた誘惑に心を留め，もて遊んでいると，誘惑にもて遊ばれてしまうようになります。誘惑に「心を留めない」ようにするには，そうした歓迎されない来客を門前払いにしてしまうことです。なぜならこの来客は，いったん中に入れると追い出すことがむずかしくなる無法者のようなものだからです。

このような朽ちた環境の中にあって，私たちの心は義の最後のとりでと言えるでしょう。このとりでを，私たちは悪の刺激という弾丸から守っていかなければなりません。キリストは私たちの心をよくご存じです。

「主ご自身，試練を受けて苦しまれたからこそ，試練の中にある者たちを助けることができるのである。」（ヘブル2：18）

また約束されているように，主は私たちに「試練に耐える」道や「逃れる」道を備えてくださるのです。（Iコリント10：13参照）

私たちの住む今の時代について，確かに数多くの警告がなされています。この時代にあっては，なすべきことが多過ぎて，1年が10年にも感じられてしまうほどです。教会員たちは，世の人々の高慢を象徴する「あの大きな建物」（Iニーファイ8：26；11：36）の中にいる人々によって，あざけられ，ばかにされるようなことがあるかもしれません。しかし気にすることはありません。なぜなら，3



日目によみがえられたあのお方が，間もなくこの大きな三流の建物を焼き払われるからです。

私たちの住むこの時代は，善を悪と呼び，悪を善と呼ぶ大いなる倒錯の時代です。（イザヤ５：20；IIニーファイ15：20：教義と聖約64：16；IIニーファイ２：５）また霊的真理に無知な人々が，「自分の知りもしないことをそしる」（ユダ10；IIペテロ２：12参照）時代でもあります。

平和はすでにこの世から取り去られてしまっています。（教義と聖約１：35参照）国々は互いに争いを始め（マタイ24：７参照），人々の愛は冷え，代わりに悪が横行するようになります。（教義と聖約45：27参照）世の人々は混乱し，「諸国民が悩み……おじ惑い」（ルカ21：25）人間の表面的な解決法では手に負えなくなってきます。

人間の心の問題で，
王や律法によって解決できるものの
いかに少ないことか
（サミュエル・ジョンソン「ゴールドスミス・トラベラーへの追加詩より」）

私たちは，このような状況から完全に逃れて生活することはできません。しかしそうした状況下にあっても，なお誓約を守っていくことはできます。

私たちの置かれた状況をよくご存じの主は，このほんの「束の間」（教義と聖約122：４）の時期をうまく克服できるよう助けてくださいます。私たちが心を落ち着けていれば，それらに「よく……耐え忍」ぶことができ（教義と聖約121：８），「守って」いくことができます。（Iテサロニケ５：21参照）また義をもって耐え忍ぶならば，「これ皆（我々に）善からんため，（我々に）経験を与えんため」（教義と聖約122：７）のものとなるのです。ペテロは弟子たちに，「火のような試練」が降りかかってきても「驚きあやしむこと」（Iペテロ４：12）がないようにと言っています。

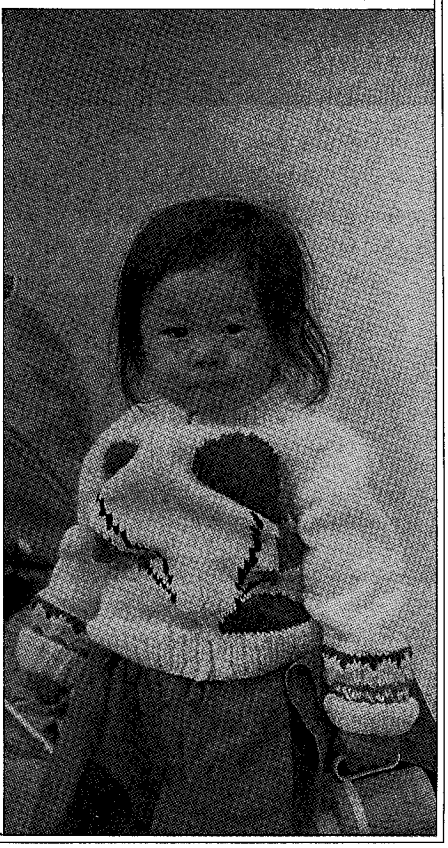
それでもなお神の聖徒たちは，予言されているように「日夜，それらの試練から解き放たれるまで主に泣き叫ぶ」のです。（「ヒーバー・C・キンボールの予言」p.６）

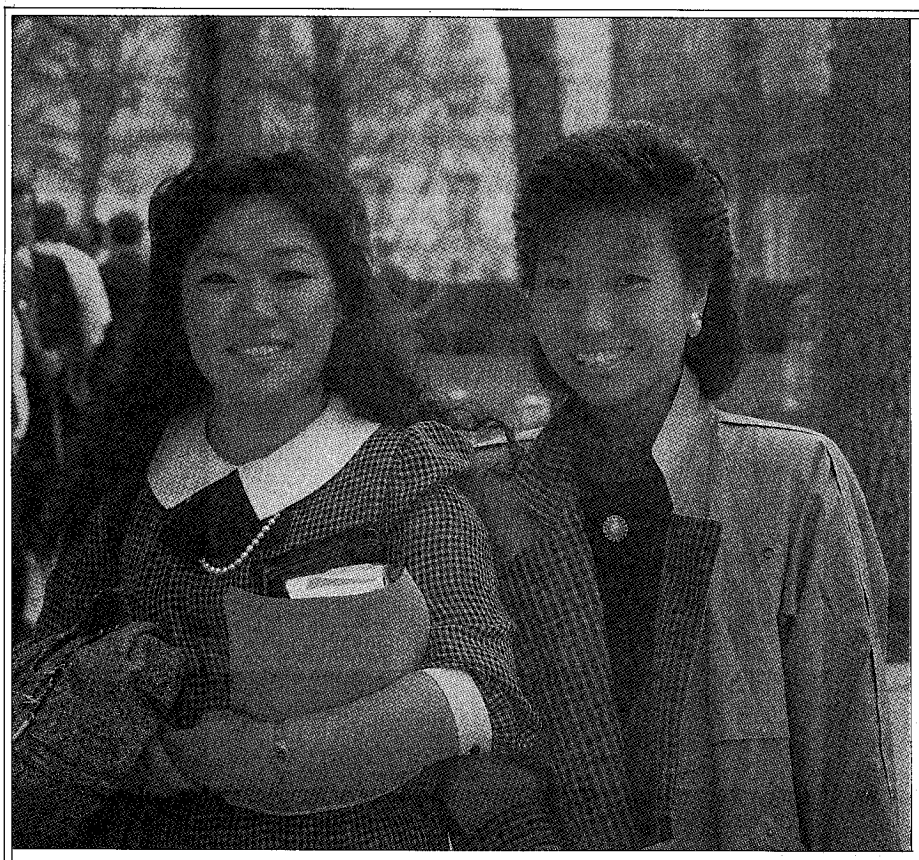
このような中で，霊的足場のしっかりしている人々は最後に勝利を得，栄えあるすばらしい約束を受けるのです。

「勝利を得る者には，わたしと共にわたしの座につかせよう。それはちょうど，わたしが勝利を得てわたしの父と共にその御座についたのと同様である。」（黙示３：21）

さて，ここで「（私たちは）いかなる人物にてあるべきか」（IIIニーファイ27：27）という問いについて考えてみましょう。まず，私たちは生活の中にイエスの徳を取り入れ，イエスのような人にならなければなりません。たとえ欠点が多く，不完全であっても，この聖なる過程を怠ってはならないのです。たとえ歩みは遅くとも着実に進んでいくのです。人生にどんなことが降りかかってこようと，少しでもキリストに近づこうと努力している人は，それに打ち勝つことができます。

また過ぎ去ったことに心痛むことがあったとしても，謙遜であれば「われはかれらを赦（す）」（IIIニーファイ18：32）というイエスの約束を受け，「キリストを信ずる信仰によって」（IIニーファイ25：25）「生き返」ることができるのです。（ルカ15：32）永遠の贖（あがな）いの一要素として，イエスは（肉体をもつ者として〔アルマ





7：11－12))私たちがこの世で経験することをすべてご存じなのです。主はすべての罪や悲しみを背負われ，すべての男性，女性，子供たちの苦痛をその身に受けられたとヤコブは語っています。(IIニーファイ9：21参照）私たちに完全な愛を注いでくださっている主には，私たちをどのように助けたらよいかがわかっておられるのです。

ですから，私たちはペテロの勧めにあるように，すべての思いわずらいを主にゆだねることができます。(Ｉペテロ５：７参照）主は，見捨てられた者の気持ちを含め，すべての思いをご存じなのです。（マルコ14：50；15：34参照）主の贖いの力やすべてを取り巻く主の愛に勝るものはほかにありません。いばらの冠をかぶられたお方のことを思えば，私たちの生活が必ずしも幸福でないからと言って不平をならすことはできないはずです。最後に，イエスの贖いについて触れたいと思います。ルカは，ゲツセマネでのイエスの汗が「血のしたたりのように地に落ちた」（ルカ22：44）と記しています。このことは，ほかの回復された聖典（Ｉニーファイ13：39－40）によってもはっきりと裏づけられています。「その苦しみたるや，われ神，すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ，あらゆる毛の孔より血を湧かせ，身と霊と両つながらを苦しめ，すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。」（教義と聖約19：18）

イエスが血を流されたというこの重要な心揺さぶる事実は，主が激しくむち打たれる以前に，すでにゲツセマネの園においてあったことなのです。

数人の医学者によって発表された「イエスの肉体の死」についての最近の詳しい文献には，「イエスは激しくむち打たれたために，相当の血を流し，その苦痛によりひん死の状態になった」と記されています。(そのような弱り果てたイエスが十字架を運ぶには，助けが必要だったはずです)「したがって，実際にはりつけになる以前に，イエスの肉体は弱り果て，死にひんしていたと思われる。……むちによる虐待には相当の流血が伴ったと思われるが，それに反してはりつけ自体は，比較的流血の少ない刑であった。」(「アメリカ医学協会誌」1986年３月21日，pp. 1458，1461)

しかしながら，むちに打たれる以前に主はすでにゲツセマネで尊い血を多量に流されていたのです。主は「身と霊と両つながら」（教義と聖約19：18）において苦しまれたのです。ベンジャミン王は，キリストが受けられるはずの苦痛についてこのように言っています。「死ななければ人間に堪え難いほどひどいものである。なぜならば，見よ，このお方は全身の毛孔から血を流したもうほどに……苦痛を感じたもうからである。」(モーサヤ３：７）

ゲツセマネであらゆる毛穴から血を流された主の衣は，深紅に染まったに違いありません。その主が力と栄光のうちに来られる再臨のときに，怒りを表わす酒ぶねを踏む者の象徴として，また主が私たちのためにゲツセマネやカルバリの丘でどれほど苦しまれたかを思い起こさせるために，「赤き装いをなし」て（教義と聖約133：48）来られたとしても，不思議ではありません。

ここ数年，私は主の贖いに関する讃美歌を特に心を込めて，そして「主イエスの愛に」「流されたる血に身はふるう」「おごれるわれを救うために」「主におどろく」「ああ，くすしき主のみわざ……」（讃美歌76番）といった歌詞を特に声を上げて歌うようになりました。

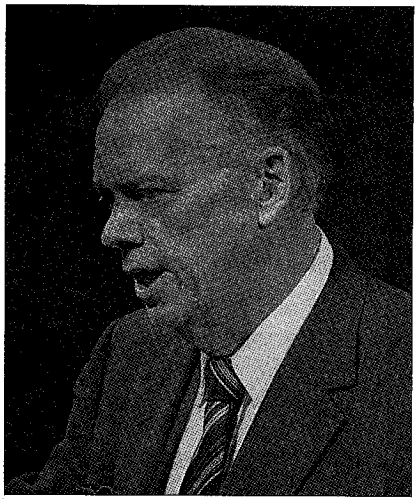
兄弟姉妹，主の贖いにより「死のなわめが断ち切られ」（アルマ11：41参照），復活できることを感謝するだけでなく，さらに主が用意してくださった永遠の生命の賜も手にしようではありませんか。私たちは最終的に，主のような生き方をするか，主のような苦しみを味わうかを選ばなければなりません。すなわち「われと同じ苦しみを受け」(教義と聖約19：17）るか，主が「勝利を得たように」（黙示３：21参照）勝利を得るかを選ばなければならないのです。主は私たちに「われと同じ人物」（IIIニーファイ27：27）になるよう招いておられます。霊的に安定した人々は，その招きを受け入れ，「キリストの贖罪により」すべてに打ち勝ち，勝利を得るのです。(モーサヤ３：18－19参照）

不安定なこの世の中にあって，決意を固め，心落ち着いた生活ができますよう，イエス・キリストのみ名によりお祈り申しあげます。アーメン。

すべての事は信仰と希望によって

七十人第一定員会会員
ポール・H・ダン

「この時代に生きている限り，不愉快な現実に直面しなければならないこともありましょう。しかし，私たちの周囲にある数限りない美しい話を常に心にとどめ，たたえていこうではありませんか。」



この近くに26階建ての高層ビルがあります。その中に２種類のエレベーターがありますが，ひとつは高速エレベーター，もうひとつはごく普通のエレベーターです。

少し前に，私はその高速エレベーターに乗りました。そのエレベーターについて，そのビルで働いている人の中には，ディズニーランドの乗り物に匹敵すると言う人もいます。とにかく，そのとき，ひとりの男の子とその父親が乗り合わせました。すると，突然エレベーターが昇り始めました。その男の子は，予期しなかったスピードに息を詰め，大きな信仰と信頼とをもって父親を見上げて，こう言いました。「お父さん，天のお父様は，ぼくたちがもうすぐ行くって，知ってるの。」

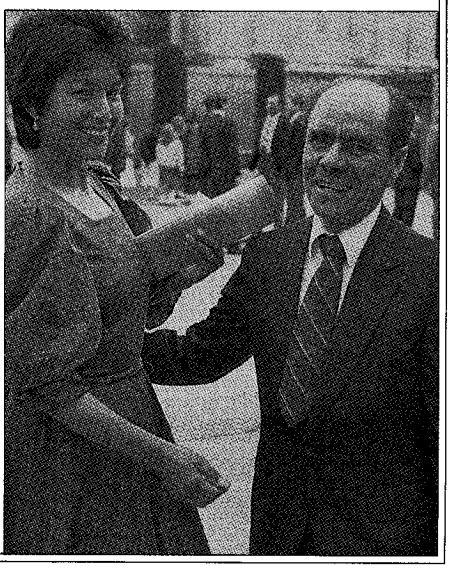
この経験からは偉大な教訓を引き出すことができます。

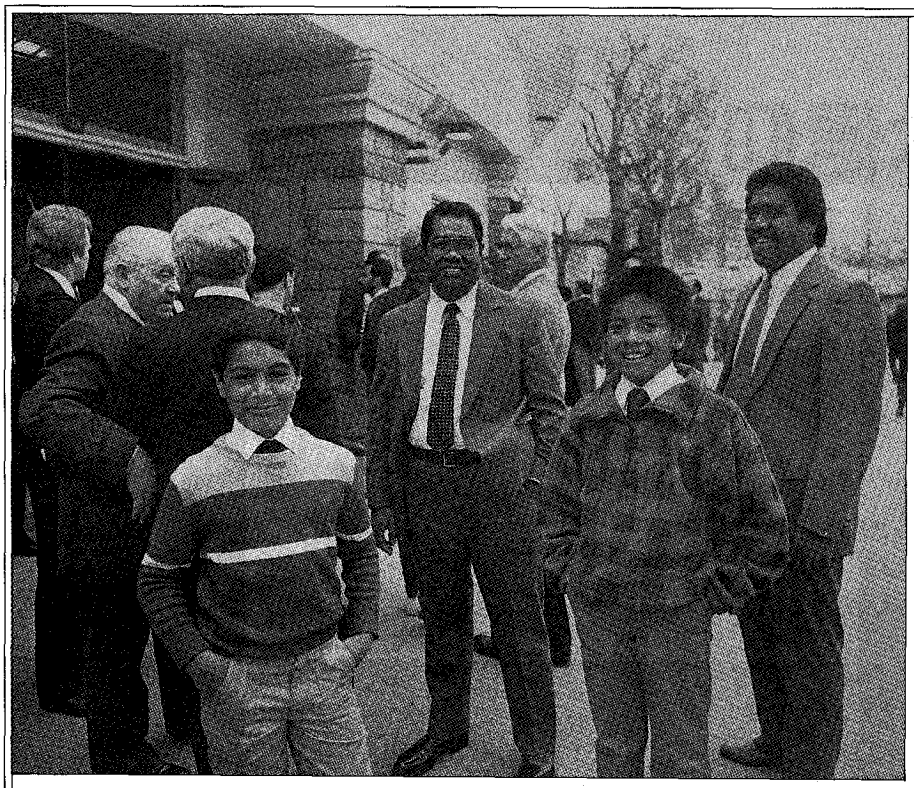
ソルトレークシティーで家庭問題のカウンセリングにあたっているジョアン・ラーセン博士が，最近子供の教育と自尊心の育成について，実に賢明かつ実際的な助言をしました。それによれば，大部分の親は子供たちに教えるという責任を果たすにあたって，間違いや誤った判断といった子供たちの行なう否定的な面，あるいは子供たちがいるがために起こる不便さや問題などの方に心が奪われがちであるということです。さらに，平均的な子供は，その誕生から20歳になるまでの間に，親や教師，兄弟，遊び仲間などから，おそらく10万回ほどの否定的な言葉を聞かされる一方，それに見合うだけのほめ言葉をもらうことはめったにない，とも言っています。きわめて恵まれた子供の場合でも，おそらく否定的な言葉10に対して，ほめ言葉１という割合だそうです。このため博士は，こうした傾向は子供の自尊心に，しばしば生涯にわたって，大きな傷を与える可能性があると強く指摘しています。

そして，博士は否定的な面よりも積極的な面にもっと焦点をあてるようにと助言しています。そして，そうするならば時には奇跡を引き起こすことさえ可能であり，教育の成果も親子関係も，間違いなくはるかによいものにしていくことができると言っています。けなしたり，そしることを控え，前向きの姿勢で，信じる気持ちを忘れずに問題に対処し，よりよい世界を造るために努力していくならば，想像もつかないほどのすばらしい結果を得ることができるでしょう。

良い面がたくさんあるというのに，私たちは人間として悪い面ばかりを強調したがるのはなぜでしょうか。私たちは絶えず，自分の子供を批判し，互いに批判し合い，欠点を探し，すぐに決めつけ，人の美点を探したり成功を助けたりせずに，欠点を探したり足を引っ張ったりしているだけでなく，同時に自分の人生について，四六時中心配している人もいます。成功したいといういくばくかの信仰と希望とを抱いて様々な問題に積極的に対処しようとせずに，抱え込む可能性のある問題にばかり心を奪われて心配しています。しかし，そのような問題はほとんどが取り越し苦労なのです。私たちの社会はどういうわけか，一風変わった，悲劇的で，不敬で，かつ現代の諸悪に満ちた基盤の上に築かれているように思われます。新聞やテレビの報道は，そのほとんどが人生の否定的な面に向けられています。十代の若者の自殺，麻薬，エイズ，殺人，不貞，不正直，そのほかあらゆる種類の社会悪が対象です。

各地の教会を回ってみますと，時に，別の形のきわめて否定的な要素を含んだ考え方に出会うことがあります。重荷を背負った会員たち，時には過酷なまでに重荷を背負った会員たちがそれです。何





とかしなければならない重要な仕事が山ほどあります。生活費を稼ぐこと，抵当を支払うこと，子供たちを養育すること，教会の召しを忠実に果たすこと，学校や地域の責任を果たすこと，正しくふさわしい生活をすること。まだまだ続きます。

私はよく考えるのですが，このような人々の中には，喜びも感動もない生活をしている人がいます。また大体において，つらいことの多かった過去の思い出ばかりにこだわっているのです。そして必要なことはすべて完成させようとか，今すぐに完全な人間にならなくてはなどと考えて自分自身をがんじがらめにし，罪悪感に陥っている人が多くいます。否定的な態度がこのような形で私たちに影響を及ぼしてくるのは，非常に興味深いことです。

さて，もちろん生きていくというのは生やさしいことではありません。子供には教育を施さなければなりませんし，借金も支払わなければなりません。正しい生活を送る必要もあります。これはみな，主が私たちに勧告されていることです。時には心配せざるを得ないような問題もあるでしょう。私たちの周囲には，きちんと顔を向け，対処し，解決しなければならない否定的なことが現実に存在していますし，これからも決してなくなることはないでしょう。しかし，そうした問題やチャレンジ，ときには絶望的にさえ思える難局の攻撃に絶えずさらされていると，それが個人的なものであれ，国家にかかわるものであれ，欲求不満や失望感，絶望感が助長され，場合によっては，本来ならば私たちを否定的な場から引き上げ，必要とする積極的な答えを探し出してくれるはずの原則から外れさせるような心の状態や態度にまで落ち込むことがあるのではないでしょうか。

人生には悪いことがたくさん起きますが，善い面を見るこつを持っているのではと思われる人もいます。ある若い実業家が，新しい支店を開いたときのことでした。友人のひとりがお祝いに花輪を贈りました。ところが，その友人が開店祝いに駆けつけてみると，自分が贈ったはずの花輪に「安らかに眠れ」と書かれているのです。びっくりした彼は怒って花屋に抗議しました。ところが一応謝罪したあとで花屋はこう言ったのです。「こんな風に考えてもらえませんか。きょうどこかで，だれかが埋葬されたとき，『新天地でのご多幸を』と書かれた花輪をもらったということですよ。」

モルモン経からは，問題の解決にあたって多くの解答や指針を見つけ出すことができます。そしてこれまで話してきたことを理解するのに役立つと思われる聖句があります。つまり，人生の様々な問題を失意と絶望の混じった気持ちで対処するのではなく，信仰をもって積極性と信頼と希望とに満ちた態度で接するということです。その予言者の言葉に耳を傾けてみましょう。希望と信仰の基盤として，神を知り，神を信じるように，その予言者は強く訴えています。

「すべての事は信仰によって成るからして，すべて神を信ずる者はこの世よりも勝っている世，すなわち神の右手の場所を少しも疑わずに望むことができ，このような望みは信仰から生じて人の心の錨（いかり）になるものであるから，この錨のために人はしっかりしてびくともせぬようになり，いつも多くの善い行いをして神を崇（あが）めるようになることができる。」（イテル12：3－4）

このすばらしい章では，全体にわたって，信仰と愛と希望とによって成し遂げられる様々な奇跡について教えています。消極的な考え方や接し方を基盤として生活することは，実に，主や自分自身や他人に対して希望や信仰，信頼を抱くこととはまったく正反対のことであり，絶えず暗い気持ちに陥る原因になるのではないかと思われます。一方，積極的な態度は，気持ちを高め，支え，前進しようという勇気を与えます。これこそ，育てていかなければならない態度，また培うことのできる習慣なのです。

美しいものを心から喜び，不幸な出来事は見過ごしにするという態度の典型は，トマス・モアの物語に見ることができます。

19世紀のアイルランドの有名な詩人，トマス・モアの結婚直後の話です。あるとき，仕事のために家をしばらく空けていました。モアが仕事から帰ってくると，玄関で待っていてくれたのは，あの美しい花嫁ではなく，モアの家の主治医でした。

「奥様は二階です。でも，お会いしたくないそうです。」このときモアは，大変つらい事実を知りました。妻は天然痘（てんねんとう）にかかっていたのです。その病気のために，かつて傷ひとつなかった肌があばたと傷跡だらけになってしまいました。自分の

顔を鏡で一目見た彼女は，雨戸を閉じて，夫には二度と会わない，と断言しておいたのです。しかし，モアはそんな話には耳を貸しません。走って二階へ行くと，急いで妻の部屋のドアを開けました。部屋の中は真っ暗でした。暗やみの中から物音ひとつ聞こえてきません。モアは壁に添って手探りで進むと，ガス燈が手に触れました。

そのとき，真っ暗い部屋の片隅から大きな叫び声がしたのです。「やめて。明かりはつけないで」という妻の叫びでした。

モアはためらいました。必死に願う声に動揺したのです。

「出て行って。お願いだから出て行って。私があなたにしてあげられることは，これしかないんです。」

モアは出て行きました。そして自分の部屋に入ると，ほぼ一晩中かかって，祈りの気持ちを込めて，ひとつの作品を書きあげました。それは，詩ではなく歌でした。モアはそれまで歌を作曲したことはありませんでしたが，今は単なる詩よりも歌を書く方が自分の気持ちにぴったりすると感じたのです。歌詞だけでなく，曲もつけました。翌朝，日が昇るとすぐに，妻の部屋に戻って行きました。

手探りでいすのところまで行くと，腰を下ろしてこう尋ねたのです。「起きてるかい。」

「ええ」と言う声が部屋の遠くの隅から聞こえてきます。「でも，私の顔が見たいなどとおっしゃらないで。トマス，お願いだから，私を困らせないで。」

「それじゃ，君に歌を歌ってあげるよ」と答えたトマス・モアは，初めて妻に歌を歌って聞かせました。今なお歌い継がれている歌です。

「我が引かれし君が若さ，明日消え失せるとも，今君を愛すそのごと，永久(とわ)に変わらずあらん。」

モアは，妻がひとり寂しく横たわっていた暗がりの中で動きだす物音を聞きました。さらに，歌い続けます。

「すべてのもの枯れ果つとも，君愛す心は，なおその上に絡ませて，青々と繁りなん。」

歌は終わりました。最後の調べに乗せて，モアの歌声が次第に消えていくと，妻が立ち上がる気配がしました。妻は部屋を横切って窓辺まで行くと，手を伸ばし，ゆっくりと雨戸を開けたのです。

世界中で必要とされているのは実にこのような態度なのです。新しい車を買うために，必死でお金をため続けた夫婦の話があります。新車が持ち込まれたあとで，夫は妻に，法的に必要な文書や保険に関する資料はグローブボックスの中に入っていると教えました。ところが，新車で初めて外出した日，妻は事故に巻き込まれ，車の前部を大破してしまったのです。けがはなかったものの，どうしたらよいのかもわからず，涙を流しながら，警官に書類を見せるためにグローブボックスを開けました。するとそこには，夫の手書きのメモが置いてあり，こう書いてあったのです。「とうとう事故に遭ってしまったね。でも覚えておいてほしい。車はいつでも買い換えができるが，君はかけがえのない存在だということを。心から君を愛する夫より。」

最初に申しあげましたように，子供に接するときには，どうしても良い面よりも先に悪い面の方に目がいきがちです。次にご紹介するのは，自分の気持ちを何とか表現しようとしたのに，大人の無理解のためにそれが押しつぶされそうになったひとりの男の子の話です。私はこの麗しい話を，親友のトマス・マイヤーズ博士から聞きました。

ひとりの男の子が父親，祖父母と一緒にある病院にやって来ました。おじいさんはその子の伸ばした両手に寄りかかるようにして歩いています。その子は，「頑張って，おじいちゃん。できるよ。あともう少しだよ，おじいちゃん。……先生がきっと足を治してくれるからね」と一生懸命励ます。その後ろにはやさしそうなおばあさんも歩いています。

診察が終わると，4人ともまた同じ通路を引き返して行きました。その男の子はちょうど出口の所で風船をもらいました。おじいさんを車まで連れて行くと，その子は走って戻ってきて，受付の窓口に身を乗り出すと，こう言ったのです。「もうひとつ風船をもらえませんか。」

まだそこにいたおばあさんは，その子をしかりました。「そんなことできませんよ。あの風船を放しちゃいけないと言っておいたでしょ。」おばあさんは受付の人に謝りました。「この子は先週も同じことをしたんです。外へ出るとすぐに，風船を放してしまったんですよ。きょうもちゃんと注意しておいたんですけどねえ。」

●七十人第一定員会会員ハンス・B・リンガー長老(左)とエリオ・ダローチャ・カマルゴ長老

その男の子はおばあさんに何か言おうとしていました。おばあさんはかがみこんで，じっと耳を傾けていましたが，やがてしわだらけの顔に涙を浮かべながらやって来て，こう言ったのです。「すみませんが，あの子にもうひとつ風船をやってもらえませんか。あの子の妹が2，3カ月前に死んだんですよ。それで，あの子はその妹にも風船を送って，遊ばせてあげたいって言っているものですから。」

批判したり，善悪を判断したりしなければならないことも，多くあるでしょう。正さなければならない過ちも数多くあります。またこの時代に生きている限り，不愉快な現実に直面しなければならないこともありましょう。しかし，私たちの周囲にあるこうした数限りない美しい話，徳高い生活を送っている人たちの多くのすばらしい模範，多くの人々の示してくれる強さと勇気，家族や隣人，同僚の驚くほどの才能と成功談，私たちに与えられているあり余る祝福，こうしたものを常に心にとどめ，たたえていこうではありませんか。たびたび引用されている言葉ですが，次の言葉は今申しあげた内容をよく伝えています。

「ふたりの囚人が鉄格子から外を見た。ひとりは土を見，もうひとりは星を見た。」（フレデリック・ラングブリッジ『静かな思い』「オックスフォード引用句辞典」より）

予言者モルモンは次のように教えています。

「この愛〔この場合，他人のことを思い，感謝するという愛です〕はキリストの純粋な愛であって永遠につづくものである。従って終りの日にこのような愛を持っている人はさいわいである。」（モロナイ7：47）

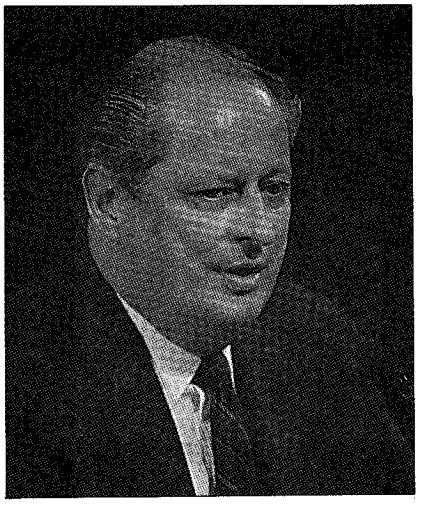
兄弟姉妹の皆さん，特に若人の皆さん，キリストが来られたのは私たちを高めるためであって，おとしめるためではないことを忘れないでください。私は，この壇上におられる偉大な幹部の方々と共に，ひとりの証人として，皆さんがこのキリストのみもとに来られるよう，心よりお勧めします。

イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

「疑いをいだく人々があれば，彼らをあわれみ……」

管理監督
ロバート・D・ヘイルズ

「人の値は神の前に大いなることを憶えよ。」



どの神権時代にあっても，民は生ける予言者から，互いに助け合うようにとの勧告を受けてきました。

モーサヤの息子たちについてこう書かれています。「また万民に救いの道を教えたいと思った。それは一人と雖（いえど）も亡びることを考えるに忍びず，また一人と雖も永遠の責苦（せめく）を受けることを思ってさえもかれらはふるえおののいたからである。」（モーサヤ28：3）

さて，福音の祝福にあずかっていない人々の世話に積極的に従事する精神は，羊飼いとして召された者だけに限られたものではなく，神の子すべての生活の一部となるべきです。

真の羊飼いは群れにいるすべての羊を養い，その世話をし，決して配慮を絶つことはありません。単に羊の数を数えるだけではなく，その群れを知り，群れの世話をするのです。群れの中の1頭が迷子になったとしたら，羊飼いは落ち着いてはいられません。若いころ，私は牧場で働く機会を得ました。経験豊かなフランクおじさんは羊の世話について大切なことを教えてくれました。子羊が自分を愛し守ってくれる母や群れのもとから何かに誘惑されて離れる様子を話してくれたのです。

悪知恵の働くオオカミは，羊の群れのそばで自分の子供を遊ばせます。オオカミの子供たちは，走ったり，転げ回ったり，跳びはねたりして，子羊には大変楽しそうに見えます。その様子があまりにも楽しそうなので，子羊は群れという自分を守ってくれる環境から，そして自分を養ってくれる母親のもとから抜け出そうという誘惑に駆られるのです。無邪気な子羊には，大きなオオカミが忍び寄り，今にも跳び出してきて子羊をその群れから断ち切り，ついには殺そうとしているのがわからないのです。

これはサタンのやり方でもあります。サタンは私たちの自由意志を甘い誘惑を使って利用しようとしているのです。すぐに私たちはわなにかかり，もし群れに戻らなければ，神殿に行けなくなり，誓約に入らず，永遠の生命を得るために必要な儀式を受けることができなくなるの

です。

私たちの中には，これまで群れから離れたことのある人が何人かいることでしょう。多くの人が悔い改めて戻ってきました。しかし，また多くの人が，何らかの理由でいまだに戻るための機会や，その機会を提供する人や，状況を待っているのです。

天父の羊の群れの羊飼いの一員として，私たちはどうしてある人々が迷ってしまうかを裁くべきではありません。むしろ，イエスだけが彼らをお癒しになれることを知っている私たちは，彼らを群れに戻す努力を怠らずに続ける必要があります。

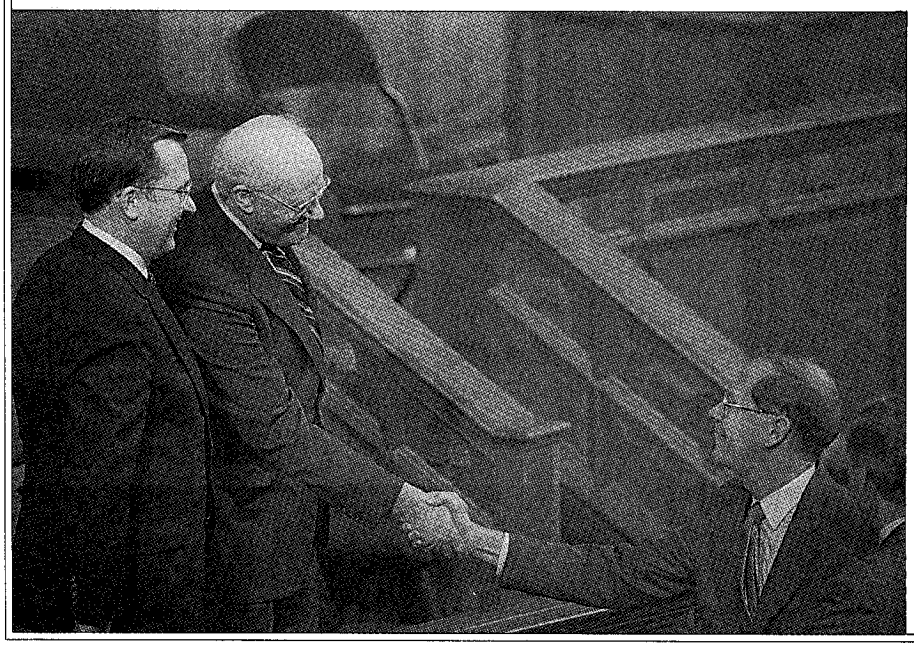
1829年に主は，末日の最初の予言者ジョセフ・スミスを通して，私たちにこう教えられました。「人の値は神の前に大いなることを憶えよ。」(教義と聖約18：10)「而して，悔い改むる人を見て彼の悦びは如何に大いなるか。」(教義と聖約18：13) また主はモルモン経の時代にこう言われました。「私が心に望むところは，お前たちが永遠の福利安泰を受けることのほかに何もない。」(IIニーファイ2：30)

この最後の神権時代には，その勧告の言葉をもって私たちを導く予言者がいるのです。

さて，ひとつの大いに意味のある宣言が1985年のクリスマスの時期に大管長会からなされました。それは，「教会から遠のいている人々への呼びかけ」です。現代の予言者たちによるこの特別なメッセージの重要さを考え，私は私たちが互いに助け合ううえで鍵となる勧告をいくつか皆さんにご紹介したいと思います。

大管長会からのこのメッセージにはこう書かれています。

●左から七十人第一定員会会員のジャック・H・ゴーズリンド長老，ロバート・L・バックマン長老，ジーン・R・クック長老

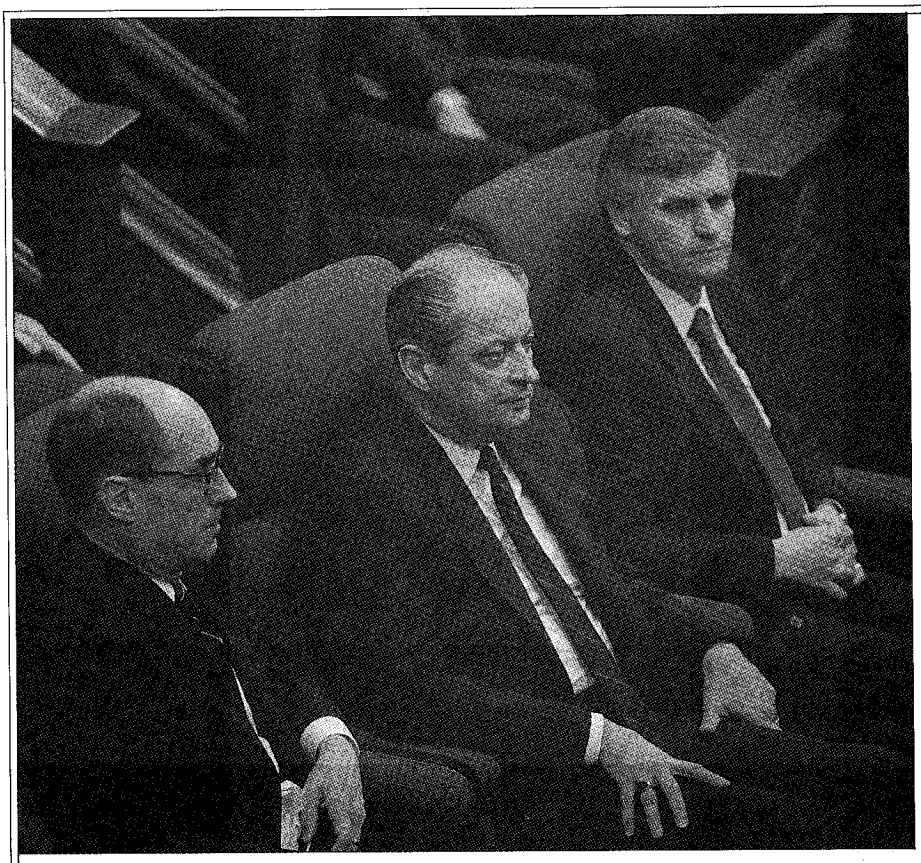


「教会の中には活発でない人や，ほかの人に対して批判的な目を向け，あら探しをする人，また重大な罪によって会員資格の制限や破門などの処分を受けている人もいます。

私たちはそのようなすべての人々に向かって手を差し伸べ，『主なるわれは，その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求められる』(教義と聖約64：10) という主の精神をもって赦しを与えたいと思います。

私たちは教会員に対して，自分に罪を犯した人々を赦すように勧告します。また教会に活発でなくなり，ほかの人々に対して批判的になっている人々には，『立ち返りなさい。そして主が備えられたテーブルにつき，聖徒の交わりという甘く，心を満たしてくれる木の実を再び味わいなさい』と呼びかけるものです。

私たちは，戻りたいと望みながらも，きまり悪さを感じてそうできないでいる人々が多くいると確信しています。しかし，そのような人々に申しあげたいと思います。私たちは両手を広げて皆さんを歓迎し，喜んでお助けしたいと願ってい



●管理監督会(左からヘンリー・B・アイリング第一副監督，ロバート・D・ヘイルズ監督，グレン・L・ペイス第二副監督)

るのです。……

罪と苦しみの重荷を負っている人々は数多くいますが，そのような人々に対してこう申しあげます。『重荷を下ろし，主のみ言葉に従いなさい。「すべて重荷を負うて苦労している者は，わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

わたしは柔和で心のへりくだった者であるから，わたしのくびきを負うて，わたしに学びなさい。そうすれば，あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

わたしのくびきは負いやすく，わたしの荷は軽いからである。」*(マタイ11：28－30)』

これらのことを皆さんにお願いしたいと思います。私たちも皆さんのために祈っています。愛と感謝の念をもって皆さんをお迎えしたいと思います。」

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員である皆さんと私の責任は明らかです。私たちは愛をもって手を差し伸べ，私たちに対して過ちをした人々を進んで赦し，友達になることによって助け，戻りたいと望む人々を世話し，「両手を広げて」彼らを歓迎し，助けることです。

ヤコブの兄弟のユダが勧告しているように，私たちは行なわなければなりません。「疑いをいだく人々があれば，彼らをあわれみ……。」(ユダ1：22)

私たちが人々を「あわれむ」うえで助けとなる原則があります。それはルカによる福音書第15章に書かれています。ここでイエスは，失われた人々を見つけることの重要性について3つのたとえを使って話しておられます。

失われた羊のたとえでは，羊飼いは迷った羊を懸命になって捜し，見つけ出しました。そして大いに喜びました。

失われた銀貨のたとえでは，やもめはろうそくをともし，家のすみずみまで掃いて捜し，失われた銀貨をついに見つけて大いに喜びました。

どちらのたとえも，見つけ出すための行動や暗やみで火をともすこと，また失われた物や人が戻るまで捜し続けることの例です。

一方，放蕩(ほうとう)息子のたとえでは，やさしい父は，その息子が戻って来るまで忍耐強く待っています。彼は愛に満ちた家庭環境を作り出し，両手を広げて息子を迎えたのです。そして共に喜び合いました。ポイントは，その息子が家に帰れば，父から愛され歓迎されると，知っていたことです。

しかし，家に戻ること自体，決して生やさしいことではありません。放蕩息子が家に帰ると，忠実な兄は悔い改めた弟へのもてなしにしっとしました。忠実な兄は批判的で，弟の帰宅を喜ぶことができるほどには霊的に成熟していませんでした。そこで父は，忠実な息子に父の愛を再確認したのです。

さて，帰ってきた放蕩息子自身も，父親が自分に対して示した赦しと愛を，しっとしている兄に対して示す機会を得ました。帰って来る者にとっても，ほかの人々を赦すという態度が必要です。そうでなければ，完全な悔い改めは不可能です。

もし私たちの過ちを主やほかの人々から赦してもらいたければ，まず第1にほかの人を赦すことです。戻って来る人は人を裁いてはいけません。完全な人はいないのだということをしっかりと心に刻みつけることです。

私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として，どのようにしたら私たちの家庭や教会に思いやりのある雰囲気をもたらすことができるでしょうか。戻れば歓迎されるという気持ちから戻って来る人に本当の安らぎを与えるにはどうしたらよいのでしょう。

この思いやりと奉仕の精神をよく示したのが，ドン・サマーズとマリアン・サマーズ夫妻です。それは，ほかの多くの宣教師の経験を包括するものと言えるでしょう。ふたりは，イギリスのロンドン伝道部で伝道していた間，最後の6カ月間をスウィンドン支部で会員の活発化のために働くように要請されました。スウィンドン支部は80年もの間，忠実な教会員はごくわずかで，あとはお休み会員だけの支部だったのです。

ドンとマリアンは当時を振り返りながら，手紙にこう書いてくれました。「スウィンドン支部に初めて訪問して底冷えのするホールで聖徒たちと会ったときは，少々がっかりしてしまいました。出席者が全部で17人でした。それも，ヘイルズ

支部長夫妻と4人の宣教師を含めてです。みんな冬のコートを着たまま，小さなストーブの周りに集まって日曜学校のレッスンに聞き入りました。」

手紙は続きます。

「ある日ひとりの会員が私のところに来てこう言いました。『サマーズ長老，少し忠告させてもらいたいんですが。』彼はこう続けました。『スウィンドンの会員たちに什分の一のことを話さないようにしてください。だれも什分の一の教えを信じてません。話したら怒らせるだけですから。』

そうです。私たちは什分の一のこともほかの福音の原則とともに教えました。支部長の模範と励ましによって，教会員の気持ちに変化が起こりました。そして，信仰と行ないが増し加えられていったのです。私たちはすべての会員を訪問し，会員記録の情報を最新の状態にしました。指導者の思いやりに対して，会員が反応するようになりました。そして新たなスピリットが支部にみなぎるようになったのです。こうして会員たちは，再び福音に対して積極的になりました。

ファイヤサイドが私たちの家で開かれ，私たちはステーキ部宣教師やほかの宣教師たちと綿密に協力し合いました。私たちは主に，スウィンドンにいる間，新しい会員や再活発化した会員をひとりも不活発にすることはしないと約束をしました。

会員になるまでジプシーの生活をしていた若い夫婦がいました。習慣や服装が違うので，なかなか皆に溶け込めないでいました。そして，生活習慣を変えるようにとの教会からの指導に傷つけられ，監督に2度ほど教会の記録から自分たちの名前を除いてくれるように頼んだのです。最後の手紙には，教会員の訪問はだれであっても断わると書いてありました。そこでマリアンと私は花屋で美しい菊の花を買い，小さな手紙を添えてそれを配達してもらいました。その手紙にはこう書きました。『おふたりを愛しています。おふたりがいないと，とても寂しく思います。私たちには，おふたりが必要です。どうか戻って来てください。スウィンドンワード部』

次の日曜日は，断食証会で，私たちにとってスウィンドンでの最後の日曜日でした。6カ月前の17人に比べて，今回は103人が出席していました。その若い夫婦も出席し，ご主人の方は証とともに，スウィンドンワード部の人々が自分たちを見離さなかったことに対してお礼を述べたのです。

私たち一人一人が自分のワード部や支部で同じ経験をすることができます。お休みしている人々を愛し，何かをしてあげることによってです。自分がだれなのかを見いだし，教会に戻りたいと願う人人に思いやりを示し，援助の手を差し伸べることは，何という喜びでしょうか。」

主の民に数えられていない人々について，イエスはニーファイ人たちにこう言われました。「されど悔い改めざる者にても，これを汝らの会堂や礼拝堂より追い出すべからず。何となれば，汝らはかくのごとき者にひきつずき道を伝うる義務あればなり。かれらは悔い改めて真心よりわれに立ち帰るやも知れ難し。真心を以てわれに立ち帰らば，われはかれらを赦し，また汝らはかれらを救いに導く者となる。」（Ⅲニーファイ18：32）

兄弟姉妹の皆さん。信仰の祈りと「あわれみ」（ユダ1：22）を通してたとえひとりの人でも救いと昇栄への道に連れ戻すのだとの新たな決意を胸に，この大会を後にしようではありませんか。アルマと共にこう祈ろうではありませんか。

「『主よ，私の身も霊も慰め，私と私と一しょにいる同僚たちの働きを成功させたまえ。私の同僚たちとは，アンモン，アロン，オムネル，アミュレク，ゼーズロムおよび私の二人の息子である。かれらもみな慰めたまえ。キリストによってかれらの身も霊も慰めたまえ。

この民の罪悪のためにこの後かれらの身にふりかかる艱難を耐え忍べるようにかれらに力を与えたまえ。

主よ，私たちが再びこの民を感化して，キリストによってかれらを神の道に入らせる働きを成功させたまえ。

主よ，この人々の身も霊も貴く，民の中には私たちの同胞が多く居る故に，この同胞を再び神の道に入らせることができるよう能力と智恵とを私たちに与えたまえ』と。」（アルマ31：32－35）

「私たちは皆さんを愛しています。皆さんがいないので寂しく思っています。皆さんが必要です。どうか戻ってきてください。」どうか神殿に行けるように，誓約に入れるように，そして永遠の救いの儀式を受けられるように戻ってください。

主であり贖い主であられるイエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

救い主に心を向ける

七十人第一定員会会員
アドニー・Y・小松

「救い主は，神の御子として，皆さんにも私にも，御父の戒めを守るうえで従順という偉大な模範を示してくださいました。」

愛する兄弟姉妹の皆さん，復活祭の季節が近づき，私たちの心も思いも主イエス・キリスト，その十字架上の死，復活，そして世の罪のために行なわれた贖いの犠牲に向けられています。

救い主の時代にあって主の先駆けをなす者として使命を授けられていたバプテスマのヨハネは，天の父なる神はこの地上に送られた子供たちのことを忘れてはおられない，と高らかに宣言し，次のように言いました。

「父は御子を愛して，万物をその手にお与えになった。

御子を信じる者は永遠の命をもつ。御子に従わない者は，命にあずかることがないばかりか，神の怒りがその上にとどまるのである。」（ヨハネ3：35－36）

救い主の降臨は，聖書やモルモン経の中で数多くの予言者が予言していました。旧約聖書の予言者イザヤは，救い主の誕生のしるしを次のように予言しています。

「それゆえ，主はみずから一つのしるしをあなたがたに与えられる。見よ，おとめがみごもって男の子を産む。その名はインマヌエルととなえられる。」（イザヤ7：14）

「ひとりのみどりごがわれわれのために生れた，ひとりの男の子がわれわれに与えられた。まつりごとはその肩にあり，その名は，『霊妙なる議士，大能の神，とこしえの父，平和の君』ととなえられる。」（イザヤ9：6）

イエス・キリストについてのもうひとつの証であるモルモン経には，キリストの降臨に先立つこと124年前に，ひとりの天使がベンジャミン王のもとに現われて，大いなる喜びのうるわしいおとずれを伝えたと記録されています。その天使は次のように言っています。

「現在この世を治めたまい，また無限の過去から無限の将来に亘ってまします全能の主が権能をもって天から人間に降臨して土から成る身体に宿りたまい，人人の間をめぐって病人たちを医し，死んだ者たちを活し，あしなえを歩かせ，めくらを見えるようにし，つんぼが聞えるようにし，あらゆる病いをなおし……。

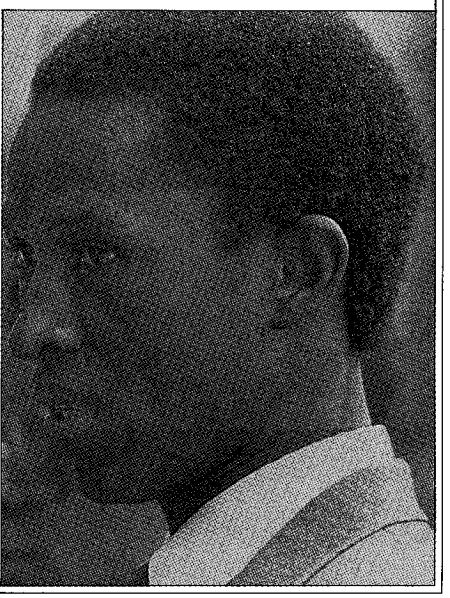
このお方は神の御子，天地の父，創世の時から万物を造りたもうている造り主イエス・キリストと呼ばれ，その母はマリヤと呼ばれる。」（モーサヤ3：5，8）

モルモン経の1千年にわたる歴史を通じて，数々の予言者たちが，イエス・キリストは神の御子であり，前世では神のごとき存在であったと厳粛に証をしました。また主の地上での働きについて，主の苦しみや死，復活について，そして救いの計画についても証しました。この計画なくして，私たちは主の贖いの成果を日々の生活にもたらすことはできません。こうした予言者たちは皆，その知識を純粋な知識の源から受けて語っていました。救い主から個人的な訪れを受けてもたらされた知識，予言者たちと語った天使たちの証から得た知識，示現によってもたらされた知識，聖霊の力によってもたらされた知識などです。予言者たちは自分の語っていることの源を知っていました。だからこそ，その証を揺り動かすことはできなかったのです。

ここで，ヤコブの例を考えてみましょう。ヤコブはシェレムという男と対決したことがあります。この男はキリストを否定し，ヤコブに論争を挑み，しるしを示せと迫りました。シェレムは人の気に入るようなことを言い，たいそう巧みに話して，ヤコブの証に疑いを抱かせようとしました。ヤコブはこう言っています。

「私は多くの啓示を受け，またキリストの降臨についていろいろのことを先見している者であるにもかかわらず，シェレムは私を動かして信仰を捨てさせようと思ったけれども，私はすでに確に天使らを見て天使から導きと恵みとを授けられ，また，たびたび主が御言葉を以て私に仰せになる声を確に聞いていたから，私を動かすことはできなかった。」（モルモン経ヤコブ7：5）

私たちの愛する予言者エズラ・タフト・ベンソン大管長は，モルモン経を研究するよう，私たちに強く訴えられまし



た。「その教えに従った生活をすることにより，他のいかなる書物にもまして人を神に近づけることのできる書物」を絶えず研究する必要があるとおっしゃったのです。

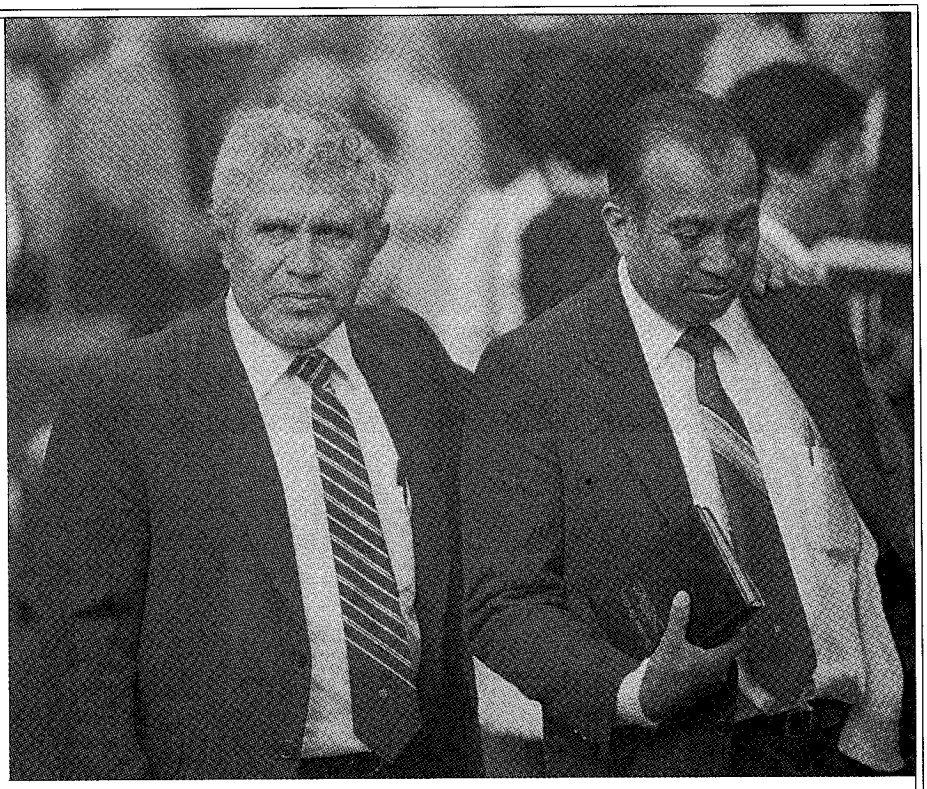
私は，皆さんが愛する予言者ベンソン大管長の勧告に従って，絶えずモルモン経を研究するよう願い，また祈っております。私たちは皆，神の戒めに従順に従った生活をしているという確信を持つ必要があります。そうすれば，私たちはみたまを受け，日々の生活でもみたまの導きを受けることができるのです。

救い主は，神の御子として，皆さんにも私にも，御父の戒めを守るうえで従順という偉大な模範を示してくださいました。ニーファイはキリストがバプテスマをお受けになったのは，人がその後に従い，聖霊を受けるようになるためである，と教えています。

「あなたたちは子羊が聖かったことを知っていないのか。子羊はたとえ聖くましましても，肉体を受けたもうによって天の御父の前にへりくだることと，天の御父に従ってその命令を守ると証明をすることとをバプテスマによって世の人に示したもうのである。」（IIニーファイ31：7）

数週間前，私はプロボのあるステーキ部大会を管理する責任を受けました。日曜日の朝の福祉部会は午前7時30分に始まることになっていたため，私は午前6時15分ごろには家を出なければなりませんでした。私が高速道路の進入路へ入ろうとして交差点に差しかかったときのこと，信号がちょうど赤に変わりました。信号で止まったそのときは，まだ朝も早い6時30分ごろだったでしょうか。ほかの車の姿はどこにも見えませんでした。赤信号で停車していたのは，私の車だけだったのです。

ある考えが私の脳裏をよぎりました。たとえ私が赤信号を無視したところで，けがをする人もいなければ，危険もない。こんな早い時間には1台の車も見あたらないのだから，という思いです。しかし，私は信号が変わるのを待ち，青信号に従って進みました。もしそこで左に曲がったとしても，だれも気づかなかったでしょう。しかし，自分自身で交通法規を犯



すことになるのは知っていました。そして，もちろん主も知っておられたのです。私の胸には次のような聖句が浮かんできました。

「人が，なすべき善を知りながら行わなければ，それは彼にとって罪である。」（ヤコブ4：17）

兄弟姉妹の皆さん。私たちはそのときの状況に合わせて妥協しようという誘惑にかられることがよくあります。しかし，私たちはいかなるときであっても，細心の注意を払い，正しい生活の原則に従って生活していかなければなりません。そうすることにより，私たちははるかに重要な決定を下すよう求められたときにも，何をしたらよいかがわかるのです。私たちは，主の王国の一員として絶えず世に対して模範を示す必要がありますし，自分の国の法律を守り，神の律法を守らなければなりません。

主は末日の啓示の中で次のように言われました。

「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ，小なることより偉大なる事起る。

見よ，主は真心と喜びて事に従う精神とを求む。喜びて従順に従う者たちは，この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん。」（教義と聖約64：33－34）

最近，私はユタ南部地域会長会の一員として，ユタ州立刑務所に収容されている男女のインスティテュート・プログラムに参加するよう招待を受けました。そうした人々を訪問した私の心は，彼らに対する思いでいっぱいになりました。彼らもまた，皆私たちの天のお父様の子供だからです。彼らは，目の前の誘惑に出会ったとき，人生の中で誤った選択をした人々でした。私はそうした人々のひとみの中に痛みや苦しみを見て取りました。また，彼らの愛する人々，つまり両親や兄弟姉妹，そして妻や子供たちのことを考えるとき，そうした人々も同様に，大変苦しみ，そしておそらくはこれから先，さらに多くの苦しみに出会うことであろうと考えたのでした。キンボール大管長は，罪は憎んでも，罪人は愛さなければならないと言われました。さらにまた，人は我慢し，長く耐え忍び，自制心を養うときに，苦しみの中から聖徒として生まれ変わる，とも言われました。

またキンボール大管長は，救い主が苦しまれたのは救い主となる訓練の一部であった，と言われました。「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学び，そして，全き者とされたので，彼に従順であるすべての

人に対して，永遠の救の源とな（られたのである。）」（ヘブル５：８－９）

ジェームズ・E・タルメージ長老は次のように書いています。「この地上で人が経験する苦悩は，……忍耐強く耐え忍ばれる限り，必ずそれに見合うだけの補償が存在する。」（スペンサー・W・キンボール『悲劇か宿命か』「1955－56年度講話」プロボ，ブリガム・ヤング大学刊，1956年，pp. 5－6より引用）

一方，私たちが弱さや不平，批判に身をゆだねるならば，私たちは誤った選択をしてしまい，その巨大な衝撃のために身を滅ぼしてしまうことになるでしょう。

話を終えるにあたって，オルソン・F・ホイットニーの言葉を引用しましょう。

「私たちの味わう苦痛や試練が無駄になることはない。忍耐，信仰，不屈，謙遜といった資質を伸ばすための訓練となるのである。私たちが悩み，苦しむことにより，特に長く耐え忍ぶことにより，人格は磨かれ，心は清められ，人間性は豊かになり，もっとやさしく愛の深い人間となり，神の子と呼ばれるにさらにふさわしい者となる。……こうした悲しみや苦しみ，苦痛，試練を通じて初めて，この地上に送り込まれただけの意味を持つ訓練を受けることができるのであり，天におられる御父や御母にさらに似た者となるのである。」（『悲劇か宿命か』p. 6より引用）

全人類の罪のために苦しまれ，十字架にかけられ，復活された主は次のように言われました。

「もしわたしのいましめを守るならば，あなたがたはわたしの愛のうちにおるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので，その愛のうちにおるのと同じである。

わたしがこれらのことを話したのは，わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため，また，あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

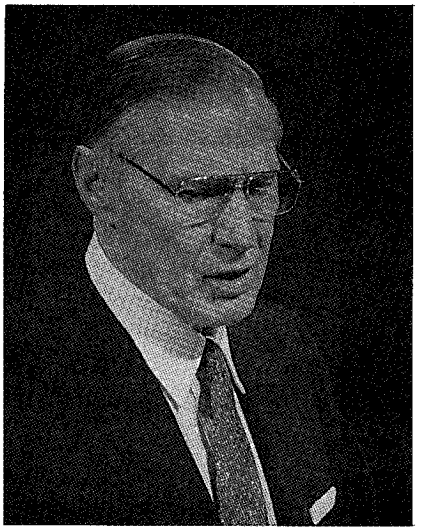
わたしのいましめは，これである。わたしがあなたがたを愛したように，あなたがたも互に愛し合いなさい。」（ヨハネ15：10－12）

イエス・キリストのみ名により申しあげます。アーメン。

「幸せになれるかしら」

十二使徒定員会会員
ジェームズ・E・ファウスト

「今日の社会において多くの家庭が暗礁に乗り上げているとしても，家庭は道徳的な価値観を教える最高の教育の場ですから，私たちはそれを放棄することはできないのです。家庭以外に，そのような効果的な教育のできる場所はありません。」



このすばらしい大会も間もなく終わろうとしていますが，これまで語られた霊感あふれる勧告と希望の言葉により，私たちの心は和らぎ，高められています。私は人を裁くためではなく，教えと警告を与えるために，祈りの気持ちでこの説教壇に立っています。

最近，私がオーストラリアのブリスベーンを訪れたときのことです。あるステーキ部長の部屋に入ると，壁に，悲しげな顔をした女の子の写真がかけてありました。上にはこう書かれています。「私は幸せになれるかしら。」これは，世界中のあらゆる人々の問いかけではないでしょうか。救い主ご自身は，主のすべての弟子たちに，「喜びが……満ちあふれる」（ヨハネ17：13）ようにと祈っておられます。

私はひとつの希望についてお話ししたいと思います。その希望とは，子供たちが幸福と望みにあふれた未来があることを理解するようになる，というものです。私たちに授けられている賜で，子供ほど貴いものはありません。子供は私たちへの神の愛の証であり，未来への希望です。

私はいぶかしく思わずにはいられないのですが，今日の世の中で，子供を幸せにできるほどの愛を持っている人がいるでしょうか。信仰と道徳の価値を子供に教えるほどの愛を持っている人がいるでしょうか。子供たちは，生き残ることや欲求を満足させることよりも，もっと多くの事柄を学ばなければなりません。知識を与えて教化するだけでは不十分です。心の教育がまさに必要とされているのです。子供はどこで徳を身につけるのでしょうか。子供が道徳的な特質を身につけられるように，だれが助けてあげられるでしょうか。どうすれば子供たちが慈悲深く親切で，幸せな人になり，自分自身やほかの人々のためにより豊かな生活を送れるようになるのでしょうか。

数多くの根本的な信念が失われつつある世の中では，こうした教えを次の世代に伝えるのは，容易なことではありません。これまで大切にされてきた人間の価値観が，雑誌やテレビの悪影響によって，ことごとく脅かされています。その背後では，個人の自由という旗の下に，行き過ぎた容認主義がまかり通っているのです。次の世代にどのような価値観を教えるべきでしょうか。この点について世論

の一致を得ることは，まず不可能でしょう。人々はほとんどすべての事柄に強く異議を唱え，社会的な抑止力は弱まっています。

すなわち，私たちは自分のライフスタイルを子供に教え，周囲を取り巻く放縦や誘惑，強欲などから彼らを守らなければならないのです。

こうした誤った価値観の流れを変えるには，どうすればよいでしょうか。このチャレンジに立ち向かうために，何ができるでしょうか。私の望みは，次の世代の人々が永遠の幸せを見いだす機会に恵まれて成長することですが，この望みを確かなものにするために，3つの方法を提案したいと思います。

第1に，個人の選択が本人だけでなく，社会全体に影響を及ぼすことを，大人はよく理解し，子供に教える必要があります。

自分の好きなことをするのは個人の勝手であり，周囲の人々には関係がないという考え方が，世間一般に蔓延(まんえん)しています。世界中に広がっている恐ろしい病根が，この一般的な考えの裏に潜んでいます。しかし，この考え方は明らかに間違っているのです。

不道徳な行ないはすべて，社会に直接影響を与えます。その影響は罪のない人々にまで及びます。薬物の乱用やアルコール中毒は，違法行為やポルノグラフィー，わいせつ行為などと同じように，社会に重大な影響を与えています。こうした「個人の自由」と呼ばれるもののために，社会生活や税金の面で支払われる代価は，測り知れません。貧困，犯罪，教育を受けない労働者層，金銭で解決できない問題へつぎ込む予算要求の増大など，様々です。個人的な行ないは本人だけの問題だというのは，明らかに間違っています。私たちの社会は，無数の個人による各々の生活の中の行ないが集まったものなのです。一人一人の行ないの総和が，全世界にきわめて重大な影響を及ぼします。完全に個人的な選択というものは，あり得ないのです。

第2に，大人も子供も，社会や個人の道徳が時代遅れではないことを理解する必要があります。道徳や倫理にかなった法律，政策，公共プログラムなどは，生産性が豊かで思いやりのあふれた，幸福で平和な社会を守るのに欠かすことができません。私たちはこのことを，愛をもって子供に教える必要があるのです。もし，高潔，正直，献身，貞節，尊敬，誠実，徳行などの特質がなければ，自由で開かれた社会は立ち行かないでしょう。

●七十人第一定員会会員レックス・D・ピネガー長老(左)とアドニー・Y・小松長老

最近のことですが，ダリン・H・オークス長老は，「法律で道徳をつくるな」と主張する人々に次のように答えています。「よく知られているこのスローガンを口にする人は，何か深遠なことを語ったつもりでいるようです。しかし実際には，もし何らかの論拠があるとしても，それは非常に表面的なものでしかありません。教養のある人は口にするのを恥じることでしょう。思慮深い人には明らかなことですが，大半の法律は道徳にその基盤を置いています。刑法はすべてそうですし，家族の関係や商取引に関する法律も，ほとんどがそうです。財産管理についての法律やほかの多くの法律も，その大部分があてはまります。」(「ギャンブル――不道徳で誤った政策」リックス・カレッジでの説教，1987年1月6日，p.20)

最近までは，倫理や道徳にかなった哲学が高度な学問の根底にありました。それらは時代を越えて受け継がれてきた遺産でした。その価値は，アリストテレスが教えた時代と同じように，現代にも通じるのです。アリストテレスは次のように語りました。「あらゆる動物の中で最も優れているのは，社会によって完成された人間であり，最も恐ろしいのは，法律や正義と無縁の生活をしている人間である。」(「政治学」1．1253a31－34) したがって，いずこの地にあっても，社会と個人の道徳をより一層強調する必要があるのです。

第3に，これが最も重要ですが，子供たちを永遠の幸福に備えさせるための方法は，家族を強めることです。家庭は何世紀もの間，合衆国をはじめとする多くの国々でその基盤をなすものでした。社会をひとつにつなぎとめる「接着剤」の役割を果たしていました。現在では多くの家庭が暗礁に乗り上げ，「接着剤」としての役割を失いつつあります。その結果，大勢の子供たちが当惑しています。体だけは大きくなっても，堅固な家庭で愛と

た。「その教えに従った生活をすることにより，他のいかなる書物にもまして人を神に近づけることのできる書物」を絶えず研究する必要があるとおっしゃったのです。

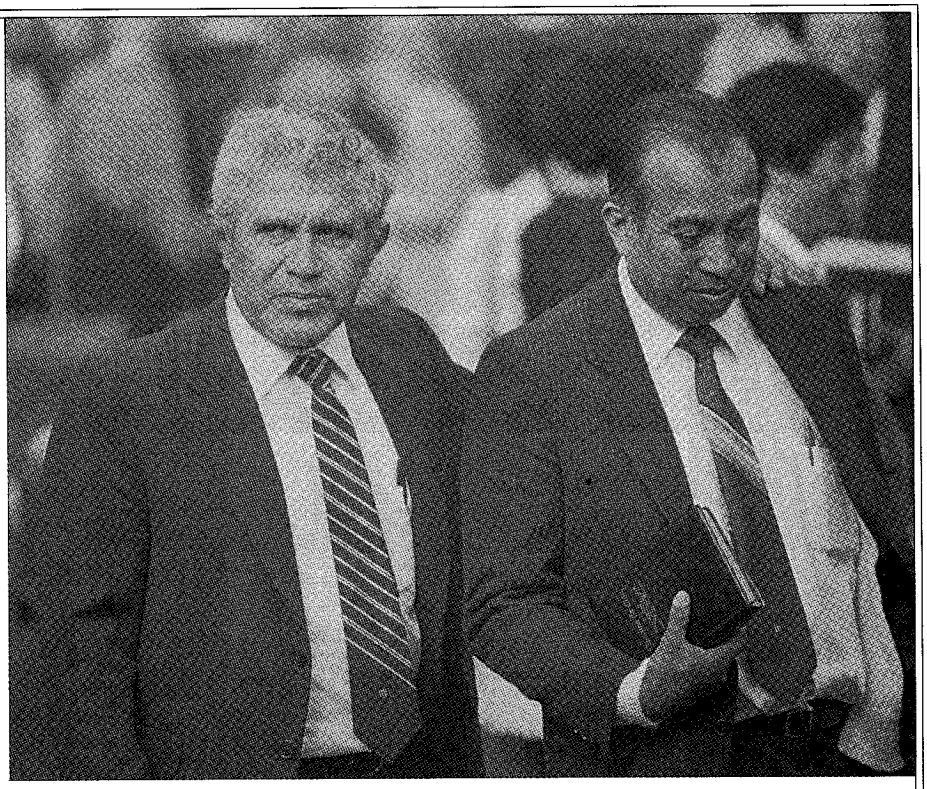
私は，皆さんが愛する予言者ベンソン大管長の勧告に従って，絶えずモルモン経を研究するよう願い，また祈っております。私たちは皆，神の戒めに従順に従った生活をしているという確信を持つ必要があります。そうすれば，私たちはみたまを受け，日々の生活でもみたまの導きを受けることができるのです。

救い主は，神の御子として，皆さんにも私にも，御父の戒めを守るうえで従順という偉大な模範を示してくださいました。ニーファイはキリストがバプテスマをお受けになったのは，人がその後に従い，聖霊を受けるようになるためである，と教えています。

「あなたたちは子羊が聖かったことを知っていないのか。子羊はたとえ聖くましましても，肉体を受けたもうによって天の御父の前にへりくだることと，天の御父に従ってその命令を守ると証明をすることとをバプテスマによって世の人に示したもうのである。」（IIニーファイ31：7）

数週間前，私はプロボのあるステーキ部大会を管理する責任を受けました。日曜日の朝の福祉部会は午前7時30分に始まることになっていたため，私は午前6時15分ごろには家を出なければなりませんでした。私が高速道路の進入路へ入ろうとして交差点に差しかかったときのこと，信号がちょうど赤に変わりました。信号で止まったそのときは，まだ朝も早い6時30分ごろだったでしょうか。ほかの車の姿はどこにも見えませんでした。赤信号で停車していたのは，私の車だけだったのです。

ある考えが私の脳裏をよぎりました。たとえ私が赤信号を無視したところで，けがをする人もいなければ，危険もない。こんな早い時間には1台の車も見あたらないのだから，という思いです。しかし，私は信号が変わるのを待ち，青信号に従って進みました。もしそこで左に曲がったとしても，だれも気づかなかったでしょう。しかし，自分自身で交通法規を犯



すことになるのは知っていました。そして，もちろん主も知っておられたのです。私の胸には次のような聖句が浮かんできました。

「人が，なすべき善を知りながら行わなければ，それは彼にとって罪である。」（ヤコブ4：17）

兄弟姉妹の皆さん。私たちはそのときの状況に合わせて妥協しようという誘惑にかられることがよくあります。しかし，私たちはいかなるときであっても，細心の注意を払い，正しい生活の原則に従って生活していかなければなりません。そうすることにより，私たちははるかに重要な決定を下すよう求められたときにも，何をしたらよいかがわかるのです。私たちは，主の王国の一員として絶えず世に対して模範を示す必要がありますし，自分の国の法律を守り，神の律法を守らなければなりません。

主は末日の啓示の中で次のように言われました。

「この故に善を為すにうむことなかれ。これ汝ら今偉大なる一事業の基礎を置きつつあればなり。それ，小なることより偉大なる事起る。

見よ，主は真心と喜びて事に従う精神とを求む。喜びて従順に従う者たちは，この末の世に於てシオンの地の善きものを食わん。」（教義と聖約64：33－34）

最近，私はユタ南部地域会長会の一員として，ユタ州立刑務所に収容されている男女のインスティテュート・プログラムに参加するよう招待を受けました。そうした人々を訪問した私の心は，彼らに対する思いでいっぱいになりました。彼らもまた，皆私たちの天のお父様の子供だからです。彼らは，目の前の誘惑に出会ったとき，人生の中で誤った選択をした人々でした。私はそうした人々のひとみの中に痛みや苦しみを見て取りました。また，彼らの愛する人々，つまり両親や兄弟姉妹，そして妻や子供たちのことを考えるとき，そうした人々も同様に，大変苦しみ，そしておそらくはこれから先，さらに多くの苦しみに出会うことであろうと考えたのでした。キンボール大管長は，罪は憎んでも，罪人は愛さなければならないと言われました。さらにまた，人は我慢し，長く耐え忍び，自制心を養うときに，苦しみの中から聖徒として生まれ変わる，とも言われました。

またキンボール大管長は，救い主が苦しまれたのは救い主となる訓練の一部であった，と言われました。「彼は御子であられたにもかかわらず，さまざまの苦しみによって従順を学び，そして，全き者とされたので，彼に従順であるすべての

●十二使徒定員会会員のニール・A・マックスウェル長老(左)と七十人第一定員会会員ジェームズ・M・パラモア長老

理解をもってはぐくまれた道徳的基盤や，支援のよりどころがないのです。

子供たちが価値観を身につけ，伝統を受け継ぎ，思いやりを育てるのは，家庭においてであり，家族と共にあって初めて達成されるものです。これに代わるものは存在しません。教会，学校，公のプログラムは，家庭で身につけたものを強化し，補うことしかできないのです。

家族を強めるには，性道徳の回復が必要になります。ブライス・クリスチャンセンは最近，次のように記しています。「互いに愛と礼儀をもって接している両親を見ながら育った子供は，学校の性教育のクラスで学ぶよりも，男女の関係について，はるかに多くのことを理解している。」(「アメリカの家族」1987年3月号，Vol.1，1：3)

主のみ言葉によれば，すべての男女は結婚するまで純潔を守り，結婚後も貞節を守らなければなりません。主は次のように命じておられます。「あなたは姦淫してはならない。」(出エジプト20：14)「また何事にてもこれに類することを為すことなかれ。」(教義と聖約59：6) 使徒パウロは，モルモン経の中でアルマが行なったように(アルマ39：1－13参照)，コリント人への書簡の中でこの点をさらにはっきりと指摘しています。(Ⅰコリント6：9参照)

愛情に基づく合法的な結婚に代わる男女関係が，人間社会の土台の崩壊を速めています。この土台とは，もちろん家族のことです。従来のものに取って替わるこれらのライフスタイルは，神の戒めに反するので，受け入れることはできません。生命を生み出す男女間の交わりは，合法的な結婚生活の中でのみ行なうように，神は命じておられます。(創世1：28参照) この戒めに反する行為をすべての大人がするようになれば，家族は崩壊し，人類は消滅してしまうでしょう。

聖典にはっきりと，また絶えず述べられているように，合法的な結婚以外のすべての性関係は，不道徳な行為として罪に定められます。なぜでしょうか。神がそう言われたからです。人は神のかたちにかたどって，男と女に造られたからです。(創世1：27参照)人は神の霊の子供で(教義と聖約76：24参照)，初めに神と共にいました。(教義と聖約93：23参照)人に昇栄をもたらすことが，神の業であり栄光なのです。(モーセ1：39参照)私たちは光の子となるように命じられています。(教義と聖約106：5参照) 永遠の生命を受け継ぐ者なのです。みたまは，この世に生まれるすべての男女に光を与えてくださいます。(教義と聖約84：46参照)

家庭で最も効果的に教えられる価値観は何でしょうか。主の戒めによれば，この教会の両親は，子供たちにキリストを信じる信仰，悔い改め，バプテスマ，聖霊の賜について教えなければなりません。(教義と聖約68：25参照) 私たちは家庭において，しつけと愛という温かい守りの中で，変わることのない価値観を身につけていきます。また，善悪の区別について学び，自制，克己，個人の責任，人格者に欠かせない特質，思いやり，礼儀作法なども身につけます。

価値観は，社会のものであれ個人のものであれ，宗教的な信条によって命を吹き込まれ，支えられていなければ，やがて消え去ってしまいます。絶えず新たにする必要があります。宗教的な価値観を信じる信仰や信念に目覚めさせることが不可欠なのです。家族は教会が奨励している家庭教育を行ない，教会は誓約と儀式を通して，家族を永遠に結びつけています。私たちの神殿は，永遠の家族に対する信仰を表わす証なのです。

家族が本来の役割を果たせないのは，家族を持たない人が大勢いるからだと言われます。非常に多くの家庭が家族としての機能を果たしていないのは事実です。また，あまりにも多くの家族が崩壊しているとも言われます。残念ながら，これも事実です。しかし，あらゆる欠点をもってしても，家族はなお社会で最も重要な単位であり，歴史上の様々な問題に対する最善の解決策なのです。家族の絆をこれ以上弱めるのを食い止め，逆に強める必要があります。教会では両親を助けるために，「両親のガイド」(PBIC 0507JA，邦訳刊行予定，ただし詳細は未定) という配慮の行きとどいた小冊子を用意しています。負いきれない重荷に苦しんでいる両親は，いかなる援助をも受け入れてください。祖父母や兄弟姉妹，おじ，おば，いとこ，友人たちも，模範と勧告によって，広い意味での家族の一員に対し，愛と関心を深めることができないでしょうか。

私のおばのアンジーは，子供や孫，おい，めい，そのほかの人々のために，175

枚のキルトを縫いました。どれも立派な芸術品ですが，それ以上に大切なのは，1枚1枚に愛が込もっているということです。アンジーは特製のキルトを渡しながら，親戚の人にこう言うことができます。「指を刺したときは別だけど，一針一針にあなたへの愛を込めて縫いましたよ。」

幸せな家庭というものは，貧富とほとんど関係がないようです。世界中のどこでも，貧しくとも幸せで堅固な家庭を築いている人々が多く見られます。子供を育て，よい隣人となるために，全力を尽くしています。経済的には貧しくても，心は豊かです。家族の問題は，富んでいる人にも貧しい人にもやって来るようです。

ホワイトハウスの家庭問題協議会は，次のように勧告しています。「健全な家庭は，経済的に裕福でも貧しくても，あるいはその中間であっても，子供に励ましと援助を与え，決して弁解はしない。子供の人格を築き，標準に従うことを求め，敬意を払うことを要求する。そこでは，行動が求められるのである。」(「家庭に関するホワイトハウス報告」1986年11月，p.32)

ホワイトハウスの報告はさらに続いています。

「ほとんどの人にとって，立法のための闘争や判決，行政府の決議などは，生活と直接結びついていない。生活を織りなしているのは，援助の手とよき隣人，寝る前のおとぎ話と家族の祈り，愛情の込もった弁当と家計のやりくり，ぬぐい去った涙と先祖代々の貴重な遺産，激しい労働と将来のための少しの蓄えなどである。健全な社会における英雄とは，立派な家庭を築くことで社会に貢献する大人や子供であり，自分の楽しみを後回しにし，節約し，欲しい物をがまんし，市民の名誉ある仕事に人生の大半を捧げる両親や祖父母である。彼らの育てる子供たちは，前の世代の残した業績の上に立ってさらに広い視野を持ち，より高い地点に到達できるのである。」(同，pp. 8－9)

今日の社会において多くの家庭が暗礁に乗り上げているとしても，家庭は道徳的な価値観を教える最高の教育の場ですから，私たちはそれを放棄することはできないのです。家庭以外に，そのような効果的な教育のできる場所はありません。ブリガム・ヤングは次のように勧告しています。「子供たちをむちではなく信仰によって教え，正しい模範によってあらゆる真理と聖なるものへ，やさしく導いてあげなければならない。」(「説教集」12：174)

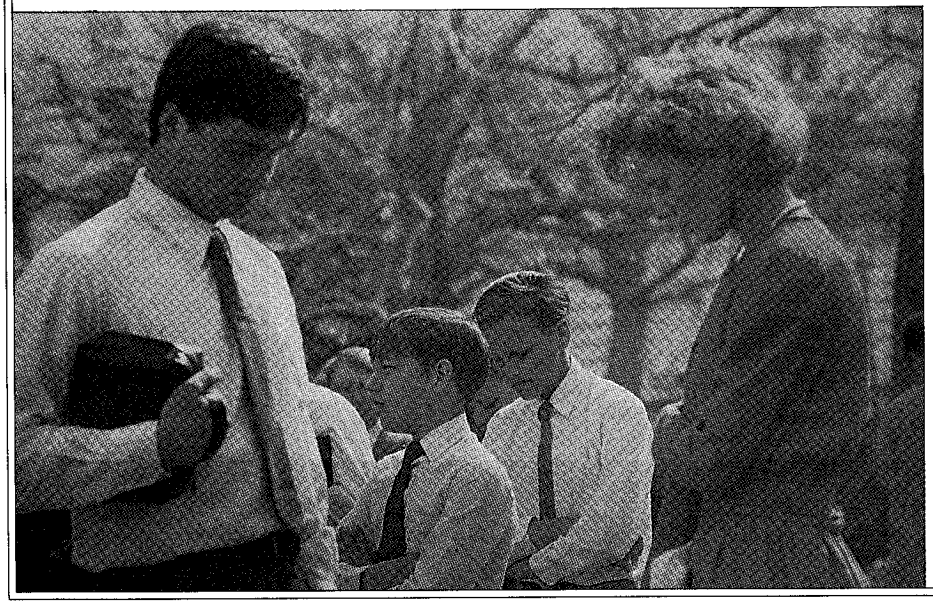
信念や帰属意識のもたらす安らぎを子供たちに取り戻すことが，個人的にも社会的にも非常に必要とされています。富や科学，工業技術のあらゆる産物をもってしても，霊的な飢えを満たすことはできないのです。

次の世代やその子供，孫に，倫理的，霊的，道徳的な面でどのような価値観を教えるべきでしょうか。創造主のみ言葉

に立ち返らなければ，それを識別する知恵は得られません。

望みはあります。これまで以上に多くの人々が，社会への働きかけでは家庭への働きかけほど効果があがらないことに気づいているようです。家長の権威も回復のきざしを見せています。しかし，最も重要なことは，多くの大人が，その大半は両親と祖父母ですが，子供に夢中になっているという点です。もしその過程で，私たちの生活や家庭の中に，神聖な霊的真理や道徳的な真理を取り戻すことができれば，私たちは今一度，聖なる貴い遺産を手にすることでしょう。

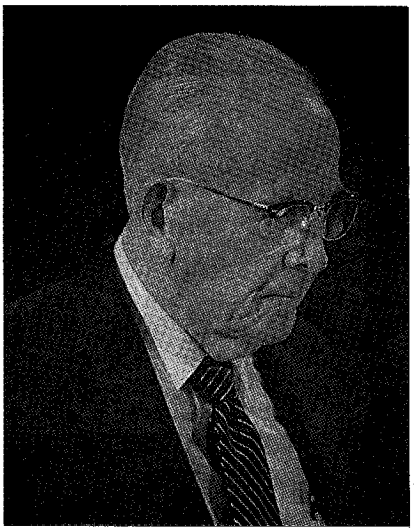
子供たちを深く愛して，以上の事柄を実行する方がいらっしゃるに違いありません。そして，それが至る所で行なわれるなら，「わたしは幸せになれるかしら」と問いかける少年少女に，次のように答えることができるでしょう。「もちろん，幸せになれますよ。とどまるところを知らないくらいに。神様の誓約と戒めを守れば，救い主が地上におられたときに約束された喜びを味わって，『この世に在りては平和を得，次の世に在りては永遠の生命を得』るでしょう。(教義と聖約59：23)」これは，私たちの教会が世に向けて送る究極のメッセージにほかなりません。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。



モルモン経と教義と聖約

大管長
エズラ・タフト・ベンソン

「モルモン経は私たちの宗教の『かなめ石』であり，教義と聖約は，末日に続けて与えられる啓示とともに，『かさ石』と言うことができます。主はこのかなめ石とかさ石のふたつに承認の印を押しておられます。」



愛する兄弟姉妹の皆さん，すばらしい大会に出席でき，心からうれしく思っています。私はこの大会に出席し，前よりも成長できたと思っています。これまでに偉大な記録が与えられてきたことを主に感謝しております。今回も実にすばらしい大会でした。教会幹部の方々が皆さんに語られた勧告に従うようにお勧めします。私は教会幹部の方々一人一人を愛し，支持しています。また，全世界の教会員を愛しています。

私は現代のふたつの聖典，すなわちモルモン経と教義と聖約についてお話ししたいと思います。

モルモン経と教義と聖約は，神の民を集め，主の再臨に備えさせるために，イスラエルの神から与えられた啓示としてひとつにまとめられています。「荒れ廃れたる世を救う目的」でこれらの聖典が世に出されるためには，「第19世紀に於ける最も貴き血潮」（教義と聖約135：6），すなわちジョセフ・スミスとその兄弟ハイラムの血が求められました。

この神聖な証には，それぞれに世のすべての人に対するすばらしい宣言が載せられています。モルモン経のとびらのページと主がはしがきとして与えられた教義と聖約の第1章がそれです。主はジョセフ・スミスに，「今の代の人々には，汝によりてわが言を与うべし」（教義と聖約5：10）と言われました。そして確かに人々は，モルモン経と教義と聖約，またほかの現代の啓示を通して神のみ言葉を与えられてきました。

モルモン経と教義と聖約はお互いに証し合っています。片方を信じて，もう一方を信じないということはできません。

モルモン経は現代に与えられたほかの聖典を証しています。モルモン経には，それらの書物について，聖書が「真理であることを確かに証」する「いくらかの書物」また「最後の記録」と書かれています。また，モルモン経は，聖書から「抜き取られたはっきりしていて貴いところを人々に知らせ」てくれています。（Ⅰニーファイ13：39－40参照）

モルモン経の見証者を別にすれば，教義と聖約はモルモン経が真実であることを述べた，主から与えられた最もすばらしい証です。少なくとも，教義と聖約の中の13の章が，モルモン経が神のみ言葉であることを確認し，証しています。（教義と聖約1；3；5；8；10－11；17－18；20；27；42；84；135参照）

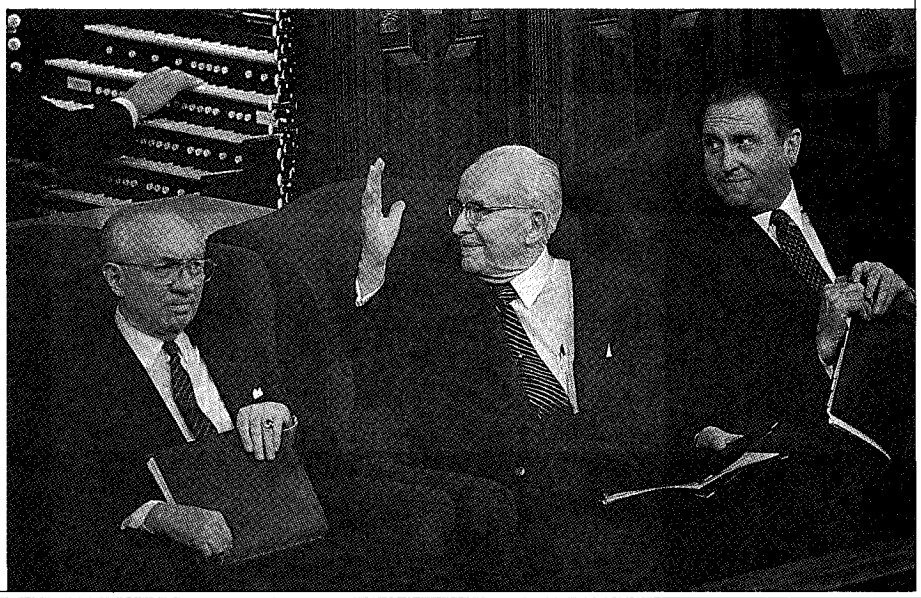
教義と聖約は，モルモン経と，予言者ジョセフ・スミスやその後継者を通して進められてきた回復のみ業を結びつけるひとつの輪です。

私たちは教義と聖約から，神殿事業，永遠の家族，栄光の階級，教会の組織，また，回復に関する数多くの偉大な真理を学ぶことができます。

主は教義と聖約について次のように言われました。「人々よ，これらの誡命をしらべよ。そはこれらは真実確なる誡命にして，その中に言われたる予言も約束もすべて成就さるべければなり。

主，われ言いたることは，われ言いたるなり。われ言い逃れせず。天地は過ぎ

●タバナクル合唱団とあいさつを交わすベンソン大管長



行くとも，わが言は過ぎ行くことなくして成就すべし。わが声にて言わるるも，僕らの声にて言わるるもみな一つなり。」（教義と聖約１：37－38）

モルモン経は人々をキリストのみもとへ導き，教義と聖約は神の王国，すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会，「全地の面に於ける唯一の真にして生命あ〔る〕教会」に人々を導きます。（30節）私はそのことをはっきりと理解しています。

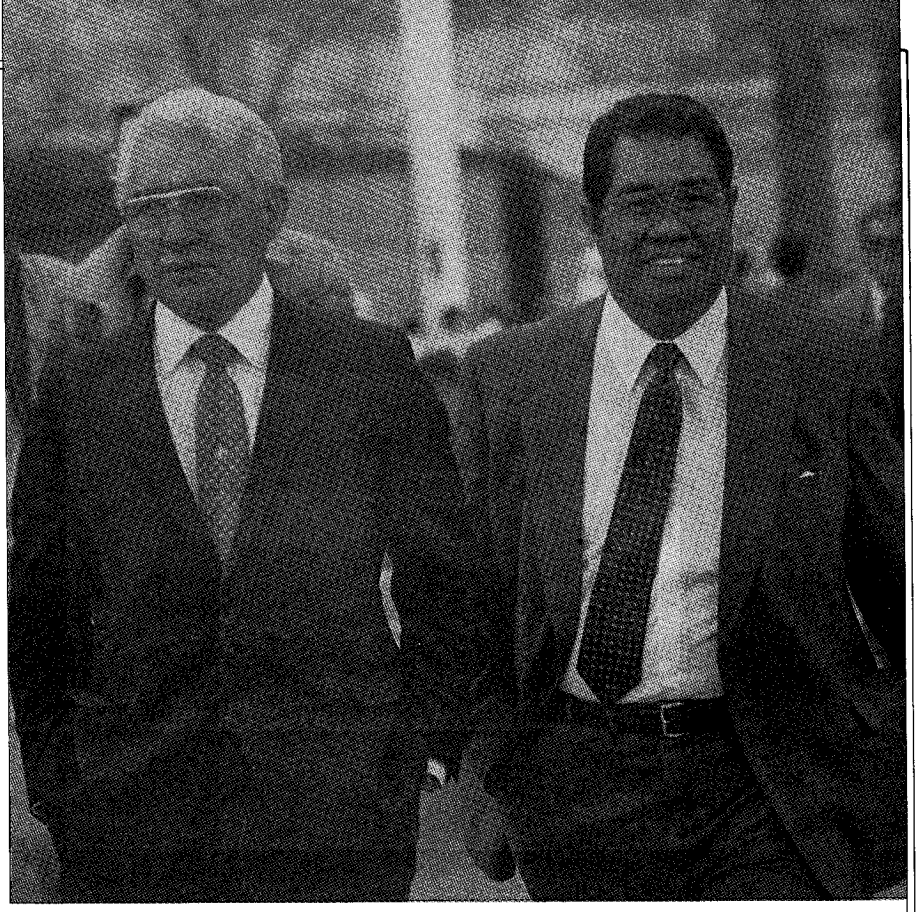
モルモン経は私たちの宗教の「かなめ石」であり，教義と聖約は，末日に続けて与えられる啓示とともに，「かさ石」と言うことができます。主はこのかなめ石とかさ石のふたつに承認の印を押しておられます。

古代に記録されたモルモン経が守られ，世に出されたことは，ニーファイの言葉の正しさを証明しています。ニーファイは次のように言いました。「しかし，主は始めから一切のことを知って居たもうから，そのすべての御業を世の人の中に成就するためにある方法を備えて置きたもう。ごらん，主はその一切の言葉を成就させるに必要なすべての力をもちたもう。まことにその通りである。」（Ｉニーファイ９：６）

外的な証拠はたくさんありますが，私たちに求められているのは，モルモン経が真実確かな記録であることをそのような証拠によって立証することではありません。モルモン経の真偽のほどが学者の研究によって明らかにされたというようなことはこれまでに一度もありませんでした。それは今も同じです。モルモン経の起源，記録の作成，翻訳，またそれが真実かどうかの証明はすべて主のみ手によってなされてきたことです。主が過ちを犯されることはありません。皆さんはそのことを強く確信することができます。

神はモルモン経が真実なものかどうかを判断するための方法をみずから備えてくださいました。それはモロナイ書第10章，また３人の見証者や８人の見証者，教義と聖約の数多くの章の中に書かれています。

私たちは皆，聖霊を通してモルモン経に対する証を得なければなりません。そしてモルモン経に添えて私たちの証を人人に分かち与える必要があります。それによって，彼らもまた聖霊を通してモルモン経が真実なものであることを知ることができるようになります。



ニーファイは，モルモン経の中には「キリストの言葉」が書かれてあり，「もしもキリストを信ずれば」，モルモン経も信ずるようになると証しています。（IIニーファイ33：10参照）

聖典の中に書かれているみ言葉を用いて人々を教えることは非常に大切です。アルマはこう言っています。「私アルマもまた命令を私に下したもうたお方の言葉を借りて，……あなたたちに告げた言葉を守って行えとあなたたちに言う。」（アルマ５：61）

私たちは主がモルモン経の中で示された言葉や方法を元に，物事を判断し，福音の原則を教えなければなりません。

神はモルモン経に書かれたみ言葉が持つ力によって人々の生活を変えていかれます。「神の道を宣べ伝えるのは民に正しいことを行わせるのに非常に効があって，剣やそのほかこれまでに用いたことのあるすべての方法よりも強く人の心を感化するから，アルマは神の道の力を用いる必要があると思った。」（アルマ31：５）

アルマは教会の兄弟たちに，神が彼らの先祖の身と霊を地獄から救われたことについて次のように話しました。「ごらん，神はかれらの心を改め，かれらの深い眠りを覚したもうたから，かれらは目を覚して神を信じた。かれらは暗やみの中に居たけれども，後にかれらの身も霊も永遠の言葉の光に照らされた。まことにかれらは死の縄目と地獄の鎖にとり巻かれて永遠の滅亡がかれらを待ちもうけていた。」（アルマ５：７）

私たちは，深い眠りの中にある人々を目覚めさせ，彼らが神に対して目を開くことができるようにするため，永遠の言葉を用いなければなりません。

モルモン経と教義と聖約には，イエス・キリストの福音が完全に，また明確に教えられています。私は，聖徒たちに完全明確に福音を教えるために，どのようなことがなされているかに非常に深い関心を抱いています。私たちは「永遠の神が定めたもうた大計画」（アルマ34：９）を教えるのです。

私たちは永遠の神が定めたもうたこの大計画を教えるために，モルモン経や回復のみ業を通して与えられたほかの聖典に説かれているメッセージや教授法を用いているでしょうか。

この偉大な計画を教えるための方法はたくさん示されていますが，私はここでそのひとつだけを取りあげてみたいと思います。それは，モルモンが宣教師としてのアロンの務めについて簡潔に述べた言葉です。

「そこでアロンは王が自分の言葉を信ずるのを認め，聖文を王に読んで聞かせたが，アダムの造られたことから始めて，神が自分の形にかたどって人を造りたもうたことと，神はこの人に命令を下したもうたが，この人が神の命令にそむいたがために堕落をしたことを教えて示し，アダムが造られてこのかたの聖文を解き明し，人類が神の前から堕落をしたこととその肉欲にふける有様と，キリストの御名を信ずる一切の者のために，キリストにより創世の前から用意された贖(あがな)い救う計画とを宣べ伝えた。

それからまた人類は堕落をしたのであるから自分で何者も受ける価はないけれども，信仰と悔改めなどによりキリストの苦しみと死とがその罪を贖(あがな)うことができるのを説き明し，またキリストが死の縄目を断ち切りたまい，墓はもはや勝利を得ず，また栄光が得られると言う望みによって死の苦しみが消え失せることを知らせた。アロンは以上のことをみな王に説き明した。」（アルマ22：12－14）

モルモン経に登場する聖徒たちは，贖いの計画が与えられたのはアダムの堕落があったからであることを理解していました。モルモンは次のように書いています。「アダムによって人類の堕落が生じた。人類の堕落があったから……イエス・キリストがこの世に来りたもうた。そしてイエス・キリストによって人類の贖いが来たのである。」（モルモン９：12）

人は飢えを感じなければ本当に食べたいとは思いません。それと同じように，人はなぜキリストが必要かを理解するまで，キリストの救いを得たいとは思いません。

堕落に関する教義と堕落が全人類に及ぼした結果を理解し受け入れるまでは，なぜキリストが必要なのかを，正しくまた十分に理解することはできません。またモルモン経ほど，この大切な教義をよく教えてくれる書物は世界中のどこにもありません。

兄弟姉妹の皆さん，私たちは自分自身とまた自分の管理下にある人々が，永遠の神が定めたもうた偉大な計画を教えているかどうか，自分がしていることを注意深く見直さなければなりません。

私たちは創造，アダムと人類の堕落，キリストの贖罪による堕落からの贖いなどについて，啓示を通して与えられた知識を受け入れ，教えているでしょうか。私たちは，モルモン経のアルマ書第５章に書かれている，アルマが教会の兄弟たちに向けた重要な質問を何度も自分自身に問いかけているでしょうか。

私たちは贖いについて理解しているでしょうか。またそれを効果的に教え，宣べ伝えているでしょうか。ゲツセマネとカルバリにおける主の苦しみは，私たち一人一人にとって，どのような意味を持つものでしょうか。

堕落からの贖いは，私たちにとって個人的にどのような意味を持つものでしょうか。アルマの言葉にあるように，「贖いを与える愛を讃美する歌を唱いたいと思ったことがある」でしょうか。（アルマ５：26）

さて，永遠の神が定めたもうた偉大な計画を教えるときに何を基としたらいいのでしょうか。もちろん聖典です。特にモルモン経を使ってください。末日に与えられたほかの啓示も使うようにしてください。さらに使徒や予言者の言葉，また，みたまのささやきの言葉に基づいて教えてください。アルマは「自分が教えたことと，聖い予言者らが言ったことのほかは何ごとも教えてはならないとこの祭司たちに命じ」ました。（モーサヤ18：19）

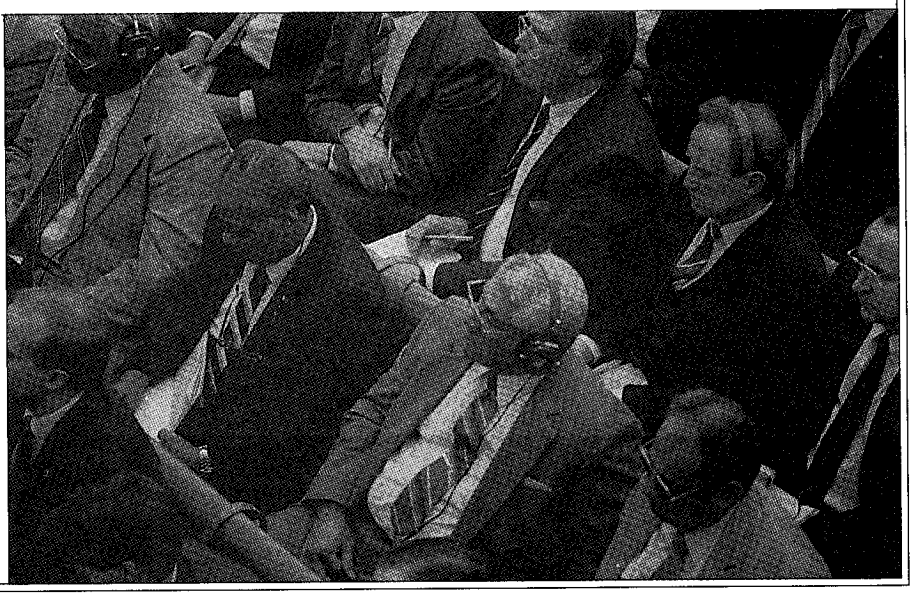
教義と聖約には，こう書かれています。「而(しか)して彼らは，そこより旅して途中行く行く次の言を説きて言うべし。すなわち予言者たちと使徒たちの誌(しる)したるところ，および信仰の祈りにより『慰め主』によりて教えらるることのみを説きて言うべし。」（教義と聖約52：９）

さて私たちは，永遠の神が定めたもうた大計画を教えたら，それが真実であることを個人的に証しなければなりません。

アルマは，生まれ変わることと，心が「非常に改まる」体験をすることの必要性について，聖徒たちにすばらしいメッセージを与えた後に，次の証を添えて，その教えを結び固めています。

「こればかりではない。あなたたちは私自身これらのことを知らない者であるとは思わないか。ごらん，私は自分がこれまでに話したことはみな本当であると自分で知っていることを証する。どのようにしてそれが確であることを知っているかと問うならば，これは神の聖い『みたま』が私に示したもうたのである。私は自分がこれを知るために長い間断食をして祈った。そこで主なる神がその聖い『みたま』によってこれを私に示したもうたので，私は自分でこれが真理であることを知っている。この聖い『みたま』とはすなわち私の中にある啓示の『みたま』である。」（アルマ５：45－46）

アミュレクはのちにアルマの同僚とし



て一緒に伝道するようになりました。アルマがゾーラム人にキリストへの信仰について教えを伝えると，次にアミュレクが自分の証を述べて，アルマのメッセージを結び固めました。彼はこのように言っています。

「今，私は自分でこれが真実であることを証する。ごらん，私ははっきりと言うが，キリストはその民の罪を贖うために世の人の中へ降り，また世の人の罪も贖いたもう。主なる神がそう仰せになったから，私はそれが確(たしか)であることを知っている。」（アルマ34：8）

主は教義と聖約のはしがきの中で「この末の世にわが選びたる弟子たちの口より，すべての人々に警(いまし)めの声は及ばん」（教義と聖約1：4）と言われました。

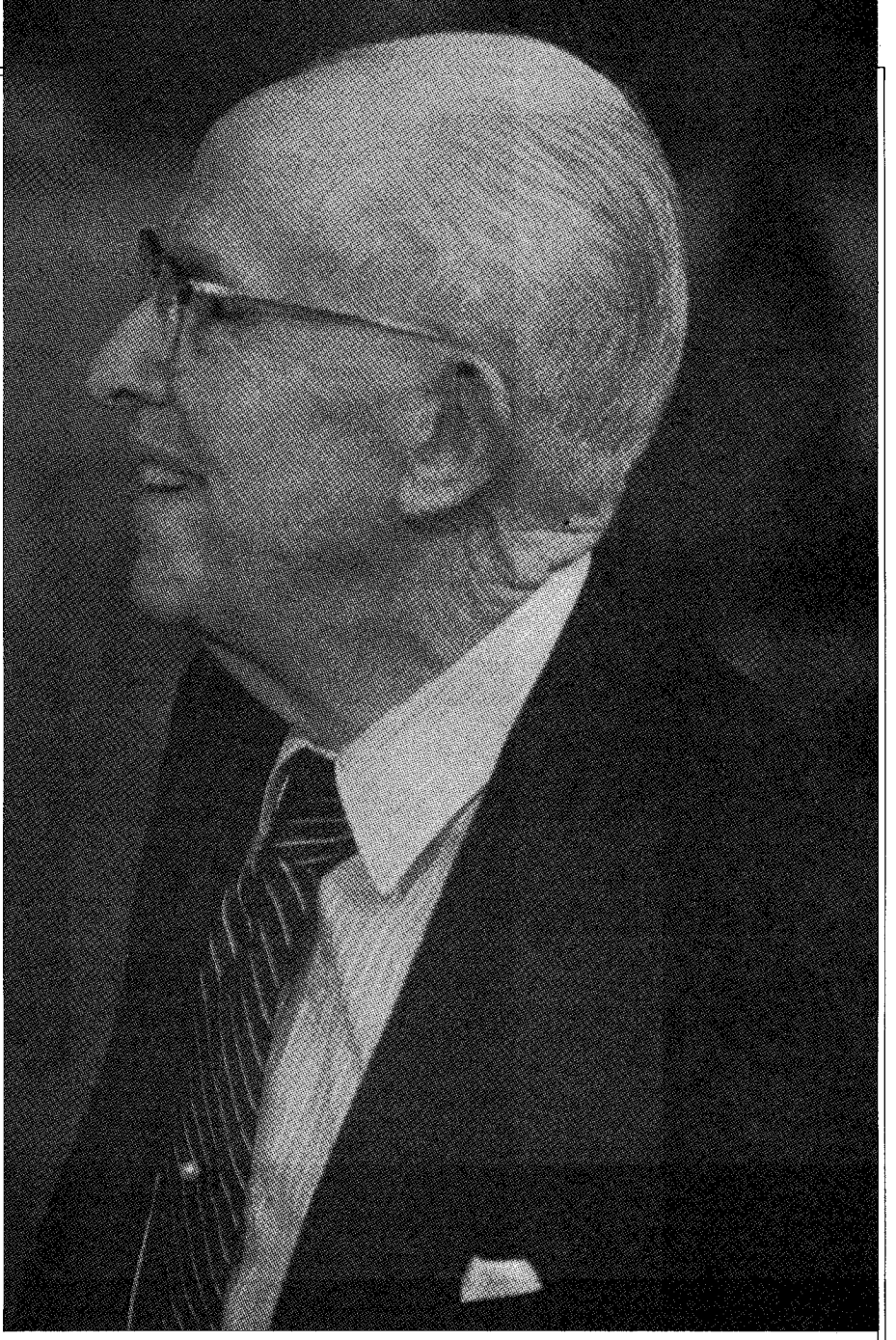
私たちはアブラハムの子孫として，宣教師となり，「万国の民にこの導きと教えを施す職と神権とを携えて行」く責任があります。（アブラハム2：9）モーセはカートランド神殿でジョセフ・スミスにイスラエル集合の鍵を授けました。（教義と聖約 110：11）

この集合のために神はどのような手段を備えておられるのでしょうか。それは，世の人々にイエスがキリストであり，またジョセフ・スミスが神の予言者であることと末日聖徒イエス・キリスト教会が真実であることを，世の人々に信じさせるために備えられたと同じ道具です。それは私たちの宗教のかなめ石と呼ばれる聖典です。

それは最も正確な書物であり，人がその教えに従うことによって最も神に近づくことのできる書物，すなわちモルモン経です。（モルモン経序文参照）

神が私たちを祝福し，私たちがすべての聖典，中でも特に，人をキリストのみもとに導くために備えられ，私たちの宗教のかなめ石と呼ばれているモルモン経と，人をキリストの王国へ導くその友なる書物，すなわちかさ石と呼ばれている教義と聖約をともに用いることができるようになることを望んでいます。

私は，自分に授けられている神聖な神権の力によって，末日聖徒と全世界の善良な人々のうえに主の祝福があるように祈っています。



この大会において，私たちは悪の力について多くのことを聞いてきました。悪の攻撃が激しさを増し加える中にあって，正義のうちに踏みとどまるための力をさらに授けられるよう，皆さんを祝福いたします。

福音についてもっと熱心に近代の啓示から学ぶならば，教え，宣べ伝える力が強められ，シオンの大義を強く推し進めることができるようになり，より多くの人々が改宗するだけにとどまらず，主の宮居にも参入するようになるでしょう。

また，皆さんがモルモン経を世に広め，真理に飢え渇いていながらそれをどこに求めたらよいか知らないでいる神の選民を集めるために，さらに強い望みを持つことができるように祝福いたします。

皆さんにお約束いたします。神の神殿への参入回数を増やしていくなら，死者に祝福をもたらすことができるだけでなく，さらに多く個人的な啓示を授けられ，自分自身も祝福にあずかることができます。

モルモン経が神のみ言葉であること，またイエスがキリストであり，ジョセフが神の予言者であることを証します。末日聖徒イエス・キリスト教会は真実の教会です。イエス・キリストのみ名によって申しあげます。アーメン。

新たに8人が七十人第一定員会会員に召される

ジョージ・R・ヒルⅢ長老

新たに七十人第一定員会会員に召されたジョージ・リチャード・ヒル長老は「私は，イエス・キリストへの信仰を失ったことは一度もありません」と語った。

これは，彼の人となりをよく示した言葉である。ヒル長老は監督，地区代表（3つの異なる地域で3度この職を務めた），中央MIA管理会などの責任で教会に奉仕してきただけでなく，石炭，石油など化石燃料の分野における草分け的な存在でもある。ジョージ・ヒルは1946年，支部長を務めていた当時にコーネル大学で化学博士号を取得した。同じ1946年にヒル博士はユタ州における石油埋蔵に関する調査のためにユタ大学に迎えられた。1951年には同大学から燃料工学部の開設を依頼された。彼はこう語る。「その新しい学部を開くために，私は自分で学んだこともない9つのコースを準備しなければなりませんでした。」しかし彼は要請にこたえ，この新設学部は間もなく連邦政府から補助金を受けることができた。

1966年から1972年までヒル博士はユタ大学の鉱業学部の学部長を務めたが，後に内務省の石炭資源調査局の理事に任命され，ワシントンD.C.に移った。さらに彼は石油資源調査局を管理するために，カリフォルニア州パロアルトの電力資源調査研究所に籍を移した。1977年にはソルトレークシティーに戻り，ユタ大学の化学工学教授の職に就いた。これによって，彼は以前よりもより多くの時間を学生への教授と研究に割くことができるようになった。

彼は笑みを浮かべながら，「私たちのような教えることが好きなタイプの人間には，教授の職はまさに日の栄の王国です」と語る。ヒル博士は長年の間に100以上もの論文を専門誌に掲載し，アメリカ化学協会のヘンリー・H・ストーク賞をはじめ数多くの賞を受けている。またブリガム・ヤング大学からは，名誉科学博士号を受けている。

ヒル長老は，両親について「私の両親は教会の務めと教育を受けることについてよい模範を示してくれました」と語る。父親のジョージ・リチャード・Jr，と母親エリザベス・マッケイ・ヒル（デビッド・O・マッケイ大管長の妹）はふたりとも，現在ユタ州立大学として知られている大学の学部長を務めている。父親は中央日曜学校の管理者として働いた経験もある。「父は私にとって真の指導者であり，何をすべきかその模範を示してくれました。父も私も，スカウトプログラムでシルバーバッファロー賞とシルバーアンテロープ賞を受けました。父が私に教えてくれた中で一番心に強く残っているのは，だれの名誉になるのかというようなことを考えさえしなければ，私たちは数限りなくよいことができるということです。」

ヒル長老とヒル姉妹は，家族を最も大切にしている。ヒル長老がヒル姉妹とブリガム・ヤング大学で会ったのは，彼が化学の学位を取得したときであった。ふたりは，最終学年のときに結婚した。ふたりの間には，7人の子供がいる。そのうち5人は両親の家から2キロ足らずの所に住んでいる。孫の数は27人である。ヒル姉妹は祖父母の顔を知らずに育ったため，自分は孫たちのよいおばあさんになろうと早いうちから強く思っていたという。ヒル長老の家の中からは孫たちの声が絶えた日がない。

ヒル長老は子供たちと一緒に何かをするのが好きである。彼は子供たちにスキーを教えたこともある。また，ドイツにいたときは，お互いに交信できるように親子でアマチュア無線の免許を取った。ヒル家はマッケイ家と協力して，マッケイ家の人々が住んでいたハンツビルの古い家を修繕したことがある。彼らは毎年夏になるとそこで過ごし，ヒル姉妹も必ずそこを訪れる。

ヒル長老は，長男と一緒にイーグルスカウトを受けている。彼はこう語っている。「私は子供のころ，健康上の理由で水泳技能章を受けることができませんでした。私は水泳技能章を受けるまで約1年頑張りましたが，息子はふたりで一緒にイーグルスカウトを受けるまで6カ月ほ

ど待たなければなりませんでした。」そのころ，ヒル長老はハラディー第2ワード部の監督をしていた。当時はまだ，イーグルスカウトを受けるのに年齢制限はなかった。後にヒル長老は家族で休暇を過ごしたニューメキシコ州フィルモントでスカウトトレーニングコースの計画に参加し，援助を与えたことがある。彼は当時を回想してこう語っている。「女の子たちも，男の子たちや大人たちと同じように楽しんでいました。」

教会幹部に召されてどのような気持ちかを尋ねられ，ヒル長老は次のように語っている。「全時間を使って主に仕えることができると思うと，わくわくします。今年はもっと時間の余裕を持つために，大学をやめる準備をしていました。最もよい時にこの召しが来ました。私はこれまで，教会の責任を通して喜びを得てきました。でもこの責任で最もつらいのは，孫たちと長い間離れていなければならないということです。しかし，離れている時間が長くても，その分だけお互いの愛情が深まると思います。」

*

ジョン・R・ラサター長老

ジョセフ・スミスはノーヴー軍団の中将であったが，彼以降，教会幹部で将軍の職にあった者はこれまでだれもいなかった。ジョン・R・ラサター長老は，今回の総大会において七十人第一定員会会員の職に支持された。空軍将校，またF4戦闘機のパイロットであったラサター長老はニュージーランド・オークランド伝道部の伝道部長を務めていた。ラサター長老とアイダホ州サマリヤ出身のマリリン・ジョーンズ・ラサター姉妹の間には，マリー・リン，レスリー・アン，メラニー，キャロリンの4人の娘とブリガム・ヤング大学に学ぶひとり息子ガースがいる。4人の娘はすでに嫁ぎ，ガース兄弟も今春結婚の予定である。

ラサター家の人々は，3度ドイツにいたことがある。ドイツに最後にいたときに，ラサター長老はヨーロッパの軍人ステーキ部担当の地区代表をしていた。その前には，12万平方キロの地域に及ぶステーキ部のステーキ部長であった。ジョン・ラサターはハロルド・B・リー大管長にその職に召されたとき，すばらしい祝福を授けられた。その召しを受けたとき，ラサター少佐は自分はその責任に向いていないと思った。というのは，パイロットの訓練，教育のためにヨーロッパ全域の米軍基地を訪問する責任で，多忙を極めていたからである。しかしリー大管長は，彼を按手任命するときに，軍人としての仕事からは何の不都合も受けることなく，ステーキ部長としての責任を果たすことができると約束した。またリー大管長は，ラサター少佐に破格の昇進をするであろうとの約束をつけ加えた。

その翌日，いつもの仕事でヨーロッパの各基地を訪問するための準備をしているとき，ラサター少佐は司令官から呼び出しを受け，その訪問をする必要はないと言われ，さらに職務が変更になったと告げられた。その日から，その将軍に補佐として仕え，報告することが彼の仕事になった。ジョン・ラサターは以来，一度も旅行したことがなく，ステーキ部長として何の障害もなく務めを果たすことができた。ラサター将軍はその異常に早い昇進は，それまで自分の生活指針としてきた福音の標準と主の祝福によるものであると述べている。

将軍が身につける星章の5つの尖端は，その位の人物に求められる特質，すなわち，信義を重んじる精神，高潔，忠実，奉仕，誠実を表わしている。これらはいずれも真の指導者に求められる特質であり，「人間の内面から発してくるもの」である。

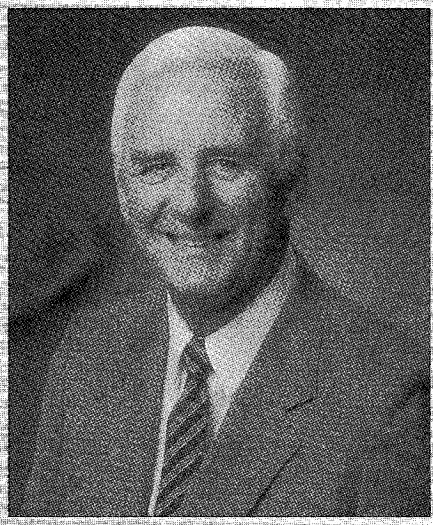
ラサター長老が言っているように，軍人の理想と福音の原則の間には，普通考えられているよりも，多くの共通点がある。彼は軍人という職業を次のように見ている。「この仕事は，時には問題もありますが，昔から重んじられてきた様々な徳目が実践され，擁護されている限り，貴い職業です。軍隊では，戦争はすばらしいものだとか，兵士は男の中の男だというような社会通念に従うことによるのではなく，これらの徳目の実践によって昇進していきます。アメリカにおいては，現在の軍隊は最も統制の厳しい仕事のひとつです。」

ラサター兄弟は将軍の職に昇進したときに，上官が語った「自分は悪い人間になる可能性もあるということを胆に銘じておきたいと思う。しかしそれを認める度量ある人間になれるということも忘れずにいたい」という言葉を思い出したという。

彼はこの言葉をいつも忘れないように心がけ，自分の裁量にゆだねられている部分が非常に多い重要な責任について主の助けを求めてきた。彼はこれまで軍備

管理軍縮庁の上級軍事顧問，ジュネーブ戦略兵器制限交渉(SALT)における米国諮問委員会委員，米空軍戦略航空軍団第4空軍(B－52爆撃機，ICBM，28,000人の兵員を擁する）指揮官，ワインバーガー国防長官の補佐官などの職務を遂行してきたが，その中でよい働きができたのは，主の助けに頼ったためであると信じている。

主の軍勢も，指導者に求められるこのような標準にこたえる忠実な僕を必要としている。



ダグラス・J・マーティン長老

ニュージーランドのハミルトン出身のダグラス・J・マーティン長老は，若いころにアメリア・ワチ・クロフォードというマオリ女性から初めてイエス・キリストの福音について聞いた。マーティン長老は，彼女の模範によって教会に導かれ，教会で目にしたマオリ族の人々の献身的な働きを通して，末日聖徒がどのような民かを理解した。

マーティン長老は，当時を回想してこう語る。「彼らは主に対する完全な従順と信仰を模範で示してくれました。」

マオリの人々は物質的な面や教育的な面では恵まれているとは言えないが，彼らにとってはこの世的な意味でのよい生活をすることよりも，福音を学び，救い主に従うことの方がはるかに大切なのである。

マーティン長老は「私はマオリの人々から従順を学びました。自分も従順でありたいと願っています」と語る。

彼はまた，七十人第一定員会の兄弟たちを見て「自分はその中で最も小さな者だと感じています」と語るが，持てるすべての力を出して教会指導者，七十人第一定員会会員と共に救い主のみ業に献身する確かな心構えができている。

今回の新たな召しは彼にとって非常な驚きであった。召しを受けたあとは「圧倒されるような思いで，本当に一晩中眠れませんでした」と言う。

しかしこの召しは，彼が抱いていたひとつの望みがまったく予期しない形でかなえられたものであると言うこともできる。彼は以前，プラスチック製品を造る会社の役員をしていたが，そこを辞めて2週間たったころには，それからあとの人生は養蜂，園芸，つり，ろくろ細工，サーフィンなど，自分の好きなことをして過ごしたいという考えも持っていた。しかし，長年教会で指導者として働いてきたマーティン長老夫妻が本当に願っていたのは，すべての時間を使って奉仕の業を行なうことだったのである。おそらくふたりは伝道の召しを受けたいと願っていたのであろう。マーティン長老は今「自分の生活をすべて主に捧げるこの初めての機会」を非常に喜んでいる。

ある意味で，マーティン長老は何年も前から主にすべてを捧げるための道を歩んできたと言える。

彼は1927年にニュージーランド，フォークスベイのヘイスティングで父ジョージ・マーティンと母ジェシー・ジェミスン・クレイギー・マーティンの子供として誕生した。

1951年にバプテスマを受けたときはすでに24歳であったが，アメリア姉妹と結婚する前に，伝道の召しを果たしている。1954年当時のニュージーランドには神殿がなかったため，ふたりは年長のマオリ族の会員たちと一緒にハワイ神殿へ行き，そこで神殿結婚をした。ふたりの間にはジェームズ，シドニー，ダグラスの3人の男の子がいる。(もうひとりの子供クレイグは幼年時代に水死)

マーティン長老はこれまで，教会の責任を熱心に務めてきた。ニュージーランド神殿が1958年に献堂されると，デビッド・O・マッケイ大管長から結び固めの権能を授けられ，新しい神殿で働くことになった。その後4年間，彼は神殿記録部長として働いた。

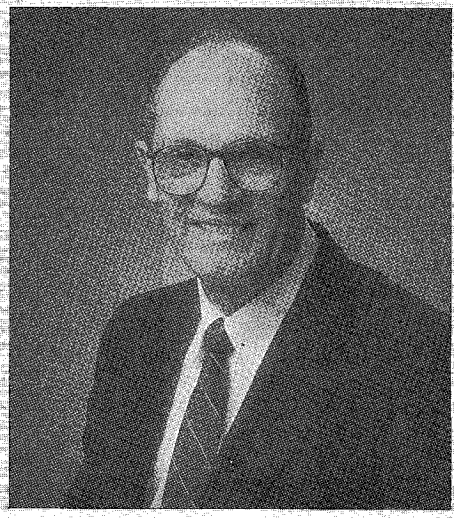
同時に彼は，監督としても働き，後にはふたつのステーキ部で副ステーキ部長を務め，また約10年にわたってハミルトン・ニュージーランドステーキ部のステーキ部長も務めた。彼は現在そのステーキ部の祝福師であるが，今回の召しを受けたときには，地区代表の責任を受けていた。

マーティン長老は，マーティン姉妹から，いつも変わらぬ助けを与えられてきたと言っている。「彼女は教会のことをまず第一に考える人です。そしてとても強い信仰を持っています。」さらに長老は，彼女の信仰はマオリ族として先祖代々受け継いできたものであるとつけ加えている。

マーティン姉妹は，長い年月の間にマーティン長老の愛と思いやりの精神，また人々の心をなごませる力や霊的な力を見てきたと語っている。マーティン家の人々は，教会の奉仕の業のために，退職後の計画や，すでに完成した別荘をあとにしなければならないことを，少しも残

念とは思っていない。彼らは，すべての時間を主に捧げる特権を与えられたことを非常に喜んでいる。マーティン長老は，七十人第一定員会の会員と共に働き，彼らのすばらしい力を感じることはこのうえもない祝福になるであろうと述べている。

彼はこう語っている。「自分に託された信頼に十分こたえることができるように願っています。そのためには，主に近い生活をしなければならないと思っています。」



L・アルディン・ポーター長老

ルイジアナ・ベイトン・ルージュ伝道部を管理する責任を受けてから9カ月，ポーター伝道部長夫妻がようやくその職務に慣れてきたころであった。ポーター伝道部長は宣教師たちとの面接をしているときに，ゴードン・B・ヒンクレー第一副管長からの電話を受けた。ポーター伝道部長はきっと伝道についての話であろうと思っていた。

ところがヒンクレー副管長の電話の話の内容は，七十人第一定員会会員への召しを伝えるものであった。ポーター長老は，4月4日にほかの7人と共に七十人第一定員会会員として召された。伝道部長の召しからは，いずれ解任される予定である。

ポーター長老は，七十人第一定員会のほかの会員を見て，自分がはたして期待にこたえることができるだろうかとも考えたが，謙虚にへりくだってこの召しを受けた。

ポーター長老はこう語っている。「私たちが教会の召しを受け入れて，それを果たしていくならば，足りないところは主が補ってくださると強く信じています。

姉妹も私も，教会幹部の方々を愛し，彼らの助言に従っていくつもりです。」

ポーター長老は，1931年6月30日にソルトレークシティーで父J・ロイド・ポーターと母レボン・ヘイワード・ポーターの間に生まれ，アイダホ州アイダホフォールズで成長期を過ごした。西部中央諸州伝道部で宣教師として働いた後に，テキサス州ヒューストン出身のシャーリー・パーマー姉妹と結婚した。ふたりは6人の子供と16人の孫に恵まれている。

ポーター長老は，1986年に伝道部長の職に召される以前は，保険会社の役員をし，教会では，監督，ステーキ部長，地区代表などの責任を果たしている。今回の召しを受けたときには，メリディアン・アイダホステーキ部の祝福師の責任にあり，ボイシ神殿の副神殿長を兼任していた。姉妹も同じくボイシ神殿で神殿長夫人の補佐として働いていた。

保険の仕事を20年続け，かなりの成功を収めていたが，ポーター長老夫妻は，どのようなときにも仕事よりも家庭を大切にしてきた。

ポーター長老はこう語っている。「私たちはメリディアンに小さな農場を持ち，家畜を飼い，いろいろな作物を育てました。でも，作物よりもっと大切なものも育てました。農場で働くことによって，子供たちが立派に育ってくれたのです。」

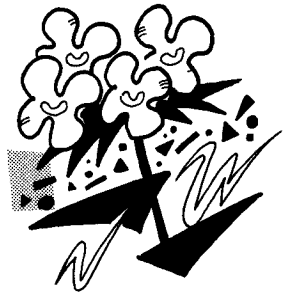
ポーター夫妻が農場を買ったのは，子供たちに責任，労働の大切さ，主への信頼を教えるためであった。子供たちも農場での仕事を自分から進んで熱心に果たした。ポーター長老は，自分が教会の用事で留守の間に農場の仕事を取りしきってくれただけでなく，母としてまた妻として示してくれたポーター姉妹の働きに賛辞を惜しまない。

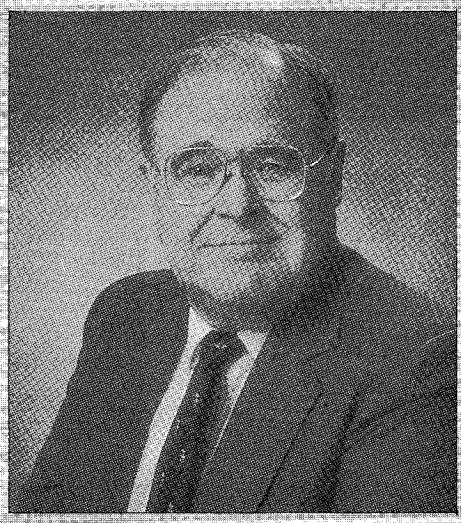
「私たちが子供から受けたと同じような助けをほかの方々にも受けてほしいと思います」とポーター長老は語っている。4人の娘はすでに結婚し，ふたりの息子とふたりの娘がポーター夫妻の伝道の働きを助けてきた。

家族から離れて生活することは犠牲だと考える人もいるかもしれないが，両親，子供，孫のだれにとっても，伝道の責任がもたらす祝福は犠牲を補って余りあるものがあるとポーター長老は語っている。

ポーター長老は，自分の召しを忠実に果たすに必要ならば，どのようなことでも熱心に果たしたいと考えている。ポーター姉妹はポーター長老についてこう語っている。「彼は本当に献身的な末日聖徒で，全力を尽くして働く人です。」

彼は自分の任地の南アメリカの人々のためにどのような働きをしたいと思っているのだろうか。ポーター長老は，その問いかけに対して，私たちが人のためにできる最もすばらしい働きは，信仰と証を持てるように助けを与えることであると答えている。そしてポーター長老はそれができると確信している。なぜなら彼は「これが神のみ業であると確信している」からである。





アレクサンダー・B・モリソン長老

アレクサンダー・B・モリソン長老はこれまで，人間の生と死の問題に深くかかわってきた。彼は病気の治療，撲滅に熱心に働いてきた科学者であるが，同時に七十人第一定員会会員として人々の霊的な健康にも同じように深い関心を持っている。

「私はこれまで，貧しい人，恵まれない環境の中に放置されている人，しいたげられている人々の問題に情熱を注いで働いてきました。」モリソン博士は，栄養学，薬理学の権威としてこれまで世界保健機構（WHO）のいくつかの国際委員会で指導的な責任を果たし，ノーベル賞を受賞した科学者たちを指導した経験を持つ。今回この七十人第一定員会会員の職に召されるまでは，みずから教鞭をとるカナダのゲルフ大学で学部長として働いていた。彼は多方面の知識を持つ学者として３つの分野で働きをなしてきている。第１は大学で教える者としての立場である。年間に何百万人もの人の命を奪う様々な病気を撲滅できるように学生たちに教えている。

第２は環境や食品安全に関する公共政策の管理者としての務めである。彼はカナダ政府の保健関係の部局の一員として環境汚染物質の使用規制法の立案に協力している。

第３は，おそらく彼が最も情熱を傾けている，発展途上国の医療問題である。彼は長年にわたり，世界保健機構で熱帯病に関する調査・教育特別プログラムの科学技術諮問委員会委員長として働いた。この委員会は，国際連合に加盟している20カ国における医療問題に取り組んでいる。

モリソン長老はこう語る。「熱帯病の研究は，過去50年にわたり遅々として進まず，多くの人々が病気に苦しみ，命を失ってきました。熱帯病に苦しむ人々は，世界でも経済的に最も貧しい人々で，製薬会社も医学者もその研究に関心を寄せてきませんでした。」

1984年にはその国際的な働きが認められ，彼はブリガム・ヤング大学のケネディインターナショナルセンターから，第１回デビッド・M・ケネディ国際奉仕賞を与えられた。

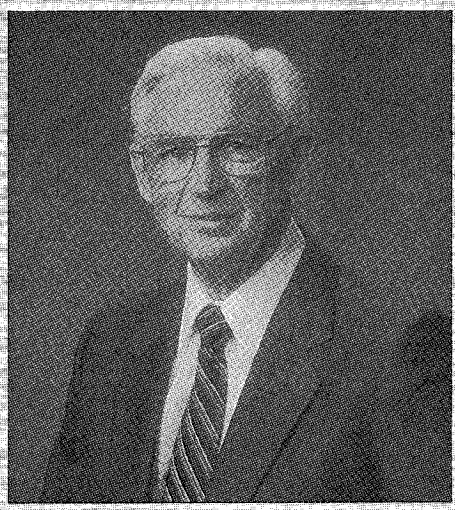
1930年12月22日に生まれたモリソン長老がこの教会に加入したのは，学生のときである。彼は，地上の生活は人が学び，永遠に進歩するためのひとつの機会であること，また神の栄光は英知であり，結婚は永遠のものであるということを学ぶと，すぐに改宗した。それ以来，支部長，監督，地区福祉代表，地区代表などを歴任してきた。シャーリー夫人との間には８人の子供があり，その中のひとりはまだ一緒に生活している。

モリソン長老と共に働く人々は，彼を専門家として有能な人物であるだけでなく，人の気持ちをよく理解することができる力を具（そな）えた人であると評価している。彼は1956年にコーネル大学で博士号を取得したが，その９年後には予防医学における薬品研究の進歩に遅れないようにするために，薬理学の学位を取得した。彼はこれまで，研究のために何度もアフリカを訪れ，悪性の疾病に対する治療法を発見するために献身的に働いてきた。彼は特にオンコセルカ症の予防プログラムの開発に大きな貢献をしている。この病気は，人の皮膚に取りつく線状の虫が媒体となって起きる病気で，西アフリカのボルタ川流域では多くの人々がこれによって失明している。彼はほかにも，住血吸虫病やエチオピア，東アフリカ，中央アメリカなどに見られる様々な病気にも取り組んでいる。

モリソン長老は，目に涙を浮かべながらこう語った。「きれいな水で歯を磨いたり口をゆすいだりしているときに，病気に苦しむ人々の顔が浮かんでくることがあります。また，空調がよくきいた廊下を歩きながら，ジャングルのうだるような暑さを思うこともあります。また日に３度恵まれた食事をしながら，飢えがどのようなものかを思い出すこともあります。

このような問題に取り組んできて，私は人間という最も重要な存在について考えることができます。」

公衆衛生の問題にしても，霊の健康の問題にしても，アレクサンダー・B・モリソン長老の取り組み方には，熱意が込められている。七十人第一定員会会員として彼が人々の肉体の健康，情緒，霊的な健康などの問題に向ける熱心さは，私たちの目を新たな面に開かせてくれるであろう。



グレン・L・ラッド長老

グレン・L・ラッド長老の最初の息子の名前はリーと言い，2番目の子供の名前はマシューと言う。これは，ハロルド・B・リー大管長とマシュー・カウリー長老にちなんでつけた名前である。リー大管長とカウリー長老はラッド長老の人生に非常に大きな影響を与えた人物である。ラッド長老は，ニュージーランドで宣教師として働いていたときに，伝道部長だったカウリー長老の秘書として働いた。彼はリー兄弟がステーキ部の福祉プログラムを推進していたころに，同じパイオニアステーキ部で成長した。彼が福祉の原則を学んだのは，パイオニアステーキ部においてである。後に彼は，監督として福祉上の多くの問題を抱えた大きなワード部を管理している。これらはすべて，彼が教会の福祉プログラムの責任を果たすうえで大きな備えとなった。

グレン・ラーキン・ラッドは1918年5月18日に，ソルトレークシティーで父チャールズ・P・ラッドと母グラディ・マリー・ハーマン・ラッドの間に生まれた。彼はこう語っている。「父は私にどのように働いたらよいかを教えてくれました。労働は私の人生の重要な原則となってきました。

母もどのように奉仕すべきかを教えてくれました。」

グレン長老は10代のころに父親の養鶏事業を手伝いながら，ユタ大学に通った。ニュージーランドで伝道をし，家に帰ってからは，自分で養鶏事業を始め，成功を収めた。

彼はマーバ・スペリー姉妹と結婚した。リー長老がふたりの結婚式を司式したが，そのときふたりは多くの子供に恵まれるであろうとの約束を受けた。ラッド姉妹には心臓障害があったが，結局その約束どおりに，全部で8人の子供に恵まれた。結婚して間もないころ，ラッド長老はワード部書記，副監督，監督などの責任で働いた。彼はこう語っている。「まだ幼い執事のころ，私はひとつの夢を持っていました。50歳になったら，監督になりたい，という夢でした。」しかし，その責任は，自分で考えていたよりもはるかに早く，25歳のときにやってきた。

30年にわたって彼は福祉プログラムの発展のために働いた。「私が福祉の仕事についたときは，ゼロからの出発のような状態で，まさしく開拓者そのものでした。」彼の責任は，監督の倉庫の詳細な運営計画を立てることであった。後に彼は教会福祉部において合衆国各地に監督の倉庫を建設し，確立する責任に携わった。ラッド長老は，20年にわたって自分で事業を経営していたが，あるときリー長老から教会のウェルフェア・スクウェアの責任者として働くように求められた。「リー長老はそのとき，『もしこの仕事について働いてくれるなら，決して後悔することはないだろう』と約束してくれました。それは私の人生にとって非常に大きな約束となりました。確かに私は一度もそのことで後悔したことはありません。」

ラッド長老は翌日には自分の事業をやめることにし，その申し出を引き受けた。以来，教会幹部と共に各地の教会を巡り歩き，ステーキ部大会において福祉プログラムについて教えてきた。ラッド長老は福祉の原則について強い証を得た。「私は悩んでいる人，悲しんでいる人，勧告や助言を必要としている人をたびたび見てきましたが，教会の福祉プログラムこそ，それらの問題に対して広く解決を与えてくれるものであると確信してきました。」

1964年には7週間にわたって教会伝道・福祉委員会の特別な割り当てを引き受け，ハワイ，ニュージーランド，サモアのステーキ部を訪問した。あるときは，教会の400に及ぶ全ステーキ部を訪問したこともある。後に彼はフロリダ伝道部の伝道部長に召され，1966年から69年までそこで働いた。そして1970年には，地区代表に召されている。

1976年に地区代表の職から解任されている。ウェルフェア・スクウェアの責任者として25年働いた後に与えられた新しい責任は福祉事業部のゾーン・ディレクターという仕事であった。彼はまた，ソルトレーク・ウイルフォードステーキ部の副ステーキ部長に召され，その責任を9年間務めた経験もある。

1978年にウェリントン伝道部長の亡きあとを受けて，ニュージーランドで伝道部長として働くことになった。1984年には教会職員の仕事を退職し，再びニュージーランドで働く召しを受けた。それは，神殿長としての責任であった。「私は教会の責任でニュージーランドには12回行ったことがありました。1958年に私はニュージーランド神殿の献堂式に出席しましたが，まさか自分がその神殿の神殿長として働くようになるなどとは考えてもみませんでした。」福祉，神殿，伝道など，教会の仕事を果たす中で，ラッド長老は主のみたまを強く感じてきた。彼はこう語る。「この教会は確かに真実です。この教会が真実であるのを疑ったことは一度もありません。私のこの証は，みたまのささやきを通して得たものです。私たちが主のみたまに耳を傾ければ，進むべき道を知ることができるのです。」

ダグラス・H・スミス長老

スペンサー・W・キンボール大管長は1974年10月に，バーバラ・B・スミス姉妹を中央扶助協会会長の責任に召したとき，彼女の夫であるスミス兄弟に「スミス姉妹がこの責任を果たせるように，ぜひ助けていただきたい」と語った。

ダグラス・H・スミス兄弟はこのように答えた。「もちろんです。妻は30年以上も私が責任を果たせるように，助けてくれました。今度は私が彼女を助けることができて，とてもうれしく思います。」そして彼はその言葉どおりに彼女を助けたのである。

今回の七十人第一定員会の召しに伴ってスミス長老はまた，家族の助けを必要とすることになった。

スミス家の人々は，家族のだれかが助けを必要としているときには，喜んでそれにこたえる準備ができている。7人の子供は皆それぞれ自分の家を構えているが，皆互いに近くの場所に住み，スミス長老はほとんど毎日のように彼らに電話をし，家族が集って食事をすることも頻繁にある。それぞれの家族について記事を載せて毎月出している「スミス・ファミリー・ニュース」は，「お互いの触れ合いと近況報告のためのすばらしい手段です」とスミス姉妹は語っている。スミス家の人々は毎年夏になると一緒に集まり，2，3日楽しい時間を過ごす。そしてここ5年間は，毎年12歳以上の全員を対象に，教会の総大会にならって家族大会を開いている。スミス姉妹はこう言っている。「総大会で聞いた教会幹部の話を，家族大会を通して生活の中に取り入れていくのです。」

もちろんこの家族大会のときには小さな子供たちへの配慮も忘れられていない。プレゼントやゲーム，楽しい行事などが準備されるのである。

スミス家の人々の愛は，家の中だけにはとどまらない。スミス長老は母親が亡くなるまで週に1度は一緒に食事をするようにしていた。またスミス家には長い間，様々な同居人がいた。その中には，スミス姉妹の父親，叔母（彼女は20年間同居した），台湾出身の少年，南アフリカから来た少女などがいた。また住む家のない人を長い間一緒に住まわせたことも何度かある。

スミス長老は1921年5月11日に，父バージル・H・スミスと母ウィニフレッド・バール・ヒル・スミスの子供として，ソルトレークシティーで誕生した。スミス長老はこう語る。「教会はいつも私たちの生活の中心で，私はいつも強い証を持って生きてきました。」それでも，違う道に迷いかけたことがあると言う。ある日曜日のこと，彼はどうしても野球の試合が見たくて，日曜学校を休み，野球場に行った。観客席に座って試合を見ていると，隣から話しかけてくる人がいた。

「おもしろいかい。」

彼はびっくりした。なんと隣の席に父親が座っていたのである。父親は息子の姿が見えないので，捜しにきたのだった。それから何週間かは，父親は息子の日曜学校のクラスに一緒に出席したという。ダグラスはそれ以来，日曜日にスポーツを見に行くようなことは一度もしなくなった。

スミス長老のモットーは，家族たちの間でもよく知られている。「あなたがたの仕える者を，きょう，選びなさい。ただし，わたしとわたしの家とは共に主に仕えます。」（ヨシュア24：15）1941年に神殿で結婚した後，彼はアロン神権のアドバイザー，長老定員会会長，副監督，監督などを歴任し，後には高等評議員，副ステーキ部長，ステーキ部長，地区代表などを務めた。今回の召しを受けるまでは，神殿で結び固めの儀式を執行する責任を受けて働き，またスミス姉妹と一緒に福音の教義クラスで教師の責任を果たしていた。

スミス長老は1942年にユタ大学を卒業すると，ユタ家庭火災保険会社に職を得，16年後には同社の社長に就任した。またそれから14年後の1972年には，ベネフィシャル生命保険会社の社長となっている。彼の父親も以前この会社の社長の職に就いていたことがある。ほかにも彼はデゼレト・マネージメント・コーポレーションの副社長，総支配人を務め，金融や保険関係の組織で委員長，理事なども務めたことがある。地域社会での活動にも活発で，がん協会，ボーイスカウト協議会などにも名を連ねている。

スミス長老はこう語る。「ベンソン大管長からこの召しのことを聞いたとき，昔から主への献身を誓い，その気持ちをいつまでも失わずにいたいと願ってきたことをお話ししました。今私たちに問われているのは，その気持ちが真実かどうかです。もちろん私は主の召しにこたえたいと思っています。」

*

リン・A・ソレンセン長老

七十人第一定員会会員に召されたリン・A・ソレンセン長老は，1940年，ブラジルで最初の伝道を行なった。ブラジル伝道部がまだ開設後5年目のころである。そして1973年にはブラジル・ポルトアレグレ伝道部長として，また1982年には地域監督としてブラジルに戻った。

ソレンセン長老はこう語る。「それに国際資材管理部長として4年間ラテンアメリカで過ごしました。最低年2回は6つの地域管理本部を訪問し，訓練と監査をさせてもらいました。」

ソレンセン長老は，昨年12月，ウイルフォードステーキ部の祝福師に召されたばかりで，わずか4カ月後の教会幹部への召しは本人にとって驚きだったようである。

「私は祝福師の召しを受けて大変へりくだった気持ちになっていました。でも，トーマス・S・モンソン副管長から七十人第一定員会の召しを受けたときの気持ちは，とても言葉で表わせるものではありません。圧倒されるような思いでした。

大会で召しが発表された後，ブラジルの指導者たちが祝福してくれました。彼らの喜ぶ顔を見て，思わず涙が出てしまいました。」

ソレンセン長老は，ブラジルで最大の課題は指導者のトレーニングだと語る。教会員数が急増しているからである。「ブラジルの伝道部全体のバプテスマ数は月2,000人以上で，毎月ステーキ部がひとつできるほどの数字です。ですから，教会員歴がまだ2，3年の人が監督やステーキ部長に召されているんですね。」

ソレンセン長老の霊的面での人生の転機は，ブラジルへの最初の伝道のときに訪れた。「私は伝道に出る前の2年間，シカゴ大学から学業とスポーツの両方で奨学金を得て大学生活を送っていました。私の場合，伝道のことはずっと考えていたんですが，2年間の大学生活で伝道への熱がさめてしまったんです。それで親に，とにかく学校を終えたいと言いました。しかし，幸いにも私には親切で物わかりのいい監督と，私を愛し私のために祈ってくれる両親がいました。夏休みを終えて秋に学校に戻る段になって，主は彼らの祈りに答えてくださったのです。私は召しを受けて伝道に出ました。

こうして伝道地に到着して聖典を定期的に学び始めると間もなく，私の証はどんどんふくらんでいきました。以来，証は絶えることなく強くなっていきます。私はあの人生の最も大切な時期に私を導いてくださった主に，心から感謝しています。」

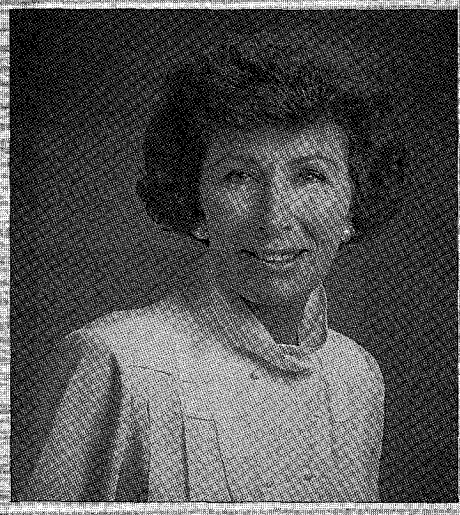
ソレンセン長老の教会での召しには，ケンウッド第2ワード部監督，ステーキ部高等評議員，教会中央管理会員などがあげられる。

実務経験としては，ある電子産業会社やデゼレト出版社の役員を歴任した後，当時内務伝達部と呼ばれていた教会の管理部門に勤務するようになった。

また4年間，国際伝道部の幹部書記を務めている。また最近，夫人と共にテンプルスクウェアで宣教師として働いた。

ソレンセン長老はこう語る。「伝道部長のときが一番報いが大きかったと思います。あれほど一生懸命，時間もかけて，いろいろな問題や悩みと取り組んだことはありませんでした。でも，一番楽しく，満足のいく経験ができたのはまさにそのときでした。」

ソレンセン長老は1919年9月25日にソルトレークシティーで生まれた。ブラジルでの伝道を終えてからは，第2次世界大戦中の米空軍で講師として働き，その間ユタ大学を優等で卒業した。夫人はジャネット・ウィーチ姉妹で，1943年に結婚した。9人の子供と26人の孫に恵まれている。



新たに中央若い女性会長会第二副会長に召されたイレイン・L・ジャック姉妹

「若い女性の皆さんのために，私に何ができるのでしょう。」トーマス・S・モンソン副管長が中央若い女性会長会第二副会長の召しを伝えたとき，ジャック姉妹の口から出た言葉である。彼女は会長のアーデス・G・カップ姉妹と副会長のジェイン・B・マラン姉妹のことを尊敬していたが，もう成人している息子だけで娘をひとりも持たない自分が，少女たちのプログラムで一体何ができるだろうと考えたのである。

それに対してモンソン副管長は，今回の召しにあたっては彼女の独特の個性と才能が必要であったことを話した。しかしまだ不安であったジャック姉妹は，翌日カップ姉妹に電話をかけている。「私はこう言ったんです。アーディー，何で私なんか選んだの，って。するとカップ姉妹は，こう答えてくださいました。『選んだのは私じゃなくて主です。』」

ジャック姉妹はカップ姉妹と同様，カナダにそのルーツを持つ。彼女はスターリング・O・ローとラビナ・アンダーソン・ローの間にアルバータ州のカードストンで生まれた。その後ユタ大学に進み，英文学を学ぶ。後に夫となるジョセフ・E・ジャックと会ったのは，ユタ大学においてであった。そして1948年に結婚，ニューヨークのステイトン・アイランドに移り，彼女が言うには，そこで初めて自分が証を持っていることを自覚したということである。

「教会に行くのに片道，地下鉄とバスで1時間半かかるんです。」夫は医師としてニューヨーク市の病院に勤務，多忙な毎日で，一日中ふたりで過ごせるのは隔週の日曜日だけであった。「マンハッタンでの断食証会で証をしました。自分に本当に証があるんだと思ったのは，そのときです。そうでなければ頑張って教会に集おうなどとは考えなかったと思います。」

ジャック家はその後，ボストンとアラスカのマウント・エジカムに移った。マウント・エジカムでは移住初日の朝に，その町でたったひとりの末日聖徒が温かいハックルベリー・パイを持ってきてくれた。そして2年間その町の小さな支部に集ったが，出席人数は10人に満たなかった。

「証が強まりましたね，このときは。何とか頑張ってその少ない人を私の家に集めなければなりませんでしたから。」そして1958年にジャック家はソルトレークシティーに移り，ジャック姉妹は1972年から1984年まで扶助協会の中央管理会員として奉仕した。ジャック兄弟は最近独身ワード部の監督を解任になったが，これまで監督として2度働いている。

ジャック姉妹のモットーは，何であれ全力を尽くすことである。グランドピアノを音楽の教師をしていた友人から譲り受けた彼女は，発奮して今ピアノのレッスンを受けている。ピアノはカナダで子供のころ少し弾いただけだ。またゴルフとスキーもたしなむ。これらはジャック家のファミリー・スポーツである。

彼女のこの音楽とスポーツ，それに人生それ自体への熱意は，ほかの人々にも大きな影響を与えている。彼女はこう語る。「楽しみなのは，自分の人生を振り返ったときに，自分は成長しているんだということを実感できるときですね。」そして，彼女にとってその鍵となるのは，福音の実践である。

「勉強したり，いろいろな知識を身につけたりしても，それを日々の生活の中で実践しなかったら，十分だとは言えないですね。」彼女はそう語ってくれた。

教会の使命が強調された地区代表セミナーと指導者会

エズラ・タフト・ベンソン大管長は，総大会に先立ち，4月3日金曜日に開かれた年次地区代表セミナーにおいて，教会の使命は「神のすべての息子娘を永遠の生命という最大の祝福に向けて前進させる」ことにあると語った。

ベンソン大管長はまた，1981年に大管長会と十二使徒定員会が教会の使命として以下の3点を発表したことに触れた。

1．すべての国家，国民，血族，国語の民，民族に福音を宣べ伝える。
2．聖徒に福音の儀式を受けるよう備えさせ，また，救いを得させるために教育と訓練を与え，完全な者とする。
3．死者のために福音の代理の儀式を行ない，死者を贖う。

金曜日の午前に教会本部ビル大会議室で開かれた地区代表セミナーと，金曜日の午後にテンプルスクウェアのタバナクルで開かれた指導者会の両方において，この3つの使命のさらに詳細な点について教会幹部から指示と教えが与えられた。

地区代表セミナーの最初の説教においてベンソン大管長は「聖徒を完全な者にするという使命，特に教会活動に完全に参加していない会員を活発にするためのチャレンジ」について述べたいと語った。

「このチャレンジは非常に重要なものであり，メルケゼデク神権を適切に機能させる必要があります。このような兄弟姉妹に手を差し伸べるには，大きな信仰，エネルギー，献身が求められます。しかし私たちはこれをしなければなりません。主もそれを望んでおられます。私たちは必ずします。」

ベンソン大管長はまた，お休み会員の多くは，ほかの事柄に関心を向けて教会から遠ざかってはいるものの，再び教会の活動に戻りたいと望んでいるという点を指摘した。

大管長は，この大切な働きを進めるには，「愛の奉仕を通して互いに助け合い，若人や子供たちにも手を差し伸べて」「羊飼いの召し」を果たしている教会の姉妹たちも含めて，「すべての神権組織と補助組織の力を用いなければなりません」と語った。

ベンソン大管長の次に話をされたゴードン・B・ヒンクレー第一副管長は，伝道活動，特に夫婦の宣教師の必要性を強調する話をされた。

「もっと多くの夫婦の宣教師が必要とされています。彼らの働きには非常にすばらしいものがあります。彼らにとっても，この奉仕の機会は非常に報いあるものとなるに違いありません。」

ヒンクレー副管長は夫婦の宣教師に求められる3つの事柄を指摘した。(1)夫婦で伝道に出るには伝道費用を自分たちで賄い，伝道後も経済的に支障なく生活できる蓄えを持っていなければならない。多くの場合，子供たちが伝道に出た親を援助している。(2)親の手が必要な，まだ結婚していない子供，特に結婚を間近に控え，両親の助言を必要としている子供をあとに残して伝道に出るべきではない。(3)夫婦で伝道に出る人は健康でなければならない。

ヒンクレー副管長の次にトーマス・S・モンソン第二副管長が，1967年に最初の地区代表が召されてから20年が経過したことに触れ，話をされた。当時，十二使徒定員会会員であったハロルド・B・リー長老がブリガム・ヤング大学の助けを得て「20年後の教会の姿」という統計をもとにひとつの予測を呈示した。1967年に教会のステーキ部数は443であった。モンソン副管長は，その予測では20年後には「ステーキ部が1,000を数えるであろう」ということであったが，現在のステーキ部数は1,634に達していると述べた。伝道部数は1967年には78であったが，1987年には185に達するという予測だった。1987年7月までには，伝道部数は200を越えるであろう。また，1967年の宣教師数は13,000人で，20年後への予測は「約30,000人」であった。ところが今教会には33,753人の宣教師がいる。

モンソン副管長は地区代表の責任について述べ，次のように語った。「地区代表の責任は何よりもまず教えることにあります。地区代表には宣べ伝えることや，管理すること，指示や勧告を与えること以上に，特に教会の使命について教えることが求められています。」

地区代表セミナーと指導者会の残りの時間においても，教会の使命の詳細について注意が向けられた。このふたつの会で発表された事柄の中から，会員に役立つ事柄を以下に紹介する。

専任宣教師の活発化プログラムへの参加

教会幹部からの発表により，メルケゼデク神権者の数が少ないステーキ部では，お休み会員の活発化に関して，条件つきで専任宣教師が地元の指導者を援助することが認められるようになった。しかし，これが行なわれるには，地域会長会とその地域を担当する十二使徒定員会会員の承認が必要である。宣教師によるこの援助は，ワード部，支部のメルケゼデク神権者数が十分なものになるまで続けることができる。

新会員に対するホームティーチャーの働きかけ

ホームティーチャーが，ステーキ部宣教師，専任宣教師と協力して新会員のフェローシッピングに努めるべきこと，また，ホームティーチャーによる定期的な訪問を始めることができるように，宣教師から学んでいる新会員にホームティーチャーを割り当てるとよいという発表がなされた。ホームティーチャーはステーキ部宣教師によるフェローシッピングのためのレッスンに同席し，ステーキ部宣教師を助けるようにすることができる。専任宣教師，ステーキ部宣教師，ホームティーチャーは，改宗者が教会員としての交わりの中に確実に溶け込めるようにするために，共にこの働きを進める。

会員を強める指導者の責任

指導者は教会員に，福音の儀式と誓約に忠実に生活して，個人的な完成を目指すという目標を教えるように求められている。また，特にホームティーチングプログラムを通してお休み会員を導き，強めるように求められている。これらの点について，指導者や会員を援助するために，教会幹部はいくつか管理上の変更を発表した。ワード部神権役員会は毎週開くようにし，監督は長老見込み会員とその家族，またお休み会員を強める責任の多くを大祭司に割り当てるようにするとよい。長老定員会会長会は，長老とその家族の強化を重点的に進めるとよい。

系図に関する責任

1987年後期ステーキ部大会ならびに1988年前期ステーキ部大会では，神殿と系図に関する責任に焦点があてられる。新たに簡素化された資料が会員のために呈示される予定である。また，会員は系図に関する責任を果たし，少なくともひとりの先祖のために儀式を受けるように勧められている。

このふたつの会を通して，ひとつの大きなテーマが説かれた。「教会の使命は，家庭において最もよく遂行される。また，その使命は神権役員会とワード部評議会において指導者が一致して働くことにより，前進し，成し遂げられていく。」

このふたつの会のプレゼンテーションは，十二使徒定員会会員と七十人第一定員会会長会により行なわれた。

●6月に3年の任期を終えるふたりの伝道部長に代わる新伝道部長が大管長会によって発表されました。7月1日から着任となります。
〈任期を終える伝道部長〉
青柳弘一（日本仙台伝道部）
ロバート・D・グッドウィン
（日本東京南伝道部）

ふたりの新伝道部長をご紹介します どうぞよろしく！

日本仙台伝道部 伝道部長

新山 靖雄

42歳。東京ステーキ部三鷹ワード部出身。前東京ステーキ部ステーキ部長。これまで地区幹部書記，ステーキ部幹部書記，高等評議員，副監督などを歴任。1963年から1965年まで北部極東伝道部の専任宣教師であった。

インタラック株式会社の取締役会長。ブリガム・ヤング大学で経営学の学士課程と修士課程を収めた。

神戸市で新山芳雄と村川つじ子との間に生まれ，登美子・モルトン姉妹と結婚し，6人の子をもうけている。仙台でアロ・モルトンと畠山英子との間に生まれた登美子姉妹は，ワード部の初等協会会長，扶助協会会長，扶助協会教師などの責任を歴任している。

日本東京南伝道部 伝道部長

M・ジム・松森

64歳。ドレイパーユタステーキ部ドレイパー第7ワード部出身。これまでに高等評議員，監督，副監督などを歴任。召されたときは高等評議員の任にあった。

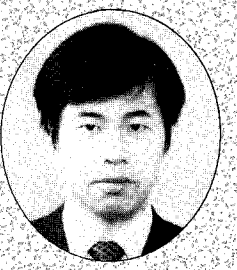
アパート，ビル経営に携わるかたわら，農業も営んでいる。ソルトレークシティーのスティーブンス・ヘネガービジネスカレッジ，ユタ大学の公開講座に学ぶ。

ユタ州マーレーで松森吉兵衛と山本トメとの間に生まれ，後にマリー・テツミ・岩田姉妹と結婚し，3人の子をもうけている。ユタ州ソルトレークシティーで岩田忠兵衛と佐々木ミヤとの間に生まれた松森姉妹は，ワード部扶助協会の副会長を務め，これまでにステーキ部初等協会副会長，初等協会教師などを歴任している。

盛岡地方部，3つの地方部に分割

――新たに青森地方部と秋田地方部を設立――

青森地方部長
小泉 隆司



秋田地方部長
佐々木 利宏

盛岡地方部長
阿部 国雄

4月26日，盛岡地方部大会が開催され，その会で青柳弘一伝道部長より盛岡地方部を3分割し，新たに青森地方部と秋田地方部を設立するとの発表がなされました。

これまで盛岡地方部の設立以来9年余り地方部長を務めてこられた窪田耕治兄弟が解任され（現仙台伝道部第二副伝道部長），新たに青森地方部長に小泉隆司兄弟（前八戸支部長），第一副地方部長に木村秋夫兄弟（前青森支部長），第二副地方部長に三上敬兄弟（前地方部評議員）がそれぞれ召されました。秋田地方部長には，佐々木利宏兄弟（前秋田支部長），第一副地方部長に黒田道男兄弟（前鶴岡支部長），第二副地方部長に佐々木聡兄弟（前秋田支部長老定員会会長）が，盛岡地方部長には阿部国雄兄弟（盛岡支部長と兼任），第一副地方部長に余目正実兄弟（前一関支部長）が召され，各地方部長会が組織されました。

各地方部の管轄ユニットは以下のとおりです。

●青森地方部――青森支部，八戸支部，弘前支部，三沢支部，大館支部
●秋田地方部――秋田支部，横手支部（新設），酒田支部，鶴岡支部
●盛岡地方部――盛岡支部，北上支部，一関支部，宮古支部（新設），気仙沼支部

新役員の聖任（任命）

4月21日から5月20日までに管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の異動（敬称略）

●青森地方部八戸支部
新支部長：竹内賢次（前任者：小泉隆司）
●青森地方部青森支部
新支部長：長内利剛（前任者：木村秋夫）
●秋田地方部秋田支部
新支部長：佐々木俊樹（前任者：佐々木利宏）
●秋田地方部鶴岡支部
新支部長：伊藤誠男（前任者：黒田道男）
●盛岡地方部一関支部
新支部長：佐々木啓一（前任者：余目正実）
●東京東ステーキ部八千代ワード部
新監督：小日向茂幸（前任者：塩田勇）
●東京東ステーキ部水戸ワード部
新監督：内田照男（前任者：高遠茂）
●東京ステーキ部吉祥寺ワード部
新監督：小沼政弘（前任者：塚原俊英）
●大阪堺ステーキ部和歌山ワード部
新監督：山本謹彰（前任者：小阪拓司）
●神戸ステーキ部神戸西支部
新支部長：光田公彰（前任者：当真邦夫）
●広島ステーキ部広島光ワード部
新監督：山田英治（前任者：歌島浩之）
●福知山地方部宮古支部
新支部長：番場和哉（前任者：金城正之）
☆盛岡地方部宮古支部（新設）
支部長：（宣教師）（1987年3月11日設立）
☆秋田地方部横手支部（新設）
支部長：（宣教師）（1987年4月26日設立）

中央補助組織管理会から3人の姉妹たちを迎えて開かれた補助組織指導者会

去る4月17日（金），東京ステーキ部センター（吉祥寺）で，アジア地域会長会のウィリアム・R・ブラッドフォード会長ご夫妻，ジョージ・I・キャノン第二副会長ご夫妻をはじめ，中央扶助協会会長のバーバラ・W・ウインダー姉妹，中央初等協会第一副会長のバージニア・B・キャノン姉妹，中央若い女性管理会会員のマレン・M・モーリッツェン姉妹を迎えて補助組織指導者会が開かれた。この会には，東京近郊のステーキ部およびユニットの扶助協会，若い女性，初等協会の各会長会，教師，監督会，支部長会が招かれた。

アジア地域会長会の招待で訪れた中央補助組織管理会の姉妹たちは，全体集会のあと分級し，各組織ごとに指導を行なった。各部会とも，それぞれの部屋いっぱいに集った出席者との間に活発な質疑応答が交わされた。

今回の中央補助組織管理会からの姉妹た

●札幌ステーキ部始まって以来の青少年神殿ツアーに参加した若い男性，若い女性と指導者（東京神殿別館にて）

ところ，すぐに許可され，無事に参加することができました。

神殿参入に向けて彼らはよく備えました。神殿訪問だよりを発行し，ファイヤサイドを開いて，皆で神殿について勉強をしました。また，このファイヤサイドのために島袋神殿長は，すばらしいお話をテープに録音して送ってくださいました。

これらの準備によって，多くの青少年が以前よりも熱心に祈り，聖典を読み，神殿に参入するのにふさわしい生活をするようになりました。神殿参入のための個人的な目標を立て，達成に向けて努力を重ねた青少年も見受けられました。こうして当日は青少年65人，指導者25人，合計90人の大きなツアーとなり，神殿に向かいました。

合計４回執り行なわれたバプテスマ会は，どれもみたまに満ちあふれたものとなりました。神殿の聖さに接し，死者の身代わりの業に携わることによって，それぞれに証を得ることができました。最終日に行なわれた証会がそれを証明しています。予定の２時間を20分も延長したほど，多くの青少年が証をしました。「教会員の家族の中で育ったので，自分自身に証があるかどうか不安だったが，神殿に参入して確かにこの教会が真実であると感じることができた」との証も聞かれました。また，神殿に参入するにあたって生じた様々な問題が神様の助けによって解決されたという，感謝の証もありました。

今回の神殿ツアーで，余った時間を利用して青少年たちが楽しい時間を過ごせるようにと，いくつかのプログラムが計画されました。そのひとつが，26日の夜に行なわれたケント・デリカット兄弟を迎えてのファイヤサイドでした。かつて札幌の地で伝道したデリカット兄弟に，特別に時間を割いていただき，神殿別館でお話をしていただきました。

彼は伝道中の経験や芸能界のことを楽しく話してくれました。また青少年に対していつも元気でいるように，そして自分は宣教師となって証を得ることができたので，ぜひ伝道に出るようにと励ましてくれました。１時間のお話が本当に短く感じられたほど有意義な時間となりました。

翌日は小さなグループに分かれて東京近郊を見学しました。あこがれの原宿，渋谷，横浜などで楽しい時間を過ごしました。

このようにしてすばらしい３日間が終わりました。この３日間は青少年にとって，忘れることのできない貴重な経験になったことと思います。神殿に行くために一生懸命努力し，様々な問題も克服しました。それによって多くの祝福を得，力強い証を得ました。

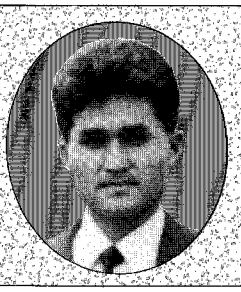
しかしそれだけではありません。彼らは私たち成人にも良い影響を与えてくれました。次のような聖句があります。「あなたは，年が若いために人に軽んじられてはならない。むしろ，言葉にも，行状にも，愛にも，信仰にも，純潔にも，信者の模範になりなさい。」（Ｉテモテ４：12）

確かに彼らは私たちの模範になりました。彼らの姿を見て私たちは実に多くのことを学ぶことができたのです。

現代の青少年は私たちの時代よりもむずかしい時代に生活しています。彼らは数多くの試練に立ち向かっていかなければなりません。道徳的標準の低下，受験戦争の激化，世の中の危険な思想や風潮などが彼らを襲っています。しかし彼らは恐れることなくそれらと戦っています。今回の神殿ツアーでの青少年を見ていると，次の讃美歌（第150番）の一節が心に浮かんできます。

「シオンの若者　真理を守り
攻め来る敵に会い　ひるまず逃げず」

（レポーター：札幌ステーキ部若い男性会長・**潟沼朗生**）



「自ら進んですべての人の奴隷に……」

神戸伝道部専任宣教師　竹下 光春

私は鹿児島の高校を卒業するとただちに大阪でプラスチックの会社に就職しました。プラスチック容器のデザイン設計に強い関心があったからです。いつかはデザイン設計の仕事を……と思っていましたが，入社して私に与えられたのは，工場での交替制の仕事でした。そのために教会での活動にも制限が生じ，次第に自分が霊的にも落ちていくのがわかりました。

８カ月が過ぎたある日，私は新製品の耐久性・寸法検査のセクションに配属になり，残業はあるものの昼間の通常勤務の仕事に移ることができました。それ以来，それまでの反動のせいか，できるだけ多く，教会の活動に参加するように努めました。半面，時がたつにつれて以前からの夢であったデザイン設計への思いはしぼんで，私にとってこの仕事は必要ではないのかもしれないと思うようになり，その気持ちは，次第に伝道に向いていきました。

●左から中央扶助協会会長のバーバラ・W・ウインダー姉妹，中央初等協会第一副会長のバージニア・B・キャノン姉妹，中央若い女性管理会会員のマレン・M・モーリッツェン姉妹。●(上)分級後のクラスで指導するモーリッツェン姉妹

ちの訪問には，ふたつの目的があるとブラッドフォード会長は語った。ひとつは日本の教会の現状を把握し，管理会の一員として人々によい奉仕ができるように，彼女たちが日本の教会員から学ぶため，もうひとつは，教会の原則，プログラムの進め方などを教えることである。「一番大切なことは一致することです。年齢別に補助組織は3つに分かれてはいますが，3つの別々のプログラムがあるのではなく，ひとつの同じ目的を持っています。すなわち，社会的，物質的，霊的に天父のみもとに帰るに必要な備えをさせるように教えることです。神権指導者は，神権組織と3つの補助組織との間に一致の精神をはぐくむようにしてください」とブラッドフォード会長は述べた。

中央扶助協会会長のウインダー姉妹は，同じぶどう園で養い育てる責任を持つ者として一致して働くために「3つの補助組織が定期的に会って話し合うことをお勧めします。そうすることによってお互いにどういうところに問題があるかを知ることができるからです」と語った。

中央初等協会の第一副会長のキャノン姉妹は，昨年から実施されているカリキュラム年度の変更について触れ，「以前は世界各国の習慣の違いのために6つの年度があって繁雑をきわめていましたが，統一化を図ったことにより同時進行できるようになりました。両親とのオリエンテーションなどでそれについて理解が得られるように努めてください」と話した。

また中央若い女性管理会会員のモーリッツェン姉妹は，北部極東伝道部時代の宣教師であったことから日本語を交えて語った。「プログラムのために人があるのではなく，人のためにプログラムがあります。まず大切なことは，一人一人の姉妹の必要を知ることです。そしてその必要を最優先して考えなければなりません。それを具体化し，福音の原則に則(のっと)って計画を立て，プログラムを実行するのです。」

翌4月18日の土曜日，ウインダー姉妹は広島ステーキ部大会に，キャノン姉妹とモーリッツェン姉妹は仙台ステーキ部大会に出席し，指導者会で話をした。

札幌ステーキ部青少年による神殿訪問ツアーに90人が参加

――死者の身代わりの業によって証を強めた3日間――

「それ死にたる者の救いは必要にして，死にたる者の救わるることはわれらの救いにとりて必須(ひっす)なることなり。」(教義と聖約128：15)

死者の救いの業は，私たち教会員の大切な責任のひとつです。もちろん青少年も例外ではありません。先祖の身代わりの業に携わることによって，死者が救われると同時に，私たち自身も霊的な糧を得ることができるのです。

しかし，神殿から遠く離れているために，札幌に住む青少年はこの業に参加する機会になかなか恵まれずにいました。そこで3月26日から28日までの3日間，札幌ステーキ部始まって以来の青少年神殿ツアーが計画され，準備が進められました。

ところが，いざ準備に取りかかると，解決しなければならない問題がいくつか持ちあがってきました。まず金銭的な問題です。団体旅行のため格安とはいえ，往復で35,000円以上かかります。これは中，高校生にとっては大きな負担でした。また両親が非教会員の場合，東京に行く許可を得るのもとても大きなチャレンジでした。そのうえ，初めて神殿に参入する人がほとんどで，そのための備えも必要です。

このように，いくつかの問題がありましたが，青少年が少しでも多くの祝福を得られるように，できるだけ彼ら自身の力で問題を克服することになりました。

神殿ツアーの計画が発表されてから，青少年がまず自分でお金をためる努力を始めました。毎月のお小遣いの中から少しずつ貯金したり，アルバイトをしたり，また正月のお年玉で欲しい物を買わずに神殿ツアーの費用に充てた人もいました。

両親から許可を得るためにも彼らは精いっぱい努力しました。父親が教会員ではないある姉妹は，絶対に許してくれないだろうと思い，最初ツアーのことについて話すのをためらっていました。しかし，断食してよくお祈りをしてから父親に話してみた

帰還宣教師の体験談やファイヤサイドなどで話を聞くたびに，伝道への思いが膨らみ，「伝道に出なければ必ず後悔する」と思うようになりました。

少しずつですが伝道の準備を始めました。

会社に退職をいつ願い出ようか迷っていたある日，上司の面接がありました。それは以前からの夢だったデザイン設計のセクションへ引き抜きたいとのお話でした。私はあまりに突然な話に驚きました。あれほど就きたかった仕事だったのですが，口から出た言葉は，「申し訳ありませんが……」という返答でした。伝道に出たいという思いにより，証と聖霊の助けが強くなっているのを感じました。その後も何度か面接がありましたが，それでも答えは同じでした。

また両親の反対も大きな試練でした。以前から「教会に行くのは構わないけれど，伝道に出るなどとばかなことは考えるなよ」と言い，伝道に対してよいイメージを持っていませんでした。私は何度も手紙や電話で自分の気持ちを伝え，理解してくれるように願いましたが，あまり効果はなく，それどころか母は，「お前が伝道に出るなら自殺するよ」とまで言うのです。なぜ，主の業を行なおうとするのに家族との仲が悪くなるのか，まったく理解できませんでした。それから何度も断食と特別な祈りを捧げました。

そのようなとき，伝道を終えて帰ってきたばかりの兄弟が「わたしは，すべての人に対して自由であるが，できるだけ多くの人を得るために，自ら進んですべての人の奴隷になった。……福音のために，わたしはどんな事でもする。わたしも共に福音にあずかるためである。」（Ｉコリント９：19－23）というパウロの言葉をプレゼントしてくださいました。それまで私は両親を変えようと努力していましたが，まず自分が変わる必要があることに気づきました。会社を退職した私は，１週間帰省し，両親のためにできるだけのことをしようと決めました。

家に着くと両親は稲刈りに出かけていて留守でした。私もすぐ着替えて手伝いに行きましたが，母が二言三言話してくれただけで，ふたりとも機嫌が悪く，どう話したらいいのか迷ってしまいました。それから１週間，どこにも行かず，また伝道についてはロにしないで，両親のためにできる限りのことをしました。きょうが最後の夜という日，祈っていると両親に証をしたらいいと強い力を感じました。両親を前に，改宗して初めて証をしました。父は聞こうとはしませんでしたが，母は「お前は言い出したら聞かないからね」と言ってくれました。

翌朝，大阪に帰るために，母が空港まで見送りに来てくれました。別れぎわに「これは，母さんが夕べ一生懸命書いた手紙だから，飛行機の中で読みなさい」と，封筒を渡されました。どんなことを書いてくれたのだろうと，機内で開けてみると，私が働いていたころに得ていた給料１カ月分以上のお金と「皆さんに愛される人になりなさい」と書いたメモ書きが入っていました。胸に熱いものを感じて，どうしようもなく涙があふれてきました。母に心から感謝しました。

それから１カ月後，私は主のしもべとして召されました。伝道に出て，毎週，両親から手紙が届きます。父も，帰省したときに共に刈った新米を送ってくれました。今，本当に家族と強い絆で結ばれているのを感じます。

伝道の準備をする間に，サタンはあらゆる方法で誘惑を強くし，伝道の業をとどめようと試みます。しかし私たちが正しい道を選び，主に頼るならば，主は必要なときに助けと導きを与えてくださいます。ジョセフ・スミスが語ったように，いかなる汚れた者の手もこの業をとどめることはできません。主の証人としてこの責任にあずかれることを心から感謝しています。ひとりでも多くの兄弟姉妹とこの祝福を分かち合いたいと思います。この伝道の喜びは，経験した人だけにしか味わうことのできないものです。（**たけした・みつはる** 1965年生まれ，大阪北ステーキ部茨木ワード部出身）

セミナリーと私

―心の支えとなったマスター聖句―

沖縄那覇ステーキ部首里ワード部（高校２年） 宮平 登紀子

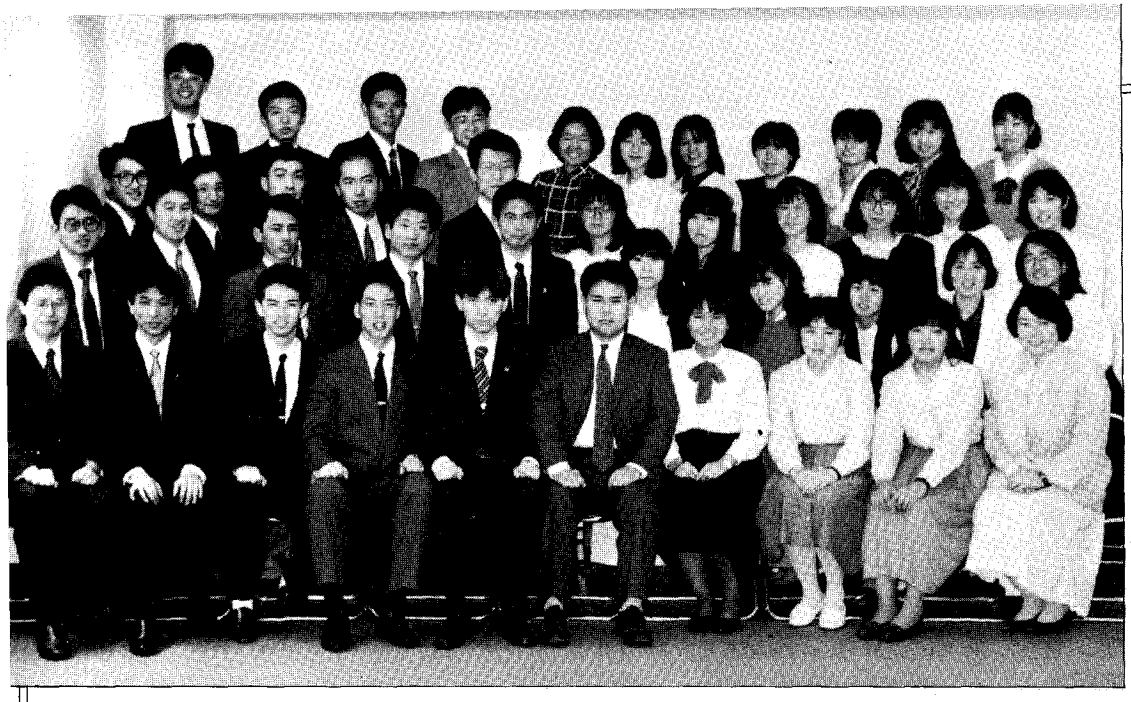
これまでセミナリーを，重要なものだとは，あまり考えていませんでした。そんな思いを180度変えたのが昨年度のセミナリーでした。

寝ぼうで怠け者の私にとって，毎週朝６時半に始まるセミナリーに参加するのは厳しいものでした。毎週「起きれ！」の声で飛び起き，姉とセミナリーに向かいました。時には教会員ではない父の車に乗せてもらい，「こんなに朝早くから，勉強もしないで何しに行く」と，しかられたこともありました。でもそんな父も毎週通う熱心さに，何も言わないで送ってくれるようになりました。私たちが一生懸命集っている祝福として，神様が父の心を和らげてくださったのでしょう。

毎週のレッスンはいつも生徒がたくさん参加して，皆やる気で燃えていました。特に皆の神経が集中するのは，マスター聖句探しです。「どうしよう，ひとつも覚えていない」と言う姉妹が，３秒もしないうちに手を上げて皆をあぜんとさせたりしていました。「よし，私もやってみよう」と，姉と必死になって暗記しました。

マスター聖句は心の支えとなっています。人からいやなことを言われたとき，「……汝らにはすべての人を赦すことを求められる」（教義と聖約64：９－10）の聖句を思い出し，心を落ち着かせ，また夜道をひとりで歩いているとき，こわいことを考えないように，「すべて心の歌は，われの悦びなり……」（教義と聖約25：12）の一節を思い出して，好きな讃美歌を歌い，心に平安を得たこともあります。このように，日常生活で私を助け励ましてくれるマスター聖句を，今年度も覚え，信仰生活を充実させたいと思います。

昨年７月のセミナリー大会で，姉と玲子姉妹，美智子姉妹が優勝したことが皆を活気づけ，「次の大会での聖句探しは，首位を首里ワード部で制覇しよう！」を合言葉にし，９月のセミナリー大会で見事にトロフィーを持ち帰ることができました。仲間の笑顔と嘉納姉妹の100万ドルの笑顔が忘れ



4月に召されたJMTC第95期生42名の名簿

S：ステーキ部，D：地方部
W：ワード部，B：支部

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1．柿木正寛	東京西S／国立W	岡山伝道部
2．斉藤栄記	大阪堺S／三国ケ丘W	東京南伝道部
3．須恵耕二	熊本D／長嶺B	仙台伝道部
4．桐林　潤	広島S／五日市W	東京北伝道部
5．座安（ざやす）由美子	沖縄那覇S／小禄W	岡山伝道部
6．西嶋千鶴代	札幌西S／手稲W	福岡伝道部
7．藤原由美	大阪北S／京都洛北W	岡山伝道部
8．山本敬子	東京南S／渋谷W	岡山伝道部
9．高橋祐子	秋田D／鶴岡B	神戸伝道部
10．笠（りゅう）　美恵子	熊本D／熊本北B	大阪伝道部
11．川田智子	福岡S／北九州W	岡山伝道部
12．萩本和彦	高崎S／高崎W	大阪伝道部
13．服部順次	名古屋西S／一宮W	大阪伝道部
14．草薙（くさなぎ）一泰	町田S／町田第1W	名古屋伝道部
15．金田康男	大阪堺S／泉佐野B	神戸伝道部
16．桑名宏一	釧路D／釧路B	仙台伝道部
17．鈴木悦子	東京北S／浦和W	仙台伝道部
18．茂木（もてき）妙子	高崎S／高崎W	仙台伝道部
19．佐藤倫子	仙台S／上杉W	福岡伝道部
20．石田恵美子	大阪北S／豊中東W	札幌伝道部
21．中川ひろ美	大阪堺S／堺W	札幌伝道部
22．田中由美子	北陸D／高岡B	東京南伝道部
23．林　康司	大阪堺S／泉佐野B	神戸伝道部
24．柏根（かしね）英俊	高崎S／高崎東W	岡山伝道部
25．長谷部誠	大阪北S／京都洛北W	東京北伝道部
26．辰田大策	岡山M／岡山西W	仙台伝道部
27．斉藤晃治（こうじ）	横浜S／上大岡W	札幌伝道部
28．趙（チョー）　麗紀（ヨーキ）	大阪S／大阪W	札幌伝道部
29．寺内佐知子	東京北S／中野W	仙台伝道部
30．津軽石道代	盛岡D／盛岡B	福岡伝道部
31．井口久美子	東京S／吉祥寺W	名古屋伝道部
32．清水祐恵	東京北S／越谷W	神戸伝道部
33．片平寛之	東京南S／渋谷W	福岡伝道部
34．太原　淳	神戸S／神戸W	福岡伝道部
35．鈴木文与志	名古屋西S／御器所W	東京北伝道部
36．姫野典雄	大阪北S／京都洛北W	東京北伝道部
37．石川泰三	名古屋S／岡崎W	福岡伝道部
38．坂（ばん）　義信	名古屋西S／高畑W	福岡伝道部
39．長嶺美奈子	沖縄那覇S／小禄W	岡山伝道部
40．久原　育	札幌S／厚別W	名古屋伝道部
41．門脇由記子	東京北S／浦和W	大阪伝道部
42．原田育子	福岡S／久留米B	名古屋伝道部

られません。

皆で覚えたマスター聖句とやる気を伝道に生かせたら，どんなにすばらしいでしょうか。

セミナリークラスの皆で計画を立て，夏休みに「求道者の夕べ」を行ないました。ゲームをしたり，スライドを見たり，会員の証を述べたりと，よい会にすることができました。そして参加してくれた友人たちにモルモン経をプレゼントしました。また，皆で計画したいと話しています。

「Do it！（実行）」といって，今一番自分が努力し頑張りたいことを毎日チェックするチャレンジがありました。私は，モルモン経を毎日読むことを目標にしました。最初は守れませんでしたが，皆が頑張っている姿を見て啓発され，1カ月後にはほぼ100パーセント守ることができました。今も継続している「Do it！（実行）」のチャレンジにより，モルモン経を読むことを習慣とすることができました。

いつも励ましてくれた嘉納姉妹に心から感謝しています。そして，仲間たちにも。私は，よい環境の中でセミナリーを学んでいます。（**みやひら・ときこ**）

我が家を導いたモルモン経

—「心の錨」(イテル12:4)となる信仰—

仙台ステーキ部塩釜支部
坂本 セツ子

私と末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師との出会いは昨年6月のことでした。とても心地よいお話でしたので，ついつい回を重ね，最後までレッスンを聞きました。「外国の宗教だから」という思いと「本当に真実なのだろうか」との半信半疑の気持ちから，お話を続けて聞くことに少しためらいがありました。しかし，私の知らないことでしたので「知らないより知っていた方がいい。知っていても損はしないだろう」という安易な考えでお話を聞き，モルモン経を手にしました。

もともと頭の良くない私が文字を読んで理解するなどということは，とうてい及びもつかないことと考えていたのですが，モルモン経の予言者の言葉を心の支えとすることができるまでになりました。このような私を見放さずに教えてくださった宣教師たちに感謝の気持ちでいっぱいです。

途中数々の苦難はありましたが，昨年7月20日，13歳になる娘と共にバプテスマを受けることができました。私の生活は大きく変わり，喜んで家族のために，また主人のために模範となれるよう神様に頼りながら，全力で主の教えを実行しました。

しかし，私が改宗したことで少し気むずかしくなっている主人の前で家族の祈りをすることはむずかしく，ひそかに娘と共に行なっていました。神様はそんな私に主人を含め家族で祈るチャンスを与えてくださいました。高校1年生の姪(めい)が我が家に遊びに来たとき，食前のお祈りをどうやってするのか聞きたいと言うので，家族みんなでお祈りをして食事をいただいたのです。その日から我が家では，家族の祈りとして，夕食時に毎日祈ることができるようになりました。

私は毎日主人のために祈りました。「主人のために特別な宣教師が召されますように，そして1日も早い時期に改宗できますように」と，日に何度も何度も祈りました。

そんなある日，洗濯を終えて干そうとしていたとき，急に体が温かくなり，主人がバプテスマを受ける姿が目の前に浮かび上がってきたのです。私はとてもうれしくなって涙が流れました。さらに主人を教えてくれる宣教師の姿を数日後に夢に見ました。私は子供たちに「近い内に宣教師の転任があって，背の低い外人宣教師が来るよ」と話していました。私はこれらのことを信じてその日が来るのを待ち望みました。

そして，ついに夢に見たのと同じ人が召されて来たのです。私はますます自分の見たことが実現すると強く確信しました。アメリカから来たばかりのその宣教師は，主人にとって，本当に特別なつながりを持つことのできる人でした。その宣教師が写真を見せながら家族の紹介をしてくれたときに，彼の弟さんも我が家の息子と同じ障害を持っていることを知ったのです。主人はその宣教師に興味を覚え，福音に耳を傾けるようになりました。

私は主人が改宗することは確信していても，何度も何度も福音から離れようとする主人でしたので，その度に改めて自分の信仰を見つめ直し，主人のためにまた自分自身のために神様のみ言葉（モルモン経）にすがりました。レッスンを中断することも何度かありましたが，宣教師の多大な努力と信仰とによって，主人はバプテスマを決意しました。そして，主人がバプテスマを決意したのを見届けるようにして，その宣教師は転任しました。しかし，私が前もって見ていたことはすべて実現し，神様が生きているということへの確信は一層確かなものになりました。

バプテスマの面接を残すだけとなってほっと一息ついたとき，神様はまた私に大切な導きを夢を通して与えてくださいました。これは私にとってあまりにも重大なことでしたので，驚きのあまり，自分の見た事柄をどのように考えたらいいのか思いあぐねました。しかし，考えに考えた末，これをこのまま捨ておくわけにはいかないと思い，宣教師にお話ししました。

我が家の16歳の息子は脳性小児マヒのため，重度の言語，機能障害があります。息子は私のときと主人のときの2度にわたって一度も欠かさずにすべての福音を聞きました。しかし，彼は罪を犯すことはないように私には思え，バプテスマを受ける必要はないと考えていました。

ところが私の見た夢では彼が必死に訴えているのです。息子はバプテスマを受けたいと思っていたのです。しかも，彼はそれを前から何度も何度も私に訴えていたのです。私には彼の気持ちを理解することができませんでした。神様は夢によって彼の恐怖にも似た不安な気持ちを，同じ恐怖と不安で私に伝えてくださいました。神様が彼を代弁されたのです。

彼が水に沈んでいるときには，主は必ずお守りくださると私に約束してくださいました。このようなことをだれができるでしょうか。まさに神のみ業でしかあり得ないのです。しかし，彼がバプテスマを受けることは決して簡単ではありませんでした。（モロナイ8：22－23参照）彼は果たしてこのみ言葉に従わなければならないのか，神様のみこころがどこまで彼に及ぶのか，私はひたすら祈り求めました。「どうぞみこころのままに……」と。

そのことを宣教師に伝えると，早速伝道部長が我が家に来て息子に会ってくださいました。そして神様は息子がバプテスマを受けることを許してくださり，2月15日，主人と息子は晴れてバプテスマを受けました。

また，4月5日に息子はアロン神権を授けられ，執事に按手聖任されました。聖餐(せいさん)会では車イスを押してもらい，パンと水のトレイをささえてもらいながら，緊張した面持ちで聖餐のパスをしていました。ある

聖餐会のお話で，息子，善之の聖餐のパスに対して感謝の意を表わしてくださった方がおられました。そのとき善之の方を見ると，目に涙を浮かべているのです。私は彼がそのような感動を表わすとは思ってもみませんでした。

神様は私たち家族のためにこれまで何人もの宣教師を差し向けてくださいました。神様，そしてイエス・キリスト様の深い愛に包まれて，私たち家族は心から幸福を感じております。今の私は，イテルの予言（イテル12：4）を心のともしびとして，何があろうとも，決して揺れ動くことはありません。モルモン経は，神様の真実のみ言葉です。モルモン経を学ぶたびに真実であるという確信が強まります。

初めはいい加減な気持ちで受け取ったモルモン経ですが，今ではそのモルモン経が私にとってなくてはならない大切な書物となっています。（**さかもと・せつこ** 1948年生まれ，塩釜支部扶助協会第二副会長）

読・者・の・ひ・ろ・ば

「ギラーモ」（「聖徒の道」2月号）を読んで

――「ぼくにもお父さんがいることがやっとわかったんだ」――

青森地方部弘前支部　桜井 洋範

ある日，支部長さんから「これを読んでみてください」と，「聖徒の道」（1987年2月号）をプレゼントされました。今まで「聖徒の道」についてそれほど知りませんでしたが，読んでみてとてもすばらしい本だと思いました。

特に印象に残ったのが「ギラーモ」というお話でした。最後の部分に，このように書かれています。「神様の教会に入ったんだから，ぼくは本当に神様の子供だよね。……お父さんがいるってことがやっとわかったんだ。」

私には父親がいません。私がまだ8歳のときに両親は離婚したのです。

私は父親がいないからといって，孤児ではありませんでしたし，それを理由に特別苦労したということもありません。それでも，どうしても忘れられない思い出があります。それは小学校のときに「来週は父親参観日なので，お父さんの似顔絵を描いてきなさい」と言われたことです。「先生，ぼくにはお父さんがいないんですが，どうすればいいですか」と，聞きました。先生は「写真があったら写真を見てでもいいから，ちゃんと描いてきなさい」と言われました。それで一応描きあげたわけですが，そのときは何とも言えない寂しさを感じました。

私が父親不在ということに不満や孤独を強く感じ出したのは，むしろ社会人になってからで，一時大変落ち込んだ時期がありました。

しかし昨年夏，この教会に導かれてとてもうれしいことを教えていただきました。「きょうはお祈りについてレッスンしましょう。お祈りの方法を知っていますか。最初に『私たちの愛する天のお父様』と，神様に呼びかけてください。」

それは今まで私の知らなかった父と出会った瞬間でした。

しかし，当然のことかもしれませんが，とても漠然としていて，よく理解できてはいませんでした。「神様は確かに私たちを愛してくださっています」と証できる人を，いつも不思議な目で見ていました。

どのようにして，神様が生きておられ，私たちを愛してくださっていると知ることができるのですか。祈りによってですか。

改宗してからも，教会から離れようとの誘惑を受けた時期がありました。そのときは毎日が孤独でした。

この試練のときに「私は少し考えてみたいので，明日の安息日からは教会に集いません」と，祈りの中で天父に打ち開けたことがあります。私はそれで満足したつもりでいました。

ところが，翌日は朝から電話が鳴り，「求道者を教会まで車に乗せて来てほしい」と頼まれ，結局教会へ集うことになりました。あたかも天父が「お前を遊ばせておくわけにはいかない」とでもおっしゃっているかのように，公的にも私的にも多くの仕事が与えられました。もちろん私の自由意志に任されていましたが，私は何となく断わることができずにいました。

出エジプト記第20章5節に「（私は）ねたむ神である」とあります。常々疑問を抱いていた聖句でしたが，このとき天父は私に「私はお前をこんなに愛しているのに，なぜ私を愛してくれないのか。なぜ教会を離れようなどと思ったのか」とおっしゃっているようでした。試練に負けて教会を離れようとした自分がとても恥ずかしくなりました。

「あなたがたのうち，知恵に不足している者があれば，その人は，とがめもせずに惜しみなくすべての人に与える神に，願い求めるがよい。そうすれば，与えられるであろう。」（ヤコブ1：5）完全な福音が回復されるひとつのきっかけとなった一節ですが，いつも新鮮に胸に響き，祈らずにはいられなくなる聖句です。

苦しいときに「ジョセフ・スミスのように純粋な気持ちで祈ってみてください」と勧められたことがあります。私は言われたとおりにしたつもりでした。神様もイエス・キリスト様も天使も見ませんでしたが，素直に苦しいことを打ち明けた私に対して，天父は聖霊を通し，人を通して「私はお前のことも愛しているんだよ」と答えてくださいました。

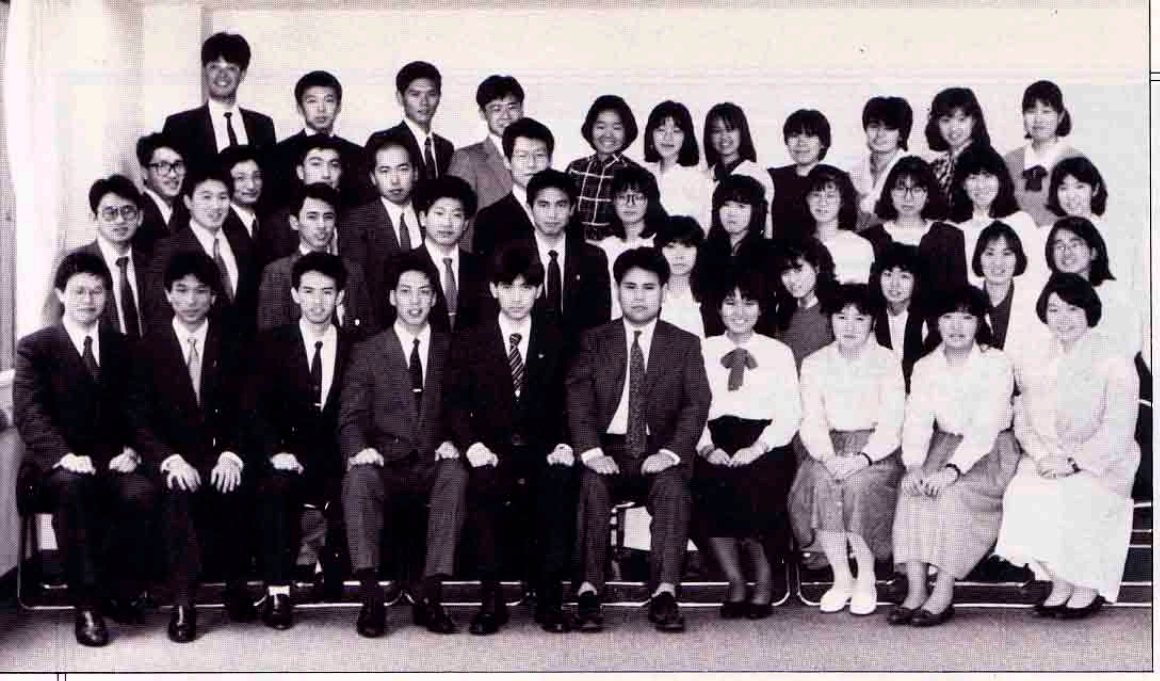
神様は私たち一人一人を愛してくださっています。私たちは神様の子供であり，生ける神は私たちの父なのですから。

「ぼくにもお父さんがいるってことがやっとわかったんだ。」（**さくらい・ひろのり** 1965年生まれ，弘前支部長老定員会書記補助）

編集室から

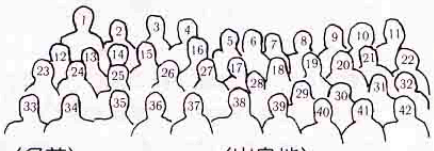
●心に残った記事の感想文，各地の話題や行事，「日々の恵み」コーナーの証，「職業と信仰シリーズ」，カットなどをお送りください。9月号掲載分の締切りは7月9日〔必着〕です。投稿には必ず連絡先〔電話番号〕，教会での責任〔役職名〕，生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

●あて先：〒106 東京都港区南麻布5－10－30　末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室　☎03(444)5264



4月に召されたJMTC第95期生42名の名簿

S:ステーキ部，D:地方部
W:ワード部，B:支部



〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1．柿木正寛	東京西S／国立W	岡山伝道部
2．斉藤栄記	大阪堺S／三国ケ丘W	東京南伝道部
3．須恵耕二	熊本D／長嶺B	仙台伝道部
4．桐林　潤	広島S／五日市W	東京北伝道部
5．座安由美子	沖縄那覇S／小禄W	岡山伝道部
6．西嶋千鶴代	札幌西S／手稲W	福岡伝道部
7．藤原由美	大阪北S／京都洛北W	岡山伝道部
8．山本敬子	東京南S／渋谷W	岡山伝道部
9．高橋祐子	秋田D／鶴岡B	神戸伝道部
10．笠　美恵子	熊本D／熊本北B	大阪伝道部
11．川田智子	福岡S／北九州W	岡山伝道部
12．萩本和彦	高崎S／高崎W	大阪伝道部
13．服部順次	名古屋西S／一宮W	大阪伝道部
14．草薙一泰	町田S／町田第1W	名古屋伝道部
15．金田康男	大阪堺S／泉佐野B	神戸伝道部
16．桑名宏一	釧路D／釧路B	仙台伝道部
17．鈴木悦子	東京北S／浦和W	仙台伝道部
18．茂木妙子	高崎S／高崎W	仙台伝道部
19．佐藤倫子	仙台S／上杉W	福岡伝道部
20．石田恵美子	大阪北S／豊中東W	札幌伝道部
21．中川ひろ美	大阪堺S／堺W	札幌伝道部
22．田中由美子	北陸D／高岡B	東京南伝道部
23．林　康司	大阪堺S／泉佐野B	神戸伝道部
24．相根英俊	高崎S／高崎東W	岡山伝道部
25．長谷部誠	大阪北S／京都洛北W	東京北伝道部
26．辰田大策	岡山M／岡山西W	仙台伝道部
27．斉藤晃治	横浜S／上大岡W	札幌伝道部
28．趙　麗紀	大阪S／大阪W	札幌伝道部
29．寺内佐知子	東京北S／中野W	仙台伝道部
30．津軽石道代	盛岡D／盛岡B	福岡伝道部
31．井口久美子	東京S／吉祥寺W	名古屋伝道部
32．清水祐恵	東京北S／越谷W	神戸伝道部
33．片平寛之	東京南S／渋谷W	福岡伝道部
34．太原　淳	神戸S／神戸W	福岡伝道部
35．鈴木文与志	名古屋西S／御器所W	東京北伝道部
36．姫野典雄	大阪北S／京都洛北W	東京北伝道部
37．石川泰三	名古屋S／岡崎W	福岡伝道部
38．坂　義信	名古屋西S／高畑W	福岡伝道部
39．長嶺美奈子	沖縄那覇S／小禄W	岡山伝道部
40．久原　育	札幌S／厚別W	名古屋伝道部
41．門脇由記子	東京北S／浦和W	大阪伝道部
42．原田育子	福岡S／久留米B	名古屋伝道部

られません。

皆で覚えたマスター聖句とやる気を伝道に生かせたら，どんなにすばらしいでしょうか。

セミナリークラスの皆で計画を立て，夏休みに「求道者の夕べ」を行ないました。ゲームをしたり，スライドを見たり，会員の証を述べたりと，よい会にすることができました。そして参加してくれた友人たちにモルモン経をプレゼントしました。また，皆で計画したいと話しています。

「Do it！（実行）」といって，今一番自分が努力し頑張りたいことを毎日チェックするチャレンジがありました。私は，モルモン経を毎日読むことを目標にしました。最初は守れませんでしたが，皆が頑張っている姿を見て啓発され，1カ月後にはほぼ100パーセント守ることができました。今も継続している「Do it！（実行）」のチャレンジにより，モルモン経を読むことを習慣とすることができました。

いつも励ましてくれた嘉納姉妹に心から感謝しています。そして，仲間たちにも。私は，よい環境の中でセミナリーを学んでいます。（**みやひら・ときこ**）

聖徒の道 1987年7月20日発行（毎月1回20日発行）第30巻第7号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可